

本案内は、経済学部第3学年、第4学年の履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。

また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更・追加・取り消しは認められません。

本案内を読んでなお疑問や不明な点があれば、指定の日時・場所（掲示・塾生用 Web サイト参照）において学習指導主任または副主任より説明を受けることができます。

学習指導主任	教授	大沼	あゆみ
同 副主任	助教授	河井	啓希
同 同	助教授	駒形	哲哉

目 次

履修案内の配布に際して（経済学部長）	4
履修選択にあたって（三田学習指導主任）	5
学事関連スケジュール	6
一般注意事項	7
履修申告のしかた	14
1. 履修申告について	14
2. 登録番号および分野について	16
3. 学事 Web システムによる履修申告について	17
学事 Web システムの利用方法	18
I 学事 Web システムについて	18
II 学事 Web システム操作上の注意	18
III 学事 Web システムの操作説明	19
履修要項	24
第1 適用学則	24
1. 99学則と05学則について	24
2. 学則の移行	24
第2 成績の評語	24
第3 開講科目と単位数	25
1. 総合教育科目	25
2. 基礎教育科目	25
3. 外国語科目	26
(1) 外国語科目の履修	26
(2) 選択必修科目の事前抽選	27
(3) 選択必修科目の事前抽選後の履修申告	27
(4) 選択必修科目のクラス未決定者	28
4. 専門教育科目	28
(1) 基礎科目	28
(2) 基本科目	28
(3) 特殊科目	28
(4) 関連科目	29
5. 体育科目	30
6. 自由科目	30
第4 履修上の注意	30
1. 分野	30
2. 重複履修について	31
3. 他学部・他地区設置科目の履修について	32
4. 研究所・センター設置科目の履修について	32
5. 大学院設置科目の先取履修について	32
第5 認定用紙および申告用紙について	33
第6 休学・留学・退学	33
1. 休学（学則第152条）	33
2. 留学（学則第153条）	34
3. 退学（学則第154条）	34
4. 退学処分（学則第156条・第188条）	34

単位表

〔99学則適用者用〕

1. 単位表（卒業所要総単位）	36
2. 履修上限単位	38
3. 第3学年における進級必要単位	39
4. 第4学年における卒業必要単位	39

〔05学則適用者用〕

1. 単位表（卒業所要総単位）	40
2. 履修上限単位	42
3. 第3学年における進級必要単位	43
4. 第4学年における卒業必要単位	43

講義要綱	45
I 専門教育科目	47
(1) 基本科目	57
(2) 特殊科目	66
(研究会)	91
(研究プロジェクト)	108
(プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP))	110
(3) 関連科目	116
II 外国語科目	121
(1) 外国語 I	121
(2) 外国語 II	123
(3) 選択 A	127
III 総合教育科目	129
IV 研究所・センター設置科目	133
(1) 教職課程	135
(2) 言語文化研究所	136
(3) メディア・コミュニケーション研究所	142
(4) 体育研究所	160
(5) 福澤研究センター	168
(6) 外国語教育研究センター	171
(7) 慶應義塾大学在外研修プログラム	175
(8) 国際センター	177
(9) 保健管理センター	199
(10) 情報処理教育室	200
(11) アート・センター	202

履修案内の配布に際して

経済学部長 塩澤修平

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか重要なメッセージを伝えておきます。慶應義塾大学経済学部における教育は、精緻な知的訓練と広範な議論を通じて、つねに変化する現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くこと、を主要な目的としています。

その目的を達成するための、本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは以下の点で他の大学を圧倒しています。第一は、中心的な核として設置されている科目群がきわめて充実しているということです。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の三つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けています。第二は、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長です。さらにいえば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっています。そして、講義、研究会、PCP、研究プロジェクトといったさまざまな形態で、これらの科目が用意されています。

履修するにあたっては、こうした特長を十分に認識してください。コアとなる科目を集中的に学習するというのも可能であり、またコアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあり得ます。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力あるいは見識が問われているのです。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要があります。それは、冷静に自分を見つめ、自分自身を分析することによってはじめて可能になるのです。

慶應義塾の建学の精神はいうまでもなく「独立自尊」です。長いようで短い三田の二年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それは諸君の意志と意欲にかかっています。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、そこには今この時点における諸君の選択が大きくものをいいます。そのことを良く考えて履修に臨んでください。

経済を学ぶためには、現実社会の中で何が解決されるべきかを見出す「温かい心」と、そうして見出された問題を解決する「冷たい頭」のどちらも必要だといわれています。諸君の一人一人が、その「温かい心」と「冷たい頭」をもち、気概に満ちながらもバランス感覚ある紳士淑女として社会に出ていかれるよう期待しています。

履修選択にあたって

三田学習指導主任 大 沼 あゆみ

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とがともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってほしい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。特に今年度は、05学則が三田の科目に反映され、2005年度入学生にはこれまでにはなかった「セット科目」や「半期完結科目」が提供されているため、進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などのないよう細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している。後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

平成19(2007)年度学事関連スケジュール

学事Webシステムパスワード変更締切	4月6日(金) 学事センター
春学期授業開始	4月9日(月)
Webによる履修申告期間	4月13日(金) 10時～4月17日(火) 14時
履修申告用紙による履修申告日	4月17日(火) 8時45分～14時 学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	4月23日(月)
授業料等納入期限(全納・春学期分納)	4月27日(金)
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(詳細後日掲示)
定期健康診断	5月上・中旬
履修申告修正受付	5月7日(月)～5月9日(水)(詳細後日掲示)
早慶野球戦	5月下旬
春学期末試験時間割発表	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期末追加試験申込受付	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期土曜代替講義日	7月10日(火)
春学期月曜代替講義日	7月11日(水)
春学期授業終了	7月14日(土)
春学期補講日	7月17日(火)
春学期末試験	7月18日(水)～7月26日(木)
夏季休業	7月27日(金)～9月21日(金)
春学期末追加試験	8月2日(木)・8月3日(金)
三田キャンパス一斉休業	8月9日(木)～8月15日(水)
春学期学業成績表送付(保証人宛)	9月上旬
秋学期授業開始	9月26日(水)
授業料等納入期限(秋学期分納)	10月31日(水)
早慶野球戦	10月下旬
秋学期補講日(1)	11月20日(火) 午前
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)【休講】	11月20日(火) 午後～11月26日(月)
休学願提出期限	11月30日(金)
冬季休業	12月23日(日)～1月5日(土)
三田キャンパス一斉休業	12月28日(金)～1月6日(日)
授業開始	1月7日(月)
秋学期末試験時間割発表	1月上旬(詳細後日掲示)
秋学期末追加試験申込受付	1月上旬(詳細後日掲示)
福澤先生誕生記念日【休講】	1月10日(木)
秋学期土曜代替講義日	1月16日(水)
秋学期月曜代替講義日	1月18日(金)
秋学期授業終了	1月21日(月)
秋学期補講日(2)	1月22日(火)
秋学期末試験	1月23日(水)～2月5日(火)
福澤先生命日	2月3日(日)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験	2月下旬(詳細後日掲示)
卒業者発表	3月10日(月)
学業成績表送付(保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月24日(月)

注意事項

- ・**代替講義日**：土曜代替講義日(7/10(火), 1/16(水))には、実際の曜日にかかわらず、土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日(7/11(水), 1/18(金))には、実際の曜日に関わらず、月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は、それぞれの代替講義日に注意してください(代替講義日には、土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません)。
- ・**補講日**：補講日(7/17(火), 11/20(火)午前, 1/22(火))には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください(補講日に設定されている火曜日の授業は、補講にならない限り行われません)。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。
- ・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時、掲示およびHPにてお知らせします。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html>

- ・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもありますので、十分注意してください。
- ・共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等にも注意してください。

● 一般注意事項 ●

I 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船係員の請求があった場合
3. 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
4. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ、3ヶ月以内に撮影されたもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
5. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板、地下1階掲示板および地下2階掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事Webシステム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下2階掲示板を利用してください。

III 試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。定期試験の時間割は授業の時間割と異なります。

春学期末：7月18日（水）～26日（木）実施（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験が対象）

秋学期末：1月23日（水）～2月5日（火）実施（秋学期に終了する科目および通年科目が対象）

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- ⑧ 答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるも

の場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのは、本人の判断に依ります。ただし、電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。

⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験（授業内試験）

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・研究所が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、電車の事故（遅延）証明書、あるいは学習指導担当教員の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお、試験場は原則として日吉になります。

定期試験では、授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが、試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取扱いは、定期試験時間割発表時の掲示を確認のうえ、手続きをしてください。ただし、三田と日吉の試験が重複した場合は、原則として三田の試験を追試とします。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

その他、履修要項も参照してください。

4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください（提出にあたっては、指定時間内に指定されたボックスに投函する必要がありますので注意してください）。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

(2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

5. 成績通知

春学期終了科目は9月上旬、それ以外の科目は3月中旬に保証人宛に学業成績表を発送し成績を通知します。それ以前には一切通知しません。なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

6. 評点の疑義について

経済学部では、評点の疑義についての問い合わせがある場合、科目設置地区の学事センターで質問用紙（所定用紙：学事センター設置）にて受け付けます。この他の方法では一切受け付けません。（科目担当者が個別には対応しません）詳細は掲示を確認してください。

IV 諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届（p.33 参照）

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる。」

（学則第 152 条）

「休学の事由が消滅したならば、休学者は速やかに就学届を提出しなければならない。」（学則第 152 条）

「病気その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学届を提出しなければならない。」（学則第 154 条）

2. 国外留学申請（p.34 参照）

「本大学が教育上有益と認めるときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある。」（学則第 153 条）

3. 住所変更届（本人・保証人）・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

- 住所変更届：在学カード
- 保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票
- 改姓（名）届：改姓（名）届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），戸籍抄本，学生証再交付願
- 国籍変更：戸籍謄本（コピーでも可），住民票

なお，履修上の連絡，あるいはその他の重要な事柄の処理に際し，これらの変更届が出されていない場合は，極めて重大な支障をきたすことがありますので，十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書発行，申込み，受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。授業料等が未納の場合は，すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】

証明書種類		三田	手数料	補記（日程等）
在学証明書	和文	●	200円	4月2日12:30～発行
	英文	●※		
成績証明書	和文	●	200円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
	英文	●※		
学部卒業見込証明書	和文	●	200円	6月1日～発行
	英文	●※		
履修科目証明書	和文	●	200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断証明書	和文	●	200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断書	英文	×	—	大学保健管理センターで発行します (詳細は保健管理センターにお問い合わせください)
卒業見込証明付成績証明書	和文	●	400円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
特殊証明書	司法試験受験用単位取得証明書	○	200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	各種資格試験等受験用単位取得証明書	○		
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書	○		
	科目等履修生・特別聴講生に関する各種証明書	○		
その他	学割証（JR 各社共通）	●	無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません
	通学証明書	◎		学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。
	厳封を必要とするもの（和文・英文）	○	—	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください 厳封が必要な場合は，証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください

凡例 ● 自動発行機で即日発行 ◎ 窓口で即日発行 ○ 窓口で数日後発行 × 発行不可

＝注意事項＝

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

<和文>

- ① 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも学籍を失った場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお，定期健康診断が未受診の場合には，学割証の発行はできません。
- ② 厳封が必要な場合は，自動発行機で発行できる証明書でも，学事センター窓口で申し出てください。
- ③ 健康診断証明書は6月中旬以降，当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお，奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は，お早めに保健管理センター三田分室受付に相談してください。

<英文>

※ 2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし，2004年4月以降，窓口で一度英文証明書の交付を受ければ，その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等（例：司法試験用単位取得証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては，あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談してください。なお，交付には，申請してから和文証明書は標準3日，英文証明書は標準7日を要しますので，余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

【証明書自動発行機稼働時間】

- ・三田キャンパス 学事センター事務室内 月曜日～金曜日 8:45～16:45（休業期間中の11:30～12:30は閉室）
南校舎 1階 月曜日～土曜日 9:00～20:00（休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く）

注1) 自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注2) メンテナンス，故障等により自動発行機を停止することがありますので，HP・掲示板等で確認してください。

【その他】

- ① 生協の組合員証および国際学生証は、生協事務室に直接お問い合わせください。
- ② 各種証明書の料金は、改定されることがあります。
- ③ 発行日は、【各種証明書一覧】にある日程より遅くなる場合があります。

Ⅶ 教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財担当

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- (3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。
（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として使用できません。
- (4) 「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
- (2) 学生団体は原則として、使用できません。
- (3) 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。
（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として使用できません。
- (4) 「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

Ⅶ 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）
- (9) 司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

Ⅷ 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

○ 専門科目担当専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟または南館）

○ 日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

（注）授業期間終了後に塾外からの出講者（講師）と連絡をとることはできません。学事センターで仲介、連絡等は行いません。

Ⅸ 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

【学生生活支援】

○ 教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の3日前（土・日・祝日を除く）までに申し込んでください。土・日・祝日・試験期間中の使用はできません。（【教室使用申請について】も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9：00～20：00

土曜日 9：00～18：00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18：10～20：10

土曜日 13：00～18：00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○ 学生食堂（山食、西校舎学生食堂（生協食堂）、北館学生食堂（ザ・カフェテリア））の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

○ 学外行事届、団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前（土・日・祝日を除く）までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引やゴルフ場使用税免除にかかわる証明が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。

○ 組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続きを行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○ 学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受けることが必要です。

○ 備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○ 郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生総合センター内のメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○ 車輛入構申請の受付

塾生の車輛入構は認められていませんが、やむを得ず車輛入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○ 学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジには学生が利用できるパソコンが常設されています。開室時間は8：45～21：00です。室内での飲食はできません。

○ 伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには、学生総合センター窓口へ申し出て掲示物受付簿を記入してください。

○ 大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。

○ 遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

○ その他窓口配付・閲覧関係

窓口には、財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますのでご自由に閲覧してください。

○ 奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

● 慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

● 慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

● 日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

● 地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金（給付・貸与）

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

● 指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○ 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

○ 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」（学生総合センター窓口にも置いてあります）を参照してください。

【就職・進路支援】

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、求人企業一覧や説明会案内なども掲載しています。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったことなどがあつた場合には、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援，就職・進路支援—

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）※都合により閉室することがあります。

—学生相談室—

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

【学生教育研究災害傷害保険について】

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために，大学で保険料の全額を負担し，日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舎にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるよう，ゼミ合宿を学外で行う場合，および公認学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

【任意加入の補償制度について】

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は，（株）慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先	（株）慶應学術事業会	TEL 03-3453-6098
	慶應生活協同組合	TEL 045-563-8489

X 定期健康診断について

定期健康診断は，学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので，必ず受診してください。

未受診の場合には，「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

●履修申告のしかた●

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

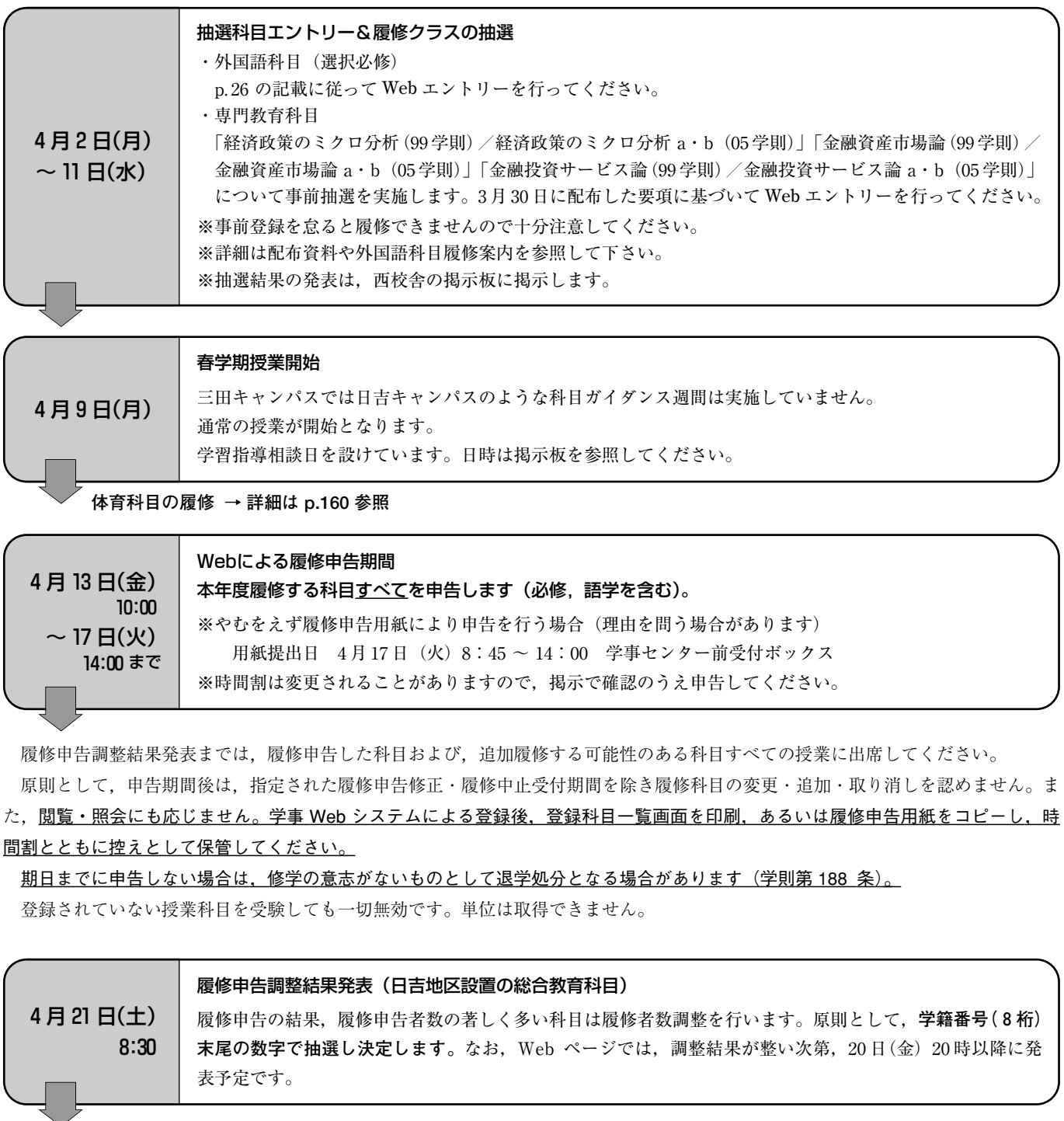
学事 Web システムを使用して下記の日程で申告を行います。学事 Web システムによる履修申告を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。(科目を選択せずに登録ボタンを押すと、昨年度までの取得状況による学則判定が行われ、卒業単位に不足している科目が分かります。)ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、学業成績表(保証人宛に送付済)にて、取得した科目を確認し、「履修申告のしかた」(本項)および「履修要項」(次項)を熟読のうえ、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように(進級・卒業に影響する場合があります)十分に注意してください。

(3) 履修申告までの流れ



履修申告調整結果発表までは、履修申告した科目および、追加履修する可能性のある科目すべての授業に出席してください。

原則として、申告期間後は、指定された履修申告修正・履修中止受付期間を除き履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。

期日までに申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分となる場合があります(学則第188条)。

登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

- (1) 発表掲示場所：西校舎掲示板および Web ページ <http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/kyotsu/risyu/seigen.html>
- (2) 調整の結果、履修が許可された科目の授業に出席してください。
- (3) 調整の結果、履修が不許可となった科目の代わりに他の科目を追加して履修する場合は、『追加履修可能科目』を掲示で確認し授業に出席してください。科目担当者・研究所等の許可を必要とする科目は、『追加履修可能科目』掲示に記載の注意事項を確認し、速やかに履修許可を得ておいてください。追加履修を予定している科目は、5月上旬の履修修正申告までの間、必ず授業に出席しなければなりません。

5月初め	<p>履修申告科目確認表送付(学生本人現住所宛)</p> <p>履修申告科目確認表を学生本人現住所宛に郵送します。履修許可科目を必ず確認してください。住所変更届等の手続は、4月中に必ず済ませておいてください。</p> <p><u>内容を確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。</u>この確認を怠ったために生じた問題（登録番号ミスによる申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。</p>
-------------	---

学事Webシステムでも履修申告科目を確認できます。

確認画面稼働開始：4月19日（木） 9：00～

学事 Web システム URL http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html


5月上旬	<p>履修申告修正期間（履修申告科目確認表，研究所発行履修許可証等持参）</p> <p>履修申告用紙（修正申告用）で申告します。Web画面を用いての修正申告はできません。</p> <hr/> <p>履修中止受付【05学則適用者のみ】</p> <p>既に履修登録済の科目について履修を中止することができます。</p> <p>履修申告用紙（修正申告用）で申告します。</p> <p>Web画面を用いての修正申告はできません。</p>
-------------	--

- (1) 修正申告
履修中止 [05学則適用者のみ] } 受付場所：学事センター経済学部担当窓口
- (2) 学事センターより履修申告ミスの指摘があった場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (3) 追加履修する科目すべてを、この期間内に正しく申告してください。05学則適用者は履修中止する科目も申告してください。履修申告用紙（修正申告用）に記入する登録番号は、経済学部の時間割で確認してください。
- (4) 履修申告していない科目の試験を受けたり、レポートを提出しても、成績はすべて無効となります。また履修科目を学期半ばで放棄したり、試験を受けないと不合格となります。
- (5) 指定された期日までに履修申告しない場合は、就学の意志がないものとして退学処分にすることがあります（学部学則第188条）。
- (6) **履修中止について【05学則適用者のみ】**
 - A. 履修中止が認められる科目
 - 以下①～⑥のうち、履修制限・抽選を行わなかった科目。
 - ① 基礎教育科目の選択必修科目と選択科目
 - ② 外国語科目
(選択A)として登録した科目(外国語教育研究センター設置科目を除く)
 - ③ 専門教育科目基礎科目の選択必修科目
 - ④ 専門教育科目の基本科目
 - ⑤ 専門教育科目の特殊科目
 - ⑥ 専門教育科目の関連科目（経済学部設置のものに限る）
 - B. 履修中止を認めない科目
 - ① 必修科目
 - ② 外国語の選択必修科目
 - ③ 総合教育科目
 - ④ 他学部設置科目
 - ⑤ 諸研究所設置科目
 - ⑥ 上記①～⑤の他、履修制限・抽選を行った科目

C. その他

- ① 進級条件を満たさなくなるような履修中止は認められません。
- ② 履修を中止した科目の成績はつきません。

9月下旬	秋学期履修修正 [05学則適用者のみ] 既に登録済みの秋学期科目の履修を中止することができます。また、秋学期の履修単位上限24単位までは追加申告することも可能です。 履修申告用紙(修正申告用)で申告します。 Web画面を用いての修正申告はできません。
10月中旬	秋学期履修中止 [05学則適用者のみ] 既に登録済みの秋学期科目について履修を中止することができます。 履修申告用紙(修正申告用)で申告します。 Web画面を用いての修正申告はできません。



- (1) 秋学期履修修正 [05学則適用者のみ] } 受付場所:学事センター経済学部担当窓口
秋学期履修中止 [05学則適用者のみ] }

- (2) 秋学期履修修正・秋学期履修中止が認められる科目

以下①～⑥の秋学期設置科目のうち、履修制限・抽選を行わなかった科目

- ① 基礎教育科目の選択必修科目と選択科目
- ② 外国語科目
(選択A)として登録した科目(外国語教育研究センター設置科目を除く)
- ③ 専門教育科目基礎科目の選択必修科目
- ④ 専門教育科目の基本科目
- ⑤ 専門教育科目の特殊科目
- ⑥ 専門教育科目の関連科目(経済学部設置のものに限る)

- (3) 秋学期履修修正・秋学期履修中止を認めない科目

- ① 必修科目
- ② 外国語の選択必修科目
- ③ 総合教育科目
- ④ 他学部設置科目
- ⑤ 諸研究所設置科目
- ⑥ 春学期設置科目
- ⑦ 春学期・秋学期のセット科目
- ⑧ 上記①～⑦の他、履修制限・抽選を行った科目

- (4) その他

- ① 進級条件を満たさなくなるような履修修正・履修中止は認められません。
- ② 履修を中止した科目の成績はつきません。

2. 登録番号および分野について

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。

- (2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号を登録することで、全ての時限についても登録されます。

ただし、他学部、諸研究所、センター等と併設している科目については、それぞれに登録番号が付いていますので経済学部の時間割で登録番号を確認してください。

- (3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と、各自分野を選択しなければならない場合(申告の際は2桁のB欄分野番号を登録)があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは、2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。適用学則の卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位および第4「履修上の注意」(p.30参照)を確認してください。
- (4) 大学院設置科目の先取り履修による経済学研究科設置科目の履修申告は、所定の手続きにより学事センターで登録を行いますので、履修申告を別途行う必要はありません。

<登録番号のみ申告する科目（履修申告用紙では「A欄」）>

① 経済学部1～4年（三田・日吉）設置の授業科目（経済学部設置関連科目を含む）
② 「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」に掲載の外国語科目（他学部設置科目を含む）
③ 経済学部の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目 （言語文化研究所，体育研究所，外国語教育研究センター，国際センター，情報処理教育室，知的資産センター）
④ 教職課程登録者以外が履修する同センター設置科目
⑤ メディア・コミュニケーション研究生以外が履修する同研究所設置のオープン科目
⑥ メディア・コミュニケーション研究生が履修上限内で履修する同研究所設置のオープン科目

<B欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B欄」）>

⑦ 他学部設置の授業科目（②を除く）
⑧ 他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合
⑨ 重複履修の科目を自由科目で履修する場合
⑩ メディア・コミュニケーション研究所の研究生が，履修上限内で履修する同研究所設置の研究生科目および履修上限外で履修する同研究所設置科目
⑪ 教職課程登録者が，教育免許取得のために履修する他学部設置の授業科目および教職課程センター設置科目

3. 学事 Web システムによる履修申告について

操作方法・操作上の注意は次項「学事 Web システムの利用方法」を参照してください。

※ やむをえない理由で履修申告用紙（マークシート）により履修申告を行う場合について

履修申告用紙記入の際は，以下の点に注意してください。なお，Webシステムによる申告が行えない理由を問う場合があります。

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に，「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法
学部，学年，組，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。（学科および専攻の欄の記入は不要です。）
- (3) A欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し，マークします。
- (4) B欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し，マークします。
分野欄：第3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」より2桁のB欄分野番号を記入し，マークします。
- (5) 「無効マーク」（A欄・B欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，この「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について
 - ① 無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センターに申し出てください。
 - ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

● 学事 Web システムの利用方法 ●

I 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などができます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- ① 履修申告
- ② 登録済科目確認
- ③ 休講・補講情報
- ④ パスワード変更
- ⑤ 学生呼出情報

また、携帯電話では、休講・補講情報の確認、パスワード変更、学生呼出情報の確認が可能です。

… 注 意 …

学事 Web システムは、4 月 2 日 (月) から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 6 日 (金) までにログインできることを確認してください。

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4 月 6 日 (金) までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2006 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2007 年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワード を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター (ITC：大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名：学籍番号 Windows アカウントのユーザー名：f*****

II 学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- 学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。
- 各種設定方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

Ⅲ 学事 Web システムの操作説明

1. 履修申告

学事 Web システムを利用しての 2007 年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

履修申告期間：4 月 13 日（金）10：00～17 日（火）14：00
（毎日 4：00～5：00 はメンテナンスのため稼働を停止します）
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

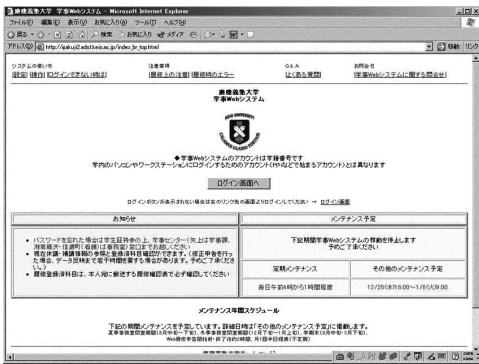
① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」などの標準ブラウザを使用してください。



② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの説明）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



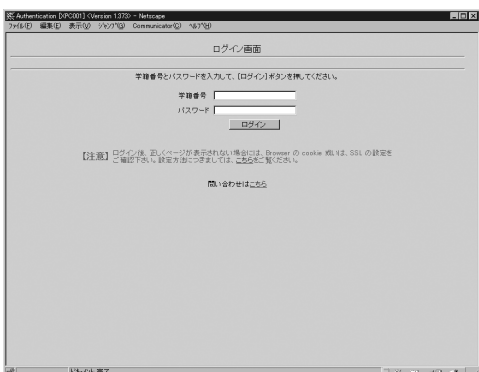
③ ログイン

「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。



④ トップメニュー画面

「本人住所確認」で登録されている住所を確認してください。ここに登録されている住所宛に履修申告科目確認表を郵送します。住所変更が必要な場合は、学生証を持参のうえ、至急学事センター窓口で住所変更手続きをとってください。



⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。



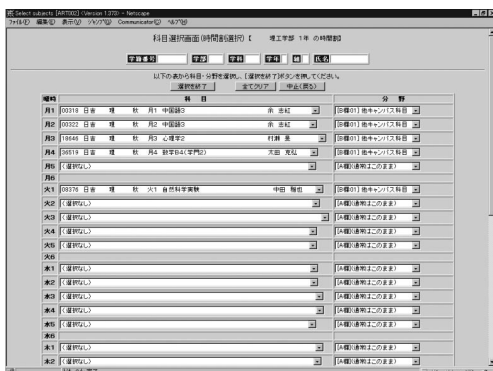
⑥ 科目の選択

(1) と (2) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

(1) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています) 科目選択画面(時間割選択)が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。

他学部の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(2) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押ししてください。

他学部の科目を履修する場合など、B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



※ (1) (2) の手順は、連続して行うことができます。

※ 「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 「すでに登録されています」と表示される外国語選択必修科目は、事前登録により決定した科目です。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。(各科目の右端の〈状態〉欄に「未登録」と表示されています。)



⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

⑥ (選択) および⑧ (取消) で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の右側にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。)

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)



⑪ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

2. 登録済科目の確認

履修申告で登録された科目は、4月19日(木)9:00(予定)より、学事 Web システムを利用して再度確認することができます。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 1. の④(トップメニュー画面)までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

3. 休講・補講情報の確認

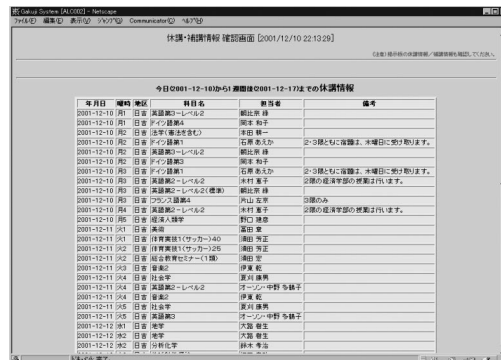
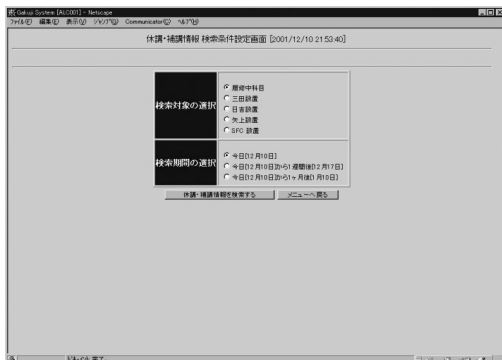
学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に確認することができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および科目設置の各キャンパスの掲示板で確認してください。

[ブラウザー編]

- ① 1.の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② 1.の④の画面（トップメニュー画面）から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力し、1.の①の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとう便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）
- ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。[i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください。
- ③ 「学籍番号」と I で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ④ この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

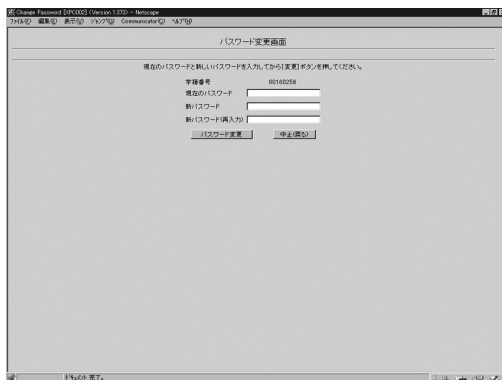
4. パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述 1.の④の画面（トップメニュー画面）から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

[注意]

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字/小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。



経済学部

履修要項

第1 適用学則（自分がどの学則の適用を受けるか必ず確認してください）

1 99学則と05学則について

99学則：2004年度までに経済学部へ入学した者、2005年度までに第2学年に編入学した者、および2006年度までに第3学年に学士入学した者に適用される学則。

05学則：2005年度以降に第1学年に入学した者、2006年度に第2学年に編入学した者、および2007年度に第3学年に学士入学した者に適用される学則。

入学年度および形態と適用される学則は以下のとおりとなります。疑問点がある場合には学事センターへ問い合わせてください。

	2004年度以前	2005年度	2006年度	2007年度
1年入学	99学則	05学則	05学則	05学則
2年編入学	99学則	99学則	05学則	05学則
3年学士入学	99学則	99学則	99学則	05学則

2 学則の移行

(1) 2004年度以前入学者（**99学則**適用者）の適用学則は、以下のとおり2005年度以降入学者用適用学則（**05学則**）に移行します。

・2006年度末において第1・2学年にとどまった場合、2007年3月末日をもって移行しました。

・2008年度末において第3・4学年にとどまった場合、2009年3月末日をもって移行します。

休学および留学を予定している者は、就学時に適用される学則について留意が必要です。

99学則適用者で原級にとどまった者が、**05学則**への移行により進級・卒業に必要な条件を満たす場合がありますが、この場合は原級にとどめるものとし、別途履修についての指示を行います。

(2) 学則の移行が行われる際に、取得済みの科目を**05学則**適用者用の科目に読み替えます。読み替え等の詳細は移行時に通知します。

第2 成績の評語

1. 評語について

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D（不合格）」の評語がつきます。2003年度より、従来の「放棄（未受験：★）」は廃止されました。ただし、2002年度以前の成績評語の修正（★→D）は行いません。

学則第70条に基づき、成績の評語は、「A・B・C・D」とし、「A・B・C」は合格、「D」は不合格となります。ただし、体育科目のうち「体育実技B」に関しては、その評語を「P・F」とし、「P」は合格、「F」は不合格となります。

なお、学業成績表は、保証人宛に9月上旬と3月中旬に送付します。

2. 追加試験の評語について

2006年度より、追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となりました。（ただし、定期試験の時間割が重複した場合、電車の遅延が証明された場合、公認会計士試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、二親等以内の葬儀の場合はこの限りではありません。）

第3

開講科目と単位数

2007年度（平成19年度）に第3・第4学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

講義は99学則適用者については週1回の通年科目を、05学則適用者については週1回の半期科目を原則とします。ただし、99学則適用者については春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中講義、および週1回の春学期または秋学期のみの半期科目も開講されます。

なお、99学則適用者が05学則適用者の科目（科目名末尾にa, bの付く科目）は履修できません。また逆に05学則適用者が99学則適用者用の科目を履修することもできません。

1 総合教育科目

(1) 三田設置科目は以下のとおりです。

科目名		系
99学則適用者用	05学則適用者用	
人類学(4)	人類学 a, b (各2)	I系
情報処理(2)		
歴史(4)	歴史 a, b (各2)	II系
法学(憲法を含む)(4)	法学 a, b (憲法を含む)(各2)	
近代思想史(4)	近代思想史 a, b (各2)	
美術(4)	美術 a, b (各2)	
地域研究—中国事情V(2)		
地域研究—中国事情VI(2)		III系
人の尊厳(社会と人権)(2)		
自由研究セミナー(4)	自由研究セミナー a, b (各2)	

※()内は単位数

(2) 日吉設置科目も履修することができます。ただし、最初の授業時間に別途手続きが必要な科目もありますので、講義要綱や日吉の掲示等にご注意してください。

履修申告者多数の場合には、第3・第4学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限（抽選）を行うことがあります。その結果、履修が許可されなかった場合には、履修申告修正期間に総合教育科目（系は選択可）の追加申請可能科目の中からの追加を認めます（詳細は別途掲示します）。ただし、これに伴う他の科目の変更・削除は認められません。

(3) 他学部設置の総合教育科目は、総合教育科目として履修できませんが、授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。また、経済学部と他学部で併設している場合は、経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なりますので注意してください。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位数に満たない場合でも履修上限単位数に含まれます。

(4) 教養研究センターが設置（99学則適用者には経済学部が併設）する以下の科目は総合教育科目（III系）として履修できます。

※99学則適用者は経済学部併設科目の登録番号で申告を行ってください。

「生命の教養学」「アカデミック・スキルズⅠ」「アカデミック・スキルズⅡ」「アカデミック・スキルズⅢ—テーマを究める」「アカデミック・スキルズⅣ—テーマを究める」「アカデミック・スキルズⅢ—講義を究める」「アカデミック・スキルズⅣ—講義を究める」

2 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定等については、掲示を参照してください。

(2) 選択必修「情報処理Ⅰ(第1学年設置)」「情報処理Ⅱ(第1・2学年設置)」より2単位について履修にあたっての取り扱いは、昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

	本年度1つ目の科目	本年度2つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限内
1科目取得済	履修上限内	履修上限内

※履修上限内で取得に至った場合には、第3学年における進級必要単位数（28単位）および第4学年における必要単位数（12単位）になります。また、第3学年における進級必要単位数のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めなし）としても数えることができます。

(3) 履修タイプⅡの第1学年設置選択必修科目4科目（数学概論Ⅰ，数学概論Ⅱ，世界経済の現状と問題，日本経済の現状と問題）のうち2科目4単位について

履修にあたっての取り扱いは，昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

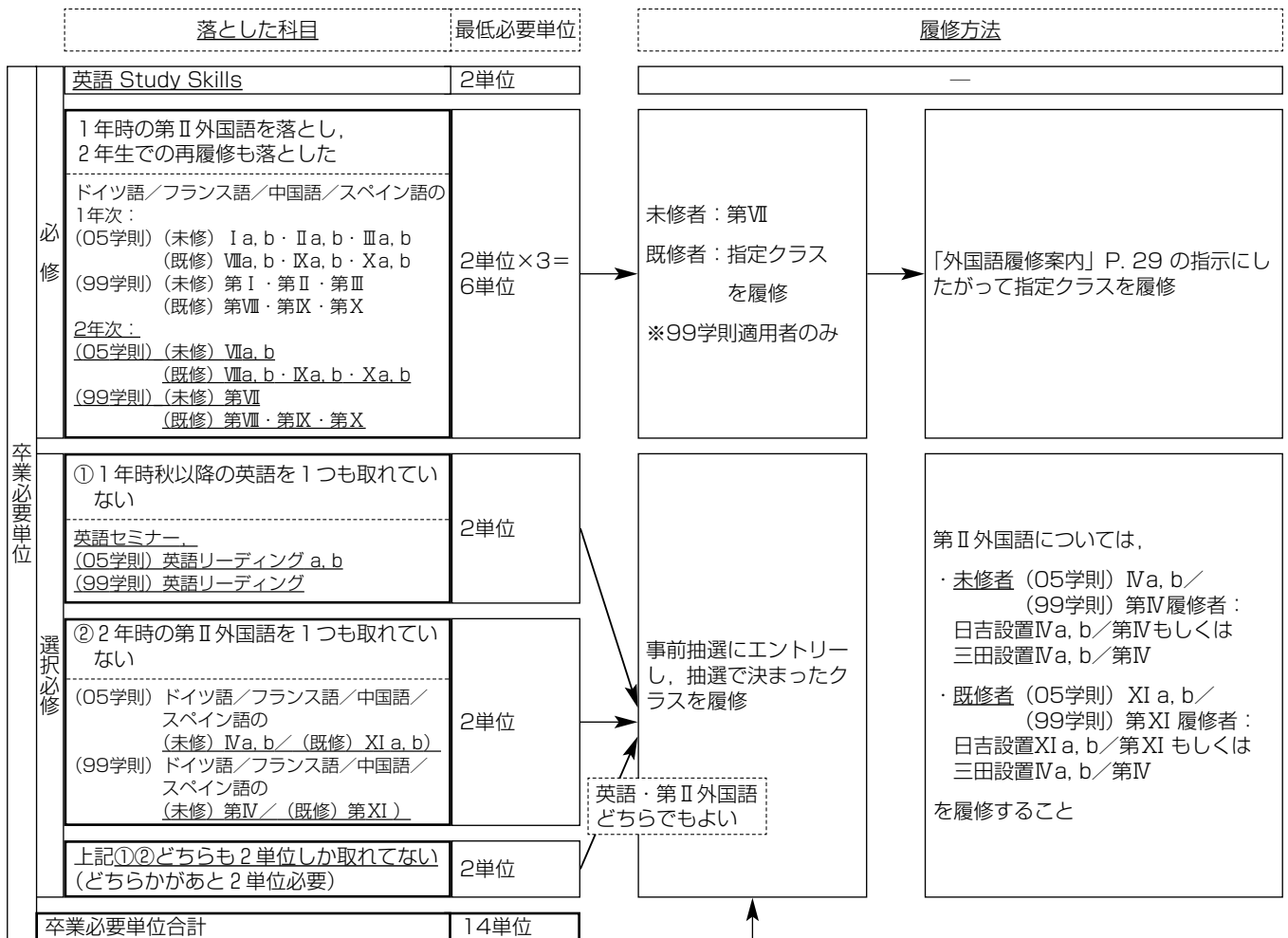
	本年度1つ目の科目	本年度2つ目の科目	本年度3つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限外	履修上限内
1科目取得済	履修上限外	履修上限内	履修上限内
2科目取得済	履修上限内	履修上限内	履修上限内

※履修上限内で取得に至った場合には，第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。また，第3学年における進級必要単位のうち，基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えることができます。

3 外国語科目

(1) 外国語科目の履修

履修にあたっては以下の図に従ってください。なお，経済学部設置の外国語科目（必修・選択必修）は4月16日（月）以降，外国語科目（選択）は4月9日（月）以降の開講となります。



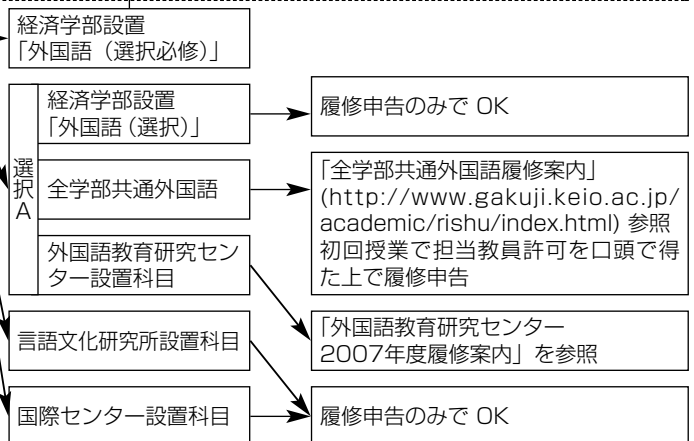
上記単位は全て取得している（卒業に必要な外国語の単位は全て取得している）が，もっと外国語を勉強したい人

※外国語科目は同一科目名・同一担当者でも複数回履修して構いません。

※外国語Ⅱにおける語種変更（外国語Ⅲ）

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語Ⅲ），日吉で実施される外国語Ⅲガイダンスに出席し，学習指導担当者の許可を得なければなりません。また，必ず日吉設置の初習クラスを2科目4単位履修しなければなりません。詳細は「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

※99学則適用者で日吉設置の第1学年設置の必修外国語科目（外国語Ⅱ）を未取得の場合，「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を確認のうえ，履修申告してください。選択必修科目によって必修科目に代えることはできません。



等

(2) 選択必修科目の事前抽選

選択必修科目（三田・日吉設置）の履修を希望する学生は下記に従って事前に Web エントリーを行ってください。（抽選に受かった場合は必ず履修しなければなりません）

		外国語Ⅰ（英語）		外国語Ⅱ
		英語セミナー	英語リーディング(99学則)・英語リーディングa,b(05学則)	
Web エントリー 期間	〔1回目〕	4月6日(金)9:00～4月7日(土)14:00	4月3日(火)9:00～4月4日(水)14:00	4月3日(火)9:00～4月4日(水)14:00
	〔2回目〕	4月10日(火)9:00～4月11日(水)14:00	4月6日(金)9:00～14:00	4月6日(金)9:00～14:00
2回目のエントリーは1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目のエントリーに参加できる学生は、 ・1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生 ・1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生 のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。				
Web エントリー 結果発表	掲示場所	日吉：第4校舎B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板 三田：西校舎地下1階掲示板		
	発表日時	〔1回目〕 4月10日(火)9:00	4月6日(金)9:00	4月6日(金)9:00
	〔2回目〕	4月12日(木)9:00	4月7日(土)9:00	4月7日(土)9:00
Webエントリー方法	1. 学事WebシステムのWebブラウザ用メニュートップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) に「事前エントリーはこちら」というリンクがあるので、その先のリンクでログインする（ログインのID、パスワードは学事Webシステムと同じ。）			
	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・英語セミナー（春） ・英語セミナー（秋） を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第4希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・英語リーディング を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第4希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・ドイツ語 ・フランス語 ・中国語 ・スペイン語 を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第3希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	
4. 「以下の内容で登録しますか？」と聞かれるので、よければ「登録」ボタンを押す。 5. 「登録しました」と表示される。 これで手続き完了です。「申込履歴確認」の「確認画面表示」ボタンを押せばエントリーされているか確認できます。				

選択必修科目エントリーコード表（三田設置科目）

事前登録種類	エントリーコード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
③英語 リーディング	201	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	金澤 洋子	春・秋	金1
	202	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	金澤 洋子	春・秋	金2
	203	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	河地 和子	春・秋	火2
	204	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	河地 和子	春・秋	火3
	205	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	ラインボールド, ロレイン J.	春・秋	火3
	206	英語リーディング(99学則)・英語リーディング a,b(05学則)	ラインボールド, ロレイン J.	春・秋	火4
④ドイツ語	207	ドイツ語第Ⅳ(中級)(99学則)・ドイツ語Ⅳ(中級) a,b(05学則)	境 一三	春・秋	金4
	208	ドイツ語第Ⅳ(セミナー)(99学則)・ドイツ語Ⅳ(セミナー) a,b(05学則)	七字 眞明	春・秋	水5
	209	ドイツ語第Ⅳ(セミナー)(99学則)・ドイツ語Ⅳ(セミナー) a,b(05学則)	八木 輝明	春・秋	火5
④フランス語	210	フランス語第Ⅳ(セミナー中級)(99学則)・フランス語Ⅳ(セミナー中級) a,b(05学則)	ガボリオ, マリ	春・秋	木2
	211	フランス語第Ⅳ(セミナー中級)(99学則)・フランス語Ⅳ(セミナー中級) a,b(05学則)	西尾 修	春・秋	月5
	212	フランス語第Ⅳ(セミナー中級)(99学則)・フランス語Ⅳ(セミナー中級) a,b(05学則)	林田 愛	春・秋	木2
④中国語	213	中国語第Ⅳ(中級)(99学則)・中国語Ⅳ(中級) a,b(05学則)	陳 愛玲	春・秋	月1
	214	中国語第Ⅳ(セミナーⅠ)(99学則)・中国語Ⅳ(セミナーⅠ) a,b(05学則)	長堀 祐造	春・秋	水2
	215	中国語第Ⅳ(セミナーⅡ)(99学則)・中国語Ⅳ(セミナーⅡ) a,b(05学則)	道上 知弘	春・秋	水4
④スペイン語	216	スペイン語第Ⅳ(中級)(99学則)・スペイン語Ⅳ(中級) a,b(05学則)	阿部 三男	春・秋	火3
	217	スペイン語第Ⅳ(セミナー)(99学則)・スペイン語Ⅳ(セミナー) a,b(05学則)	阿部 三男	春・秋	火4
	218	スペイン語第Ⅳ(中級)(99学則)・スペイン語Ⅳ(中級) a,b(05学則)	四宮 瑞枝	春・秋	木3

(注) ①②「英語セミナー」は2007年度は三田では開講しません。日吉設置科目のエントリーコード表は別途掲示します。

(3) 選択必修科目の事前抽選後の履修申告

決定したクラスは、自動的に履修登録されます。学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、学事 Web 履修申告期間内に必ず確認してください。決定したクラスの変更や履修取りやめは一切できません。決定したクラス以外のクラスを履修申告しても無効です。

(4) 選択必修科目のクラス未決定者

クラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回抽選の結果発表後、三田設置科目については、三田学事センターで「三田設置外国語Ⅰ(英語)申請用紙」または「三田設置外国語Ⅱ申請用紙」を受け取り、記入のうえ、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時(詳細別途掲示)の学習指導面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

4 専門教育科目

1 基礎科目

- ① 日吉設置の専門教育科目(基礎科目)の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定については、掲示を参照してください。
- ② 第2学年設置選択必修科目のうち2科目4単位について
2科目を取得してさらに履修する場合には履修上限内とし、第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要単位(12単位)となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位(内訳は定めなし)としても数えることができます。

2 基本科目

A～Jまでの10分野の中から3分野以上(05学則適用者は、それぞれの分野において少なくとも4単位以上)にわたって20単位以上(05学則適用者は12単位以上)に合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数科目履修する場合は、1科目を基本科目、他方を自由科目として申告してください。申告した科目の種類(分野)を後日変更することはできません。

3 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

「単位表」に掲載されている科目は、本年度の開講科目(三田設置)を示したものであり、掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は春・秋学期で2単位、半期で1単位です。

- ① 「専門外国書講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国書講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」の単位に加算されます。
- ② 日吉設置科目を履修することもできます。
- ③ 日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を特殊科目として履修することはできませんので履修を希望する場合は自由科目として申告してください。
- ④ 「研究会」

	99学則適用者	05学則適用者
科目名と単位数	3年：研究会(3年)(4単位) 4年：研究会(4年)(4単位)	3年：研究会 a, b (各2単位) 4年：研究会 c, d (各2単位) 研究会(卒業論文)(4単位)
要件	第3、4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に8単位の取得ができる。	第3学年には、春・秋学期の履修で学年末に4単位、第4学年には、春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格した場合のみ、学年末に8単位の取得ができる。
単年度の履修	第3学年のみの履修は認められない(評価が与えられることはない)。第4学年のみの履修は担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に4単位の取得ができる。	第3学年のみの履修は第3学年末に4単位の取得ができる。第4学年のみの履修は担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出した場合で、春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格することで、第4学年末に8単位の取得ができる。
履修申告の方法	第3学年は「研究会(3年)」のみを、第4学年は「研究会(4年)」のみを履修申告してください。登録番号が異なります。第3学年で留年をした場合は、再度「研究会(3年)」を申告する必要はありません。	第3学年は「研究会 a」「研究会 b」を、第4学年は「研究会 c」「研究会 d」「研究会(卒業論文)」を履修申告してください。登録番号は、「研究会 a」と「研究会 b」、「研究会 c」と「研究会 d」、「研究会(卒業論文)」がそれぞれ同じになります。
再履修	再履修はできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会(4年)」を申告してください。	再履修はできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会 c」「研究会 d」「研究会(卒業論文)」を申告してください。

- ・第3学年において研究会を履修した者で、**第4学年において研究会を変更する場合は**、両方の担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出しなければなりません。
 - ・研究会の退会を希望する者は、原則として履修申告日までに学事センターに「研究会退会届」を提出してください。
 - ・入会選考に合格したにもかかわらず入会をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに「研究会辞退届」を提出してください。
 - ・研究会は原則週2時限です。第3学年は第4学年の、第4学年は第3学年の時限に別の授業科目を登録することはできません。
 - ・経済学部設置の研究会を複数履修することはできません。
- ⑤ 「研究プロジェクト」 ※選考に合格した者のみ履修できます。
- ・1年で完結する少人数または個人プログラムで、教員がテーマを設定する誘導展開型と、学生自身がテーマを設定し、テーマに適した教員が担当する自発展開型の2つの種類があります。誘導展開型・自発展開型のいずれも、論文もしくは作品等の成果の発表が義務づけられます。
 - ・第3・第4学年対象に三田・日吉両地区で開講します。
 - ・第3・第4学年いずれにおいても履修できます（複数回履修できます）。
 - ・「研究プロジェクト」（4単位・99学則）または「研究プロジェクト a, b」（各2単位・05学則）と「研究プロジェクト C」（成果発表、2単位）を必ず合わせて履修しなければなりません。
 - ・研究会・PCPと並行して履修することもできます。
 - ・選考に合格した者の「研究プロジェクト」（4単位・99学則）または「研究プロジェクト a, b」（各2単位・05学則）と「研究プロジェクト C」（成果発表、2単位）の登録は申請に基づき学事センターで行います。御自身では当該科目の履修申告を行わないでください。
 - ・選考に合格したにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
 - ・詳細は以下の Web ページを参照してください。
<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>
- ⑥ 「プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)」 ※選考に合格した者のみ履修できます。
- ・第3・第4学年の2年間、実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供するプログラムです。2007年度は「法と経済（第4学年のみ）」・「ファイナンス」・「公共経済」・「国際経済」・「環境経済」の5つの専攻プログラムを開講します。
 - ・第3・第4学年対象に三田で開講します。
 - ・いずれの専攻プログラムとも、第3・第4学年で定められた科目を合わせて20単位（選択を含めて22単位）履修しなければなりません。
 - ・研究会・研究プロジェクトと並行して履修することもできます。
 - ・選考に合格した後、履修科目の認定を受けて下さい。認定を受けたら所定用紙を学事センター経済学部担当へ履修申告日までに提出してください。所定用紙の提出が Web 履修申告開始日に間に合わない場合、正しく履修申告ができなくなる可能性があります。十分注意して下さい。PCP 科目の登録は学事センターで行いますので御自身では当該科目の履修申告を行わないでください。
 - ・選考に合格したにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
 - ・詳細は以下の Web ページを参照してください。
<http://www.econ.keio.ac.jp/ann/pcp/>

4 関連科目

経済学部設置科目（適用学則の単位表参照）、および他学部設置の専門教育科目を関連科目として選択履修できます（医学部設置科目を除く）。関連科目は専門教育科目の単位として8単位（99学則）、12単位（05学則）まで含めることができます。

ただし、授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合は履修できません。

- 他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また、経済学部設置の「研究会」と重複して履修することができますが、他学部設置の「研究会」を同一学年同一学期で複数履修することはできません。（自由科目として履修することもできません。）
- 他学部設置科目を関連科目として履修する場合には、授業担当者の許可を得てください。
- 他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目は以下のとおりです。
 - ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
 - ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。（湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修については p.31 参照）
 - ・他学部で専門教育科目として設置していても、経済学部では総合教育科目、外国語科目、体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目（総合教育科目は自由科目としては履修できます）。
 - 【例1】「宗教学」は経済学部第1・第2学年において総合教育科目として設置しているので、履修はできません。
 - ・経済学部の専門教育科目として履修済の同一科目、同一名称とみなす科目。（自由科目としては履修できます）。
 - 【例2】経済学部基本科目の「財政論」を履修し、さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。
- 福澤研究センターが設置（99学則適用者には経済学部が併設）する科目は関連科目として履修できます。
 - ※ 99学則適用者は経済学部併設科目の登録番号で申告を行ってください。

5 体育科目

2004年度より学則が一部改正され、「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。

卒業単位認定科目（14単位）には、以下により最大4単位含めることができます。

①	①-1. 2003年度以前設置「保健衛生」 1単位	①-3. 2004年度以降設置「体育学講義」 2単位	} より最大2単位
	①-2. 2003年度以前設置「体育理論」 1単位	①-4. 2004年度以降設置「体育学演習」 1単位	
②	②-1. 2003年度以前設置「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」 1単位	} より最大2単位	
	②-2. 2004年度以降設置「体育実技A」「体育実技B」 1単位		

履修を希望する者は、体育科目（体育研究所設置科目）履修要項を参照およびガイダンスに出席のうえ、履修申告をしてください。履修申告の結果、予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお、誤登録など申告に不備があった場合は、抽選に加えられず、不許可となり履修できません。

「体育実技A」および「体育実技B」については同一科目（種目）でも複数回履修できます。ただし、「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々1回に限ります。

抽選で不許可となった場合で、追加で許可を得た者に限り、履修申告修正期間中に履修（不許可単位数分）の追加ができます。「許可証」を提示の上、申告してください。

6 自由科目

- (1) 卒業必要単位（126単位）に含めることはできません。
- (2) 履修上限内の自由科目（分野番号【60-30-01】）は第3学年における進級必要単位（28単位）、第4学年における必要取得単位（12単位）に含めることができますが、上限外（分野番号【60-39-01】【60-39-02】【60-39-03】）は含めることはできません。
- (3) 他学部設置科目を自由科目として履修する場合には、授業担当者の許可を必ず得てください。
- (4) 原則として、他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが（p.31参照）、自由科目としての履修は認められています。（ただし、定員等の関係で認められない場合もあります。）
- (5) 教養研究センター（日吉）、福澤研究センター（三田）、外国語教育研究センター（日吉・三田）の一部の科目は99学則適用者向けに経済学部と併設しています。それぞれ総合教育科目、関連科目、外国語科目の項を参照してください。（自由科目としては履修できません。）
- (6) 国際センター在外研修プログラムのうち、春季講座（2007年2～3月実施済）参加者は必ず履修申告を行ってください。夏季講座は、国際センターのガイダンスを受け、参加申込を行ってください。ただし、履修申告は選考に合格後、履修申告修正期間に行ってください。（この場合、履修上限単位を超える場合に限り他の科目の削除を認めます。）
- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行ったうえ、必ず、自由科目として履修申告してください。原則として履修の辞退はできません。
- (8) メディア・コミュニケーション研究所設置科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。

メディア・コミュニケーション研究所設置の研究生用科目はメディア・コミュニケーション研究所に研究生として所属していなければ履修できません。

教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の手続きがなされていないと履修できません。

第4 履修上の注意

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。（詳細は「単位表」参照）

経済学部の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分でB欄分野を登録しなければなりません。「単位表」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の2桁のB欄分野を登録してください。

また、5月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A欄で申告した（B欄分野を選択していない）授業科目も含め、必ずこの単位表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表は再発行できません。卒業まで各自保管してください。

2 重複履修について

(1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。

研究会は各学年とも2時限(例:4, 5時限)の履修が必要です。(各自の学年の登録番号で2時限分登録されます。)

(2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。(ただし、総合教育科目については以下の表の条件に合致する場合には履修することができます。)

以下の表の○印の欄の科目は、重複履修が認められています。

総合教育科目	基礎教育科目	外国語科目	専門教育科目	体育科目	自由科目
系または担当者が異なれば可 ※生物学、物理学、化学は不可 ※自由研究セミナーは担当者が同じでも可	×	○ ※同一担当者による同内容 (類似内容)のクラスは不可	×	○	○

(3) 他学部と併設(同じ授業)している(していた)科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目(例)

【99学則】

経済学部設置科目		法学部設置科目	商学部設置科目
簿記			簿記論
経済政策論			経済政策
経済資料論			経済統計
計量経済学Ⅰ/計量経済学Ⅱ			計量経済学
財政論		財政論	財政学
労働経済論		労働経済論	労働経済学
商法Ⅰ		商法Ⅰ	法学各論(商法ⅠA)
商法Ⅰ		商法Ⅰ	法学各論(商法ⅠB)
商法Ⅱ		商法Ⅱ	法学各論(商法ⅡA)
商法Ⅱ		商法Ⅱ	法学各論(商法ⅡB)
民法Ⅰ		民法Ⅰ	法学各論(民法ⅠA)
民法Ⅰ		民法Ⅰ	法学各論(民法ⅠB)
民法Ⅱ		民法Ⅱ	法学各論(民法ⅡA)
民法Ⅱ		民法Ⅱ	法学各論(民法ⅡB)
地域研究—中国事情Ⅰ	地域研究—中国事情		
NPO経済論Ⅰ	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論a(2007年度~)		
NPO経済論Ⅱ	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論b(2007年度~)		
EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ		

【05学則】

経済学部設置科目		法学部設置科目	商学部設置科目	総合政策・環境情報学部
経済政策論a・b		経済政策Ⅰ・Ⅱ	経済政策	
経済統計a・b			経済統計Ⅰ・Ⅱ	
計量経済学中級a・b			計量経済学Ⅰ・Ⅱ	
財政論a・b		財政論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ	
労働経済論a・b		労働経済論Ⅰ・Ⅱ	労働経済学Ⅰ・Ⅱ	
商法Ⅰa		商法ⅠA	法学各論(商法ⅠA)	
商法Ⅰb		商法ⅠB	法学各論(商法ⅠB)	
商法Ⅱa		商法ⅡA	法学各論(商法ⅡA)	
商法Ⅱb		商法ⅡB	法学各論(商法ⅡB)	
民法Ⅰa		民法ⅠA	法学各論(民法ⅠA)	
民法Ⅰb		民法ⅠB	法学各論(民法ⅠB)	
民法Ⅱa		民法ⅡA	法学各論(民法ⅡA)	
民法Ⅱb		民法ⅡB	法学各論(民法ⅡB)	
金融論a・b			金融論Ⅰ・Ⅱ	
国際金融論a・b			国際金融論Ⅰ・Ⅱ	国際金融論
世界経済論a・b			世界経済論Ⅰ・Ⅱ	
産業組織論a・b			産業組織論	
産業社会学a・b			産業社会学Ⅰ・Ⅱ	
地域研究—中国事情Ⅰ	地域研究—中国事情			
NPO経済論a	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論Ⅰ(2005, 2006年度)			
NPO経済論b	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論Ⅱ(2005, 2006年度)			
EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ			

- (4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」・「C」の場合、再履修することができます。ただし、**研究会は再履修できません**。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国語講読および体育科目の実技科目は、複数履修できる科目のため再履修することはできません。新たに履修してください。
- (5) 必修科目の再履修は自由科目としての履修も認められていません。

3 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

- ① 他学部設置専門教育科目 → 関連科目 ※B欄「51」で履修
- ② 他学部設置総合教育科目 → 自由科目 ※B欄「91」で履修
- ③ 他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内」(p.31 記載の URL 参照)に掲載の科目のみ → 選択外国語(選択A)として履修することができます。

ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類(関連科目、自由科目、外国語科目)の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の許可を得てください。科目によっては他学部の学生の履修を制限する場合や設置学部の学習指導担当等の許可を必要とする場合、履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

(1)と同様です。

なお、移動時間を十分考慮のうえ、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する(例:1時限三田,2時限日吉)履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合(例:2時限日吉,3時限三田)は可としますが、実際に移動できるか十分確認してください。

他地区設置科目についての掲示(時間割変更、休講、試験等)は、設置地区にのみ掲示されます。特に、時間割については変更されることがありますので、履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

99学則適用者で湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修を希望する場合は、秋学期授業開始後2週間以内に三田学事センターに申し出てください。

法学部、商学部の三田設置科目を履修する場合は、学則に関わらずそれぞれ「法学部法律学科3・4年授業時間割」の2005年度以降入学者用部分、「法学部政治学科3・4年授業時間割」、「商学部3・4年授業時間割【05学則適用者用】」に記載されている科目を登録してください。

4 研究所・センター設置科目の履修について

原則として、自由科目となります。「自由科目」の項を参照してください。ただし、99学則適用者について学部設置科目と併設している授業の場合、経済学部設置科目を専門教育科目や外国語科目として履修したり、他学部設置科目を関連科目として履修することができます。(05学則適用者については、「単位表」を参照してください。)99学則適用者についてはその場合、登録番号が異なりますので当該学部設置科目の登録番号を確認のうえ、申告してください。なお、履修申告後、登録された分野(科目の種類)を変更することはできません。

5 大学院設置科目の先取り履修について(本年度第4学年在籍者のみが対象)

経済学部第4学年在学時に、慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に設置された科目を先取り履修することができます。これによって取得した単位は「大学院入学先取り科目」として修士課程入学後に修了単位として申請することができるため、修士課程の早期修了あるいは課程博士論文作成作業への早期着手が可能になります。履修を希望する者は以下の要領に沿って申請を行ってください。

なお、この制度を利用できる者は翌年度に慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を考えている者、または合格した者とします。

- (1) 4月の履修申告前の指定された期間内に学事センターに申し出を行い「大学院設置科目履修許可願」を受領・記入の後、資格確認のために学事センターに提出をします。学事センターでは数日中に確認を行い、基準を満たしている場合には学事センター確認印を押印の後書類を戻します。

※申請資格は、修士課程の第一次試験免除の基準(別途掲示を参照)とします。ただし、9月の入学試験に合格した場合は、その合格をもって申請資格を満たしたものとし、秋学期の履修申告修正期間中に申請を行うことができます。(春の履修申告時に登録した科目と曜日時限の重複するような申請はできません。)

- (2) 大学院修士課程の時間割等を参照し、履修を希望する各科目の授業に出席の上、授業担当者の許可印を「大学院設置科目履修許可願」に入手してください。
- (3) 研究科学習指導面接に赴き、「大学院設置科目履修許可願」を提出して、最終的な履修許可を得てください。この際に、大学院入学意思確認を行います。

(4) 履修申告期間内に「大学院設置科目履修許可願」を学事センターに提出してください。

※「大学院入学前先行科目」については、Web履修申告を別途行う必要はありません。

※履修することができる科目については、研究科委員会が予め指定し掲示にてお知らせします。

※履修することができる単位数の上限は年間で12単位以内とします。

※学部での履修の取り扱い、自由科目(履修上限外)とし、卒業必要単位および第4学年で取得しなければいけない12単位にも含まれません。

※学部と修士課程で併設を行っている科目を履修する場合には、修士課程設置の科目名にて履修申告を行ってください。ただし、同年度に学部設置科目としての履修と大学院設置科目の併設履修を本申請を使って同時に申告することはできません。

第5 認定用紙および申告用紙について

科目によっては、下記の所定用紙が必要になります。必要事項を記入の上、指示された承認印を受け下記の指定期日までに提出しなければなりません。以下を熟読してください。

以下の所定用紙は塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>) からダウンロードしてください。ダウンロードができない場合には用紙を配布しますので、学事センターに申し出てください。

(1) 「基礎教育・専門教育科目履修認定用紙」

日吉設置のマクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱを異なる履修タイプで再履修する場合に使用。日吉の学習指導面接を受ける必要があります。

提出締切：4月13日(金) 三田学事センター

(2) 「研究会認定用紙」・「研究会退会届」・「研究会辞退届」

- ・4年生で研究会を変更した場合や4年生で研究会に入会した場合は「研究会認定用紙」
- ・退会の場合は「研究会退会届」
- ・研究会選考(他学部含む)に合格したのにもかかわらず入会をとりやめる場合は「研究会辞退届」

をそれぞれ提出してください。

※履修申告終了後にも研究会退会届の提出は受けつけますが、それによって代わりの研究会の追加を申告することはできません。

(3) 「外国語科目認定用紙」

外国語必修科目・選択必修科目の追加認定に使用。

●日吉設置

[外国語Ⅰ]

[外国語Ⅱ]

経済学部外国語科目履修案内「第2-4 履修クラスが未決定の学生」を参照してください。

●三田設置

[外国語Ⅰ]

[外国語Ⅱ]

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html> 参照もしくは三田学事センター経済学部担当で配布しています。

提出締切：4月10日(火)

以下の所定用紙は必要に応じて学事センターで配布します。

※「履修申告用紙(マークシート)」「エントリーシート」(外国語選択必修科目(日吉・三田設置))の事前登録に使用やむをえず、学事Webシステムによる履修申告が行えない場合、申し出により配布します。(理由を問う場合があります)

提出日：4月17日(火) 8:45~14:00 三田学事センター

第6 休学・留学・退学

1 休学(学則第152条)

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学をすることができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類(病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等)を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し認印を受けたうえで学事センターに提出してください。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。詳細は学生総合センター-学生生活支援窓口にお問い合わせください。

	99学則適用者	05学則適用者
休学期間	休学期間は1年度 (4月1日～翌年3月31日) ※休学が次の年度におよぶ場合は 改めて許可を得る必要があります。	休学期間は各学期毎 春学期：4月1日～9月21日 秋学期：9月22日～翌年3月31日 ※休学が次の学期におよぶ場合は 改めて許可を得る必要があります。
履修申告後の 休学願提出期限	11月30日	春学期：5月31日 秋学期：11月30日
その他	—	秋学期および翌年度春学期に休学した場 合、復学した秋学期に、前年度春学期に 履修した未採点科目の継続履修を申請す ることが可能です。
進級・卒業に ついて	休学した年度は原級にとどまります。	半期（春学期もしくは秋学期）の休学の 場合でも休学した年度は原級にとどま ります。

2 留学（学則第153条）

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。**語学研修**は学則による**留学とは見なされず休学となります**。

学則による留学は、留学開始日より1年を単位とし、延長は1回に限り許可されます。また、留学期間は1年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には手続きを全て済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として就学届提出時におこなってください。本年度は2007年12月初回の学習指導主任面接までに申請しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間（1年を限度）を在学年数に算入し、進級できます（4月1日付遡及進級）。**4年生は、単位の認定による遡及卒業はできません**。授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

3 退学（学則第154条）

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接してください。あらかじめ記入した退学届に認印を受け、学生証を添えて学事センターに提出してください。

授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします。（学則第171条）退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍・成績は無効となります。なお、退学後に授業料等が完納された場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

4 退学処分（学則第156条・第188条）

①大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

②以下の要件に該当する場合には学則第156条により退学処分となります。

	99学則適用者	05学則適用者
退学処分の要件	第1・第2学年併せて4年在学し第3学年に進級し得ない者、第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。	第1・第2学年併せて4年在学し当該年度末に第3学年に進級し得ない者、第3・4学年併せて4年在学し当該年度末に卒業し得ない者は退学処分となります。また、第1学年もしくは第3学年在籍者で、第1学年もしくは第3学年に3年在学し当該年度末に進級し得ない者についても、学則第156条にもとづき退学処分となります。

次からのページで説明している下記の4つの項目については、
「99学則適用者」と「05学則適用者」によって内容が大きく異なります。
それぞれの学則毎にページを分けて記述していますので、
自分に適用される学則の内容かどうかを必ず確認してから参照し
てください。

1. 単位表（卒業所要総単位）
2. 履修上限単位
3. 第3学年における進級必要単位
4. 第4学年における卒業必要単位

単位表 (99学則)

1 卒業所要総単位

※学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名 (単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目		
					1	2				
	総合教育科目 (P25)	I系	10-20-01	[自然・数理系] (2または4)	6	4	20			
10-20-11			[自然・数理系 (生物・物理・化学)] (6)							
II系		10-20-02	[人文・社会系] (2または4)	10						
		III系	10-20-03		[総合・関連系] (2または4)					
			10-20-13		[総合・関連系 (自由研究セミナー)] (2または4)					
	基礎教育科目 (P25)	履修 タイプI	必修	20-20-07	微分積分 (2)	2	10			
20-20-08				線形代数 (2)						
20-10-01				統計学I (2) 統計学II (2)						
選択必修			20-21-01	情報処理I (2)	2					
			20-21-02	情報処理II (2)						
選択			20-30-01	日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)	4					
			20-30-03	情報処理III (2)						
			20-30-04	微分積分演習 (1)						
			20-30-05	線形代数演習 (1)						
			20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)						
履修 タイプII		必修	20-10-01	統計学I (2) 統計学II (2)	4					
			20-20-05	数学概論I (2)						
		選択必修	20-20-06	数学概論II (2) 日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)	4					
			20-21-01	情報処理I (2)						
		選択	20-21-02	情報処理II (2)	2					
			20-30-02	微分積分 (2) 線形代数 (2) 微分積分演習 (1) 線形代数演習 (1)						
			20-30-03	情報処理III (2)						
				20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)					
		外国語科目 (P26)	必修	外国語I	30-10-01	英語 Study Skills (2)		2	14	
外国語II				30-10-02	ドイツ語第I・II・III, VII・IX・X, VII (2)					
	30-10-03			フランス語第I・II・III, VII・IX・X, VII (2)						
	30-10-04			中国語第I・II・III, VII・IX・X, VII (2)						
	30-10-05			スペイン語第I・II・III, VII (2)						
				30-10-31	日本語 (2) (外国人留学生対象) ※B欄「11」で履修					
選択必修	外国語I		30-20-01	英語セミナー (2) 英語リーディング (2)	2	2 ^①				
			外国語II	30-20-02			ドイツ語第IV, XI (2)			
				30-20-03			フランス語第IV, XI (2)			
				30-20-04			中国語第IV, XI (2)			
				30-20-05			スペイン語第IV (2)			
	外国語III ※語種変更者		30-20-31	日本語 (2) (外国人留学生対象)	(4) 語種変更した 場合、①の 代わりに必要					
			30-20-06	ロシア語 (2)						
			30-20-12	ドイツ語 (2) ※語種変更者 ※B欄「07」で履修						
			30-20-13	フランス語 (2) ※語種変更者 ※B欄「08」で履修						
			30-20-14	中国語 (2) ※語種変更者						
				30-20-15	スペイン語 (2) ※語種変更者					
選択	選択A		30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 キリシヤ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ペルシヤ語	4					
			30-30-31	日本語 ※B欄「44」で履修						
	専門教育科目 (P28)		必修	40-10-01	経済史I (2) 経済史II (2) マクロ経済学初級I (2) マクロ経済学初級II (2)	8	32			
40-10-02		ミクロ経済学初級I (2) ミクロ経済学初級II (2)								
選択必修		40-15-01	経済と環境 (2) 計量経済学概論 (2) 経済思想の歴史I (2) 経済思想の歴史II (2) マルクス経済学I (2) マルクス経済学II (2) 経済数学II (2)	4						
		40-15-02	経済数学IA (2)							
		40-15-03	経済数学IB (2)							
		40-15-11	社会問題I (2) 社会問題II (2)							
基本科目 (P28)		A 経済理論	40-20-51	ミクロ経済学I (4) ミクロ経済学II (4) マクロ経済学I (4) マクロ経済学II (4) 独占資本主義論 (4)	20 (3分野以上)	68				
			B 計量・統計	40-20-52				計量経済学I (4) 計量経済学II (4) 経済資料論 (4) 確率・統計 (4) 社会科学基礎論 (4)		
				C 学史・思想史				40-20-53	経済学史I (4) 経済学史II (4) 社会思想 (4) 社会思想史 (4)	
	D 経済史						40-20-54	日本経済史 (4) 欧米経済史 (4) アジア経済史 (4)		

履修すべき学年				種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位	卒業必要単位(種類毎)	卒業単位認定科目
1	2	3	4							
				専門教育科目(P28)	基本科目(P28)	E 産業・労働	40-20-55	工業経済論(4) 農業経済論(4) 産業組織論(4) 労働経済論(4) 社会政策論(4)	20 (3分野以上)	68
						F 制度・政策	40-20-56	経済政策論(4) 財政論(4) 金融論(4) 日本経済システム論(4)		
						G 現代経済	40-20-57	現代日本経済論(4) 日本資本主義発達史(4) 現代資本主義論(4) 経済体制論(4)		
						H 国際経済	40-20-58	世界経済論(4) 国際貿易論(4) 国際金融論(4) 経済発展論(4)		
						I 環境関連	40-20-59	経済地理(4) 環境経済論(4) 都市経済論(4)		
						J 社会関連	40-20-60	人口論(4) 産業社会学(4) 社会史(4)		
					特殊科目(P28)	研究プロジェクト	40-30-01	研究プロジェクト(誘導展開型)(4)		
							40-30-02	研究プロジェクト(自発展展開型)(4)		
							40-30-03	研究プロジェクトC(2)		
						PCP	40-30-41	MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)		
							40-30-51	PUBLIC POLICY AND LAW(2) ECONOMICS AND ENVIRONMENTAL LAW(2)		
							40-30-52	INTRODUCTION TO FINANCE(2) APPLIED FINANCE(2) ADVANCED FINANCE(2)		
							40-30-53	JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2)		
							40-30-54	INTERNATIONAL TRADE(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS(4) DEVELOPMENT ECONOMICS(2)		
							40-30-55	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2) INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(2)		
						(日吉)	40-30-61	APPLIED ECONOMETRICS(2) READING AND COMPOSITION(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) ACADEMIC WRITING(2) FIELD WORK(2) INDEPENDENT STUDY(2)		
							(三田)	40-30-71	簿記(4) 解析学入門Ⅰ(2) 解析学入門Ⅱ(2) 確率論入門Ⅰ(2) 確率論入門Ⅱ(2) ゲームの理論(4) 解析学Ⅰ(4) 解析学Ⅱ(2) 契約理論(4) 公共経済学(4) 数理経済学Ⅰ(4) 数理経済学特論Ⅰ[微分方程式論](4) 数理経済学特論Ⅱ[確率論](4) 代数学(4) 時系列分析(4) ベイズ統計学(4) 資金循環分析(4) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史(4) 日本経済思想史(4) 近代日本と東アジア(4) 東欧経済史(4) 現代労働経済理論(4) 家族と教育の経済学(4) 経済と法(4) 経済政策のミクロ分析(4) ファイナンス入門(4) 公共政策(4) 公共選択論(4) NPO経済論Ⅰ(2) NPO経済論Ⅱ(2) 格差と援助の経済学(4) 開発経済学(4) EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS(2) 廃棄と汚染の経済学(4) 地域経済論(2) 地球環境問題(4) 環境評価論(2) 資源経済論(2) アジア社会史(4) ラテンアメリカ社会史(4) 地方財政論(2) 簿記(4) 金融資産市場論(4) 企業金融論(4) 金融投資サービス論(4)	
						関連科目※1(P29)	40-30-81	民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4) 商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 労働法(4) 租税法(4) 会計学(4) 経営学(4) 近代日本研究Ⅰ(2) 近代日本研究Ⅱ(2) 近代日本研究演習Ⅰ(2) 近代日本研究演習Ⅱ(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅰ(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅱ(2) (以上経済学部設置)		
				B欄「51」で履修	他学部設置の専門教育科目					
				B欄「52」で履修	40-30-82		他学部研究会(商学部研究会3年)			
				B欄「53」で履修	40-30-83		他学部研究会(商・理工学部研究会4年)			
				B欄「54」で履修	40-30-84		他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)			
				B欄「55」で履修	40-30-85	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)				
				卒業単位認定科目	ガイダンス科目	01-30-01	経済学の視点と方法(2)(2004年度以前設置)			
						50-30-21	保健衛生(1)(旧保健体育科目)			
					右記合計2単位までカウント	50-30-22	体育理論(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-11	体育学講義(2)			
					右記合計2単位までカウント	51-30-12	体育学演習(1)			
						50-30-23	体育実技Ⅰ(1)(旧保健体育科目)			
						50-30-24	体育実技Ⅱ(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-13	体育実技A(1)			
				51-30-14	体育実技B(1)					
合計								126		

※1：最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 ※2：最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 □：履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分のみ)

(自由科目については次ページ参照)

種類	(詳細)	分野	内容
自由科目 (P30)	履修上限内	60-30-01	<B欄「91」で履修申告するもの> ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものを B欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 <上記以外 (B欄指定不要) > ・言語文化研究所特殊講座 ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (メディアコム研究生は下記参照) ※ ・教職課程センター設置科目 (教職課程生は下記参照) ※ ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・知的資産センター設置講座
			<B欄「95」で履修申告するもの> メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目※
	履修上限外	60-39-02	<B欄「96」で履修申告するもの> 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目※
	大学院設置科目の 先取り履修	60-39-03	慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を予定している者が上限外で履修する大学院設置科目

※メディアコミュニケーション研究所研究生、教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目、教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は、その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は各学年とも、**44単位**です。

「研究会」を履修する場合3年生、4年生でそれぞれ4単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項、前項の「1 卒業所要総単位」の中で、のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。)
- ・(留年者に限り) 同一学年で既に合格した評価B・Cの科目を再履修する場合。(評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。)ただし研究会の再履修はできません。
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・第4学年在籍時に、大学院設置科目を先取り履修する場合。(履修案内 p. 31 参照)

(2) その他注意

- ・留年者が同一学年で既に合格した科目は、履修上限に含まれます。(例：留年者が前年度8単位取得していた場合、今年度の上限は36)

単位になります。)

- ・自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、履修上限に含まれます。

3 第3学年における進級必要単位

※学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位、専門基礎科目 16 単位の取得

(1)－① 基礎教育科目 10 単位 (内訳は定めない※)

※内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して10単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目(「統計学Ⅰ・Ⅱ」「情報処理Ⅰ・Ⅱ」, タイプⅠの「微分積分」「線形代数」等)を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得(タイプⅠの学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得, タイプⅡの学生が「微分積分」「線形代数」を取得, 「情報処理Ⅰ」を取得した上で「情報処理Ⅱ/Ⅲ」も取得, 等)することによって、充足する場合があります。)

(例1) (タイプⅠ)「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」「情報処理Ⅰ」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2) (タイプⅡ)「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論Ⅰ/Ⅱ」のうち「数学概論Ⅱ」しか取得していないが、「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を取得している。

(1)－② 専門教育科目の基礎科目 16 単位 (内訳は定めない※)

※内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して16単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目(「経済史Ⅰ/Ⅱ」「マクロ経済学初級Ⅰ/Ⅱ」「ミクロ経済学初級Ⅰ/Ⅱ」のいずれかが未取得でも、選択必修科目(「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学ⅠA/ⅠB/Ⅱ」「マルクス経済学Ⅰ/Ⅱ」「経済思想の歴史Ⅰ/Ⅱ」「社会問題Ⅰ/Ⅱ」等)を2科目4単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例)「ミクロ経済学初級Ⅰ」を未取得だが、他の必修科目10単位(「経済史Ⅰ」「経済史Ⅱ」「マクロ経済学初級Ⅰ」「マクロ経済学初級Ⅱ」「ミクロ経済学初級Ⅱ」)を取得している上、選択必修科目を6単位((例)「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学ⅠA」)取得している。

(2) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

- ・研究会の3年生分4単位は含まれません(他学部設置の研究会で第3学年と第4学年の研究会の両方の履修を義務づけ、かつ研究会の単位が第4学年末に3, 4年分まとめて取得できる研究会の履修をする場合も同じ)。

- ・履修上限外で履修した科目(必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても28単位に含まれません。

(例)「統計学Ⅰ」や「ミクロ経済学初級Ⅰ」が2年次に未取得だった場合、3年次に再び履修して単位を取得できても、28単位には含まれません。

※総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも28単位に含まれます。

※自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は28単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、卒業はできません。

(1) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目(必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても(1)の12単位には含まれません。

(例)「統計学Ⅰ」や「ミクロ経済学初級Ⅰ」が3年までに未取得だった場合、4年次に再び履修して単位を取得できても、12単位には含まれません。

※総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも12単位に含まれます。

※自由科目のうち履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、(1)の12単位の中に含まれます。(2)には含まれません。

※研究会は、第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合に8単位を取得できます。卒業必要単位のカウント方法については以下のとおりです。

- ・(1)には、4学年分の4単位のみが12単位に含まれます。
- ・(2)には、特殊科目として8単位カウントされます。

単位表 (05学則)

1 卒業所要総単位

※学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名 (単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目	
					1	2			
	総合教育科目 (P25)	Ⅰ系	10-21-01	[自然・数理系] (2または4)	6		20		
			10-21-02	[自然・数理系 (生物a/b・物理a/b・化学a/b)] (3)					
		Ⅱ系	10-22-01	[人文・社会系] (2または4)	10				
		Ⅲ系	10-23-01	[総合・関連系] (2または4)	4				
			10-23-02	[総合・関連系 (自由研究セミナーa/b, 自由研究セミナー)] (2または4)					
			10-23-91	教養研究センター設置科目					
	基礎教育科目 (P25)	履修 タイプⅠ	必修	20-11-01	微分積分 (2)	2	10		
				20-11-02	線形代数 (2)	2			
			選択必修	20-10-01	統計学Ⅰ (2)	2			
				20-10-02	統計学Ⅱ (2)	2			
			選択	20-25-01	情報処理Ⅰ (2)	2			
				20-25-02	情報処理Ⅱ (2)				
		履修 タイプⅡ	必修	20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)	2			
				20-31-01	日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)				
			選択必修	20-35-01	情報処理Ⅲ (2)				
				20-10-01	統計学Ⅰ (2)				
			選択	20-10-02	統計学Ⅱ (2)				
				20-22-01	数学概論Ⅰ (2) 数学概論Ⅱ (2) 日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)				
				20-25-01	情報処理Ⅰ (2)				2
				20-25-02	情報処理Ⅱ (2)				
		20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)						
		20-32-01	微分積分 (2) 線形代数 (2)						
		20-35-01	情報処理Ⅲ (2)						
	外国語科目 (P26)	必修	外国語Ⅰ	30-10-01	英語 Study Skills (2)	2	14		
			外国語Ⅱ	30-10-02	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ, Ⅶa(1)/b(1)	6			
				30-10-03	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ, Ⅶa(1)/b(1)				
				30-10-04	中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ, Ⅶa(1)/b(1)				
				30-10-05	スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, Ⅶa(1)/b(1)				
				30-10-31	日本語 (2) (外国人留学生対象)				
		選択必修	外国語Ⅰ	30-20-01	英語セミナー (2) 英語リーディング a(1)/b(1)	2			
			外国語Ⅱ	30-20-02	ドイツ語Ⅳ, XI a(1)/b(1)	2 ^①			
				30-20-03	フランス語Ⅳ, XI a(1)/b(1)				
				30-20-04	中国語Ⅳ, XI a(1)/b(1)				
				30-20-05	スペイン語Ⅳ a(1)/b(1)				
				30-20-31	日本語 (2) (外国人留学生対象)				
		外国語Ⅲ ※語種変更者	30-21-02	ドイツ語 ※語種変更者	(4) 語種変更した 場合、 ^① の 代わりに必要				
			30-21-03	フランス語 ※語種変更者					
			30-21-04	中国語 ※語種変更者					
			30-21-05	スペイン語 ※語種変更者					
			30-21-06	ロシア語					
			選択	30-30-01		英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ベルシャ語			
	30-30-31	日本語 (外国人留学生対象)							
	30-30-91	外国語教育研究センター設置科目の一部							
	専門教育科目 (P28)	基礎科目 (P28)	必修	40-11-01	経済史Ⅰ (2)	2	68		
				40-11-02	経済史Ⅱ (2)	2			
				40-11-03	マクロ経済学初級Ⅰ (2)	2			
				40-11-04	マクロ経済学初級Ⅱ (2)	2			
				40-12-01	ミクロ経済学初級Ⅰ (2)	2			
				40-12-02	ミクロ経済学初級Ⅱ (2)	2			
		選択必修	40-20-01	経済と環境 (2) 計量経済学概論 (2) 経済思想の歴史Ⅰ (2) 経済思想の歴史Ⅱ (2) マルクス経済学Ⅰ (2) マルクス経済学Ⅱ (2) 経済数学Ⅰ (2) 経済数学Ⅱ (2) 経済数学Ⅲ (2)	4				
			40-21-01	社会問題Ⅰ (2) 社会問題Ⅱ (2)					
		基本科目 (P28)	A 経済理論	40-22-01	ミクロ経済学中級Ⅰ a(2)/b(2) ミクロ経済学中級Ⅱ a(2)/b(2) マクロ経済学中級Ⅰ a(2)/b(2) マクロ経済学中級Ⅱ a(2)/b(2) 独占資本主義論 a(2)/b(2)	12 (1分野4単位以上×3分野)			40
					B 計量・統計				
			C 学史・思想史	40-22-03					
				D 経済史	40-22-04				

履修すべき学年				種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位		卒業必要単位(種類毎)	卒業単位認定科目			
1	2	3	4											
				基本科目 (P28)	E 産業・労働	40-22-05	工業経済論 a(2)/b(2) 農業経済論 a(2)/b(2) 産業組織論 a(2)/b(2) 労働経済論 a(2)/b(2) 社会政策論 a(2)/b(2)	12 (1分野 4単位以上 ×3分野)	40	68				
					F 制度・政策	40-22-06	経済政策論 a(2)/b(2) 財政論 a(2)/b(2) 金融論 a(2)/b(2) 日本経済システム論 a(2)/b(2)							
					G 現代経済	40-22-07	現代日本経済論 a(2)/b(2) 日本資本主義発達史 a(2)/b(2) 現代資本主義論 a(2)/b(2) 経済体制論 a(2)/b(2)							
					H 国際経済	40-22-08	国際貿易論 a(2)/b(2) 国際金融論 a(2)/b(2) 経済発展論 a(2)/b(2)							
					I 環境関連	40-22-09	経済地理 a(2)/b(2) 環境経済論 a(2)/b(2) 都市経済論 a(2)/b(2)							
					J 社会関連	40-22-10	人口論 a(2)/b(2) 産業社会学 a(2)/b(2) 社会史 a(2)/b(2)							
					特殊科目 (P28)	(日吉)	簿記 a(2)/b(2) 解析学入門Ⅰ(2) 解析学入門Ⅱ(2) 確率論入門Ⅰ(2) 確率論入門Ⅱ(2)	40				68		
						(三田)	40-30-01							ゲームの理論 a(2)/b(2) 解析学Ⅰ a(2)/b(2) 解析学Ⅱ a(2)/b(2) 契約理論 a(2)/b(2) 公共経済学 a(2)/b(2) 数理経済学Ⅰ a(2)/b(2) 数理経済学特論Ⅰ [微分方程式論] a(2)/b(2) 数理経済学特論Ⅱ [確率論] a(2)/b(2) 代数学 a(2)/b(2) 時系列分析 a(2)/b(2) ベイズ統計学 a(2)/b(2) 資金循環分析 a(2)/b(2) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史 a(2)/b(2) 日本経済思想史 a(2)/b(2) 近代日本と東アジア a(2)/b(2) 東欧経済史 a(2)/b(2) 現代労働経済理論 a(2)/b(2) 家族と教育の経済学 a(2)/b(2) 経済と法 a(2)/b(2) 経済政策のミクロ分析 a(2)/b(2) ファイナンス入門 a(2)/b(2) 公共政策 a(2)/b(2) 公共選択論 a(2)/b(2) NPO経済論 a(2)/b(2) 格差と援助の経済学 a(2)/b(2) 世界経済論 a(2)/b(2) 開発経済学 a(2)/b(2) EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS(2) 廃棄と汚染の経済学 a(2)/b(2) 地域経済論(2) 地球環境問題 a(2)/b(2) 環境評価論(2) 資源経済論(2) アジア社会史 a(2)/b(2) ラテンアメリカ社会史 a(2)/b(2) 地方財政論(2) 簿記 a(2)/b(2) 金融資産市場論 a(2)/b(2) 金融投資サービス論 a(2)/b(2) 企業金融論 a(2)/b(2)
							40-31-01							専門外国書講読 a(2)/b(2) *1
							40-32-01							演習(1), 演習 a(1)/b(1) **2
						研究 プロジェクト	40-33-01							研究プロジェクト a(2)/b(2) (誘導展開型)
							40-33-02							研究プロジェクト a(2)/b(2) (自発展型)
				40-33-03			研究プロジェクトC(2)							
				研究会		40-34-01	研究会 a(2)(3年)							
						40-34-02	研究会 b(2)(3年)							
						40-34-03	研究会 c(2)(4年)							
						40-34-04	研究会 d(2)(4年)							
						40-34-05	研究会(卒業論文)(4)(4年)							
				PCP	40-35-01	MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)								
					40-35-11	PUBLIC POLICY AND LAW(2) ECONOMICS AND ENVIRONMENTAL LAW(2)								
					40-35-21	INTRODUCTION TO FINANCE(2) APPLIED FINANCE(2) ADVANCED FINANCE(2)								
					40-35-31	JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2)								
					40-35-41	INTERNATIONAL TRADE(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a(2)/b(2) DEVELOPMENT ECONOMICS(2)								
					40-35-51	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2) INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(2)								
					40-35-91	APPLIED ECONOMETRICS(2) READING AND COMPOSITION(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) ACADEMIC WRITING(2) FIELD WORK(2) INDEPENDENT STUDY(2)								
				関連科目**3 (P29)	40-39-01	民法Ⅰ a(2)/b(2) 民法Ⅱ a(2)/b(2) 商法Ⅰ a(2)/b(2) 商法Ⅱ a(2)/b(2) 労働法 a(2)/b(2) 租税法 a(2)/b(2) 会計学 a(2)/b(2) 経営学 a(2)/b(2) 他学部設置の専門教育科目								
					B欄「51」で履修	40-39-02	他学部研究会(商学部研究会3年)							
					B欄「52」で履修	40-39-03	他学部研究会(商・理工学部研究会4年)							
					B欄「53」で履修	40-39-04	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)							
					B欄「54」で履修	40-39-05	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)							
					B欄「55」で履修	40-39-91	福澤研究センター設置科目							
						50-30-01	体育学講義(2)							
				認定卒業 科目単位 体育科目 (P30)	右記合計4単位 までカウント	50-31-01	体育学演習(1)							
						50-32-01	体育実技A(1)							
						50-32-02	体育実技B(1)							
合計								126						

※1: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 ※2: 最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 ※3: 最大12単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 □: 履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分のみ)

(自由科目については次ページ参照)

種類	(詳細)	分野	内容
自由科目 (P30)	履修上限内	60-30-01	<B欄「91」で履修申告するもの> ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものを B欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 <上記以外 (B欄指定不要) > ・言語文化研究所特殊講座 ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (メディアコム研究生は下記参照) ※ ・教職課程センター設置科目 (教職課程生は下記参照) ※ ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・知的資産センター設置講座
			<B欄「95」で履修申告するもの> メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目※
	履修上限外	60-39-02	<B欄「96」で履修申告するもの> 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目※
	大学院設置科目の 先取り履修	60-39-03	慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を予定している者が上限外で履修する大学院設置科目

※メディアコミュニケーション研究所研究生、教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目、教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は、その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は**各学期24単位**です。

「研究会」を履修する場合3年生では (a, b) 合わせて4単位、4年生では (c, d, 卒業論文) 合わせて8単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項、前項の「1 卒業所要総単位」の中で、のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。)
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・第4学年在籍時に、大学院設置科目を先取り履修する場合。(履修案内 p. 31 参照)

(2) その他注意

- ・自由科目でも履修上限内 (分野番号【60-30-01】) は、履修上限に含まれます。
- ・(留年者に限り) 同一学年で既に合格した評価 B・C の科目を再度履修し、評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。(ただし研究会の再履修はできません。また外国語科目や体育科目の

ように、同じ科目名でも重複履修可能なものは対象となりません。) この履修の単位は履修上限に含まれます。

3 第3学年における進級必要単位 ※学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の (1) および (2) の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位、専門基礎科目 16 単位の取得

(1)－① 基礎教育科目 10 単位 (内訳は定めない※)

※内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して 10 単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目 (「統計学Ⅰ・Ⅱ」「情報処理Ⅰ・Ⅱ」、タイプⅠの「微分積分」「線形代数」等) を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得 (タイプⅠの学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得、タイプⅡの学生が「微分積分」「線形代数」を取得、「情報処理Ⅰ」を取得した上で「情報処理Ⅱ/Ⅲ」も取得、等) することによって、充足する場合があります。)

(例1) (タイプⅠ) 「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」「情報処理Ⅰ」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2) (タイプⅡ) 「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論Ⅰ/Ⅱ」のうち「数学概論Ⅱ」しか取得していないが、「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を取得している。

(1)－② 専門教育科目の基礎科目 16 単位 (内訳は定めない※)

※内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して 16 単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目 (「経済史Ⅰ/Ⅱ」「マクロ経済学初級Ⅰ/Ⅱ」「ミクロ経済学初級Ⅰ/Ⅱ」のいずれかが未取得でも、選択必修科目 (「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学ⅠA/ⅠB/Ⅱ」「マルクス経済学Ⅰ/Ⅱ」「経済思想の歴史Ⅰ/Ⅱ」「社会問題Ⅰ/Ⅱ」等) を 2 科目 4 単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例) 「ミクロ経済学初級Ⅰ」を未取得だが、他の必修科目 10 単位 (「経済史Ⅰ」「経済史Ⅱ」「マクロ経済学初級Ⅰ」「マクロ経済学初級Ⅱ」「ミクロ経済学初級Ⅱ」) を取得している上、選択必修科目を 6 単位 ((例) 「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学ⅠA」) 取得している。

(2) 第3学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

・履修上限外で履修した科目 (必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分) は、取得しても 28 単位に含まれません。

(例) 「統計学Ⅰ」や「ミクロ経済学初級Ⅰ」が2年次に未取得だった場合、3年次に再び履修して単位を取得できても、28単位には含まれません。

・他学部設置の研究会で第3学年と第4学年の研究会の両方の履修を義務づけ、かつ研究会の単位が第4学年末に3、4年分まとめて取得できる研究会の履修をする場合は第3学年分の研究会の単位は 28 単位に含まれません。

※総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも 28 単位に含まれます。

※自由科目でも履修上限内 (分野番号【60-30-01】) は 28 単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の (1) および (2) の両方の条件を満たさない限り、卒業はできません。

(1) 第4学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目 (必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分) は、取得しても (1) の 12 単位には含まれません。

(例) 「統計学Ⅰ」や「ミクロ経済学初級Ⅰ」が3年までに未取得だった場合、4年次に再び履修して単位を取得できても、12単位には含まれません。

※総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも 12 単位に含まれます。

※自由科目でも履修上限内 (分野番号【60-30-01】) の単位について：(1) の12単位の中に含まれます。(2) には含まれません。

経済学部設置科目

講義要綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

05 学則

科目名の末尾に a, b がついているものは、**セット履修・半期完結履修**いずれかの履修形態が設定されています。

「セット履修」と表示のあるものは、必ず a, b を組み合わせて履修しなければなりません。

表示のないものは半期完結履修です。

99 学則

開講学期は、**通年・春集・秋集・春学期・秋学期**のいずれかになります。

表示を確認してください。

〔I. 専門教育科目〕

(1) 基本科目

ミクロ経済学中級 I a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 I b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 I [99学則] (通年)

准教授 津 曲 正 俊

ミクロ経済学中級 I a [05] / ミクロ経済学 I (春) [99]

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 I a では、消費者行動と生産者行動の理論分析が主要な講義内容となる。

テキスト：

特にもちいない。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985年, 88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990年
- ・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis (3rd ed.)*, Norton, 1992.

授業の計画：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

1と2の内容について、それぞれ5週間ほど、3の内容については3週間ほどかけることを予定している。なお、授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

ミクロ経済学の基本的な内容のうち、ゲーム理論、厚生経済学などに関しては詳しく触れない。これらの内容に関しては併設講義「ミクロ経済学中級 II」「ゲーム理論」「契約理論」を履修することを薦める。

成績評価方法：

試験の結果による評価：期末試験の結果 70%，授業内で行う小テストの結果 30%。

ミクロ経済学中級 I b [05] / ミクロ経済学 I (秋) [99]

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 I b では市場均衡の分析が基本的な内容となる。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 完全競争市場
2. 厚生経済学の基本定理
3. 通時的経済モデル
4. 不完全競争市場
5. 市場の失敗

1, 2, 3の内容が主要となる。時間が許す限り 4, 5について触れる。なお、授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

ミクロ経済学中級 I a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 I b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 I [99学則] (通年)

教授 中 村 慎 助

ミクロ経済学中級 I a [05] / ミクロ経済学 I (春) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学中級 I a 及び I b を通じてミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。従って秋学期中村担当のミクロ経済学中級 I b を併せて履修することを強く希望する。

消費者行動	厚生経済学の基本定理
生産者行動	不完全競争市場
不確実性下の経済行動	ゲームの理論
完全競争市場	社会的選択の理論

なお、授業の進捗状況により、授業内容が多少変更する可能性もある。

テキスト：

テキストは特に用いない。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985年, 88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990年

授業の計画：

ミクロ経済学 I a においては上記の前半部分を取り扱う。

履修者へのコメント：

必ず授業に出席し、不明な点をその場で質問するようにしてもらいたい。

成績評価方法：

春学期末に試験を行う。なお、必要に応じてレポート/授業内小試験を行うことがある。

ミクロ経済学中級 I b [05] / ミクロ経済学 I (秋) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学中級 I a 及び I b を通じてミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。従って春学期中村担当のミクロ経済学中級 I a をあらかじめ履修していることを前提とする。

消費者行動	厚生経済学の基本定理
生産者行動	不完全競争市場
不確実性下の経済行動	ゲームの理論
完全競争市場	社会的選択の理論

なお、授業の進捗状況により、授業内容が多少変更する可能性もある。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

ミクロ経済学 I b においては上記の後半部分を取り扱う。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

秋学期末に試験を行う。なお、必要に応じてレポート/授業内小試験を行うことがある。

ミクロ経済学中級 II a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 II b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 II [99学則] (通年)

准教授 石 橋 孝 次

ミクロ経済学中級 II a [05] / ミクロ経済学 II (春) [99]

授業科目の内容：

ゲーム理論が経済学に浸透するにつれて、ミクロ経済理論がカバーする範囲は大きく広がってきた。伝統的には、完全競争市場の一般均衡分析がミクロ経済学の骨格とされてきたが、ゲーム理論によって基盤を与えられた産業組織の理論やインセンティブと契約の理

論は、現代ミクロ経済学の新たな骨格を形成している。伝統的な均衡理論については、ミクロ経済学中級Ⅰで扱われる。このミクロ経済学の中級Ⅱでは、まず全体の理論的な基盤となるゲーム理論を解説した後、産業組織・インセンティブと契約を中心に、市場の失敗やオークションについての講義を行う。授業内容はミクロ経済学の中級Ⅰと並行して学ぶべきもので、ミクロ経済学の中級Ⅰの履修を前提としているわけではない。

まず春学期のミクロ経済学の中級Ⅱaでは、部分均衡分析と産業組織の諸問題を主たるテーマとする。

参考書：

- ・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995 (Parts II, III and V)
- ・Jehle and Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, Second Edition, Addison-Wesley, 2000
- ・Watson, *Strategy: An Introduction to Game Theory*, Norton, 2002
- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅱ』岩波書店, 1988年
- ・ギボンズ (福岡・須田訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年
- ・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成 (編著)『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣, 2006年

授業の計画：

I：ゲーム理論

1. 戦略型ゲーム
2. 展開型ゲームと繰り返しゲーム
3. 不完備情報ゲーム

II：部分均衡分析

4. 一般均衡と部分均衡
5. 総余剰と厚生分析

III：産業組織

6. 独占と市場支配力
7. 寡占
8. 暗黙の共謀
9. 製品差別化
10. 参入阻止と戦略的コミットメント

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提とする。

成績評価方法：

- ・授業内の小テスト 20%・学期末試験 80%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

ミクロ経済学中級Ⅱb [05] / ミクロ経済学Ⅱ (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学の中級Ⅱa」に引き続き、市場の失敗・契約理論の諸問題・オークションを主たるテーマとする。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

IV：市場の失敗

11. 外部性
12. 公共財

V：インセンティブと契約

13. モラル・ハザード
14. アドバース・セレクション
15. シグナリング
16. 不完備契約

VI：オークションとメカニズム・デザイン

17. 私的価値オークションと収益等価定理
18. 最適オークションとメカニズム・デザイン

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提と

する。バラ科目ではあるが、春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学の中級Ⅱa [05] / ミクロ経済学の中級Ⅱ (春) [99]」で扱う程度のゲーム理論の知識は前提とする。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

ミクロ経済学の中級Ⅱa [05学則] (春学期)

ミクロ経済学の中級Ⅱb [05学則] (秋学期)

ミクロ経済学Ⅱ [99学則] (通年)

教授 長 名 寛 明

ミクロ経済学の中級Ⅱa [05] / ミクロ経済学Ⅱ (春) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。主な内容は以下の通り。

1. 競争市場の配分的効率性
2. 市場の欠陥
- [3. 厚生基準と社会的厚生関数]
- [4. 経済活動の誘因]
- [5. 資源配分機構の情報の効率性]

テキスト：

教科書は使用せず、プリントを配布し、その中で参考文献を指示する。

授業の計画：

上記の授業科目内容の中で項目1と2を講義するが、これは秋学期に開講される「ミクロ経済学の中級Ⅱb」で扱う項目3, 4, 5を視野に入れたものである。

履修者へのコメント：

授業内容は「ミクロ経済学の中級Ⅱa」と「ミクロ経済学の中級Ⅱb」で完結するように計画されている。この講義は秋学期の「ミクロ経済学の中級Ⅱb」を履修することによってその位置づけが理解できるから、この講義を履修する場合には「ミクロ経済学の中級Ⅱb」を履修することが望ましい。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価を行う。評価基準は、満点の80パーセント以上がA、80パーセント未満60パーセント以上がB、60パーセント未満40パーセント以上がC、40パーセント未満がDである。

質問・相談：

適宜質問に応じる。

ミクロ経済学の中級Ⅱb [05] / ミクロ経済学Ⅱ (秋) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。主な内容は以下の通り。

- [1. 競争市場の配分的効率性]
- [2. 市場の欠陥]
3. 厚生基準と社会的厚生関数
4. 経済活動の誘因
5. 資源配分機構の情報の効率性

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

上記の授業科目内容の中で項目1と2は春学期に開講される「ミクロ経済学の中級Ⅱa」で扱い、これを履修して理解していることを前提として項目3, 4, 5を講義する。

履修者へのコメント：

授業内容は「ミクロ経済学の中級Ⅱa」と「ミクロ経済学の中級Ⅱb」で完結するように計画されている。特に、この講義は「ミクロ経済学の中級Ⅱa」の内容を理解しているものと想定して行われるから、「ミクロ経済学の中級Ⅱa」を履修しないでこの講義だけを履修した場合には、理解が極めて難しいと思われる。従って、この講義を履修する場合には「ミクロ経済学の中級Ⅱa」を履修しておくことが望ましい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

マクロ経済学中級 I a [05学則] (春学期)

マクロ経済学中級 I b [05学則] (秋学期)

マクロ経済学 I [99学則] (通年)

教授 尾崎 裕之

マクロ経済学中級 I a [05] / マクロ経済学 I (春) [99]

授業科目の内容：

マクロ経済学は、「集計された」経済変数について、その水準、動向、他のそれとの関係、などを明らかにする経済学の一分野である。この講義では、その分析に用いられる手法に焦点を当てて解説を行うが、それによって、マクロ経済学という「方法」を参加者が習得する事を本講義の目的としたい。具体的には

1. 競争均衡マクロモデル
2. 非線型連立方程式の理論

を解説する。(1)では古典派的なマクロ経済観を、単純なモデルを用いて解説する。特に、貨幣の中立性が示される。これに続いて(2)では、線形連立方程式の解法、微分による線形近似、陰関数定理、などの若干の数学的準備を経て、非線型連立方程式の解法を解説する。その応用として、いわゆる「IS-LM分析」にも触れ、このモデルでは貨幣が均衡に影響を与え得ることを示す。

マクロ経済学中級 I b [05] / マクロ経済学 I (秋) [99]

授業科目の内容：

本講義では、「古典派 vs ケインジアン」という対立軸を超えるものとしての「ミクロ的な基礎付け」を持った新しいマクロ経済分析の手法を中心に解説を行う。具体的には、

1. 新しい古典派経済学とマクロ経済学のミクロ的基礎
2. 貨幣の理論

を解説する。「IS-LM分析」はミクロ的な基礎を欠いており、経済主体の期待形成、あるいは、政策変更に対するフィードバックを的確にモデル化することができない、等の大きな問題点がある。そこで(1)では、「IS-LM分析」の手法に代わるものとしての、「ルーカス革命」以降のマクロ経済分析の手法を詳しく解説する。本講義の中心的部分である。特に、経済主体の「合理性」、および、経済の「均衡」という2つの概念を中心に、現在のマクロ経済学の標準的な考え方を説明する。(2)では、世代重複モデル、清滝=ライト・モデルを用いながら、(1)で用いたようなマクロ経済学的方法論で貨幣の持つ本質的な意味を考える。時間が許せば、(1)の手法に基づく経済成長モデル、あるいは、サンスポット均衡の理論を解説する予定であるが、講義の進捗状況によっては割愛する事も有り得る。

マクロ経済学中級 I a [05学則] (春学期)

マクロ経済学中級 I b [05学則] (秋学期)

マクロ経済学 I [99学則] (通年)

准教授 白井 義昌

授業科目の内容：

教科書にそって講義を行う。毎週の宿題と小テストそして中間および期末試験の合計点で成績を評価する。詳しくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macrol/> を参照せよ。

テキスト：

・Abel and Bernanke, *Macroeconomics*, 5th edition. Addison Wesley

授業の計画：

各週教科書1章分の講義を行う。(12章分)

1章終わるごとに小テストと宿題提出を行う。

授業内で中間試験と期末試験を行う。(各90分)

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：中間および期末試験
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価：宿題と小テストそれぞれ数回

マクロ経済学中級 II a [05学則] (春学期)

マクロ経済学中級 II b [05学則] (秋学期)

マクロ経済学 II [99学則] (通年)

准教授 伊藤 幹夫

マクロ経済学中級 II a [05] / マクロ経済学 II (春) [99]

授業科目の内容：

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。ただし、導入部分では、マクロ経済学に関する基礎的な事柄の復習を行う。特に、国民経済計算の部分については、ある程度時間を費やす。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そこから必要なことを学ぶ。その後、マクロ経済時系列データの特性を概観し、標準的な経済変動理論の類型を学ぶ。

テキスト：

特に、指定しない。

参考書：

・吉川洋『現代マクロ経済学』創文社

授業の計画：

- I. マクロ経済学の枠組み 国民経済計算の基礎 (2週)
- II. 経済変動の実際：(a) 日本経済のデータ (b) 成長と変動の要因 (2週)
- III. 経済成長理論の基礎 (a) ハロッド・ドーマーの理論 (b) 新古典派成長理論 (c) カルドアの定型化された事実 (d) 最適成長 (4週)
- IV. 技術進歩と成長 (a) 中立技術進歩 (b) 内生的技術進歩 (c) 内生成長理論の意義と限界 (3週)
- V. 成長理論の実証 (2週)

履修者へのコメント：

マクロ経済学の基礎的な枠組みを丁寧に解説し、本質的な理解ができるような講義です。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

質問・相談：

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトのアドレスを授業中に提示する予定。

マクロ経済学中級 II b [05] / マクロ経済学 II (秋) [99]

授業科目の内容：

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。動学的なマクロ経済学を展開するために必要な数学モデルの特性について、先に概観する。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そうしたマクロ時系列データと整合する理論が、どのような観点に注目して開発されたかを示す。当然、標準的な経済変動理論の類型を学ぶが、財政・金融政策が実物経済に影響を与えるか否かという点に注目して、理論の比較を行う。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- I. 経済変動とは何か (1週)
- II. 日本経済のマクロデータと経済変動 (2週)
- III. 古典的な景気変動理論 (a) サミュエルソン・ヒックスの乗数加速度理論の系譜 (3週)
- IV. 極限閉軌道モデルからカオスモデルに至る、非線形景気循環理論の系譜 (4週)
- V. 外生ショックモデル (a) ルーカス・バローモデル (b) 実景気循環モデル (c) 経済政策と景気循環 (3週)

履修者へのコメント：

景気変動に関する、実際的なデータと典型的な理論の関係を、丁寧に解説します。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

独占資本主義論a [05学則] (春学期) セット履修
独占資本主義論b [05学則] (秋学期)
独占資本主義論 [99学則] (通年)

准教授 延 近 充

授業科目の内容：

2年生を対象に設置されているマルクス経済学Ⅰ、Ⅱでは、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにすることが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第2次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はいっそう大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化その構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

テキスト：

・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣

または

・北原・本間・鶴田(編)『資本論体系10 現代資本主義』有斐閣

授業の計画：

以下の順で講義を行う。春学期(05学則では独占資本主義論a)に1~5、秋学期(同、独占資本主義論b)に6~9の予定。

1. 資本主義の一般的運動法則と段階変化
2. 独占的市場構造の成立と特徴
3. 独占的競争と市場・価格支配
4. 独占価格と設備投資原則
5. 独占利潤の源泉と収奪構造
6. 独占企業の投資行動の動態
7. 独占段階における景気循環の変化
8. 帝国主義と国家独占資本主義
9. 現代資本主義分析と独占資本主義論

履修者へのコメント：

マルクス経済学Ⅰ、Ⅱを履修済であることを前提とし、現代資本主義論、現代日本経済論も履修されることが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

講義内容や成績評価など、より詳しくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nobu/index.html> を参照してください。

計量経済学中級a [05学則] (春学期) セット履修
計量経済学中級b [05学則] (春学期)
計量経済学Ⅰ [99学則] (春集)

准教授 田 中 辰 雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎(不偏性・効率性、古典的仮定、 t 値、 F 検定など)、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。一部

屋のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便が生じるのを覚悟されたい。成績は2~3回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する(最小2乗法・重回帰・決定係数・ t 値までがわかっておればよい)。

計量経済学中級a [05学則] (春学期) セット履修
計量経済学中級b [05学則] (春学期)
計量経済学Ⅰ [99学則] (春集)

准教授 中 妻 照 雄

授業科目の内容：

計量経済学は、経済理論の実証分析に不可欠であるばかりでなく、経済政策の決定や金融などの実務においても重要な役割を果たしています。本講義では計量経済学の基礎知識の習得を目指します。

テキスト：

特に指定しません。講義ノートをウェブサイトで配布します。

参考書：

特にありません。

授業の計画：

1. 計量経済学とは何か
2. 最小2乗法(Ⅰ)
3. 最小2乗法(Ⅱ)
4. 回帰係数に関する仮説検定
5. ダミー変数と構造変化の検定
6. 操作変数法
7. 一般化最小2乗法
8. 不均一分散
9. 系列相関
10. 時系列分析
11. パネル・データ分析
12. 質的従属変数モデル
13. まとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには統計学、微分積分、線形代数の知識が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

学期末に実際のデータを用いた計量経済学の分析結果をレポートにして提出してもらい、その内容で講義の理解度を評価します。

・平常点(出席状況および授業態度)による評価
毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

計量経済学上級a [05学則] (春学期)
計量経済学上級b [05学則] (秋学期)
計量経済学Ⅱ [99学則] (通年)

准教授 河 井 啓 希 (春)

准教授 宮 内 環 (秋)

計量経済学上級a [05] / 計量経済学Ⅱ (春) [99]

授業科目の内容：

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1)その理論的な背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2)経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3)PCを使った実習を通じて自分で分析ができるようにする。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学中級」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

テキスト：

・William H. Greene, *Econometric Analysis 5th ed./ISE*, Prentice Hall IE., 2003

参考書：

- ・ 蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社、1996年
- ・ Jeffrey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- ・ Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP., 2000

授業の計画：

1. Introduction：経済分析における統計的方法（1回）
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定（5回）
最小2乗法とその統計的性質，最尤法とその統計的性質，仮説検定，モデルの評価
3. 一般化最小2乗法（5回）
分散不均一性の問題，自己相関の問題
4. 操作変数法（2回）

履修者へのコメント：

計量経済学の理論と実際の応用分析に興味のある学生は是非履修してください。

成績評価方法：

実証分析に関するレポートで決定する。

質問・相談：

クラスページ（urlは授業にて報告する）を通じてレジュメやデータの配布を行う。質問や相談については掲示板で履修者全員が共有できるようにする。

計量経済学上級b [05] / 計量経済学Ⅱ (秋) [99]

授業科目の内容：

マイクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数 (discrete dependent variable), 制限された従属変数 (limited dependent variable) の問題について講義と演習を行う。マイクロデータの整備によって、消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり、合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる方法が要求されるようになってきている。問題の所在を2つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し、そのうち就業している主体の割合を示したもので、「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しマイクロデータでは、個々の主体が就業の状態にある ($y=1$) のか無業の状態にある ($y=0$) のかが観察されている。この場合、「就業率 (確率)」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数 y とどのような関係にあり、 y の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば、賃金の観察値が得られるのは、主体が就業している場合に限られる。他方、就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば、就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は、潜在的なものも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については、観測資料の発生仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり、これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピュータを用いながら行う。用いるソフトウェアについては、講義や演習の中で述べるので、この点の予備知識は履修の前提としない。

授業の計画：

- 授業の進め方はおおそ次のとおり。
1. 離散確率変数の分布、回帰分析、最尤法の復習
 2. 見えない変数と離散的従属変数のモデル：経済学における展開を主として
 3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
 4. 二値選択モデルの演習
 5. 多値選択モデルⅠ：Conditional Logit, 経済学における主体均衡論を主として
 6. 多値選択モデルⅡ：独立性の問題, Conditional Probit,

履修者へのコメント：

講義では具体的事例を含め演習も行いますので積極的に参加してください。

成績評価方法：

- ・ 試験の結果による評価：離散的選択モデル、制限のある従属変数のモデルに関する基礎知識を問う
- ・ レポートによる評価：離散的選択モデル、制限のある従属変数のモデルに関する演習

質問・相談：

「教育支援システム」で受け付けます。

経済統計a [05学則] (春学期)

セット履修

経済統計b [05学則] (秋学期)

経済資料論 [99学則] (通年)

教授 清水 雅彦

教授 辻村 和佑

経済統計 a [05] / 経済資料論 (春) [99]

授業科目の内容：

国民経済における所得 (純生産) の発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に国民経済をひとつのシステムとして捉え、国民経済システムに内在する構造的性質を計量的に分析するための理論体系としてレオンティフの投入・産出分析理論 (産業連関分析モデル) が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの整備・拡充と計量経済学発展に伴い、分析理論の現実妥当性を検証 (テスト) する方向を辿ってきた。分析対象とする経済事象の観測事実 (統計データ) に基づく分析理論の実証である。この講義では、国民経済に関する実証分析のための基礎資料となる経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系 (a system of national accounts: SNA) を中心として説明する。SNAは、国民経済において観測される一次統計データ (primary statistical data) を国民経済システムの要素に対応して集計した二次統計データ (secondary statistical data) の体系である。春学期には、このようなSNAを理解するために、一次統計データの作成過程と二次データへの集計過程を解説する。

参考書：

参考文献については、テーマごとに指示する。

授業の計画：

1. 国民経済の統計的把握
2. 国民経済計算体系の歴史的展開 (クズネツの国民所得統計とケインズの一般理論)
3. 国民経済計算体系の歴史的展開 (レオンティフの投入・産出分析理論)
4. 国民経済計算体系の基本図式
5. 国民経済計算体系の5勘定
6. 一次統計と二次統計
7. 工業統計調査
8. サービス業基本調査
9. 特定サービス業実態調査
10. 商業統計調査
11. 産業連関表の解説
12. 産業連関分析理論の解説

履修者へのコメント：

授業計画については履修者のレベルや希望を勘案して変更する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

経済統計 b [05] / 経済資料論 (秋) [99]

授業科目の内容：

国民経済計算体系 (SNA) は、一国経済を詳細かつ網羅的に記述する二次統計データであり、経済の実態の把握に役立つのみならず、これを数量的に分析するために、きわめて重要な基礎資料である。同時に国民経済計算体系は、その信憑性を担保する内部整合性を確保するために、基本設計に種々の工夫を凝らしている。複々式簿記 (quadratic entry system) やマトリクスによる表象形式などはその一

例である。しかしながら、これが国民経済計算体系を一見複雑にし、せつかくの膨大な資料のごく一部しか経済分析に利用されていないのが現状である。本講義では主として貯蓄と投資の観点から国民経済計算体系の基本構造を解説してその理解を深めるとともに、種々の分析方法についても幅広く解説する。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 国民経済計算体系の歴史的展開（コープランドの資金循環表）
2. 調査統計と業務統計
3. 企業会計と国民経済計算体系
4. 複々式簿記とマトリクス表記
5. 国民経済計算体系における産業連関表の役割
6. 国民経済計算体系における資金循環表の役割
7. 資金循環表の解説
8. 資金循環分析理論の解説
9. 国民貸借対照表
10. 国際資金循環表
11. 国民経済計算体系と国際統計
12. 国民経済計算体系の将来展望

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

確率・統計a [05学則] (春学期)

セット履修

確率・統計b [05学則] (秋学期)

確率・統計 [99学則] (通年)

産業研究所 教授 新井益洋

確率・統計a [05] / 確率・統計 (春) [99]

授業科目の内容：

観測によって得られたデータを整理して簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助ける統計的手法を「記述統計」と呼ぶ。また、観測データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、その標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探求であるが、この目的に対し、前者は多くの局面で限界が生じ、後者の新しい統計理論の要請となり、今日の統計学の基本となっている。

統計学は、観測されたデータが何らかの確率的法則の実現値であるとみなすことによって、これら进行分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して一つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、統計学的手法を有効に適用できるか否かは、想定された確率モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかってくる。

想定されるモデルがパラメータと呼ぶ未知の要素を含んでおり、確率分布が完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則を知ることは、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その部分を決定する確率法則を知ることである。これが統計的手法である。

以上のことを踏まえ、本授業は定量的経済分析を専攻する者にとって最小限必要と思われる統計的手法の基礎の習得を目的とする。

講義内容は以下の通りである。後半を秋学期「確率・統計 b [05] / 確率・統計 (秋) [99]」に継続する。

テキスト：

・Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory and Statistical Inference*, Third Edition, John Wiley & Sons

授業の計画：

1. 集合
2. 確率
3. 確率変数
4. 分布関数
5. 密度関数
6. 確率法則

成績評価方法：

・成績の結果による評価

・レポートによる評価

確率・統計b [05] / 確率・統計 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期「確率・統計 a [05] / 確率・統計 (春) [99]」の継続であり、その内容については十分な知識があるものとする。

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

1. 結合分布
2. 記述統計と推測統計
3. パラメータの推定
4. 仮説の検定

成績評価方法：

春学期参照

社会科学基礎論a [05学則] (春学期)

セット履修

社会科学基礎論b [05学則] (秋学期)

社会科学基礎論 [99学則] (通年)

准教授 宮内環

社会科学基礎論a [05] / 社会科学基礎論 (春) [99]

授業科目の内容：

『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論 (春) [99]』では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。

自然科学の領域では、実験室における統御実験の方法がよく開発され、この統御実験のもとで、多くの法則性を把握することに成功してきた。一方、社会科学の領域では、近年の実験経済学の進展も見られるものの、その適用範囲は限定的である。経済学をはじめとする社会科学においては、実験室における統御実験を行うことが困難な状況にあることは否定できない。このように実験が困難な場合には、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。そこで、『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論 (春) [99]』では、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、つぎに経済学における分析対象への接近法の方法論的意義を明らかにする。

テキスト：

・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

参考書：

・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年

・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年

その他は講義中に示す。

授業の計画：

1. 科学の目的、法則性の把握と予測、法則性把握の意義、政策
2. 法則性の定性的把握・定量的把握、確率的予測、非確率的予測、法則の把握のし易さと理論の役割
3. 科学の方法、観測と理論；科学的一般的方法、理論の反証可能性（検証可能性）、数学モデルと実験計画、条件付き予測
4. 観測方法の改良、理論の改善、理論が妥当する範囲
5. 数学、統計学、経済学の間関係、公理-定理体系の意義、
6. 母集団概念、確率的理論構成の意義、理論の進歩とは？（理論の一般性と特殊性、理論がもたらす情報の多さ）
7. 観測の方法と理論構成、資料発生機構のモデル、外生変数と内生変数、実験の2つのタイプ（統御実験、風洞実験）、識別問題、統御実験の意義
8. 実験計画と識別、主体の集計・細分化と識別、単位期間の集計・細分化と識別
9. 確率的モデル、系統的因子、非系統的因子、確率的モデルとその意義、確率的モデルの3つのタイプ（shock model, error model, shock and error model）
10. 確率的モデルのタイプと資料発生機構、測定の誤差、条件付き

予測の誤差

11. 受動的観測者の困難, 変数と取り落としによるバイアス重共線性
12. 連立方程式バイアス
13. 選択バイアス

履修者へのコメント:

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法:

・試験の結果による評価

質問・相談:

keio.jp の「教育支援システム」で受け付けます。

社会科学基礎論 b [05] / 社会科学基礎論 (秋) [99]

授業科目の内容:

『社会科学基礎論 b [05] / 社会科学基礎論 (秋) [99]』では、『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論 (春) [99]』における議論を踏まえ、経済学の分析における理論構成と観測の関係についてより立ち入った議論を行う。

経済学をはじめとする社会科学においては、多くの場合統御実験が困難であり、我々は受け身の観測者の立場に立たされる場合が少なくない。このような場合においては、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。

『社会科学基礎論 b [05] / 社会科学基礎論 (秋) [99]』では、法則性の把握における実験の意義を確認し、実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、経済学における実際の分析事例にそくして講義する。

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. 経済学における変数の測定と誤差
2. 予測のし易さと理論の構成; 構造方程式測定の意義
3. 構造方程式の測定 (その1); 構造方程式と誘導形方程式
4. 構造方程式の測定 (その2); 最小2乗法 (2SLS, 3SLS) と最尤法 (LIML, FIML) の考え方および方法
5. 方程式の自律度 (degree of autonomy) とパラメタの安定性
6. 観測と理論の対応 (その1); ラグナー・フリッシュ限界効用の測定
7. 観測と理論の対応 (その2); デューゼンベリー消費関数の測定
8. 観測と理論の対応 (その3); 離散変数の観測と理論構成 (Latent Variables, Dummy Endogenous Variables)
9. 観測と理論の対応 (その4); 制限のある観測値と資料発生機構 (Truncated Date, Censored Data)
10. 観測と理論の対応 (その5); Self Selection Bias, Sample Selection Bias
11. 観測と理論の対応 (その6); 労働供給モデルを始めとするいくつかの事例
12. 測定および条件付き予測と政策 (その1); 最低必要臨界量と市場の安定
13. 測定および条件付き予測と政策 (その2); ダグラス - ロング - 有沢法則と市場の安定

履修者へのコメント:

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

経済学史 I a [05学則] (春学期)

セット履修

経済学史 I b [05学則] (秋学期)

経済学史 I [99学則] (通年)

准教授 神代光朗

経済学史 I a [05] / 経済学史 I (春) [99]

授業科目の内容:

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に17~19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすみたい。経済学史 I a [05] / 経済学史 I (春) [99] では、とりわけ、近代の経済学史の出発点と考えられる重商主義から、その批判としての重農学派とアダム・スミスまでを中心に講ずることによって、近代市民社会の科学としての経済学の成立を解明し、又、それが、政策論や経済思想 (経済倫理や市民社会の思想を含む) とどう関連しているかを明らかにしたい。

テキスト:

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、自らノートを執ること。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを忘れないでほしい。

参考書:

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社, 1968年 (同社の復刻版もあり) または『内田義彦著作集』第2巻 岩波書店, 1989年 (2001年より増刷)
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣, 1997年
- ・早坂忠 (編)『経済学史 一経済学の生誕から現代まで一』ミネルヴァ書房, 1989年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社, 1952年 又は泉文堂 (16刷)

授業の計画:

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。(2回)
2. 重商主義の経済思想 (4回)
3. 重農学派とテュルゴー (3回)
4. アダム・スミスの経済学 (4回)

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。いずれにしても、経済学、とりわけスミスにおいてはしまったとみなされる古典派経済学の成立までを中心に春学期13回を講じる。なお、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント:

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献そのもの及び参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 I b とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法:

・試験の結果による評価

成績評価は基本的には春秋年2回の期末筆記テストによるが、05学則対象者は a, b (春, 秋) セット科目なので、a, b とも合格することが合格には必要である。

・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

日常の出席状況等も考慮の対象となるが、詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。平常点は単純に出席の数のみの問題ではなく、又、単純にパーセンテージで決めるものでもない。肝要なのは講義内容の理解の程度である。

質問・相談:

学問内容についての質問・相談は歓迎するが、評価方法等については上記の通りなので、原則的には応じられない。質問は講義終了時に教室で、用紙 (自ら用意してください) に書いて出すこと。その際、学年、クラス、氏名、学籍番号を必ず記入し、簡潔にすること。

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすみたい。経済学史 I b [05] / 経済学史 I (秋) [99] では、とりわけ、アダム・スミスを創始者としてリカードゥにおいて頂点に達した、古典派経済学とりわけリカードゥとリカードゥ学派が、その後、イギリス近代資本主義内部の矛盾とイギリスとより後発的なヨーロッパ大陸の資本主義との矛盾の中で、経済思想的にどのような形で批判を生じたかを、イギリスにおけるリカードゥ学派の分解過程、初期の社会主義経済思想、大陸—とりわけ、ドイツの国民経済学や歴史学派を通じて、学説史的にも、方法論的にも解明し、更に「経済学批判」としてのマルクス『資本論』体系の性格をも明らかにしたい。それらを通じて、今日の経済学のあり方をも考えられれば有意義だと思われる。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 古典学派とその展開 — アダム・スミスとデーヴィット・リカードゥ (4～5回)
2. リカードゥ学派とその分解過程 (1回)
3. リカードゥ直後のリカードゥ批判 — T. R. マルサスと R. ジョーンズ (1回)
4. 大陸経済学の古典派とりわけリカードゥ批判 — シモンド・ド・シスモンディ (1回)
5. 古典学派の最強の代表者としての J. S. ミル (1回)
6. リカードゥ派社会主義と空想的社会主義 (1回)
7. 経済学の国民的傾向 — F. リストとドイツ歴史学派、その他の大陸の経済学 (1回)
8. マルクスの「経済学批判」と『資本論』体系 (2回)
9. 経済思想と今日の諸問題 (1回)

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。なお、「経済学史 I b」は I a (春) の継続であり、セットである。又、履修可能な人には私の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント：

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献、参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 I a とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済学史 II a [05学則] (春学期) セット履修

経済学史 II b [05学則] (秋学期)

経済学史 II [99学則] (通年) 教授 丸山 徹

教授 中山 幹夫

経済学史 II a [05] / 経済学史 II (春) [99]

授業科目の内容：

現代の経済理論に関する理解を確認しながら、経済学の主要な史的展開過程を眺望する。

参考書：

- ・ J. Niehans, *A History of Economic Theory*, Johns Hopkins Univ. Press, 1990
- ・ 丸山徹『新講経済原論』第二版 岩波書店, 2006年

授業の計画：

- I. 1870年前後のヨーロッパ

- II. ワルラスの一般均衡理論
- III. 効用理論の展開
- IV. 英国古典学派と労働価値説
- V. リカードゥの分配論と限界生産力説
- VI. ジェヴォンズ・マーシャルの経済学
- VII. メンガーの経済哲学と独・奥の経済学
- VIII. 1914年前後のヨーロッパ
- IX. 戦間期ウィーンの数学・哲学・経済学
- X. ゲーム理論の誕生と成長 — ノイマンからナッシュまで
- XI. 経済変動の解明
- XII. ケインズとその時代

経済学史 II b [05] / 経済学史 II (秋) [99]

授業の計画：

経済学史 II a [05] / 経済学史 II (春) [99] の続論。

社会思想 a [05学則] (春学期)

セット履修

社会思想 b [05学則] (秋学期)

社会思想 [99学則] (通年)

教授 高草木 光一

授業科目の内容：

「自由と排除」「差異と平等」「自立と協同」といった視点から、19世紀を中心に近代社会思想を検討する。以下の順序で講義する予定である。

1. 「社会思想」の射程
2. 「近代」の重層的構造
3. 啓蒙思想とフランス革命
4. 保守主義・自由主義・民主主義
5. フェミニズムとアナキズム
6. 社会主義と1848年革命
7. 現代社会への展望。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜指示する。

成績評価方法：

- ・ 試験の結果による評価 (秋学期末)
 - ・ レポートによる評価 (春学期末)
- レポートを提出しない者は秋学期末試験の受験資格を失い、成績評価を D とする。

社会思想史 a [05学則] (秋学期)

セット履修

社会思想史 b [05学則] (秋学期)

社会思想史 [99学則] (秋集)

教授 坂本 達哉

授業科目の内容：

経済学の父と呼ばれるアダム・スミスの出現までの近代社会思想の展開を跡づける。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

開講時に示す。

授業の計画：

講義の流れは以下の通り。

- 1-2 近代社会と自由主義・資本主義・民主主義
- 3-4 マキアヴェリと近代思想の出發
- 5-6 宗教改革と資本主義の精神
- 7-8 科学革命と近代自然法学
- 9-10 ホッブズにおける近代市民社会の基礎づけ
- 11-12 ロックにおける近代市民社会の展開
- 13-14 フランス啓蒙思想と文明社会論の生成
- 15-16 スコットランド啓蒙思想と文明社会論の展開
- 17-18 ルソーの文明社会批判と人民主権論
- 19-20 スミス道徳哲学体系と社会科学
- 21-22 スミスにおける経済学の生誕
- 23-24 ポスト・スミスの社会思想展望

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点
- 以上二つを総合して判定する。

日本経済史a [05学則] (春学期)	セット履修
日本経済史b [05学則] (秋学期)	
日本経済史 [99学則] (通年)	

教授 杉山伸也

授業科目の内容：

この授業は、「いつでも、どこでも」を基本とする 100% e-learning による授業である。したがって、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web 上で配信される講義を、曜日あるいは時間帯を問わずに（例えば夏期休暇中に集中的に履修するなど）、2008年1月10日正午までの約10カ月のあいだに自分のスケジュールにあわせて履修することになる。履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて成績評価を行う（ただし、面接を課すこともある）。

講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観するが、特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他（編）『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページで公開する。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期へ
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930年代の日本経済
- (20) 1930年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

履修者へのコメント：

【重要】この授業の基本的な考え方、Web 講義へのアクセス方法などについては、4月10日（火）に説明会を開催するので、履修希望者は説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。履修希望者数が多い場合には、受講者数を制限することもある。なお、3年次に別途登録申請をしたにもかかわらず、履修しなかった学生の4年次での受講は認めない。併設科目になっている法学部政治学科および経済学研究科以外の他学部の受講希望者は、説明会后各自申しでること。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/> の「日本経済史」を参照。

成績評価方法：

履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のい

ずれかを選択し、それにもとづいて総合的に評価する（ただし、面接を課すこともある）。

質問・相談：

共通認証システム（keio.jp）「教育支援システム」の「掲示板」等を利用して受け付ける。

欧米経済史a [05学則] (春学期)	セット履修
欧米経済史b [05学則] (春学期)	
欧米経済史 [99学則] (春集)	

教授 長谷川淳一

授業科目の内容：

中世から近・現代までの、イギリスを中心とした欧米の経済史を、以下のようなトピックを手がかりに検討する。

1. 中世ヨーロッパ
2. 工業化の前提条件
3. 産業革命の展開
4. 後発国の工業化
5. 自由主義的改革
6. 大不況期
7. 帝国主義の展開
8. 労働運動の展開
9. 世界恐慌
10. 第2次世界大戦
11. 福祉国家の創出
12. 戦災復興の社会経済史
13. イギリスとヨーロッパ統合
14. 豊かな時代の改革
15. 寛容社会論
16. コンセンサス・ポリティックスの終焉以降

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

適宜、紹介する。

授業の計画：

目安として、aにあたる当初の13回で上記授業科目の内容の1～8を、bにあたる後半の13回で上記授業科目の内容の9～16を扱う。

成績評価方法：

定期試験期間内試験の結果による。

アジア経済史a [05学則] (春学期)	セット履修
アジア経済史b [05学則] (秋学期)	
アジア経済史 [99学則] (通年)	

教授 古田和子

アジア経済史a [05] / アジア経済史 (春) [99]**授業科目の内容：**

本講義では、16世紀から20世紀前半のアジアを対象にして、そこで暮らした人々の社会経済の歴史を検討する。

講義の前半は「比較」という視点を念頭において、国民国家とは異なる原理を備えていた中華世界の特徴を考察し、18世紀に急増した巨大な人口を支えてきた中華帝国経済とは、一体どのようなタイプの経済であったのかを考える。

後半は「関係」という視点に立って、中国・日本・東南アジア・インドなどアジア諸地域間の国際経済史を検討する。アジア銀経済圏はいつ形成されたのか、国際労働力移動（華僑・印僑）の点で長い歴史を持つアジアにはどのような域内経済関係が形成されていたのか、シンガポール、香港、上海などの諸都市はアジア経済史のなかでどのような役割を果たしていたのかなど、アジア経済史を考える上で重要なテーマを選んで考察していく。

テキスト：

テキストは用いません。

参考書：

- ・ロイド・イーストマン『中国の社会』平凡社、1996年
- ・古田和子「中国における市場・仲介・情報」三浦徹・岸本美緒・関本照夫（編）『比較史のアジア—所有・契約・市場・公正』東京大学出版会、2004年
- ・上田信「山林および宗教と郷約」『地域の世界史 10 人と人の地

域史』山川出版社、1997年

・宮嶋博史『東アジア小農社会の形成』『アジアから考える 6 長期社会変動』東京大学出版会、1994年 など

授業の計画：

1. なぜ、アジア経済史なのか
2. アジア観の変遷 (1)
3. アジア観の変遷 (2)
4. 世界帝国 vs. 国民国家
5. 中華帝国とは
6. 人口の長期変動
7. 移住・開発・環境
8. 食糧と農業生産
9. 小農経済論
10. 貨幣制度
11. 手工業の展開
12. 地域と国家
13. 市場・仲介・情報

履修者へのコメント：

初回の授業で具体的な計画を示します。

成績評価方法：

試験を行います。

アジア経済史b [05] / アジア経済史 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

テキストは用いません。

参考書：

- ・岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年
- ・浜下武志『近代中国の国際的契機』東京大学出版会、1990年
- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会、2000年
- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年

授業の計画：

1. 東アジア銀経済と国際交易ブーム
2. アジア三角貿易
3. 東アジアの開港
4. 中華世界周辺部の変容
5. 上海ネットワーク
6. 境域の経済秩序 — 中国・朝鮮・日本
7. 境域の経済秩序と通貨圏の選択
8. アジア国際分業体制の形成
9. 南・東南アジアにおける植民地経済
10. 東南アジア経済をどう見るか
11. 労働力移動と送金のネットワーク
12. 両大戦間期のアジア経済
13. まとめ

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

工業経済論a [05学則] (春学期)

工業経済論b [05学則] (秋学期)

工業経済論 [99学則] (通年)

教授 渡辺 幸男

工業経済論a [05] / 工業経済論 (春) [99]

授業科目の内容：

日本の工業を中心に、工業の構造的把握の視点の提示とその具体的応用を行う。

参考書：

- ・井村喜代子『現代日本経済論 [新版] 戦後復興, 「経済大国」90年代大不況』有斐閣、2000年
- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積からの下請制把握』有斐閣、1997年
- ・渡辺幸男『大都市圏工業集積の実態 日本機械工業の社会的分業構

造 実態分析編1』慶應義塾大学出版会、1998年

・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る』有斐閣、2001年

・(社) 中小企業研究センター(編)『産地解体からの再生 地域産業集積「燕」の新たな道』同友館、2001年

授業の計画：

- I. 工業経済把握のために
 1. 工業とは何か 分業 機械制工業
 2. 産業分類の方法
 3. 日本の業種分類
 4. 戦後日本の状況と戦後時期区分
- II. 日本を例にした産業構造 工業構造の把握方法の紹介
 5. 日本産業の中の工業の位置 大きさと位置
 6. 重化学工業と軽工業 重化学工業化概念への疑問
 7. 生産量の拡大と労働生産性 史上稀に見る量的急拡大の持続
 8. 用途別, 需要別分析視点1 耐久消費財と資本財中心の拡大
 9. 用途別, 需要別分析視点2 民間投資需要と輸出需要の主導
 10. 対外関連 1 輸出依存の意味
 11. 対外関連 2 輸入依存
 12. 対外関連 3 資本と技術

成績評価方法：

・学期末試験 (定期試験期間内の試験)

・平常点 (出席状況および授業態度)

学期末試験と出席 (遅刻は出席ではない) の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ 45% のウエイト、出席点は 20% のウエイトである。合計 40 点以上が合格、60 点以上 80 点未満が B、80 点以上が A と評価される。

工業経済論b [05] / 工業経済論 (秋) [99]

授業科目の内容：

工業を経済的把握する際に不可欠ないくつかの論点について、日本の工業を中心に論じる。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- III. 社会的分業構造分析
 1. 社会的分業の論理
 2. 大企業と中小企業の共存の実態
 3. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 1 内製と外製 垂直的統合 機会主義と取引コスト
 4. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 2 下請系列関係の形成の論理, 下請系列関係の解体の論理
- IV. 産業集積と地域間分業
 5. 産業集積の論理
 6. 産業集積の実態と意味の差異 日本を例に 1
 7. 産業集積の実態と意味の差異 日本を例に 2
 8. 産業集積のあり方の変化
- V. 春と秋の総括
 9. 国内完結型から東アジア化 1 「産業空洞化」論をどうみるか
 10. 国内完結型から東アジア化 2 中国工業の発展の状況
 11. 国内完結型から東アジア化 3 日本工業の今後 燕を通して考える

成績評価方法：

春学期参照

農業経済論a [05学則] (春学期) セット履修
農業経済論b [05学則] (秋学期)
農業経済論 [99学則] (通年)

教授 寺 出 道 雄

農業経済論a [05] / 農業経済論 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、現代の農業問題を理解するための基礎について述べる。

参考書:

最初の授業でおおまかに参考文献を紹介し、個別の問題については、その話題にふれるごとにやや詳しく紹介する。

授業の計画:

I

1. 農業問題理解のための基礎
2. 農業生産と自然
3. 西欧の伝統的農業と近代化
4. 日本の伝統的農業
5. 戦前の日本農業
6. 生物の個体数と人口
7. 生態系の利用

各項は2回の講義で、IIを秋期にあてるが、若干の異同はありうる。

成績評価方法:

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・授業内試験の結果

学年末試験とともに、授業中の小テスト・出欠等にもとづいて行う。小テスト合格は、単位取得の必要条件である。詳しくは第一回目の授業で説明する。

質問・相談:

講義後に質問を受ける。時間を要する質問については、その際時間を指定する。

農業経済論b [05] / 農業経済論 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

II

8. 現代の先進国農業
9. 現代の農業技術
10. 現代の食料問題
11. 食料問題をめぐる予測
12. 農家行動のミクロの基礎
13. 現代の日本農業

各項は2回の講義で、IIを秋期にあてるが、若干の異同はありうる。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

産業組織論a [05学則] (春学期) セット履修
産業組織論b [05学則] (秋学期)
産業組織論 [99学則] (通年)

教授 中 澤 敏 明

産業組織論 a [05] / 産業組織論 (春) [99]

授業科目の内容:

産業組織論 (Industrial Organization) は、1930年代の経済不安定期に、問題の根源を見出し備えるために登場した幾つかの研究分野の一つであるが、今は多層的構造になっている。そもそもの市場観は、時代を反映し、大企業の市場支配力・市場における寡占性・交渉力における力の非対称性などから経済問題が発生する可能性を基本的ヴィジョンとしていた。これを産業組織論の基層とすれば、第2層は、柔軟かつ頑健な価格メカニズムをつよく信ずる立場から、問

題は寡占性などにはなく、非市場的な要素特に政府規制にあるとするヴィジョンのものである。第3層は、市場観に特徴があるわけではなく、分析用具としてゲーム論を寡占経済分析に使った研究群である。従来の理論分析とは段違いの明度と深度をともなった多彩な研究の集団である。第1・第2基層を伝統的産業組織論とよび、後者を新産業組織論 (New IO) とよぶ。この講義の編成は、基本的に、時間的な流れを軸にし、春学期 (産業組織論 a) では、伝統的産業組織論のテーマと議論を紹介する。秋学期 (産業組織論 b) では、春学期のテーマを再度とりあげながら、New IO では、伝統的な研究がどのように否定・修正・強化・拡張されたかを紹介する。IOのテーマは多いので、独禁政策を念頭に、これに関連の濃いものをテーマに選ぶ。

テキスト:

指定しない。それぞれのテーマにかかわる資料を、クラスで配布。

参考書:

- ・小田切『新しい産業組織論』有斐閣
 - ・ロジャー・クラーク『現代産業組織論』多賀出版
 - ・ウイリアムソン『市場と組織』日本評論社
 - ・ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
 - ・柳川・川浜『競争の戦略と政策』有斐閣
 - ・Stephen Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・Prajit k. Dutta, *Sytrategies and Games*, MIT Press
 - ・F.M. Scherer, *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Mifflin
 - ・Wolfstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge
 - ・Gibbons, *Game Theory for applied economics*, Princeton (福岡・須田訳)
 - ・Axelrod, *The Complexity of Cooperation*, Princeton
 - ・Carrol and Hannan, *Organization in Industry*, Oxford
 - ・J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT
- その他の参考文献は、テーマ毎にクラスで紹介する。

授業の計画:

1. 産業組織論の系譜
2. ペインのトライコトミー・アプローチの評価
3. 市場構造の諸指標と市場観
4. 費用構造 (規模・範囲・学習曲線・劣加法性)
5. 製品差別性の影響
6. 参入障壁論
7. 垂直合併の決定要因と企業本質論

履修者へのコメント:

- 1) 各人はそれぞれの市場観を、無意識的に持っていると思われる。それをより顕在化し、自分の立場を固めることができる。担当者の市場観に同調する必要は全くない。
- 2) 数式が登場するが、解説はできるだけ絵解きで行うので、演算が不得意でも履修不可能ではない。

成績評価方法:

- ・秋学期末試験 (春学期末は、授業科目の内容で述べた講義編成の性質から行いません。)
- ・クラスの中で行うクイズ (ミニ試験)

質問・相談:

メールによる質問は受け付けていませんが、授業の後などの質問はもちろん自由です。

産業組織論 b [05] / 産業組織論 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

(番号は春学期からの一連番号)

8. 製品差別性再論
9. New IO と参入阻止戦略
10. コンテストブル・マーケット論
11. 水平的合併再論
12. カルテルの安定性
13. 参入・合併・カルテル等の実証分析
14. CRの意味 (Weiss vs Demsetz)
15. コーポレート・ガバナンスの仕組み

履修者へのコメント：

講義の意味であるが、多様な視点を紹介するので、一つの確固たる真理を求める向きには、モザイク的にすぎるかもしれないが、少なくとも各人の市場観の形成とか再吟味には有用かと思われる。独禁政策に関連する研究を経済学的にするものには、有用である。数式が少々登場するが、重要な部分ではできるだけ絵解きで補うので、演算が不得意でも履修不可能ではないし、評価上も不利にはならない。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

労働経済論a [05学則] (秋学期)

セット履修

労働経済論b [05学則] (秋学期)

労働経済論 [99学則] (秋集)

名誉教授 島田 晴雄

授業科目の内容：

本講義では、労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ、現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ、深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し、日本経済の新しい可能性はどこにあるのか、また、その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか、そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

- ・島田晴雄『雇用を創る構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『めしのタネ発見地図 ビジネスチャンスが変わった』かんき出版
- ・島田晴雄（共著）『日本を元気にする健康サービス産業』東洋経済新報社
- ・島田晴雄・吉川洋（共著）『痛みの先に何があるのか』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房

参考書：

- ・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社
- ・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社
- ・島田晴雄（編著）『労働市場改革』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

例年、本講義には多くの履修申告者があるが、その中には講義をしっかり聴講せず学習意欲や履修態度に問題のある者も少なからず散見されるので、こうした諸君を排除し、熱心な学生諸君を選別するために、講義期間の前段で数回の「抜打ちテスト」を行う。これらのテストを受けなかった者あるいはそのテストの成績が著しく低かった者については、期末試験受験資格を与えないことも考える。したがって安易な気持ちで履修する諸君は、はじめから本講義を履修しないことを勧めたい。

社会政策論a [05学則] (春学期)

セット履修

社会政策論b [05学則] (秋学期)

社会政策論 [99学則] (通年)

教授 駒村 康平 (春)
准教授 山田 篤裕 (秋)

授業科目の内容：

人口減少・少子高齢社会のなか、労働政策と社会保障を包摂する社会政策の重要性は益々大きくなっています。

社会政策論 a [05] / 社会政策論 (春) [99] では、年金・医療、福祉などの社会保障制度を中心に①現行制度の歴史と体系、②現行制度が抱える問題点、③最近の改革動向およびその評価について学びます。

社会政策論 b [05] / 社会政策論 (秋) [99] では、春学期に引き続き労働者保険・労働政策にかんし①から③について学んだ上、④各制度の存在理由にかんする経済理論を学び、⑤先進国の動向についても学びます。

テキスト：

- ・駒村康平（最新改訂版）『福祉の総合政策』創成社

参考書：

- ・国立社会保障・人口問題研究所（編）『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会、2005年
- ・城戸喜子、駒村康平（編）『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会、2005年
- ・厚生労働省『厚生労働白書』

授業の計画：

春学期（社会政策論 a）

社会政策総論

社会保障制度の概要と取り巻く諸問題

年金制度（歴史と制度、財政問題、2004年改革）

医療保障制度（歴史と制度、財政問題と政策動向、2006年改革）

介護保険制度

障害者福祉制度

生活保護制度

児童福祉制度他関連制度

秋学期（社会政策論 b）

労働保険（雇用保険と労働者災害補償保険）

労働政策（労働基準・最低賃金・労働組合）

社会保障の機能と体系（社会保険と民間保険の相違）

社会政策概略史（社会保障成立までの史的展開）

福祉国家の危機（福祉国家論および各類型の対応）

貧困と不平等の概念と測定（所得保障の評価方法）

社会保険料の帰着問題

履修者へのコメント：

本講義の目的は以下の2点です。

①社会保障制度を学ぶ機会はいわゆる限られています。履修者は、負担者あるいは受給者として、各社会保障制度の仕組みを理解してください。

②社会保障制度の改革が急速に行われています。受講者は社会保障制度の在り方、問題、改革について有権者として自分で評価・判断できるようになってください。

成績評価方法：

- ・出席、レポート（中間テスト）、各学期末試験

質問・相談：

個別の質問・相談にかんしては毎回講義の最後に時間を設けます。

経済政策論a [05学則] (春学期)

経済政策論b [05学則] (秋学期)

経済政策論 [99学則] (通年)

教授 大村 達弥

経済政策論a [05] / 経済政策論 (春) [99]

授業科目の内容：

経済政策を学ぶ上で必要な基礎理論として、経済システム、厚生経済学（効率・公正）、情報の経済学、マクロ経済学（目的と手段）から必要な理論をこいつまんで講義する。余裕があれば公共選択に関する理論も講義する。

テキスト：

指定なし。

参考書：

講義の進行に合わせて、授業中に指示する。

授業の計画：

- ① 経済システムと経済政策
- ② 社会的選択
- ③ 厚生経済学（効率・公正、厚生経済学の基本定理）
- ④ 情報の経済学（情報の非対称性とインセンティブ問題）
- ⑤ マクロ経済学（政策目的と手段）
- ⑥ 市場の失敗・政府の失敗と経済政策
- ⑦ 公共財、外部経済、規模の経済

成績評価方法：

- ・期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業時間外はメールで受け付ける。

経済政策論b [05] / 経済政策論 (秋) [99]

授業科目の内容：

現代日本の経済政策の主要課題としての一連の構造改革政策を検証し、日本的経済システムの下で右肩上りの発展を続けてきた日本経済の前に立ち塞がった長期停滞の原因は何か、また、金融、財政、国際、企業制度等の分野での改革のねらい、手段、および問題点は何かを講義する。なお積極的な学習を促すため、具体的な政策をテーマにレポートの提出を求める。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ① 構造改革政策概要
- ② 日本の経済システムの形成の歴史的背景
- ③ 構造改革政策各論：金融・財政、規制緩和、産業政策

履修者へのコメント：

受講にあたっては経済政策論a [05] / 経済政策論 (春) [99] を履修していることを要件とする。

成績評価方法：

- ① 期末試験の結果による評価
 - ② レポートによる評価
- なお最終評価は①と②の結果をほぼ1:1のウエートで総合する。

質問・相談：

春学期参照

財政論a [05学則] (春学期)**財政論b [05学則] (秋学期)****財政論 [99学則] (通年)**

教授 山田 太門

財政論a [05] / 財政論 (春) [99]

授業科目の内容：

財政学の基礎的理論を解説する。財政学は経済学に劣らぬ歴史をもつが、公共経済学における公共部門の分析に相当する部分と、政治経済学的部分を有している。そこでこの講義においては、公共財の理論から出発して、政府の予算制度や社会保障制度を種々の経済理論を用いて説明する。

テキスト：

・貝塚啓明『財政学』東京大学出版会

参考書：

・小塩隆士『コア・テキスト財政学』新世社
・山田太門『公共経済学』(日経文庫) 日本経済新聞社

授業の計画：

1. 財政学の学説史
2. 公共財の理論
3. 公共選択論の意義
4. 予算制度と歳出
5. 税負担と歳入
6. 社会保障制度

以上の項目を2~3回の講義を行う予定。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

各授業の終了時に質問を受ける。

財政論b [05] / 財政論 (秋) [99]

授業科目の内容：

財政学の最も重要な部分である税制を中心に政府の財政活動を解説する。またこれに付随して国債の問題や政府のマクロ経済政策についても説明する。これらの講義を通して政府の経済活動を市場経済の中でどう評価すべきかを検討する予定である。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 租税制度のあり方
2. 所得税とは何か

3. 法人税と消費税
4. 国債の費用負担論
5. マクロ経済政策について
6. 大きい政府か小さい政府か

以上の項目について2~3回の講義を行う予定。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

金融論a [05学則] (春学期)**金融論b [05学則] (秋学期)****金融論 [99学則] (通年)**

教授 吉野 直行 (春)

教授 塩澤 修平 (秋)

金融論 a [05] / 金融論 (春) [99]

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

テキスト：

・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣

参考書：

・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
その他の参考文献は、講義の中で説明する。

授業の計画：

主な講義内容は以下の通りである。

- (1) 日本の資金循環の変遷と日本経済の動き
- (2) 金融機関の種類とその役割
- (3) 家計の金融行動
- (4) 企業の金融行動
- (5) 政府の国債発行による金融活動
- (6) 銀行貸出と銀行行動
- (7) 中小企業金融
- (8) 債券市場・株式市場
- (9) 為替レートの決定とアジア通貨危機
- (10) 固定相場制・変動相場制・バスケット通貨制
- (11) 金融政策手段
- (12) 金利コントロールとインフレ目標
- (13) 財政政策と金融政策

以上が主な内容である。

履修者へのコメント：

春学期・秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価
・講義の中で何回か小テストを実施する予定

質問・相談：

講義の最後に質問を受け付ける。

金融論b [05] / 金融論 (秋) [99]

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

・塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

1. 金融現象の基本構造
2. 貨幣需要のマクロ的定式化
3. 貨幣需要のミクロ的基礎
4. 債券価格と利子率
5. 株式価格

6. 効率的証券市場と金融契約
7. IS-LM 分析と金融政策
8. 総需要・総供給関数
9. インフレ需要・インフレ供給関数と合理的期待
10. 為替レートの決定
11. 開放マクロ経済学と金融政策
12. 金融派生商品の一般的特質
13. 金融派生商品の価格決定

履修者へのコメント：

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎があることが望ましい。経済学部と法学部等の学生には異なる評価基準を適用する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- 授業中の問題演習の結果を加味する。

質問・相談：

毎回、講義後に質問・相談の時間をとる

日本経済システム論a [05学則] (春学期)

日本経済システム論b [05学則] (秋学期)

日本経済システム論 [99学則] (通年)

教授 池尾和人

日本経済システム論a [05] / 日本経済システム論 (春) [99]

授業科目の内容：

日本の経済システムの制度的特質を、民間の企業システムと政府 - 企業間関係のあり方を中心に講述する。最初には、そのために必要な経済理論の基礎を解説する。

テキスト：

特になし（毎回の講義の際にレジュメを配布する）。

参考書：

- ・宮本光晴『企業システムの経済学』新世社、2004年
- ・池尾和人『開発主義の暴走と保身』NTT出版、2006年

授業の計画：

0. プロローグ
 1. 分析視角
- I. 経済学的準備
 2. リスク・シェアリング
 3. 契約と誘因両立性
 4. 企業の理論
- II. 日本の企業システム
 5. 日本の企業組織
 6. 日本的雇用慣行
 7. 日本的生産システム
 8. 系列と長期取引
 9. 株式持ち合い
 10. メイン・バンク制
- III. 政府 - 企業間関係
 11. 市場と政府活動
 12. 日本の政策決定過程

成績評価方法：

成績の評価は、学期末に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。

日本経済システム論b [05] / 日本経済システム論 (秋) [99]

授業科目の内容：

日本の経済システムの抱える政策的課題を、制度面とマクロ面にわたって現代経済学の立場から考察する。関連する経済学的知識の復習も含む。

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・池尾和人『開発主義の暴走と保身』NTT出版、2006年
- ・齊藤誠『成長信仰の桎梏：消費重視のマクロ経済学』（仮題）勁草書房、近刊予定

授業の計画：

- I. 市場経済の制度的基盤

1. 春学期の復習
 2. 税制と制度間競争
 3. 格差とセーフティネット
 4. 金融・資本市場
- II. マクロ経済学の復習
5. マクロ経済学の新展開
 6. 新しい経済成長論
- III. 日本経済のマクロ的諸側面
7. 貯蓄行動
 8. 投資行動
 9. 財政赤字
 10. 経常収支
 11. マネー・サプライ
- IV. エピローグ
12. 日本経済の課題

成績評価方法：

春学期参照

現代日本経済論a [05学則] (春学期)

セット履修

現代日本経済論b [05学則] (秋学期)

現代日本経済論 [99学則] (通年)

教授 北村洋基

現代日本経済論a [05] / 現代日本経済論 (春) [99]

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論a [05] / 現代日本経済論 (春) [99] では、1980年代末までを扱う。

テキスト：

・北村洋基『岐路に立つ日本経済』大月書店

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- はじめに
- 第1章 日本をとりまく内外の環境変化 — 1970年代
 - 第2章 1970年代の危機と日本の対応
 - 第3章 1980年代前半の日本経済
 - 第4章 1980年代後半の日本経済

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

現代日本経済論b [05] / 現代日本経済論 (秋) [99]

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論b [05] / 現代日本経済論 (秋) [99] では、1990年代以降を扱う。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 第5章 平成大不況第1局面（1990年代初頭—97年春）
- 第6章 平成大不況第2局面（1997年春—2000年末）
- 第7章 平成大不況第3局面（2001年—04年度末）
- 第8章 日本資本主義の新段階と課題

成績評価方法：

春学期参照

日本資本主義発達史a [05学則] (春学期)

セット履修

日本資本主義発達史b [05学則] (春学期)

日本資本主義発達史 [99学則] (春集)

教授 植田浩史

授業科目の内容：

この講義では、日本における資本主義、経済システム、産業システムの展開について、他の先進国や中進国、後発国と比較しながら

検討し、その特徴と構造について考察する。時期的には、幕末・開港期から現在までを対象とする。講義では、マクロ的な視点と同時に、個別の産業、企業、地域などを対象にしたミクロ的なデータも用いながら進める。

参考書：

- ・大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』東京大学出版会、2005年
- ・大野健一『途上国ニッポンのあゆみ』有斐閣、2005年

授業の計画：

- 序章 日本資本主義発達史の課題と方法 (1回)
- 1章 多様な資本主義発展と資本主義タイプ (2回)
- 2章 「日本型資本主義」とは何か (3回)
- 3章 日本資本主義の生成：19世紀末～20世紀初 (3回)
- 4章 日本資本主義の発展 (1)：20世紀初～1945 (3回)
- 5章 日本資本主義の発展 (2)：1945～高度成長期 (5回)
- 6章 日本資本主義の発展 (3)：1970年代～1985 (4回)
- 7章 日本資本主義の転機：1985～21世紀初頭 (4回)
- 終章 日本資本主義発達史の総括 (1回)

履修者へのコメント：

「日本経済史」や「現代日本経済論」も合わせて履修すると、一層理解が深まる。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

2ヶ月に一度、質問カードを配布し、質問を直接受け付けるようにする。

現代資本主義論a [05学則] (春学期)

現代資本主義論b [05学則] (秋学期)

現代資本主義論 [99学則] (通年)

教授 渡辺 幸男

現代資本主義論a [05] / 現代資本主義論 (春) [99]

授業科目の内容：

現代の個別資本をどのように把握すべきか、その把握にもとづく合意を明らかにする。

参考書：

- ・北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店、1984年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論』有斐閣、2001年

授業の計画：

- I. 巨大企業の所有構造とその意味
 - 1. 日本の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 - 2. 主要国の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 - 3. 巨大企業の所有構造と企業行動についてのいくつかの論点
- II. 現代の中小企業 大いなる期待と実態
 - 1. 日本の中小企業・ベンチャー
 - 2. シリコンバレーとは
 - 3. サクセニアン議論を巡って
 - 4. 中小企業・ベンチャーをどのように把握するか
 - 5. 現代資本主義と産業集積
 - 6. 大量生産体制から、柔軟な専門化への転換？
 - 7. 独占資本主義論とベンチャー・中小企業
- III. 所有構造の変化と独占的市場の液状化 (?) その意義

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

学期末試験と出席 (遅刻は出席ではない) の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ 45% のウエイト、出席点は 20% のウエイトである。合計 40 点以上が合格、60 点以上 80 点未満が B、80 点以上が A と評価される。

現代資本主義論b [05] / 現代資本主義論 (秋) [99]

授業科目の内容：

現代資本主義経済の再生産をどのように把握すべきかを明らかにする。

参考書：

- ・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣、1977年

- ・『資本論体系第10巻 現代資本主義』有斐閣、2001年
- ・『シリーズ現代中国経済 1 経済発展と体制移行』名古屋大学出版会、2002年

授業の計画：

- I. 現代資本主義と停滞基調
 - 1. 現代資本主義論の位置
 - 2. 資本主義の一般理論
- II. 現代資本主義の経済的基礎理論
 - 1. 独占資本主義とは
 - 2. 独占資本主義における停滞基調・過剰の慢性化
 - 3. 停滞基調を打破する要因 新生産部門と対外膨張、そして後進工業化国の発展
- III. 戦後資本主義をどう見るか
 - 1. 国家独占資本主義論
 - 2. IMF・GATT体制と冷戦
 - 3. 現代資本主義の変質と新しい自体・新しい矛盾の展開
 - 4. 世界経済のグローバル化のなかでのアジアの発展の意義
- IV. 現代資本主義と日本経済の展望

成績評価方法：

春学期参照

経済体制論a [05学則] (春学期)

セット履修

経済体制論b [05学則] (秋学期)

経済体制論 [99学則] (通年)

准教授 駒形 哲哉

経済体制論a [05] / 経済体制論 (春) [99]

授業科目の内容：

計画経済から市場経済への転換がヤマ場を迎えている中国を事例に、建国以来、国民経済の再生産構造がなぜどのように変化してきたのかについて講義を行う。国民経済の再生産構造の検討は「工業化」の検討と表裏一体の関係にあり、本講義のテーマは「中国の工業化」であるといってもよい。中国が「世界の工場」(世界の生産現場)といわれるようになってすでに数年がたち、なお、工業生産において世界を揺るがす影響力を増していることに鑑み、前年度までは講義内容をほぼ一新して、このようなテーマを掲げることにした。具体的には、①工業力形成の戦略とプロセス、②工業力の主体、③工業力の源泉(生産要素)という3本の柱を立て、開発経済としての共通性と中国のもつ固有性を具体的に論じていく予定である。

なお、本講義は春(a)秋(b)セット履修科目であり、片方のみの履修は認めない。

テキスト：

必要に応じて講義資料を配布する。

参考書：

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

- 第1回 講義の趣旨と背景説明
- 第2回 ビデオ(建国から社会主義市場経済まで)
- 第3回 中国工業化論の視角①
- 第4回 中国工業化論の視角②
- 第5回 工業化と政治・国際関係①
- 第6回 工業化と政治・国際関係②
- 第7回 工業化と政治・国際関係③
- 第8回 授業内レポート
- 第9回 開発戦略①
- 第10回 開発戦略②
- 第11回 開発戦略③
- 第12回 開発戦略④
- 第13回 予備

履修者へのコメント：

講義を妨げ、他の履修者に迷惑をかける者には厳しい措置をとる。

成績評価方法：

授業内レポート(①)と期末筆記試験(②)により決定する。履修者数によっては出席等(③)を成績に加味する場合もある。

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

- 第1回 国有企業の役割①
- 第2回 国有企業の役割②
- 第3回 外資系企業の役割①
- 第4回 外資系企業の役割②
- 第5回 民間企業と産業集積①
- 第6回 民間企業と産業集積②
- 第7回 授業内レポート
- 第8回 技術移転と中国的な技術革新①
- 第9回 技術移転と中国的な技術革新②
- 第10回 労働市場と中国の労働現場
- 第11回 工業化と教育・ジェンダー
- 第12回 工業化と資金(金融)
- 第13回 総括

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

世界経済論 [99学則] (通年)

※ [05学則] は (2) 特殊科目を参照のこと

教授 竹 森 俊 平

授業科目の内容:

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・ Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・ 拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・ 拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際貿易論a [05学則] (春学期)

国際貿易論b [05学則] (秋学期)

国際貿易論 [99学則] (通年)

講師 富 浦 英 一

国際貿易論 a [05] / 国際貿易論 (春) [99]

授業科目の内容:

国境をまたぐ経済活動を経済学の視点から理解することを目指す。歴史・制度・現状の解説は必要最小限にとどめ、理論モデルの基本的考え方に重点を置く。

特に、貿易の経済理論を取り上げることとし、貿易政策については、秋学期の「国際貿易論b」で解説する。春学期前半は、なぜ外国との貿易は発生するのか、国際分業パターンはどう決まるか、貿易によって国内経済にどのような影響が生じるのかといった根本的な問題について考える。学期後半では、経済成長、海外直接投資、不完全競争等の要素を導入して、より現実に近い状況を分析する。

テキスト:

- ・ 若杉隆平『国際経済学(第二版)』岩波書店、2001年

参考書:

- ・ Krugman, P. and M. Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy*, Addison Wesley

授業の計画:

- (1) 国際貿易に関する基本的事実
- (2) 貿易の基礎理論 (I) 技術・生産性と貿易
 - ① 比較優位と絶対優位
 - ② 特化と国際分業
- (3) 貿易の基礎理論 (II) 生産要素と貿易
 - ① 比較優位と貿易
 - ② 国際貿易と国内所得分配
 - ③ 貿易の生産要素表示とレオンチエフの逆説
- (4) 国際産業構造調整 (特殊要素モデル)
- (5) 貿易と経済成長 (窮乏化成長, オランダ病, 所得移転)
- (6) 海外直接投資
 - ① 多国籍企業と水平的直接投資
 - ② 企業内貿易と垂直的 direct 投資
- (7) 独占的競争と貿易
 - ① 製品差別化と産業内貿易
 - ② 国際貿易と立地・地理
- (8) 日本の貿易

履修者へのコメント:

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法:

- ・ 試験の結果による評価 (試験は春学期末に行う。)

国際貿易論 b [05] / 国際貿易論 (秋) [99]

授業科目の内容:

国境をまたぐ経済活動を経済学の視点から理解することを目指す。歴史・制度・現状の解説は必要最小限にとどめ、理論モデルの基本的考え方に重点を置く。

特に、今学期は、貿易に対し政府がどのように対応するものか、あるいは対応すべきかの貿易政策論を中心に解説する。春学期の「国際貿易論a [05] / 国際貿易論 (春) [99]」で解説した貿易理論の復習から始め、典型的・基礎的なケースから今日的な政策イシューに至る幅広い貿易政策について説明する。また、貿易の理解に欠かせない為替レートや国際収支についても最後にふれる。

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

- (1) 貿易理論の復習
- (2) 伝統的な貿易政策
 - ① 関税 (余剰分析)
 - ② 輸入数量割当, 輸出補助金
- (3) 貿易政策の新たな課題
 - ① ダンピング, セーフガード
 - ② 戦略的通商政策
 - ③ 新たな分野 (サービス, 投資等)
- (4) 貿易自由化と通商秩序
 - ① 国際通商ルール (WTO)
 - ② 地域経済統合 (FTA, 貿易創造・転換効果)
 - ③ 貿易政策形成過程の政治経済
- (5) 日本の貿易政策
- (6) 貿易と国際マクロ金融のリンケージ
 - ① 為替レート (一物一価, 購買力平価)
 - ② 国際収支の体系 (経常収支, 所得収支, 貿易収支)
- (7) まとめ

履修者へのコメント:

ミクロ経済学 (授業計画の (6) についてはマクロ経済学) の基礎知識を前提とする。

成績評価方法:

- ・ 試験の結果による評価 (試験は秋学期末に行う。)

国際金融論a [05学則] (春学期)
国際金融論b [05学則] (春学期)
国際金融論 [99学則] (春集)

教授 櫻川昌哉

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、国際金融論を幅広く、市場取引を中心とした金融論と位置づけて、国際金融だけでなく、国債の維持可能性、地価などの資産価格の決定とバブルの問題、マクロ経済学をも取り扱う。

テキスト:

・櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

参考書:

・岩田・宮川(編)『失われた10年の真因は何か』東洋経済新報社

授業の計画:

国際金融 4回、国債の維持可能性 3回、資産価格とバブルについて 2回、マクロ経済学 3回の予定

履修者へのコメント:

暗記するのではなく、論理的に考えるようにしてください。

成績評価方法:

・試験の結果による評価

質問・相談:

授業のあと、メールでも OK

国際金融論b [05] / 国際金融論 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、国内外の金融のトピックスを取り扱う。特に、株式市場に代表される市場取引と銀行に代表される相対取引を対比させるかたちで講義を行う。銀行行動、株式市場、国際金融市場の諸問題について、情報の経済学やインセンティブの経済学を駆使して説明を行う。

テキスト:

・櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

・村瀬英彰『新エコノミクス金融論』日本評論者

授業の計画:

国際金融 4回、銀行行動 4回、株式市場 4回の予定

履修者へのコメント:

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

成績評価方法:

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

質問・相談:

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

経済発展論a [05学則] (春学期)
経済発展論b [05学則] (秋学期)
経済発展論 [99学則] (通年)

准教授 秋山 裕

経済発展論a [05] / 経済発展論 (春) [99]

授業科目の内容:

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論a [05] / 経済発展論 (春) [99] ではマクロレベルの分析が中心になります。(経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋) [99] では、産業レベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統

計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト:

・秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社、1999年

参考書:

個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 経済発展とは
3. 経済発展の指標
4. 経済発展の観察 (その1)
5. 経済発展の観察 (その2)
6. 古典派の経済発展観
7. 経済発展段階説、貧困の悪循環
8. ハロッド=ドーマー・モデル
9. 新古典派成長モデルによる成長要因分析
10. 新古典派成長モデルの特徴
11. 最適成長理論
12. 内生的成長理論
13. 総括

履修者へのコメント:

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、「講義は欠席しない」という意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2006年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> にて見る事ができます。

また、履修にあたっては、経済発展論 b [05] / 経済発展論 (秋) [99] と併せて履修することを強く薦めます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・その他 (講義内演習)

質問・相談:

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の講義にて指示します。

経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋) [99]

授業科目の内容:

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋) [99] では産業レベルの分析が中心となります。(経済発展論a [05] / 経済発展論 (春) [99] では、マクロレベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. 2部門経済発展理論 (その1)
2. 2部門経済発展理論 (その2)
3. 2部門経済発展理論 (その3)
4. 3部門経済発展理論
5. 産業の技術特性
6. 産業連関表
7. 産業連関分析 (その1)
8. 産業連関分析 (その2)
9. 産業構造変化の決定メカニズム

10. 産業構造変化の要因分解分析
11. 経済発展と国際金融
12. 経済発展と経済安定化
13. 総括

履修者へのコメント：

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっています。したがって、講義は欠席しないという意味のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2006年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> に見ることができます。

また、講義は、経済発展論 a [05] / 経済発展論 (春) [99] の履修を前提として行います。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済地理a [05学則] (春学期)	セット履修
経済地理b [05学則] (秋学期)	
経済地理 [99学則] (通年)	

教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

・杉浦章介『都市経済論』岩波書店、2003年

参考書：

・杉浦章介他『人文地理学』慶應義塾大学出版会、2005年

授業の計画：

春学期：集積の経済地理

1. 分業と規模の経済性の空間的展開
2. 集積の利益と外部性
3. 資本財生産と技術革新
4. 産業集積の国際比較

秋学期：トランスナショナル化の経済地理

5. 国際分業と生産・物流ネットワーク
6. TNC と経済機能の集中と分散
7. 競争優位と産業クラスター
8. New Transnational Economic Regime

履修者へのコメント：

時事経済についても関心を深める為、新聞等の経済記事はよく読むように。

成績評価方法：

・試験の結果による評価 (春・秋それぞれの期末試験の評価を合計し、最終評価とする。)

質問・相談：

適宜 (質問は教室で時間内に行うことを原則とする。授業中の質問を歓迎する。)

経済地理a [05学則] (春学期)	セット履修
経済地理b [05学則] (秋学期)	
経済地理 [99学則] (通年)	

准教授 武山政直

経済地理a [05] / 経済地理 (春) [99]

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな

相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に立地行動や立地パターンに関する諸概念や理論的研究手法の導入をテーマに、空間的モデルの構築やシミュレーションの技法について解説します。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、都市計画や空間デザインに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

「立地の空間的ロジック」

- 1) オリエンテーションと問題提起
- 2) ものの見方と学問のアプローチ
- 3) 経済地理をどう読むか
- 4) 立地ゲームと科学的推論
- 5) 産業立地の経済地理モデル
- 6) 情報・文化産業と都市の再生
- 7) 隣接・集積の外部性と都市計画
- 8) 立地を生み出すモデルとゲーム
- 9) 立地パターンの自己組織性
- 10) マルチエージェント・シミュレーション
- 11) 協調行動とソーシャルキャピタル
- 12) 複雑系としての都市と社会
- 13) 春学期まとめ

成績評価方法：

学期中のレポート、学年末の試験によって成績評価を行います。

経済地理b [05] / 経済地理 (秋) [99]

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に、経済の知識集約化やグローバル化にともなう近年の企業や都市生活者の立地・空間行動の変化に注目し、それらが都市の構造や機能に及ぼす影響について多面的な分析を試みます。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、情報通信技術と経済社会の関りに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

「情報社会と都市空間」

- 1) 豊かさと経験消費
- 2) デザインがもたらす価値
- 3) 消費者行動の脳科学
- 4) 不確実性と情動の働き
- 5) ケータイ世代の時間と空間
- 6) 都市生活者とコンテンツビジネス
- 7) 創造性とワークスタイル
- 8) 価値を共創する企業と消費者
- 9) 小さな世界とソーシャルネットワーク
- 10) イノベーションと経済クラスター
- 11) サイボーグ化する人間と都市
- 12) 情報ネットワーク社会の経済地理
- 13) 秋学期のまとめ

成績評価方法：

春学期参照

環境経済論a [05学則] (春学期)	セット履修
環境経済論b [05学則] (春学期)	
環境経済論 [99学則] (春集)	

教授 大沼あゆみ

授業科目の内容：

経済活動の枠組みが、さまざまな側面で、環境とのかかわりを考慮したものになりつつある。たとえば、無制限に放出されていた二酸化炭素も、京都議定書の発効とともに制限されることになった。経済活動はますます環境保全と両立するものであることを求められている。環境経済学はそのような変化する経済システムの設計に大きな役割を果たしている。本講義では、経済活動と環境の相互依存関係の理解をした上で、市場メカニズムの中での環境政策の役割を概説する。あわせて、将来世代の状況を重視する環境経済学の特徴

的な視点である、持続可能な発展についても述べる。

テキスト：

・ターナー、ピアス、バイトマン『環境経済学入門』東洋経済新報社

参考書：

授業中にその都度紹介する。

授業の計画：

1. 環境経済学とは何か：従来の経済学との違いと目標
2. 外部性・市場の失敗：市場メカニズムと環境悪化の関連
3. 外部性の是正とピグー税：外部費用の内部分化
4. デポジット制度：課税と補助金の組み合わせ
5. 直接規制：汚染上限の設定の効果
6. 許可証取引制度：汚染総量の設定と汚染許可証の市場取引による効果
7. 所有権とコースの定理：自然資源の所有権の多様性と自発的交渉による最適状態の実現の可能性
8. 非再生可能資源：その経済的特徴と時間を通じた効率的な利用ルール
9. 将来世代と持続可能な発展：ハートウィック・ルール、割引率、持続可能性指標

成績評価方法：

・試験の結果による評価：学期末試験を行う
・平常点(出席状況および授業態度)による評価：毎回小テストを行う
以上を総合的に評価する。

質問・相談：

随時受け付ける(アポイントメントを取ること)。

都市経済論a [05学則] (春学期)	セット履修
都市経済論b [05学則] (秋学期)	
都市経済論 [99学則] (通年)	

教授 瀬古美喜

都市経済論a [05] / 都市経済論 (春) [99]

授業科目の内容：

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察することにある。

テキスト：

・DiPasquale and Wheaton (瀬古美喜・黒田達朗訳)『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

- ・宮尾尊弘『現代都市経済学・第2版』日本評論社、1995年
- ・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社、1996年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社
- ・山田・西村・綿貫・田淵(編)『都市と土地の経済学』日本評論社、1995年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社
- ・(財)日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版
- ・藤田昌久他(小出訳)『空間経済学』東洋経済新報社
- ・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣
- ・山田浩之(編)『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市経済学と都市問題
 - (a) 都市経済学とは何を研究する学問か。
 - (b) 都市化と都市問題
 - (c) 都市化の原因
 - (d) 集積の経済(地域特化の経済と都市化の経済)
 - (e) 新経済地理学(ポール・クルーグマンの中心・周辺モデル)
 - (f) 伝統的な経済学との比較・対比
2. 都市集中のメカニズム
 - (a) 交通費と集中
 - (b) 競争と集中
 - (c) 立地と価格競争
 - (d) 都市集中のパターン
3. 大都市圏の成長と衰退
 - (a) 都市の発展段階

- (b) 都市の成長分析
- (c) 地域経済成長の3部門モデル
- (d) 地域乗数モデル
- (e) 都市の衰退分析

履修者へのコメント：

授業にきちんと出席して、復習を特に行うこと。

成績評価方法：

- ①試験の結果による評価
 - ②レポートによる評価
- ①②による総合評価

都市経済論b [05] / 都市経済論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析(ヘドニック)
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析
 - (g) 住宅政策
2. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
3. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
4. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公財

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

人口論a [05学則] (春学期)	セット履修
人口論b [05学則] (春学期)	
人口論 [99学則] (春集)	

教授 津谷典子

授業科目の内容：

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率と統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト：

・河野稠『世界の人口 [第2版]』東京大学出版会、2000年

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- ・平常点(出席状況およびクラス内小テスト)

産業社会学a [05学則] (春学期) セット履修
産業社会学b [05学則] (春学期)
産業社会学 [99学則] (春集)

教授 金子 勝

産業社会学a [05] / 産業社会学 (春) [99]

授業科目の内容：

グローバル化の波が世界を覆うとともに、分裂と不安定の時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、グローバル化、冷戦型イデオロギーの終焉、リベラリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト：

・金子 勝『戦後の終わり』筑摩書房

参考書：

・金子 勝『セーフティネットの政治経済学』ちくま新書
・共著『逆システム学—市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画：

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

- ① 市場理論と人間像—所有と自由・合理性の限界
- ② セーフティネットと市場—市場像の転換
- ③ 長期停滞の時代
- ④ 日本の格差社会
- ⑤ どのような制度改革が必要なのか
- ⑥ 逆システム学の方法

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）
・レポート
・平常点（出席状況および授業態度）

産業社会学b [05] / 産業社会学 (春) [99]

授業科目の内容：

金融システム危機と不良債権処理過程において、日本経済はどのような構造に変化したのか。その過程で生み出された経済格差の諸相を明らかにするとともに、社会制度の歪みや問題点を考察する。その中で、市場原理と政府介入、効率性と公平性、功利主義と契約理論など社会哲学の基本に立ち返って、経済学の原理を省察したい。

テキスト：

産業社会学a [05] / 産業社会学 (春) [99] 参照

参考書：

・金子勝・児玉龍彦著『逆システム学』岩波新書

授業の計画：

1. 戦後体制の終焉—1930年代との比較
2. バブル崩壊後の日本経済
3. 格差問題の諸相
4. 社会哲学から将来社会を考える

成績評価方法：

・試験の結果による評価
・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業の前後に受け付ける。

社会史a [05学則] (秋学期) セット履修
社会史b [05学則] (秋学期)
社会史 [99学則] (秋集)

教授 矢野 久

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」と「総合の学」を構築することを目的としている。権力の側からではなく民衆からみた歴史を描くこと、分断化された研究領域の総合化をめざすこと、この二点を目的としている。ヨーロッパにおける現在の社会史研究の状況を述べ、社会史

の具体的・歴史的展開を講じる。

テキスト：

・矢野久『ナチス・ドイツの外国人—強制労働の社会史』現代書館、2004年

・Faust・矢野久編著『ドイツ社会史』有斐閣、2001年

授業の計画：

1. 社会史の方法
2. 社会史の具体的展開
・社会の中の〈他者〉
・消費と日常
・生活環境

履修者へのコメント：

受講し、自らの脳細胞を使って主体的に思考することを望む。

成績評価方法：

・試験の結果による評価
・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度）による評価

社会史b [05] / 社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

テキスト：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

授業の計画：

2. 社会史の具体的展開（続き）
・家族
・犯罪
・国家の犯罪
3. 「戦争と虐殺」の社会史

履修者へのコメント：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

成績評価方法：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

(2) 特殊科目

ゲームの理論a [05学則] (春学期)

ゲームの理論b [05学則] (秋学期)

ゲームの理論 [99学則] (通年)

教授 グレーヴァ 香子 (春)

教授 中山 幹 夫 (秋)

ゲームの理論a [05] / ゲームの理論 (春) [99]

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、CとDの境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。

参考書：

・小澤・中村・グレーヴァ(編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004年、第5章

・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年

・ギボンズ(須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年

授業の計画：

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 展開形ゲームとその解
4. ルービンシュタイン型交渉ゲーム
5. 繰り返しゲーム
6. ベイジアンゲーム

7. シグナリングゲーム

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

授業の前後、あるいは学期の最初に指定するオフィスアワーに直接研究室に来るか、電子メールによる。

電子メールの場合、件名に受講者であることを明記すること。添付書類は不可。

ゲームの理論b [05] / ゲームの理論 (秋) [99]

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論について、特に協力ゲームの応用を中心とした講義を行う。用いる数学は難しくはないが、ロジカルに考えることが必要である。経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、CとDの境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にするとする。

テキスト：

特になし。適宜、資料配布。

参考書：

- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年
- ・小澤・中村・グレーヴァ(編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004年、第5章
- ・ギボンズ(須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

1. 協力ゲームとは。提携値と配分。例：公共財の供給、湖の汚染、滑走路の費用、談合
2. 協力ゲームの解：仁、コア、安定集合、シャープレイ値
3. 応用コア分析Ⅰ：ゴミ戦争、補償、排出量取引
4. コアの存在と平衡ゲーム、市場ゲーム
5. 応用コア分析Ⅱ：公共財、共有地の悲劇、TU アルファコア
6. 応用コア分析Ⅲ：社会選択ゲーム、多数決ゲーム、賄賂と拒否権者
7. 破産問題と仁、情報の拡散防止取引

解析学Ⅰa [05学則] (春学期)

解析学Ⅰb [05学則] (秋学期)

解析学Ⅰ [99学則] (通年)

教授 戸瀬 信之

解析学Ⅰa [05] / 解析学Ⅰ (春) [99]

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について、学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその続論「解析学Ⅰb [05] / 解析学Ⅰ (秋) [99]」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定常数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。前期のこの科目では、以上の (1) および (2) に重点を置く事にする。

この講義では、論理性を重視する。理解するためには、かなりの自習を必要とすることを注意します。

参考書：

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・小平邦彦『解析入門』岩波書店

授業の計画：

- (1) 実数列、ベクトルの列の極限
- (2) 集合、距離空間、位相空間
- (3) 1変数の連続関数の諸性質

(4) リーマン積分

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・レポートによる評価
 - ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- この3点を総合的に用いて判定する。

質問・相談：

塾内のメールアドレス以外からの質問メールは読まないことにする。

解析学Ⅰb [05] / 解析学Ⅰ (秋) [99]

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について、学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその先行科目「解析学Ⅰa [05] / 解析学Ⅰ (春) [99]」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定常数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。後期のこの科目では、以上の (3) および (4) に重点を置く事にする。

この講義では、論理性を重視する。理解するためには、かなりの自習を必要とすることを注意します。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

解析学Ⅱa [05学則] (春学期)

セット履修

解析学Ⅱb [05学則] (秋学期)

解析学Ⅱ [99学則] (通年)

商学部 教授 小宮 英敏(春)
准教授 新井 拓児(秋)

解析学Ⅱa [05] / 解析学Ⅱ (春) [99]

授業科目の内容：

位相空間論と測度論に関する講義を行う。距離や面積といった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

テキスト：

なし

参考書：

講義中に紹介する。

授業の計画：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して2コマ程度の時間を割り当てる。

[位相空間論]

- 集合論の復習
- ユークリッド空間上の位相
- 連続関数と位相同型
- 距離空間とノルム空間
- コンパクト性
- 完備性
- 関数空間

[測度論]

- 長さ・面積・体積
- 測度の構成
- リーマン積分からルベーグ積分へ
- ルベーグ積分の定義と諸性質

収束定理と積分記号の交換
分解定理と Radon-Nikodym の定理
絶対連続性と微分積分学の基本定理
もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

履修者へのコメント：

集合論，微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

解析学Ⅱb [05] / 解析学Ⅱ (秋) [99]

授業科目の内容：

測度論に関する講義を行う。距離や面積といった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して2コマ程度の時間を割り当てる。

長さ・面積・体積

測度の構成

リーマン積分からルベーグ積分へ

ルベーグ積分の定義と諸性質

収束定理と積分記号の交換

分解定理と Radon-Nikodym の定理

絶対連続性と微分積分学の基本定理

もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

履修者へのコメント：

集合論，集合位相，微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験またはレポートによる。

契約理論a [05学則] (春学期)

契約理論b [05学則] (秋学期)

契約理論 [99学則] (通年)

准教授 玉田 康成

契約理論a [05] / 契約理論 (春) [99]

授業科目の内容：

現実の経済では情報の非対称性に由来するインセンティブの問題が数多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードやアドバースセレクションなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損なうことになる。また、市場経済そのものの信頼を損なう要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から理論的に講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

テキスト：

なし

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論—交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム，ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
- ・神戸 伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤 秀史，小佐野 広 (編)『インセンティブ設計の経済学—契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤 秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press

授業の計画：

1. インセンティブ問題と契約理論
2. 期待効用理論
3. モラルハザード：基本理論
4. モラルハザード：複数エージェントやチーム問題への展開
5. モラルハザード：企業内のインセンティブシステムや金融契約への応用
6. アドバースセレクションとシグナリング

履修者へのコメント：

前提知識は要求しないが、日吉のミクロ経済学初級の内容は踏襲する。また、契約理論bと併せて履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・授業内演習 (2回) : 20%
- ・学期末試験 : 80%

質問・相談：

オフィスアワーを設ける。

契約理論b [05] / 契約理論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論—交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム，ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
- ・ロバーツ『現代企業の組織デザイン 戦略経営の経済学』NTT出版
- ・柳川 範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社
- ・神戸 伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤 秀史，小佐野 広 (編)『インセンティブ設計の経済学—契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤 秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press
- ・Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structures*, Oxford Univ Press

授業の計画：

1. アドバースセレクションとスクリーニング
2. オークション理論
3. 企業組織の理論：不完備契約と企業統合
4. 企業組織の理論：企業内のインセンティブ

履修者へのコメント：

日吉のミクロ経済学初級の内容と契約理論 a の内容は踏襲する。履修者は契約理論 a と合わせて履修することを強く勧める。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

公共経済学a [05学則] (春学期)

公共経済学b [05学則] (秋学期)

公共経済学 [99学則] (通年)

総合政策学部 教授 小澤 太郎

公共経済学a [05] / 公共経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

テキストに沿って、公共経済学の理論について一通りの解説を行う。公共財の理論，社会的選択の理論，公共選択論 (政府の失敗含む)，ゲームの理論の応用 (動学的不整合性含む) といったテーマを扱う。公共経済学のアプローチの大枠に関する理解を得てもらう事が目標である。

テキスト：

- ・中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子 (編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社 (第I部 公共経済学のパースペクティブ；第II部 ゲームの理論と公共経済学への応用)，2003年

参考書：

・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成(編)『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣, 2006年
(他は必要に応じ, 授業の際に適宜紹介する。)

授業の計画：

- 第1回：ガイダンス 公共経済学とは何か
- 第2回：ミクロ経済学と市場の失敗Ⅰ (テキスト第1章 1) …厚生経済学の基本定理
- 第3回：ミクロ経済学と市場の失敗Ⅱ (第1章 2~4) …市場の失敗(公共財)
- 第4回：社会的選択と投票システムⅠ (第3章 1, 2) …アローの定理
- 第5回：社会的選択と投票システムⅡ (第3章 3~5) …ギバード=サタスウェイトの定理
- 第6回：政策科学と公共選択論へのアプローチ (第4章) …民主主義の経済分析
- 第7回：ゲームの理論の概観Ⅰ (第5章 1~3) …標準形ゲーム, 展開形ゲーム
- 第8回：ゲームの理論の概観Ⅱ (第5章 4~7) …繰返しゲーム, 不完備情報ゲーム
- 第9回：ゲームの理論と経済政策Ⅰ (第6章 1.1) …逆選択
- 第10回：ゲームの理論と経済政策Ⅱ (第6章 1.2) …モラル・ハザード
- 第11回：ゲームの理論と経済政策Ⅲ (第6章 2) …時間的整合性
- 第12回：ゲームの理論と政治過程 (第7章) …有権者・政党の行動
- 第13回：補論と総括

履修者へのコメント：

全般的には, 直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって, やや理論的にテクニカルな内容が含まれる場合があるが, 全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法：

期末試験の結果による評価を基本とする。

質問・相談：

授業終了後にしてもらおうのが1番良いが, あまり長い回答を要さないものであれば, メールによる質問も受け付ける(yossy@sfc.keio.ac.jp)。

公共経済学b [05] / 公共経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

テキストに沿って公共経済学の応用について一通り学んだ後に, テキストでカバーされていないテーマについて引き続き解説を行う。情報の非対称性・不確実性に基づく市場の失敗への対処の具体的事例, 潜在能力アプローチ, ネットワークの外部性(複数均衡含む)等, 扱うテーマはまさに多岐にわたる。抽象と具象の間をダイナミックに行き来する事で, 厚生経済学とも財政学とも一味違う公共経済学の世界を体験してもらいたい。

テキスト：

・中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子(編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社 (第Ⅲ部 公共経済学の実践; 第Ⅳ部 公共経済学の系譜—個人主義と公共政策—), 2003年

参考書：

・鈴木興太郎・後藤玲子『アマルティア・セン：経済学と倫理学』改装新版, 実教出版, 2002年
(他は必要に応じ, 授業の際に適宜紹介する。)

授業の計画：

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：金融市場における公共政策 (テキスト第8章)
- 第3回：インターネット金融取引・電子商取引の安全性 (第9章)
- 第4回：中小企業金融における公共部門の役割 (第10章)
- 第5回：生活保障システムの経済学 (第11章)
- 第6回：公共経済学の系譜—個人主義と公共政策— (第Ⅳ部)
- 第7回~第12回：
公的価格設定, ネットワークの外部性, 最適課税論, 格差社会, 世代間衡平性, 潜在能力アプローチ等の個別テーマを取り上げる予定 (ガイダンス時に確定)
- 第13回：総括及び公共経済学の今後の展望

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

—三田における数学・数理経済学関係の講義体系について—

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は, 次のような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際, 最低限必要と思われる基本事項を解説するために, 代数学/代数学a, b, 解析学Ⅰ/解析学Ⅰa, b の二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし, 経済分析に有用な, さらに進んだ数学の諸分野についても, 以下のような講座を設ける。

解析学Ⅱ/解析学Ⅱa, b

数理経済学Ⅰ/数理経済学Ⅰa, b

数理経済学Ⅱ/数理経済学Ⅱa, b

数理経済学特論Ⅰ [微分方程式論] /

数理経済学特論Ⅰa, b [微分方程式論]

数理経済学特論Ⅱ [確率論] / 数理経済学特論Ⅱa, b [確率論]

また数理経済学は

Ⅰ 一般均衡理論の数理

Ⅱ 動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし, 本年度はⅠをその内容とする。

学生諸君には, この講義体系をよく検討され, 有効に利用していただきたいと思う。

(丸山 徹)

数理経済学Ⅰa [05学期] (春学期)

セット履修

数理経済学Ⅰb [05学期] (秋学期)

数理経済学Ⅰ [99学期] (通年)

教授 丸山 徹

数理経済学Ⅰa [05] / 数理経済学Ⅰ (春) [99]

授業科目の内容：

現代の経済分析を支える一般均衡理論の数学的構造について述べる。

(Ⅰ) 数学からの準備

1. Euclid 空間の位相
2. 凸集合
3. 多価写像の連続性
4. 不動点定理と変分不等式
- その他

(Ⅱ) 一般均衡理論

1. 主体の最適化行動
2. 競争的一般均衡の存在
3. 厚生経済学の基本定理
4. Edgeworth の極限定理
5. 比較静学の方法
- その他

教科書：

・丸山 徹『経済数学』知泉書館, 2002年

参考書：

・G. Debreu, *Theory of Value*, Wiley, New York, 1959 邦訳 丸山 徹
訳『価値の理論』東洋経済新報社, 1997年
・丸山 徹『数理経済学の方法』創文社, 1995年

数理経済学Ⅰb [05] / 数理経済学Ⅰ (秋) [99]

授業科目の内容：

数理経済学Ⅰa [05] / 数理経済学 (春) [05] の続論。

セット履修

数理経済学特論 I a [微分方程式論] [05学則] (春学期)

数理経済学特論 I b [微分方程式論] [05学則] (秋学期)

数理経済学特論 I [微分方程式論] [99学則] (通年)

講師 大 春 慎之助

数理経済学特論 I a [微分方程式論] [05] /

数理経済学特論 I [微分方程式論] (春) [99]

授業科目の内容:

益々多様化する社会において経済に関する諸問題を考える場合に、その仕組みや多くの要因を体系的に捉えたと共に、経済の動態評価や均衡状態の解析を組織的に行う上で、数理的接近は極めて有効であることはつとに認識されている所である。

この講義では、このような研究に必要な微分方程式並びに関連する基礎理論について詳しく解説する。

テキスト:

- ・加藤順二『関数方程式』(数理学シリーズ5) 筑摩書房, 1974年
 - ・杉山昌平『復刊 差分・微分方程式』共立出版, 1999年
 - ・内藤敏機『タイムラグをもつ微分方程式』(関数微分方程式入門) 牧野書店, 2002年
- の本より必要な箇所をプリントとして配布する。

授業の計画:

1. 線形距離空間, 関数空間の基礎
2. 微分方程式, 積分方程式, 差分方程式の基礎理論
3. 微分方程式の解の構成法と安定性解析

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点による評価

数理経済学特論 I b [微分方程式論] [05] /

数理経済学特論 I [微分方程式論] (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

授業の計画:

3. 微分方程式の解の構成法と安定性解析 (続き)
4. 微分方程式に対する近似理論
5. 遅れを伴う微分方程式と安定性解析

成績評価方法:

春学期参照

数理経済学特論 II a [確率論] [05学則] (春学期) セット履修

数理経済学特論 II b [確率論] [05学則] (秋学期)

数理経済学特論 II [確率論] [99学則] (通年)

講師 黒 田 耕 嗣

授業科目の内容:

確率論の基礎概念を学び、確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。

テキスト:

特になし。

参考書:

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press
- ・Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

授業の計画:

春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。また、生保数理、損保数理への応用についても講義の中で取り上げる。

1. Random walk を例にとり、確率空間、確率変数、確率分布について解説する
2. 確率分布の期待値、分散及びモーメント母関数の性質について述べる
3. 有限確率空間をもとにした information structure と離散時間株式市場モデル、条件付期待値とマルチンゲールについて
4. 平衡価格測度と裁定戦略

5. 離散確率解析を用いたオプション価格の導出と Black—Sholes の公式について

秋学期は連続系を取り扱う。

1. リーマン積分からルベグ積分へ
2. 測度空間とルベグ積分の定義について
3. ルベグの収束定理について
4. 測度論的確率論の概要 (確率変数列の収束, 大数の法則, 中心極限定理)
5. Random walk から Brown 運動へ
6. Brown 運動の性質 (Markov 性, マルチンゲール性, Maximal process について)
7. 確率積分と Ito の公式について
8. ファイナンスへの応用について (数理ファイナンスへの序論)

履修者へのコメント:

高校での数Ⅲ, 数Cの知識に習熟していることが必要であり、線形変換とその表現行列との関係、テイラー展開、多重積分、座標変換についての知識がある事が望ましい。大学レベルの微積分についての復習は授業中に行うが、高校レベルの数学についての復習は行わないので、高校数学は各自で身につけておくこと。

成績評価方法:

問題演習を授業中に行い、これにより評価を行う。後期は特に、多変数関数の微積分の知識 (多変数関数のテイラー展開, 多重積分, 極座標変換) を必要とする。

代数学a [05学則] (春学期)

代数学b [05学則] (秋学期)

代数学 [99学則] (通年)

教授 小木曾 啓 示

代数学a [05] / 代数学 (春) [99]

授業科目の内容:

学部1年次に、連立方程式論 (はき出し法) と行列式に基づいて展開した数ベクトル (空間) ・行列の様々な理論は、ベクトル (線形) 空間・線形写像というより抽象化された高度な立場から見ることで最も透明な形で理解でき、幅広い応用が可能となる。線形空間・線形写像の概念とその扱いについて、その背後にあり重要となる多項式 (環) の基本的な性質とともに解説する。

テキスト:

- ・西岡久美子『代数学入門』

参考書:

- ・斉藤正彦『線型代数入門』東大出版会
- ・佐武一郎『線型代数学』裳華房

授業の計画:

- I. ベクトル空間 (線形空間) と線形写像
- II. 代数学の基本定理, 多項式 (環) の性質とその応用
- III. 線形写像と行列, ケーリー・ハミルトンの定理と最小多項式 (また、時間に余裕があれば、数学特有の考え方であり (他分野の問題を考える上でのヒントになるかも知れない) 商空間, 双対空間, 普遍性 (universality) 等の概念にも触れたい。)

履修者へのコメント:

学部1年次に学んだ数ベクトルと行列及び行列式の計算にある程度慣れていることが望ましい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

質問・相談:

講義後あるいはE-mailで (oguiso@hc.cc.keio.ac.jp)

代数学b [05] / 代数学 (秋) [99]

授業科目の内容:

代数学a [05] / 代数学 (春) [99] で展開した線形空間・線形写像及び多項式 (環) の理論に基づき、線形代数学の最高峰に位置する定理である「Jordan 標準形の存在と一意性定理」を示すことが最初の目標である。次にそのいくつかの応用について述べる。特に、正方行列の指数関数を定義し、定数係数線形微分方程式論を線形代数学的立場から論ずることが第2の目標である。最後に、数学のみならず様々な分野において応用の広い非負行列の理論、中でも特に大

切な Perron-Frobenius の定理について解説したい。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- I. Jordan 標準形—存在と一意性—とその応用
- II. 行列の指数関数と定数係数線形（常）微分方程式
- III. 非負行列の理論—Perron-Frobenius の定理

（また、時間に余裕があれば、有限体とその上の線形空間論（符号理論）等にも触れたい。）

履修者へのコメント：

代数学a [05] / 代数学（春）[99] の内容及び 1年次に学んだ級数の和、微分法の計算にある程度慣れていることが望ましい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

資金循環分析a [05学則]（春学期） セット履修

資金循環分析b [05学則]（秋学期）

資金循環分析 [99学則]（通年）

教授 辻村和佑

資金循環分析 a [05] / 資金循環分析（春）[99]

授業科目の内容：

資金循環分析の基礎となる資金循環表とは、家計の貯蓄がどのような金融機関や有価証券を経由して、最終的に企業や政府が行う投資に帰着するかを描写する経済統計である。家計、企業、政府に金融部門と海外を加えた各制度部門間の資金の流れを記録する国内資金循環表を基礎に解説する。一国の資金循環構造がどのように構成されているかを、特に銀行制度との関連で講ずる。銀行にまつわる種々の法制度と、これが具現化された銀行業務が、その貸借対照表にどのように反映されているかを中心に資金循環構造の成り立ちを考察することが主要テーマである。本来は経済統計の各論講義であるが、独立した受講にも配慮して、幅広い関連テーマを取り扱う。

参考書：

- ・辻村和佑（編著）『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社
- ・辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析—基礎技法と政策評価』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 資金循環分析の歴史
2. 国内資金循環表と国際資金循環表
3. 貸借対照表形式とマトリクス形式の資金循環表
4. 資金循環分析の方法
5. 資金循環分析の応用分野
6. 銀行業務概説
7. 預金と貸出
8. 為替業務
9. 銀行業務と貸借対照表
10. 金融機関の種類とその貸借対照表
11. 日本の資金循環構造の歴史の変遷
12. 今日の資金循環構造とその課題

履修者へのコメント：

この授業科目に関連する当該時点のニュースや話題を優先して解説する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

・学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

資金循環分析 b [05] / 資金循環分析（秋）[99]

授業科目の内容：

資金循環分析の主要な目的は、一国の資金循環構造の把握と政策効果の解明であるが、そもそも経済政策の現状を統計資料を通じてどのように直接的に把握するかが重要なテーマとなる。本講義では日々の金融政策の中心となる金融市場調節、財政政策の窓口となる財政資金収支を、日本銀行の貸借対照表とその伝播経路としての資

金循環構造の観点から考察する。また金融・財政政策の現状把握に欠かせない関連統計と、政策伝播経路で重要な役割を果たす有価証券市場、さらには外国為替市場への直接介入である為替平衡操作についても併せて解説する。本来は経済統計の各論講義であるが、独立した受講にも配慮して、幅広い関連テーマを取り扱う。

参考書：

- ・辻村和佑（編著）『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社
- ・辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析—基礎技法と政策評価』慶應義塾大学出版会
- ・辻村和佑（編著）『資金循環分析の軌跡と展望』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 債券市場と関連統計
2. 株式市場と関連統計
3. 日本銀行の役割
4. 金融市場調節と有価証券市場
5. 日本銀行の貸借対照表
6. 予算の執行と財政資金収支
7. 資金需給統計
8. 外国為替市場と関連統計
9. 為替平衡操作
10. 政策の伝播経路としての資金循環構造
11. 資金循環構造の国際比較
12. 資金循環分析の発展と展望

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

時系列分析a [05学則]（秋学期） セット履修

時系列分析b [05学則]（秋学期）

時系列分析 [99学則]（秋集）

准教授 田中辰雄

授業科目の内容：

学部3、4年生と大学院生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く、そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利率など金融データだけでなく、マネーサプライと物価などマクロ変数や、さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく、話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み、その上で、実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは（1）差分方程式の安定性と確率過程の定常性、（2）ARMAモデルの同定、推定、予測、（3）ユニットルート過程とそのADF検定、（4）Cointegration（共和分）とError collectionモデル、（5）VARモデルと因果性のテスト、（6）パネル分析、などになる予定である。

実際に使えるようにするためには、データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって、演習として何回か課題を出してもらおう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い、それを提出することになる。

出発点で計量経済学概論レベルの知識を前提とする。すなわち古典的仮定のもとでの回帰分析の経験があることを前提とする。計量経済学I、IIの授業の知識があれば役立つが、本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。大学院生も含む講義ではあるが、できるだけ基礎から組み上げていく方法をとるので、意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので、課題演習により、理解を確認しながらすすみたい。

ベイズ統計学a [05学則] (春学期) セット履修
ベイズ統計学b [05学則] (秋学期)
ベイズ統計学 [99学則] (通年)

准教授 中 妻 照 雄

ベイズ統計学a [05] /ベイズ統計学 (春) [99]

授業科目の内容:

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数(パラメータ)を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布(事後分布)を使ってパラメータの分析を行う統計学です。ベイズ統計学はデータがもたらす情報だけでなく個人の主観的な判断や専門家の意見などのデータ以外の情報も分析に組み入れることができるといった特徴を持っています。また、ベイズ統計学は不確実性の下での意思決定と親和性が高いため、アカデミックな分析のみならず実務での応用も広がりつつあります。ベイズ統計学は日吉の「統計学I & II」で習った統計学(古典的統計学)とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが、基本的にベイズの定理を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。「ベイズ統計学a [05] /ベイズ統計学 (春) [99]」では、ベイズ統計学の基本的流れを理解することを目指します。

テキスト:

特に指定しません。講義ノートをウェブサイトで配布します。

参考書:

- ・『ベイズ計量経済分析—マルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用』東洋経済新報社, 2005年
- ・『計算統計II—マルコフ連鎖モンテカルロ法とその周辺』岩波書店, 2005年

授業の計画:

1. ベイズ統計学の概要
2. 確率変数と確率分布
3. ベイズの定理による推論
4. 尤度, 事前分布, 事後分布
5. 未知のパラメータに関する推論 (I)
6. 未知のパラメータに関する推論 (II)
7. 未知のパラメータに関する推論 (III)
8. 予測とベイズの意思決定 (I)
9. 予測とベイズの意思決定 (II)
10. 回帰モデルのベイズ分析 (I)
11. 回帰モデルのベイズ分析 (II)
12. 回帰モデルのベイズ分析 (III)
13. 前半のまとめ

履修者へのコメント:

授業内容を理解するためには統計学, 微分積分, 線形代数の知識が必要です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価

学期末にベイズ統計学を実際のデータに応用したレポートを提出してもらい, その内容で講義の理解度を評価します。

- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価
毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談:

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

ベイズ統計学b [05] /ベイズ統計学 (秋) [99]

授業科目の内容:

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算が極めて重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ(MCMC)法と呼ばれる手法によって分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。「ベイズ統計学b [05] /ベイズ統計学 (秋) [99]」では、「ベイズ統計学a [05] /ベイズ統計学 (春) [99]」の内容を踏まえてMCMC法によってベイズ分析を行う方法を学びます。

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. ベイズ統計学とモンテカルロ法

2. 擬似乱数の生成法
3. マルコフ連鎖 (I)
4. マルコフ連鎖 (II)
5. ギブズ・サンプラー (I)
6. ギブズ・サンプラー (II)
7. データ拡大法 (I)
8. データ拡大法 (II)
9. M-H アルゴリズム (I)
10. M-H アルゴリズム (II)
11. MCMC 法の応用 (I): 構造変化モデル
12. MCMC 法の応用 (II): 階層的ベイズ・モデル
13. まとめ

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

近代日本社会思想史 [05学則] [99学則] (春学期)

専任講師 鷲 木 能 雄

授業科目の内容:

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して近代日本の社会主義思想について理解を深めることにある。

テキスト:

テキスト無し

参考書:

- ・絲屋寿雄『日本社会主義運動思想史』(I) 法政大学出版局, 1979年
- ・太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社, 1991年
- ・荻野富士夫『初期社会主義思想論』不二出版, 1993年 他

授業の計画:

年度開始の授業においてガイダンス 1回。以下, 次の内容について講義する予定。

- I. 1868 (明治元) 年 ~ 1896 (明治 29) 年—近代社会思想の導入—
 1. 「社会」, 「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜
- II. 1896 (明治 29) 年 ~ 1911 (明治 44) 年—「社会問題」と「社会主義」の展開期
 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
 2. 社会主義協会の設立とその活動
 3. 社会民主党の結成
 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄—「転換期」と日本における「社会主義」について—
 5. 明治社会主義の終焉—一大逆事件—

履修者へのコメント:

社会主義思想, 社会思想 (史) に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価

特に基準を設けることはしないが, 時に応じて, 小テストを課すことがある。

現代日本社会思想史 [05学則] [99学則] (秋学期)

専任講師 鷲 木 能 雄

授業科目の内容:

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して現代日本の社会主義思想の理解を深めることにある。

テキスト:

テキスト無し

参考書:

- ・松沢弘陽『日本社会主義の思想』筑摩書房, 1973年
- ・渡辺徹・飛鳥井雅道 編『日本社会主義運動史論』1973年
- ・絲屋寿雄『日本社会主義運動思想史』II・III, 法政大学出版局, 1980年, 1982年

・岡本宏『日本社会主義研究』成文堂、1988年

授業の計画：

秋学期開始最初の授業においてガイダンス 1回。以下、次の内容について講義する予定。

- I. 1912(大正元)年～1919(大正8)年—「冬の時代」と第一次大戦—
 1. 友愛会とその時代
 2. ロシア革命と米騒動—第一次世界大戦下の動向
 3. 大正デモクラシーの潮流
 4. 「社会思想」の全面的展開
- II. 1919(大正8)年～1926(昭和元)年
 1. 社会主義同盟の結成
 2. 「アナ・ボル」論争
 3. 日本共産党の創立
 4. 総同盟の分裂
- III. 1926(昭和元)年～1931(昭和6)年—普通選挙と社会主義—
 1. 「無産政党」と社会主義運動
 2. 「左派」と「右派」の対立
—日本社会主義の原型をめぐる問題—
 3. 「労農派」の結集
- IV. 1932(昭和7)年～1945(昭和20)年
—「ファシズム」と「社会主義」—
 1. 「32年テーゼ」とコミンテルン
 2. 日本資本主義論争と「講座派」
 3. 戦時下における日本の抵抗運動
 4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」
—その「連続性」と「非連続性」及び「再生と復活」に寄せて—

履修者へのコメント：

社会主義思想、社会思想(史)に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
特に基準を設けることはしないが、時に応じて、小テストを課すことがある。

東欧・ロシア社会経済思想史a [05学則] (春学期) セット履修

東欧・ロシア社会経済思想史b [05学則] (秋学期)

東欧・ロシア社会経済思想史 [99学則] (通年)

准教授 神代光朗

東欧・ロシア社会経済思想史a [05] /

東欧・ロシア社会経済思想史(春) [99]

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から、すでに16～18年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変動と、更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であり、又、これらの事象は多くの人々の関心をひくに足るものであろう。

しかし、こうした事象を理解するには、これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義 a (05学則—春学期)では、ヨーロッパからアジアにまたがる後発的大国ロシアの近代化とその社会経済思想の展開を、17, 18世紀～20世紀初頭の時期について、いわゆる中・東欧との比較を考慮しながら講ずる予定である。その際、基軸をなすのは、社会経済思想と民族または国民の問題である。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず講義に出席をし、ノートを自ら執る心掛けをもってほしい。また、必要に応じ、講義中にプリントやコピー類を配布することもある。

参考書：

講義の進行に応じ適宜指示するが、当面、森宏一『ロシア思想史』(同時代社 1990年)、トマーシュ・G・マサリック、石川達夫訳『ロシアとヨーロッパⅠ』(成文社 2002年)、同、石川・長興訳『ロシアとヨーロッパⅡ』(成文社 2004年)、同、石川・長興訳『ロシアとヨーロッパⅢ』(成文社 2005年)、石川都男『ゲルツェンとチェルヌイシェフスキー』(未来社 1988年)、『ロシア史 2, 18～19世紀』(山川出版 1994年)、Andrzej Walicki, *A History of Russian Thought*, Oxford 1988 等がある。

授業の計画：

1. 序—イントロダクション。講義で扱う学問領域とその意義、講義の概観と計画、特に社会経済思想史の対象としての「東欧」とロシア、これに関連する西欧経済思想
2. いわゆる「本源的蓄積」論と「東欧」・ロシアの問題
3. アダム・スミスの「先行的蓄積」論と「東欧」・ロシアの近代化
4. ビョートル、エカテリーナの改革とロシアの啓蒙思想
5. ロシアの啓蒙思想とロシアのインテリゲンチヤ
6. スラヴ主義と西欧主義および革命的民主主義
7. 古典的ナロードニキの代表的文獻
8. ナロードニキ主義とマルクスの理論、特に『資本論』、—ロシアとポーランドの比較を含む—
9. ロシア資本主義論争とその諸段階、哲学論争
10. ロシア資本主義論争、経済論争
11. プレハーノフの経済思想とロシア社会論
12. マルクス、エンゲルスとロシア、他
13. 19～20世紀初頭のロシアの大学の経済学者達及び総括

履修者へのコメント：

基本的には、授業への出席、自ら講義内容をノートに執ること、及び、この科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。授業計画は、上記の通りであるが、多少の変動は、順番、内容ともありうる。また、同科目 b (秋) とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
成績評価基準は、基本的には春秋年2回の期末筆記テストによるが、05学則対象者は a, b (春, 秋) セット科目なので、a, b とも合格することが、合格には必要である。
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
日常の出席状況も考慮の対象となるが、詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談：

学習内容についての質問・相談は歓迎するが、評価方法については、上記のとおりなので、原則的には応じられない。質問は、講義終了時に教室で、学年、クラス、氏名、学籍番号を書いて、用紙(自ら用意)で提出のこと。

東欧・ロシア社会経済思想史b [05] /

東欧・ロシア社会経済思想史(秋) [99]

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から、すでに16～18年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変動と、更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であり、又、これらの事象は多くの人々の関心をひくに足るものであろう。

しかし、こうした事象を理解するには、これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義 b (05学則—秋学期)では、講義 a (春) の続きとして、我が国では比較的認識の浅い中・東欧、とりわけ、主にポーランドを中心に、社会経済思想と民族または国民の問題を基軸に講ずる。その際、必要に応じてロシアや他の中・東欧諸国にも関係して言及する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

当面、南塚信吾(編)『東欧の民族と文化』(彩流社 1989年)、阪東宏(編著)『ポーランド史論集』(三省堂 1996年)、キェニエーヴィッチ『歴史家と民族意識』(未来社 1989年)、同氏(編著)『ポーランド史』(恒文社 1986年)、『講座スラヴの世界③』(弘文堂 1996年)、伊東・井内・中井(編)『ポーランド・ウクライナ・バルト史』(山川出版 1999年)、南塚(編)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版 1999年)、柴(編)『バルカン史』(山川出版 1999年)、谷川稔(編)『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』(山川出版 2003年)、小倉欣一(編)『近世ヨーロッパの東と西』(山川出版 2004年)、白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』(彩流社 2005年)、又、英文として、Jerzy Jedlicki, *A Suburb of Europe*, Budapest 1999, M. Albertone & A. Mascero.,

Political Economy and National Realities, ed, Torino 1994 等がある。

授業の計画：

1. イントロダクション。講義の概観と計画，社会経済思想史の対象としての中・東欧，特にポーランド
2. いわゆる「東欧」概念と東西ヨーロッパの相違と格差についての諸説
3. 分割前ポーランドの国家と社会，この時期のポーランドの経済思想
4. ポーランド分割とポーランドの啓蒙思想，特に，ポーランドの重農主義
5. 19世紀前半のポーランド史の主要問題とこの時期のポーランドの国民経済学
6. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流 (1) organic work (praca organiczna)
7. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流 (2) ナショナリズムと社会主義
8. ワルシャワ・ポジティヴィズムとポーランド社会主義思想としてのクルシンスキ派
9. 農業問題をめぐるポジティヴィズム，社会主義，ナロードニキのポーランドにおける 1883-4年の論争
10. L. クシヴィツキと彼の名著『農業問題』(1903年)について
11. 「東方市場」論争とポーランドの工業化
12. R. ルクセンブルクの経済思想と民族問題
13. ポーランド以外の中・東欧の経済思想について，及び総括

履修者へのコメント：

受講者は以下の点を心掛けてください。

講義への出席，自ら講義ノートを取ること，この科目への学問的関心を主体的にもつこと。上記計画の多少の変動はありうる。同科目 a (春) とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

日本経済思想史a [05学則] (春学期)

セット履修

日本経済思想史b [05学則] (春学期)

日本経済思想史 [99学則] (春集)

教授 小室正紀

授業科目の内容：

経済社会をどのようにとらえるか，またいかに経済社会に対処すべきか，さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は，実は，国により，また時代により歴史的にさまざまであり，こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から，この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探ってみたい。江戸時代にまで遡るのは，経済社会の展開とともに，この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され，それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また，明治時代には，欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み，それを独自に受け止めながら，それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。なお，明治期に関しては，時間の関係から，福沢諭吉の経済思想を中心としながら考えることとする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』勁草書房，1992年
- ・経済学史学会(編)『日本の経済学』東洋経済新報社，1984年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999年
- ・逆井孝仁他(編)『日本の経済思想四百年』日本経済評論社，1990年
- ・テッサ・モーリス 鈴木『日本の経済学』岩波書店，1984年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998年
- ・川口浩(編)『日本の経済思想世界』日本経済評論社，2004年

授業の計画：

1. 日本代経済思想史の課題
2. 儒学を受容と社会経済認識：朱子学を中心として
3. 江戸時代経世済民論の原型：熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型：伊藤仁斎

5. 経験的社会経済認識の成立：荻生徂徠・新井白石
6. 元禄・享保期農民の思想：宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町人の思想：井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想：太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想：三浦梅園・本居宣長・草間直方
10. 危機への対処と新体制への展望：後期水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想：二宮尊徳・大蔵永常 etc.
12. 福沢諭吉の経済思想：明治前期
13. 福沢諭吉の経済思想：明治後期

履修者へのコメント：

履修にあたって留意すべき点については，最初の講義の時に話す。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

授業時間内。あるいは授業時間に時間を調整して面談。

近代日本と東アジアa [05学則] (春学期)

セット履修

近代日本と東アジアb [05学則] (秋学期)

近代日本と東アジア [99学則] (通年)

教授 柳沢遊

授業科目の内容：

この講義は，近代日本の資本主義的發展と東アジア諸地域との相互関係を，1900～1940年代に限定して考察するものである。満鉄をはじめとして，多くの企業が，日露戦争後から，東アジア諸地域(特に都市)に進出し，営業を展開していた。本講義のねらいは，20世紀前半期の日本企業のアジア進出の諸形態と論理を，歴史的に明らかにすることにある。こうした作業によって，近代日本が，中国を中心とした東アジア諸地域になぜ深いかかわりを持ち，外交面での不安定化を生じて，戦争を遂行していったかが，マイクロヒストリーの次元から明らかになるであろう。それは，21世紀初頭のわたしたちの「東アジア」への向きあひ方を再考するささやかな一歩となるかもしれない。

テキスト：

- ・柳沢遊『日本人の植民地経験—大連日本人商工業者の歴史—』青木書店，1999年

参考書：

- ・柳沢遊・木村健二(編)『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社，2004年

授業の計画：

1. 帝国主義時代の日本と東アジア (2回)
2. 満鉄(南満州鉄道株式会社)の設立 (2回)
3. 20世紀初頭の日本人の「満州」進出 (2回)
4. 第1次大戦期，帝国日本の膨張 (3回)
5. 「慢性不況」下の在華日本人経済界 (2回)
6. 「満州」侵略の社会経済的基盤 (3回)
7. 「満州国」体制下の都市経済 (2回)
8. 「大東亜共栄国」形成の衝動 (2回)
9. 日本人の「引揚げ」(2回)
10. 日本資本主義の発展と東アジア (2回)
11. 近代日本と東アジア(小括) (2回)

履修者へのコメント：

講義にできるだけ出席し，配布されるレジュメをもとに自分の頭で，疑問をもちながら講義内容を考えていってください。受講生はレポートを提出することもできます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・1ヶ月に1度，質問カードを配布します。

質問・相談：

講義の直後に質問する。1ヶ月1回の質問カードに疑問を記述する。

東欧経済史a [05学則] (秋学期)
東欧経済史b [05学則] (秋学期)
東欧経済史 [99学則] (秋集)

セット履修

准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本講義では、東欧諸国の近代から現代までの変化を概観する。対象はエルベ川以東ウラル山脈以西の地域である。ロシアをはじめ、ウクライナ、ベローロシア、ポーランド、ハンガリー、チェコ・スラヴァキア、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアなどがここに入る。

本講義の問題意識と内容は、以下のようである。

第1に、東欧諸国（特にロシア）の前近代社会（特に農村社会・家族構造）は、西欧や中欧諸国のそれとは異なる性質を有している。前近代社会の特質は近代社会への移行に大きな影響を及ぼすため、東欧諸国の前近代社会の特質と近代化過程の特殊性についての解明は、東欧諸国の史的発展の基底を理解し、西欧諸国のそれを相対化するために有益である。

第2に、東欧諸国と中欧の多くの諸国は、ヨーロッパの「周辺」として位置づけられながら、社会主義体制を経験するという特殊性を有している。ロシアにおける社会主義革命の勃発は当地の前近代社会の特質に深い根を持つと同時に、ロシア型社会主義システムもそれに大きく規定されている。一方、中欧諸国における社会主義体制への移行は第2次世界大戦の結果として外部からもたらされた側面が大きい。ロシアで作られたシステムは中欧諸国にも移植されていくが、それぞれの伝統社会の特質とぶつかり合い、そのため、同じ社会主義国家であっても東欧諸国と中欧諸国の間では相違点が出てくる。東欧諸国と中欧諸国において社会主義システムがどのように形成されかつ変貌したのかは、西欧中心のヨーロッパ経済史では十分に扱うことができなかつた20世紀最大の問題の一つである。

第3に、旧社会主義圏の東欧諸国と中欧諸国は、現在、社会主義から資本主義への移行を経験する中でダイナミックな変化を経験している。ソ連の崩壊によって歴史としての社会主義は事実上終焉を告げ、それらの諸国は資本主義への移行と土地の私有化・国営企業の民営化など西欧諸国がはるか前に経験した課題に直面している。そうしたなかで、多くの国はすでにEUに加入し、ウクライナまでEUへの加盟が焦点となっている。他方、各国における私有化と民営化の過程はかなりの相違が見られているが、そこには社会主義以前の社会的特質が影響している。

テキスト：

特に指定しません。講義資料のプリントを配布します。

参考書：

随時紹介する。

授業の計画：

講義内容は、以下のとおりである。

1. ヨーロッパの二元性：農奴制
2. 東欧諸国の農民共同体とロシアのミル共同体
3. 東欧諸国とロシアの農人家族と人口
4. 農奴（農民）解放
5. 東欧諸国とロシアの工業化
6. 農民運動・労働運動と社会主義運動
7. 農業の変革とストルイピン農業改革
8. 第1次世界大戦
9. 1917年ロシア革命とNEP（新経済政策）
10. 大戦の結果と東欧の再建
11. 集団化とスターリン体制の成立
12. 社会主義体制下の工業化と計画経済システム
13. 戦間期の経済構造
14. 第2次世界大戦と東欧社会主義諸国の成立
15. スターリン主義と「新経路」
16. 均衡的発展の模索とフルシチョフ改革
17. 東欧諸国の成長と停滞
18. コメコンと社会主義経済ブロック
19. ソ連経済の停滞とベレストロイカ
20. 東欧の民主革命
21. 東欧諸国とロシアにおける経済体制の移行
22. 農業改革と私有化
23. 自由市場体制の導入と民営化

24. 労働市場の構造と労使関係

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：定期試験期間内の試験
- ・レポート
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

現代労働経済理論a [05学則] (春学期)

セット履修

現代労働経済理論b [05学則] (秋学期)

現代労働経済理論 [99学則] (通年)

教授 太田 聡 一

現代労働経済理論a [05] / 現代労働経済理論 (春) [99]

授業科目の内容：

応用経済学としての労働経済理論の近年の発展の中で重要と思われるトピックを選んで解説する。構成としては、応用ミクロ的な主体分析と均衡サーチ理論による就業・失業構造の分析を中心に据えたい。春学期では、そのうち家計や企業の視点からの微視的なアプローチを採用する。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画：

- ・労働経済学の考え方
- ・労働供給（静学モデル）
- ・労働供給（動学モデル）
- ・労働需要（静学モデル）
- ・労働需要（動学モデル）
- ・家計内生産と労働
- ・人的資本理論
- ・シグナリング理論
- ・最適インセンティブ賃金
- ・内部昇進理論

履修者へのコメント：

基本科目の「労働経済論」を理論面から補完する内容なので、この分野に興味のある方は両方受講することを勧めたい。また、労働経済学の文脈での紹介と解釈が中心なので、数学的な一般化については他の講義にゆだねる。労働経済学の知識は前提としないが、ミクロ経済学と統計学の基本は必要である。

成績評価方法：

- ・学期末試験の結果による評価

質問・相談：

講義に関する質問は、講義の前後で受け付ける。また、Eメールの連絡も受け付ける（アドレスについては初回講義時に発表する）。

現代労働経済理論b [05] / 現代労働経済理論 (秋) [99]

授業科目の内容：

応用経済学としての労働経済理論の近年の発展の中で重要と思われるトピックを選んで解説する。構成としては、応用ミクロ的な主体分析と均衡サーチ理論による就業・失業構造の分析を中心に据えたい。秋学期では、労働市場全体を俯瞰するようなトピックスに集中したい。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・労働市場における差別
- ・補償賃金格差
- ・雇用変動：雇用創出・雇用喪失
- ・離職と転職
- ・地域間労働移動の理論
- ・均衡サーチモデル
- ・賃金交渉モデル
- ・効率賃金仮説
- ・労働力フローの分析

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

家族と教育の経済学a [05学則] (秋学期)

セット履修

家族と教育の経済学b [05学則] (秋学期)

家族と教育の経済学 [99学則] (秋集)

教授 赤林 英夫

授業科目の内容：

- ・私立志向は少子化の原因か、結果か？
- ・「できるやつほど勉強しない」のはなぜか？
- ・男女の需給は、結婚確率や結婚後の力関係に影響を与えるか？
- ・夫婦の分業のメリット・デメリットは？
- ・教育の市場化は教育の質を高めるのか？
- ・配偶者控除制度は、本当にパートタイマーの労働時間を抑制しているのか？
- ・最近話題の教育バウチャーって何なのか？

これらの問いは、おそらく皆さんにとって身近な問題であると同時に、今後の日本の社会と政策を考える上でも、とても重要な問題です。「教育の経済学」、「家族の経済学」は、現在、欧米の経済学界で最も活発に研究されている分野の一つであり、教育学や社会学と影響しあいながら、急速に発達しています。この講義では、家族と教育に関わる経済理論と、それを利用した現実の政策研究を紹介しながら、上の問いに答えるためのヒントを考えていきたいと思います。

参考書：

- ・小塩隆士『教育の経済分析』日本評論社、2002年
- ・小塩隆士『教育を経済学で考える』日本評論社、2003年
- ・赤林英夫『人的資本理論と教育』「経済セミナー」10月号、2003年
- ・赤林英夫『教育バウチャーとは何か』「中央公論」1月号、2007年

授業の計画：

- ・ガイダンス (1回)
- ・人的資源理論・シグナリング理論 (3回)
- ・家族の経済モデルとその応用・家庭内分業の理論 (3回)
- ・結婚市場のモデル・その応用 (3回)
- ・子どもの「量」と「質」(3回)
- ・教育生産関数 (3回)
- ・家庭内教育投資の理論と応用 (3回目)
- ・教育と所得格差の理論と応用 (3回)
- ・学校選択と教育バウチャー・学校市場の機能 (4回)

履修者へのコメント：

この講義の受講には、ミクロ経済学、統計分析の基礎知識が必要です。授業の進め方や成績決定の方針は、クラスの大きさを考慮して、初回の授業で決定するので、受講希望者は必ず出席してください。

成績評価方法：

- ・試験 (中間と学期末の合計による)

質問・相談：

授業内及びメールで対応します。

経済と法a [05学則] (春学期)

セット履修

経済と法b [05学則] (秋学期)

経済と法 [99学則] (通年)

教授 中澤 敏明
産業研究所 准教授 石岡 克俊

経済と法 a [05] / 経済と法 (春) [99]

授業科目の内容：

本講義は経済学を学ぶ学生に、現実の経済社会において法が経済にどのように関係しているかを明らかにし、将来企業において経済活動に携わる場合、また公務員として経済政策、経済組織等に携わる場合、さらに研究者として経済研究に携わる場合に必要とされる「経済と法」に関する基本的知識および思考方法を付与することを目的とする。従って、法現象を経済学的手法を用いて分析する「法の経済分析」という名の経済学と比較すれば法解説の色彩が濃い。しかし、「法の経済分析」の成果も視野に入れながら講義を展開していく。

経済理論は、ある条件の下で市場原理の素晴らしい予定調和的な機能を明らかにするとともに、この条件が満たされないときの機能

の限界を示し、それに対する処方箋を提示しています。後者に属する問題の一部は政治的プロセスによって対処されていますが、例えば経済活動にともなう外部不経済の問題の多くが法によって対処されています。この問題にかかわる財産権の問題・交渉力における優劣の問題・情報の非対称性や格差の問題・フリーライダーや機会主義の問題などに、呼称の違いはあるにしても、法は体系的に対応しています。経済学と法学とは同じ問題を扱うという意味で境界を接しているところがあります。経済学も目に見えないながら逆らう者を罰する経済力学のコードを研究しているといえますが、現実 realistically 実定法をもって経済社会をコントロールする法の知識も備えることは望ましいことです。

この講義は、経済学部学生にリーガルコンシャスネスを獲得してもらうことを狙いとしています。憲法・民法・商法・社会法・後者に含まれますが経済法の大枠を、特に経済活動とのかかわりに光をあてながら概説します。法律の条文を独りで丹念に見ても、法の正しい理解には至りません。法学を志す者でさえ、多くの年月をかけてリーガルマインドとよばれるものを身につける過程で、法体系を理解し、その基盤の上で条文が正しく理解されるわけです。一年間の講義には大きな限界がありますが、小さな一歩でも法の世界に足を踏み入れ、これになじみを感じていただければと思います。講義は、法学の側面を主軸に行われますが、受講者は経済学の知識を基礎にして、経済学との異同を見出し、新しい論点の発見に努めてもらいたいと考えます。

テキスト：

新しい科目であり適切な教科書がありませんので今年度も教科書は使用しません。六法を使用しますが、講義で案内します。

参考書：

各回の講義の内容に応じて参考書は適宜示したいと思います。「履修者へのコメント」にあげたウェブサイトにもいくつか示される予定ですので、参照してください。

授業の計画：

- I 総論 (経済と法)
 - 1 経済秩序と法秩序の関係
 - 2 法の目的から見た「経済と法」
 - 3 法の機能から見た「経済と法」
 - 4 法的思考方法 (legal thinking) と経済
 - 5 現代市民社会における法の基本的原理と経済

法の専門家の養成が目的ではないので、法体系を基礎から順々に綿密に語る正攻法をとらず、重要な判決や新しい判決を例にとりながら、どこが重要な点か、何が新しいかを論ずることを通じて、法の姿をつかんでもらうアプローチをとっています。

講義体系を石岡と中澤で相談し、法の主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

各回の講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当者の下記ウェブサイトを通じて公表されます。ウェブサイトの URL は以下の通りです。

OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

成績評価方法：

- ・学期末試験

質問・相談：

履修にあたっては、初回の講義の際に受け付けます。授業については、授業の後に応じています。メールでは受け付けていません。

経済と法 b [05] / 経済と法 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- II 各論 (現代市民社会における経済と法の関係)
 - 1 自由主義経済 (市場) 社会と法
 - 2 自由主義経済社会を実現するための法による経済制度設定
 - 3 法による自由な経済活動の保障
 - 3.1 経済活動の主体に関する保障
 - 3.2 経済活動の客体に関する保障 (所有制度)
 - 3.3 経済活動そのものに関する保障 (契約制度)
 - 4 経済への国 (政府) の関与

- 4.1 私的経済分野への国の関与
労働法・社会保障法・経済法等の出現
- 4.2 公的機関による財・サービスの提供
公共調達・公的サービスをめぐる法と経済

法にかかわる主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済政策のミクロ分析 a [05学則] (春学期) セット履修
経済政策のミクロ分析 b [05学則] (秋学期)
経済政策のミクロ分析 [99学則] (通年)

准教授 藤田 康 範

経済政策のミクロ分析 a [05] / 経済政策のミクロ分析 (春) [99]

授業科目の内容：

この講義では、政策論議への関心を高め、ミクロ経済理論に基づいて様々な経済政策について分析する能力を身につけることを目標とします。ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展をも踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するように努めますので、特別な予備知識は不要です。

何らかの事情で欠席した場合でも復活可能にするため、2～3回で1つのまとまりにする予定です。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

テキスト：

特にありません。毎回レジメを配布します。

参考書：

- ・藤田康範『よくわかる経済と経済理論』学陽書房
- ・藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 貿易政策のミクロ分析 (3回)
4. 環境政策のミクロ分析 (3回)
5. 医療政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント：

暗記することよりも考えることを重視し、楽しんでいただきながらみなさんの潜在能力を引き出そうと思っています。

成績評価方法：

確認のための試験(持込可)、レポート、平常点に基づいて総合的に判断します。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

質問・相談：

随時受け付けます。

経済政策のミクロ分析 b [05] / 経済政策のミクロ分析 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 途上国支援政策のミクロ分析 (3回)
4. 財政政策のミクロ分析 (3回)
5. 金融政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

ファイナンス入門a [05学則] (春学期)

ファイナンス入門b [05学則] (秋学期)

ファイナンス入門 [99学則] (通年)

准教授 新井 拓 児

ファイナンス入門a [05] / ファイナンス入門 (春) [99]

授業科目の内容：

本講義では、主にポートフォリオ選択理論の基礎を扱う。特に、CAPMを習得することがこの講義の主目的である。さらにその発展型であるAPTを紹介し、実務の世界でどのように応用されているかについても紹介する。数学に関しては、高等学校レベルのものしか用いない。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

1. イントロダクション
2. 確実性下のモデルと金利の期間構造 (2回)
3. 確率論の基礎 (3回)
4. 効用関数と無差別曲線
5. 最適ポートフォリオと分離定理
6. 資産価格モデル (CAPM) の導出 (2回)
7. マーケットモデルとCAPMの評価
8. 裁定価格理論 (APT) (2回)

履修者へのコメント：

ファイナンス入門bも履修するとより効果的である。

成績評価方法：

・試験の結果による

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

ファイナンス入門b [05] / ファイナンス入門 (秋) [99]

授業科目の内容：

本講義では、金融派生商品の価格付け理論の基礎を扱う。最も単純なモデルである1期間2項モデルを取り上げ、裁定機会やマルチンゲール確率などの諸概念の意義を講義する。さらに、最近注目されているファイナンスのトピックも紹介する。数学に関しては高等学校レベルのものしか用いない。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 価格付け理論へのイントロダクション
2. 金融派生商品の紹介 (2回)
3. 1期間2項モデルにおけるオプション価格付け理論 (3回)
4. 数理ファイナンスの基本定理
5. 天候デリバティブ
6. 保険デリバティブ
7. 信用リスクとクレジットデリバティブ
8. 証券化
9. リスク管理とVaR (2回)

履修者へのコメント：

ファイナンス入門aを履修していることが望ましい。

成績評価方法：

・試験による

質問・相談：

春学期参照

公共政策a [05学則] (春学期)
公共政策b [05学則] (秋学期)
公共政策 [99学則] (通年)

准教授 土居 丈 朗
グローバルセキュリティ研究所 教授(有期) 竹 中 平 蔵

公共政策a [05] / 公共政策 (春) [99]

授業科目の内容:

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、郵政民営化の立案過程において、郵政事業の現状での問題点や郵政民営化の利点をどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりと見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。

1. 公共政策の評価に必要な知識
2. 公共政策の経済学的評価手法 (理論分析)
3. 公共政策の経済学的評価手法 (計量分析)
4. 政策の具体的事例研究
 - ・郵政民営化
 - ・政策金融改革
 - ・規制改革 等

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・竹中平蔵『構造改革の真実』日本経済新聞社
 - ・土居丈朗『財政学』日本評論社
 - ・ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房
- その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

公共政策b [05] / 公共政策 (秋) [99]

授業科目の内容:

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。公共政策b [05] / 公共政策 (秋) [99] は、公共政策a [05] / 公共政策 (春) [99] で学んだ公共政策の経済学的評価手法を基礎として、政策の具体的事例研究に重点を置く。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、歳出歳入一体改革の立案過程において、財政赤字の削減という政策課題に対して、これを実現するために歳出削減や増税がいくらか必要かをどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりと見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。ただし、公共政策 a を受講していることが望ましい。

1. 公共政策の経済学的評価手法 (要約)
2. 政策の具体的事例研究
 - ・2004年の年金改革
 - ・医療制度改革

- ・三位一体改革
- ・歳出歳入一体改革 等

テキスト:

- ・土居丈朗『財政学』日本評論社

参考書:

- ・ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房
- その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

公共選択論a [05学則] (春学期)

公共選択論b [05学則] (秋学期)

公共選択論 [99学則] (通年)

講師 川野辺 裕 幸

公共選択論a [05] / 公共選択論 (春) [99]

授業科目の内容:

公共選択論の入門講義です。政治を経済学の分析道具で研究する学問分野が近年急速に拡大してきました。私的利益を追求する個人を出発点にして政治現象を研究する公共選択論は、政治学の分野では合理的選択論 (Rational Politics) または合理主義政治学と言われていて、アメリカ政治学会では主流派を形成するようになってきています。わが国でも、経済政策論を研究する上で、政府の特性や政治的な意思決定を分析することが必要であると見なされるようになり、公共選択論は経済政策学において欠くことのできない分野を形成するに至っています。

講義では政府を構成する市民、政治家、利益集団、官僚等の行動を公共選択論にしたがって解説します。それとともに最近のトピックについても触れたいと思います。

テキスト:

- ・加藤寛(編)『入門公共選択: 政治の経済学』勁草書房

参考書:

授業中に随時提示します。

授業の計画:

1. 外部性と集合的行動
 - ・公共選択論の前提
 - ・集合的行動の前提
2. 民主主義的意思決定の特徴
 - ・意思決定に伴う外部性と投票のパラドックス
 - ・中位投票者定理と画一性
 - ・選好の強度とログ・ローリング
 - ・選好の強度を反映させる仕組み
3. 代議制民主主義下の意思決定の特徴
 - ・政党と政治家: 空間競走モデル
 - ・有権者: 合理的無知と近視眼的選好
 - ・利益集団とレント・シーキング
 - ・官僚: 独占的供給主体
4. わが国の政治システムの特徴
 - ・利益集団型民主主義
 - ・選挙制度改革と政策決定
5. 公的部門の改革

履修者へのコメント:

春学期の公共選択論a [05] / 公共選択論 (春) [99] は基礎的な理論を考えますが、できるだけ現実に即した例を挙げて考えていこうと思います。Web に履修者専用のページを設けます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価 3割 期末に行います。
- ・レポートによる評価 3割 中間に課題を出します。
- ・平常点による評価 4割 授業での発表、質問等で評価します。

質問・相談:

分からないところは授業中に随時受け付けますが、(成績以外の質問は) メールで受け付けます。kawanobe@mail.pem.u-tokai.ac.jp

公共選択論b [05] / 公共選択論 (秋) [99]

授業科目の内容:

公共選択論の応用講義です。安倍政権になって構造改革はどうなるのか、小泉政権とは何だったのか。この10年の大きな制度転換を、公共的意思決定システムを中心に考えることをこの講義の目的とします。対象は具体的で、講義は問題解決的です。いままでの制度の

特徴は何か、なぜいままでの制度がうまく機能しなくなってしまったのか、構造改革はどのような制度転換をもたらそうとしたのか、それはどう評価すべきか、どのような制度設計が必要なのか等について、公共選択論と新制度学派の経済理論に基づいて検討します。

キーワードは、裁量対ルール、自己統治、少子・高齢化、IT革命、グローバル化、成熟化、地方分権。

現代日本政治経済論というジャンルにはいるので、この分野に興味のある学生に向いています。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 制度転換・講義の方針とルール
2. 公共選択論と新制度学派経済学
3. 日本型システム
・始まりはいつか5
・日本は特殊か
4. 日本型政策決定システム
・政治制度
・財政運営・中央対地方政府
・マクロ政策・金融行政・産業政策
5. 構造改革とは
・制度転換の契機：IT革命とグローバル化・少子・高齢化・成熟化
・制度間競争と制度転換の理念：自己統治

履修者へのコメント：

秋学期の公共選択論b [05] / 公共選択論 (秋) [99] はアップデートなテーマを扱います。履修者数にもよりますが、ディスカッションクラスとして、できるだけ皆さんに考えて発表してもらいながら、あるべき制度を考えていこうと思います。web に履修者専用のページを設けます。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

NPO経済論a [05学則] (春学期)

NPO経済論 I [99学則] (春学期)

教授 山田太門

授業科目の内容：

近年、政府の財政における諸々の制約を原因として、政府に代わって民間部門が公共的財・サービスを供給する活動が目立っている。いわゆるボランティア活動や企業のフィランソロピー活動などの非営利公益活動がこれに当たる。これらの活動は個々に行われるだけでなく、むしろそれらの活動が複合した形で様々に組織化されており、各種の財団、社団などの公益法人が存在している。この講義の目的は、これらの民間非営利組織とその活動が全体の経済の中にどのように位置づけられるかを理論経済学的に説明し、またこれら非営利部門 (第3セクター) に対する全体および個別の制度、政策がどうあるべきかを公共経済学の理論を用いて検討することである。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

- ・山内直人『ノンプロフィット・エコノミー』日本評論社、1997年
- ・島田晴雄 (編著)『開花するフィランソロピー』TBS ブリタニカ、1993年

授業の計画：

1. マクロ経済における NPO 部門
2. 政府部門と NPO
3. 寄付行動とボランティア活動
4. 非営利活動の経済理論
5. 租税制度と非営利活動
6. 公益法人制度
7. 企業のフィランソロピー活動
8. NPO と民間営利企業の関係
9. 助成活動と事業活動 (ファンド・レイジング)
10. 福祉・医療と NPO
11. 教育と NPO
12. 文化・芸術と NPO (文化経済学)

履修者へのコメント：

できるだけ NPO 経済論 II とセットで履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

NPO経済論b [05学則] (秋学期)

NPO経済論 II [99学則] (秋学期)

講師 西村 万里子

授業科目の内容：

今日、公共サービス改革 (行政改革) の進展に伴い、NPO は、福祉 (介護、児童、障害者)、教育、環境、貧困 (ホームレス、ニート)、地域再生などの多様な分野において、公共サービス提供の担い手として注目されている。

本講義では、まず、公共サービス分野における NPO の位置づけと特性を理論的に検討し、次に、NPO をめぐる法政策を概説する。続いて、近年の行政改革と関連する NPO の動向に焦点をあてて、日本および海外の事例もとりあげながら考察する。期末には、NPO や協働の事例について学生による報告を行う。

テキスト：

特定の教科書は使用しない。講義レジュメを用意する予定である。

参考書：

- ・『NPO と新しい社会デザイン』同文館出版、2004年
- ・『イギリスの非営利セクター』ミネルヴァ書房、2007年 (近刊)

授業の計画：

1. 公共サービス分野における NPO
2. NPO の主要理論 (経済・政治理論)
3. NPO の規模、法政策、税制度
4. 英国の行政改革と NPO：行政と NPO のパートナーシップ
5. 日本の行政改革と NPO：行政と NPO の協働
6. 日本の行政改革と NPO：民間委託、指定管理者制度
7. 日本の福祉改革と NPO
8. NPO と企業の協働
9. NPO とコミュニティ・ビジネス、社会的企業
10. NPO や協働の事例について学生による報告

成績評価方法：

- ・期末の試験 (あるいはレポート)、学生報告による評価
- ・平常点 (積極的な発言、不規則の出欠調査も考慮)

格差と援助の経済学a [05学則] (春学期)

格差と援助の経済学b [05学則] (秋学期)

格差と援助の経済学 [99学則] (通年)

准教授 大平 哲

格差と援助の経済学a [05] / 格差と援助の経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

経済格差を理解するための経済理論、およびその応用例を学習する。くわしくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

格差と援助の経済学b [05] / 格差と援助の経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

援助の実際を理解する。格差に関する経済理論の知識があることを前提にする。くわしくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

世界経済論a [05学則] (春学期)

セット履修

世界経済論b [05学則] (秋学期)

※ [99学則] は (1) 基本科目を参照のこと

教授 竹森 俊平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した 19 世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930 年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19 世紀後半

の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・ Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・ 拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・ 拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

開発経済学a [05学則] (春学期) セット履修
開発経済学b [05学則] (秋学期)
開発経済学 [99学則] (通年)

教授 高梨和紘

開発経済学a [05] / 開発経済学 (春) [99]

授業科目の内容:

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の『価格』は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正常に機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、開発とは何かという問題意識を鍛え上げつつ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組むことが望まれる。その方向でこの講義を進めて行きたい。

テキスト:

- ・ 山形辰史, 黒田卓『開発経済学』日本評論社, 2003年
- ・ 高梨和紘 (編著)『開発経済学』慶應義塾大学出版会, 2005年

参考書:

- ・ 速水佑次郎『開発経済学』創文社, 2000年
- ・ 高梨和紘 (編著)『アフリカとアジア—開発と貧困削減の展望』慶應義塾大学出版会, 2006年

授業の計画:

経済開発の理論的展開と国際機関による国際開発政策の評価を13回に分けて行う。

履修者へのコメント:

常に問題意識を持って、聴講してほしい。

成績評価方法:

- ・ 試験の結果による評価
- ・ 平常点 (出席状況) による評価

開発経済学b [05] / 開発経済学 (秋) [99]

授業科目の内容:

経済開発政策のうち、発展途上諸国の低開発地域に焦点を絞り、マイクロファイナンス、OTOP等の最貧困層をターゲットとした開発政策、教育のあり方や途上国政府のガバナンスの問題をとり上げる。

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

内発的發展を導く、様々なプロジェクトを事件として分析の対象にする。また、人的開発についても後半に扱い、全体で13回にわたって実践的開発政策を分析する。

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS
[05学則] [99学則] (秋学期)

講師 林 秀 毅

授業科目の内容:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts. In each lecture, Powerpoint will be used for exposition. For reference, the lecture materials for 2006 can be viewed at http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009_j/index.html

As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. Students are supposed to submit a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture.

テキスト:

- ・ Gilson, Julie, *Japan and the European Union A partnership for the Twenty-First Century?*, Palgrave Macmillan, 2000 (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

参考書:

- ・ Kaji, Hama, Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999

授業の計画:

Part 1.

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s-80s (2, 3)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Europe (4)
- Chapter 4 European Integration and its Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (8)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (9)
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century (10)

Part 2.

- Germany, France and Benelux (11)
- Italy, Spain, Portugal and Greece (12)
- UK, Ireland, Nordic and Central/Easter European Countries (13)

履修者へのコメント:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

成績評価方法:

- ・ 試験の結果による評価 30% (End-of-term Examination)
- ・ レポートによる評価 60% (Aggregate score of each weekly report)
- ・ 平常点 (出席状況および授業態度) による評価 10% (According to the contribution of students by active questions and comments)

質問・相談:

Anytime during class, also by e-mail

廃棄と汚染の経済学a [05学則] (秋学期) セット履修
廃棄と汚染の経済学b [05学則] (秋学期)
廃棄と汚染の経済学 [99学則] (秋集)

教授 細田 衛 士

授業科目の内容:

環境汚染と廃棄物・リサイクル問題を、経済学的な視角から分析する。以下のテーマからいくつか取り上げて講義するが、常にリアルタイムでの問題を念頭において話題を展開するので、以下の項目には多少の変更があり得る。尚、日吉でのミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の知識を前提にする。

1. グッズの世界, バッツの世界

- (1) グッズとバズ
 - (2) 逆有償とマイナスの価格
 - (3) グッズとバズの境界
 - (4) 伝統的な経済学との関係
2. 動脈産業と静脈産業
 - (1) 動脈産業はメイン・ストリームか
 - (2) 潜在技術の顕在化
 - (3) 静脈技術の技術進歩
 - (4) 発展する静脈の世界
 3. バズとゼロ・エミッション
 - (1) バズの処理と最終処分場
 - (2) 最終処分場の最終管理
 - (3) バズの発生抑制と排出抑制
 - (4) ゼロ・エミッションは可能か
 4. 安定した市場リサイクルの条件
 - (1) 市場リサイクルの可能性
 - (2) 動脈と静脈の相互関係
 - (3) 規制と公共関与
 - (4) 企業のイニシアティブ
 5. 逆選択とパートナーシップ
 - (1) 逆有償が解消しないとき
 - (2) 情報の非対称性と競争のデメリット
 - (3) 優良業者の悲哀
 - (4) 競争と協調
 6. PPP（汚染者支払い原則）と費用負担
 - (1) PPP（汚染者支払い原則）とは何か
 - (2) 市場原理と費用負担
 - (3) 応分の負担とは
 - (4) 市場を活用することの本当の意味
 7. 環境保全のトレード・オフ
 - (1) あれかこれかの世界
 - (2) 経済と環境は両立可能か
 - (3) 環境要素どうしのトレード・オフ
 - (4) 環境評価の難しさ
 8. バズのマクロ経済学
 - (1) ハーマン・デイリーの不満
 - (2) マクロ経済メカニズムの誤解：蚊が増えると GDP は増えるか
 - (3) GDP で生活の真の豊かさを測れるか
 - (4) 新しい社会への移行とその調整費用
 9. 環境制約と経済成長
 - (1) 環境ビジネスは成長を支えるか
 - (2) 環境ビジネスと経済成長：理論的な観点から
 - (3) 経済発展経路の転換にかかわる問題
 - (4) 経済成長の神話 vs ゼロ成長の神話
 10. バズの管理システム
 - (1) 現行の廃棄物レジームの限界
 - (2) バズ・フローの最適制御(1)：制御主体の観点から
 - (3) バズ・フローの最適制御(2)：包括的環境政策
 - (4) バズ・フローの最適制御(3)：バズ処理・再資源化の費用論再論
 - (5) バズ・フローの最適制御(4)：いくつかの例
 - (6) 環境パートナーシップ

テキスト：

・細田衛士『グッズとバズの経済学』東洋経済新報社

参考書：

ウェブ・サイトに提示。

(<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/hosoda/lecture/>)

授業の計画：

「授業科目の内容」で示した内容を半期集中 13回で行う。
尚、リアルタイムで起きている環境問題についても随時解説を行うので、計画の遂行は、伸縮的に行う。

履修者へのコメント：

- (1) 就職活動を理由にした欠席は、公欠とはみなさない。
- (2) 基本資料は細田のウェブサイトで採っておくこと。(経済学部のウェブサイトで入ることができる。)

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
但し、場合によってはレポートを課し、成績評価の一部とするこ

ともあり得る。

質問・相談：

講義終了時に随時受け付ける。

地域経済論 [05学則] [99学則] (秋学期)

講師 高橋 孝明

授業科目の内容：

経済構造の質的転換の中で、国民経済の内部における成長地域と停滞地域が明確になるとともに、国境を越えた生産や消費のネットワークが築かれるようになり、国を越えた地域経済間の競争と協力も現実のものとなっている。また、EUをはじめ、地域経済統合の行方が世界経済の今後を決める要因の一つとなろうとしている。本講義は、このような背景の下で地域経済への関心が高まっている現実を踏まえて、地域経済の分析と課題について、入門的な講義を行い、地域経済の基礎的理解を深めることを目的とする。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

時間の制約に応じて、以下の項目から適宜選択して講義を進める。

1. はじめに
 - (1) 地域経済学とは
 - (2) 地域経済学の目的
 - (3) 地域経済学の方法
 - (4) グローバル経済のサブ・システムとしての地域経済、国民経済のサブ・システムとしての地域経済
2. 国民経済の地域的構成
 - (1) 地域経済計算
 - (2) 地域所得の決定
 - (3) 地域内・地域間産業連関分析
3. 地域経済の成長
 - (1) 需要主導型モデル
 - (2) 供給主導型モデル
 - (3) 需給混合型モデル
4. 地域間格差と地域間人口移動
 - (1) 地域間格差の概念
 - (2) 地域間格差縮小の理論
 - (3) 地域間格差が存続する理由
 - (4) 地域間人口移動
5. 地域経済の空間構造
 - (1) 産業立地の理論
 - (2) 空間的競争の理論
 - (3) 経済活動の集中：集中の理由
 - (4) 経済活動の集中：集中のメカニズム
6. 地域経済の階層構造
 - (1) 中心地と都市システム
 - (2) 地域経済における階層構造の生成メカニズム
 - (3) グローバル都市ネットワークと地域経済
7. 地域経済の国際的展開
 - (1) 比較優位と規模の経済
 - (2) 国際貿易と国内地域構造
 - (3) 国際的産業集積
 - (4) 地域経済統合
8. 地域経済の政策的課題
 - (1) 産業政策と国土政策
 - (2) 地域経済システムの再編と一極集中
 - (3) 社会資本と公共投資
9. おわりに

生産と消費の場としての地域経済

履修者へのコメント：

意欲的な学生の参加を希望する。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

質問・相談：

随時オフィスアワーを設けるが、事前にメールで担当教員に連絡をとり、日時を決めること。

連絡先：takaaki-t@csis.u-tokyo.ac.jp

地球環境問題a [05学則] (春学期)
地球環境問題b [05学則] (秋学期)
地球環境問題 [99学則] (通年)

セット履修

講師 山口 光 恒

地球環境問題a [05] / 地球環境問題 (春) [99]

授業科目の内容:

地球温暖化を中心とした講義

2005年2月京都議定書が発効し、2008年からはいよいよ同議定書対象期間となる。地球温暖化問題はその影響の大きさから、経済、エネルギー安全保障問題との鼎立をはかる形での解決が求められている。

地球温暖化問題への対処の主体は政府・企業・消費者、即ち社会の全構成員であり、しかもグローバルな対応が求められている。本講座では地球環境問題の本質について説明した後、企業・政府・消費者の順に各主体と環境問題(温暖化問題)の関係を述べる。こうした基礎知識を前提として地球温暖化問題につき国内、グローバルの両側面から最新の知見を交えながら集中的に講義する。

1年間の講義を継続的に聴講することで世界の温暖化問題の最新事情が理解できるようになると同時に、日本の取り組み京都議定書後のあるべき国際枠組みに対する諸君の考え方を形成する上での基礎を学ぶことが出来る。

テキスト:

・山口光恒『環境マネジメント』放送大学教育振興会、2006年

参考書:

適宜指示。

授業の計画:

主な内容は以下のとおりである。

1. 地球環境問題の本質 経済学的側面から(企業)
2. 地球環境問題と企業
3. 環境管理の国際標準化 (ISO14000 シリーズ) と日本企業
4. LCA — 製品に対する総合的環境配慮の手法(政府)
5. 環境政策の目的費用と便益
6. 政府の介入とコースの定理
- 7-8. 直接規制と経済的手法の理論と実際
9. 排出権取引と自主協定(消費者)
10. NGO 住民・消費者の役割(地球温暖化)
11. IPCC 第3次報告 その1
12. 同上 その2
13. 気候変動枠組み条約

履修者へのコメント:

通年開講の為、春秋学期共に履修の事。私語、遅刻厳禁。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価

地球環境問題b [05] / 地球環境問題 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト・参考書

春学期参照

授業の計画:

主な内容は以下のとおりである。

- (地球温暖化)
14. 締約国会議
 15. 京都議定書 その1
 16. 同上 その2
 - 17-19. 京都議定書後の日・米・EUの対応
 20. EUの排出権取引 理論と現実
 21. 京都議定書批准と日本の対応 その1 目標達成計画の変遷
 22. 同上 その2 計画破綻の原因
 23. 技術革新の役割
 - 24-25. POST 京都議定書 — 新たなレジームの構築に向けて

26. 自由貿易と環境保護の両立 温暖化問題を巡って

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

環境評価論 [05学則] [99学則] (春学期)

専任講師(有期) 河田 幸 視

授業科目の内容:

本講義は、自然環境が有する経済的価値を評価する手法を解説する。

今日、自然環境の大部分は人間活動の影響下にあり、とりわけ大規模な変化が生じる場合には、しばしばその是非が問われる。経済的観点からは、人間活動が自然環境に及ぼす様々な効果が費用と便益に整理され、これらが比較される。近年では、費用、あるいは便益の一部として、自然環境が有する価値や人間活動による環境質の変化を経済的に評価することに対して関心が高まっている。

例えば、森林を伐採して公園整備事業を行う場合、公園の整備にかかる費用や期待される入場料だけでなく、森林伐採に伴う環境質の変化(水涵養機能や生物多様性の低下など)を考慮する必要がある。また、中山間地域では農林地の放棄が問題となっている。農林業活動は、農林産物の生産機能だけでなく、地域の景観形成、災害防止などの公益的な機能を有し、良好な環境質を提供していることに配慮する必要がある。

人間活動に伴うこうした環境質の改善や悪化は、市場を通じた取引がなされない外部効果である。このため、社会的効率性を達成するためには、環境質を経済的に評価してその価値を明らかにし、内部化を行う必要がある。本講義では、こうした目的に用いられる環境評価手法について解説する。

テキスト:

指定なし。

参考書:

講義中に指示する。

授業の計画:

- (1) ガイダンス&環境評価とは?
- (2) 環境評価のための経済理論
- (3) 費用便益分析
- (4) 環境評価手法

成績評価方法:

・試験の結果による評価

資源経済論 [05学則] [99学則] (春学期)

専任講師(有期) 河田 幸 視

授業科目の内容:

本講義は、魚類、野生動物など、主として生物資源の利用について経済学的に解説する。

私たちの日々の生活は、直接的、間接的に多くの生物資源と結びつき、少なからず影響を及ぼしている。食卓に上る魚介類は、現在、その多くが過剰に利用されている。反対に、森林や野生動物は、以前に較べて利用量が減少し、農山村地域の衰退を促進する一因となっている。こうした過剰・過少な利用がもたらす問題は、社会・経済的な変化の中で、悪化し続けている。

そこでこの講義では、主として過剰な利用の問題を取り上げつつ、その原因、解決に向けたこれまでの試行錯誤、最新の処方箋などについて、事例や数値例をなるべく多く取り入れながら紹介する。

なおこの講義では、自然資源の利用と、それにまつわる外部性に大きく焦点をあてることから、環境経済論と一緒に受講すると非常に効果的である。また、内部化のための情報の計測手法を解説する環境評価論とも関連する科目である。

テキスト:

指定なし。

参考書:

講義中に指示する。

授業の計画:

- (1) ガイダンス&資源経済論とは?
- (2) 自然資源利用の現状と問題点
- (3) 経済的分析方法

(4) 資源管理方法と先進事例

成績評価方法：

・試験の結果による評価

アジア社会史a [05学則] (春学期) セット履修
アジア社会史b [05学則] (秋学期)
アジア社会史 [99学則] (通年)

教授 倉 沢 愛 子

アジア社会史a [05] / アジア社会史 (春) [99]

授業科目の内容：

新しい文明の到来、外国による植民地支配、さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

前期は、先ず東南アジアという世界の領域、歴史、社会的特性などについて基礎的な全体像を講義する。さらに、東南アジア諸国が推し進めている開発政策の特徴や、それに関連して行われている国際機関や諸外国の経済協力の実態について概観する。

参考書：

・倉沢愛子『「大東亜」戦争を知っていますか』講談社新書、2002年

授業の計画：

- (1) 東南アジアとは？
- (2) - (3) 東南アジアの伝統社会と新文明 (中国文明, ヒンドゥー文明, イスラーム文明の到来)
- (4) - (5) 植民地支配下の東南アジア社会 (植民地経済, 西洋文明, 近代化 etc)
- (6) - (8) 日本軍の占領と東南アジア社会一
- (9) 東南アジア諸国の独立と国家建設
- (10) 東南アジア諸国における経済開発の開始
- (11) 外資の導入と工業化
- (12) - (13) 経済協力の諸問題

履修者へのコメント：

新聞で報道される東南アジア関係記事程度の予備知識は用意してきて欲しい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

三分の二以上の出席が無い場合は受験資格がない。(正規の課外活動や、就職試験などやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する)

質問・相談：

火曜日3限に研究室にて。それ以外の時間はメールにてアポイントをとること。

アジア社会史b [05] / アジア社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

新しい文明の到来、外国による植民地支配、さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

後期は、そのような開発政策のもとで現実にかかえている様々な社会問題や社会現象を個別にとりあげて詳細に見てゆく。具体例を提示するために対処をインドネシアに絞る、倉沢が調査を続けている、ジャカルタの低所得者居住地区と、ジョクジャカルタの農村とを例にとりあげる。映像などを使いながら授業を進める。

テキスト：

・『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社、1991年

授業の計画：

- (1) - (2) 大都市の変容 (都市計画とスラムの破壊)
- (3) 農村社会の変容 (緑の革命 etc)
- (4) 伝統社会の崩壊と日本式隣保制度
- (5) 教育
- (6) - (7) 公衆衛生
- (8) 開発と女性 (ジェンダー問題)
- (9) 新中間層の台頭
- (10) 開発と宗教
- (11) グローバル化する文化
- (12) メディア
- (13) 労働力移動

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

ラテンアメリカ社会史a [05学則] (春学期) セット履修
ラテンアメリカ社会史b [05学則] (秋学期)
ラテンアメリカ社会史 [99学則] (通年)

教授 清 水 透

ラテンアメリカ社会史a [05] / ラテンアメリカ社会史 (春) [99]

授業科目の内容：

この講義では、西欧文明とインディオ社会との関係性を具体例をとりあげ、現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐります。同時に、政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について、社会史の視点から検討を加えます。

具体的には、25年以上にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ、「発見」以降のラテンアメリカの歴史を、一インディオ村落の側から見つめなおし、そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が、テロと報復戦争で幕を開けた 21世紀に生きる私たちに、何を問いかけているか、じっくり考えてみたいと思います。究極的には、「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

参考書：

・清水透『エル・チチョンの怒り—メキシコ近代とアイデンティティー』東京大学出版会、2005年

授業の計画：

- 1) インディオと私
 - ：自分史
 - ：研究対象と自己
- 2) 1492年と他者の創造
 - ：「発見」の現代性
 - ：外延的他者化・内延的他者化
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間
 - ：植民地支配と空間構造の再編
 - ：境界領域の主体性
- 4) 「文明」の神とインディオの神
 - ：アメリカ大陸へのキリスト教の伝播
 - ：民族衣装を着せられたキリスト
- 5) 「野蛮」の抵抗
 - ：「敗者の歴史」再考
 - ：逃亡という名の抵抗・共生という名の抵抗
- 6) 市民社会・国民国家と「釣り合わない軌」
 - ：メノナイトと「釣り合わない軌」
 - ：国民国家と「釣り合わない軌」

履修者へのコメント：

下記の成績評価方法からも明らかなおおり、就職活動等による欠席は、成績評価の際に全く考慮されない点を、十分承知したうえで、聴講するか否かを決めること。

成績評価方法：

レポートによる評価

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について、毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。代理提出は認めない。
- ・欠席して提出できなかったレポートは、その次の講義までに提出する。
- ・提出されたレポートについて7段階評価を行い、最終講義日までの総得点のみにより、成績評価を行う。したがって、追加レポート、追試験等は実施しない。

ラテンアメリカ社会史b [05] / ラテンアメリカ社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 7) 近代化のなかの「野蛮」
 - ：白色国民国家構想
 - ：「野蛮」の清算と未征服空間の征服
- 8) 近代化と共同体
 - ：インディオ村落と近代化法制
 - ：「野蛮」の祭りと資本主義
- 9) 「自分探し」と混血性
 - ：死せるインディオ・生けるインディオ
 - ：安住の地「メソティン論」
- 10) メキシコ革命とインディオ共同体
 - ：「自由自治体法」と共同体の自治
 - ：カルゴ・システムの空洞化
- 11) 村の液状化・都市の液状化
 - ：越境するインディオ
 - ：都市のインディオ化
- 12) サバティスタ運動から見えるもの
 - ：インディオの蜂起と低強度戦争
 - ：虐殺の村、アクテアルで考える
- 13) 「文明」とは？「近代」とは？
 - ：「文明」とく他者
 - ：「文明」と身体・いのち

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

地方財政論 [05学則] [99学則] (秋学期)

教授 金子 勝

授業科目の内容：

「三位一体」改革に示されるように、日本の国と地方の財政関係は大きな転機を迎えている。その中で地域間の格差拡大が進み、とりわけ夕張市の財政再建団体への転落をはじめ、大都市や輸出産業が立地している地域以外の地方財政がしだいに困難に陥り始めている。その過程を追いながら、あるべき国と地方の財政関係のあり方について考える。

授業の計画：

- 1. 地方財政の仕組み
 - 1) 最近における地方財政の動向
 - 2) 経費の構造
 - 3) 地方税の仕組み
 - 4) 政府間財政関係のあり方
 - 5) 国庫補助金と地方交付税
- 2. 英米諸国における地方分権と地方財政の動向
- 3. 日本における政府間関係：戦後の歩み
 - 1) 高度成長期における集権分散システムの形成
 - 2) 石油ショック後の田中角栄型利益政治の合理性と非合理性
 - 3) 1990年代における景気対策の歪み
 - 4) 地方分権推進をめぐる対立点
- 4. 進行する地方財政格差
 - 1) 夕張市の財政再建団体転落
 - 2) 進む地域間格差
 - 3) 市町村合併と地方財源のあり方
- 5. 地域経済問題と再生の動き

参考書：

- ・林健久(編)『地方財政読本』東洋経済新報社
- ・神野直彦・金子勝『地方に税源を』東洋経済新報社

成績評価方法：

定期試験を実施して評価する。

簿記a [05学則] (春学期)

セット履修

簿記b [05学則] (秋学期)

簿記 [99学則] (通年)

講師 千葉 洋

簿記 a [05] / 簿記 (春) [99]

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理を行おうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理を行うためのいわば装置としての役割を果たすものである。

本講義では複式簿記の基本構造と那一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

・山本忠恕『複式簿記原理 (新訂版)』千倉書房

授業の計画：

ガイダンス (1回)

I 複式簿記の基礎

- 1. 複式簿記の意義と特質 (計2回)
- 2. 勘定科目の設定 (計2回)
- 3. 取引の仕訳 (計2回)
- 4. 元帳への転記 (計2回)
- 5. 試算表の作成 (計2回)

II 勘定科目詳説 (その1) (計2回)

III 決算の諸手続き

- 1. 決算予備手続き
- 2. 決算本手続き

IV 精算表と財務諸表

総括

} 簿記 b

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

簿記 b [05] / 簿記 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

ガイダンス

I. 複式簿記の基礎

- 1. 複式簿記の意義と特質
- 2. 勘定科目の設定
- 3. 取引の仕訳
- 4. 元帳への転記
- 5. 試算表の作成

} 簿記 a

II. 勘定科目詳説 (その2) (計6回)

III. 決算の諸手続き

- 1. 決算予備手続き (計3回)
- 2. 決算本手続き (計3回)

IV. 精算表と財務諸表

総括 (1回)

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

演習a [05学則] (春学期) セット履修
演習b [05学則] (秋学期)
演習 [99学則] (通年)

教授 赤林 英夫

授業科目の内容：

同じ担当者による研究会 (3年) の補足となる予定である。

授業の計画：

研究会に準ずる。

履修者へのコメント：

研究会参加が前提である。

成績評価方法：

研究会に準ずる。

演習 (半期) [05学則] [99学則] (春学期) 水3

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、各種の統計資料を特に国民経済計算 (SNA) を中心に体系的に理解することを目的としています。

諸君はマクロ経済学を一・二年生で学ぶわけですが、そのマクロ経済学に登場するさまざまな変数について概念としては知っていても、では実際に現実にそれらの数値がどのような値をとっているか、その数値はどのように推計されているのか、について理解している学生はあまり多くありません。おそらく「国民経済計算」と言われてそれが日本のマクロ統計のおおもとであることすら知らない学生もいるのではないかと思います。

そこでこの演習では、国民経済計算を中心とする、実際の統計データを使って、そのデータを整理しながら、国民経済計算の枠組みを理解していくことになります。もちろん国民経済計算のデータだけですべてが完結するわけではありませんので、その国民経済計算と関係するその他の統計データについても扱うことになります。

実はこの内容は「経済資料論」と一部重複します。が、「経済資料論」は大教室での講義という性格上、十分な演習は行うことはなかなかできません。しかし少人数でのこの授業ではそれが可能です。受講者を「統計資料まみれ」状態にすることで、各種の統計についての理解を深めさせる、というのがこの演習の目的です。キツイようですが、そうすることが理解を深めるための早道だと私は信じています。したがってかなり多くの宿題が課されることは覚悟の上で受講してください。

また、この演習においては、大量のデータを整理し、集計する必要がありますが、この授業ではその作業をパーソナルコンピュータの表計算ソフト Microsoft Excel を使って行います。ただし「情報処理」の授業ではありませんので、Excel の使い方までをここで教える余裕はありません。この授業は、受講者諸君が最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える (「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる) ことを前提として行います。Excel が使えない場合にはこの演習にはついてくることができませんのでその点も了解した上で受講してください。

追加的な情報について、WWW でお知らせすることがありますので、受講の前に <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をみておいてください。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・勘定体系の考え方
- ・日本の SNA の概要
- ・統合勘定
- ・制度部門別勘定を使った統合勘定の組み換え
- ・米国の SNA

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える (「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる) ことを前提として4月からの授業は行います。

また E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらに

インフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習 (半期) [05学則] [99学則] (春学期) 水4

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提としての国民経済計算 (SNA) を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法をみにつけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやってもらう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもありますが、特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定においてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのような計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮設例としての産業連関表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやしくも現実の経済を分析しようというのならばここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって (小規模の表であれば) 行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・SNA と産業連関表
- ・産業連関分析の理論的枠組
- ・日本の産業連関表の特徴
- ・実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える (「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる) ことを前提として4月からの授業は行います。

また E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらにインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習a [05学則] (春学期)

セット履修

演習b [05学則] (秋学期)

演習 [99学則] (通年)

教授 池尾 和人

授業科目の内容：

池尾担当の研究会が本年度は4年生のみとなることから、それを補う目的で開講される。池尾研究会所属以外の3年生 (および4年生) の意欲ある参加者10数名を求める。テーマは、〈現代の日本経済に関する諸問題を経済学的なロジックにそくして考察する〉ことである。

1990年代は、日本にとって「失われた10年」と呼ばれているが、この間、ただ単に低迷が続いていたわけではない。民間企業部門が抱えた過剰債務の政府部門への付け替えがなし崩し的に進むとともに

に、それによって身軽になった民間企業部門の新たな環境への適応が進められてきた。その結果、特に日本の製造業は、東アジアとの間での分業構造の拡大・深化を図ることによって、復活の手がかりを得るようになった。

こうした変化が、現下の日本経済が回復基調を示すようになった背景にあると考えられる。しかし、調整がすべて終わったわけではない。政府部門には膨大な債務が積み上がっており、日本の財政は潜在的には破綻状態にあるといっても過言ではない。また、民間企業部門の調整過程で雇用の非正規化が進行し、格差等が問題化している。

換言すると、政府部門の調整を進め、社会保障制度を含む広い意味での財政システムを持続可能なものとして再構築することが、火急の課題の1つとなっている。けれども、残念ながら、そうした社会保障・財政システムの再構築へ向けた取り組みは、実際には停滞している。しかしながら、持続可能な社会保障・財政システムの確立が遅ければ、そのことによる不利益をより多く被るのは、いまの若い世代であろう。労働市場の変容による影響を最も強く受けているのも、若年層である。

こうした状況において、日本経済についてトータルな考察を行うことは、単に知的な興味を引くことにとどまらず、若い世代の将来にかかわるきわめて実践的な意義をもつことでもあるといえる。

テキスト：

最初のウォーミングアップには、鶴光太郎『日本の経済システム改革』日本経済新聞社、2006年を用いる。その後の使用文献については、後日指示する。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業への参加態度）による。

演習a [05学則] (春学期) セット履修

演習b [05学則] (秋学期)

演習 [99学則] (通年)

教授 太田 聡 一

演習a [05] / 演習 (春) [99]

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる文献を、国内・海外から渉猟して読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらいたいことを考えている。春学期の演習a [05] / 演習 (春) [99] においては、主に日本語の論文に集中する。

テキスト：

初めに論文・著書などの紹介を行う。以下の文献は基本書として掲載しておく。

- ・「平成18年版労働経済白書」
- ・玄田有史『ニートフリーターでもなく失業者でもなく』幻冬舎

履修者へのコメント：

多くの文献を読みたいので意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

演習b [05] / 演習 (秋) [99]

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる文献を、国内・海外から渉猟して読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらいたいことを考えている。秋学期の演習b [05] / 演習 (秋) [99] においては、主に英語の論文に集中する。

テキスト：

初めに論文・著書などの紹介を行う。以下の文献は基本書として掲載しておく。

- ・D. G. Blanchflower and R. B. Freeman, eds. *Youth Employment and Joblessness in Advanced Countries*, NBER, 2000.
- ・Preparing Youth for the 21st Century: *The Transition from*

Education to the Labour Market: Proceedings of the Washington D. C. Conference.

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

演習 (半期) [05学則] [99学則] (春学期)

教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

環境問題に関する映像により現実の環境の現状や環境政策の実態について学習する。扱う環境問題は、地球温暖化、公害、野生動物、水資源、漁業、廃棄物など多岐に渡る。受講者には、毎回、この映像で扱ったテーマに関して提示する課題に沿ってレポートを提出してもらう（映像の内容をまとめるのではないので注意すること）。また、提出したレポートの内容について毎回、1人ないし2人にプレゼンテーションを行ってもらおう。

成績評価方法：

毎回の授業での出席及びレポートの内容により評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

演習a [05学則] (春学期)

セット履修

演習b [05学則] (秋学期)

演習 [99学則] (通年)

准教授 大平 哲

授業科目の内容：

地域開発の実例についてフィールドワークも交えながら学習する。くわしくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/> に掲載する。

演習a [05学則] (春学期)

セット履修

演習b [05学則] (秋学期)

演習 [99学則] (通年)

教授 駒村 康平

授業科目の内容：

高齢化社会の進展のなか、生活保障に関する自助（市場メカニズム）、公助（社会保障制度）、互助（地域内の助け合い、NPOや地域福祉）の役割分担が再検討されています。本研究は、このうち、自助と互助に焦点をあて、自助（市場メカニズム）については、企業による様々な生活支援ビジネスの動向を、互助については、地域やNPOによる対人社会サービスの提供、地域における様々なリスク分散、再分配システムの仕組みとその歴史を研究していきたいと思えます。

テキスト：

受講者と相談して指定します。

参考書：

- ・恩田守雄『互助社会論—ユイ、モヤイ、テツダイの民俗社会学』世界思想社、2006年
- ・ウィリアム バーンスタイン, William J. Bernstein (原著)『「豊かさ」の誕生—成長と発展の文明史』(徳川家広(翻訳))日本経済新聞社、2006年
- ・アンガス・マディソン『経済統計で見る世界経済2000年史』(金森久雄(翻訳), 政治経済研究所) 柏書房、2004年

授業の計画：

- 1) 生活保障システムとは（概論、経済発展と社会経済システム）
- 2) 自助、公助、互助とは
- 3) 生活支援ビジネスの動向
- 4) 多様な互助システムに関する研究

履修者へのコメント：

研究会 a, b 受講者は原則受講するようにしてください。そのほか、生活支援ビジネスや多様な互助システムについて、強く関心を持っている方が受講してください。

成績評価方法：

出席・レポートによる。

質問・相談：

オフィスパワーを中心に対応する。

演習a [05学則] (春学期) セット履修
演習b [05学則] (秋学期)
演習 [99学則] (通年)

専任講師 葛木能雄

演習a [05] / 演習 (春) [99]

授業科目の内容：

本演習では「慶應義塾と近・現代日本」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げる。今年度は転換期日本における社会問題と「社会主義思想」の関連を議論する予定である。

テキスト：

福澤諭吉『文明論之概略』他

参考書：

- ・丸山真男『文明論之概略を読む』岩波新書(上・中・下), 1986年
- ・飯田鼎著作集 第6巻『福澤諭吉と自由民権運動—自由民権運動と脱亜論』御茶の水書房, 2003年

授業の計画：

- 新年度開始にガイダンス 1回
- 春学期では『文明論之概略』のうち「緒言」についての考察。
- 卷之一 第一章 議論の本位を定る事
- 第二章 西洋文明を目的とする事
- 第三章 文明の本旨を論ず
- 卷之二 第四章 一国人民の智徳を論ず
- 第五章 前論の続き までを読了予定。

履修者へのコメント：

- ・「社会思想(史)」に関心のある学生諸君の参加を期待する。
- ・学ぶことに積極的な学生諸君を希望する。
- ・毎回報告, 毎回報告要旨作成の必要あり。無断欠席厳禁。

成績評価方法：

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- ・出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

演習b [05] / 演習 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 秋学期では春学期に続いて『文明論之概略』のうち
- 卷之三 第六章 智徳の弁
- 卷之四 第七章 智徳の行わるべき時代と場所とを論ず
- 第八章 西洋文明の由来
- 卷之五 第九章 日本文明の由来
- 卷之六 第十章 自国の独立を論ず を読了予定。
- 全体の読了後, 出席者全員による討論。早期に読了した場合, 出席者の要望に応じ授業科目に即した内容の関連著書を取り上げる。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

演習a [05学則] (春学期) セット履修
演習b [05学則] (秋学期)
演習 [99学則] (通年)

准教授 津曲正俊

授業科目の内容：

担当者の研究会に準じます。授業内容は, 研究会の項目を参照ください。

履修者へのコメント：

担当者の研究会会員は必ず履修すること。

演習a [05学則] (春学期) セット履修
演習b [05学則] (秋学期)
演習 [99学則] (通年)

教授 寺出道雄

授業科目の内容：

現代の農業問題について輪読と個人研究の指導を行う。

テキスト：

第一回目の授業で受講者の希望も聞いて決定するので, 必ず第一回目の授業に出席すること。

授業の計画：

- 前半期 上記テキストの講読
- 後半期 テキストの講読と個人研究の指導

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)

演習a [05学則] (春学期) セット履修
演習b [05学則] (秋学期)
演習 [99学則] (通年)

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

准教授 駒形哲哉
教授 中野泰志

授業科目の内容：

現在, 我が国の少子・高齢化傾向は加速し, 高齢化率は世界でも最高に近い水準に達しています。法的に認定された障害者だけでも600万人を超えており, 65歳以上の高齢者も2500万人以上に達しています。このように, 単純に人口比から考えただけでも, 障害者・高齢者は, すでに全国民中の一部のマイノリティーグループとは呼べない規模に増大しています。さらに, 疾病や事故・災害等での一時的な障害も含め, 短期的に心身のコンディションにハンディを持つ人は多く, 何よりも「すべての人が加齢とともにやがて確実に高齢者になる」という現実を考慮すれば, バリアフリー問題は, すなわち国民全体のテーマであるといえます。

若くて, 健康な人にとって, 特別な理由がない限り「高齢」や「障害」ということを意識することは少ないと思います。しかし, 一生を考えてみると, 不自由なく, 移動したり, 考えたり, 覚えたりできる状態に身体を保つことができるのは, 一時的なことです。例えば, 誰も乳幼児のときには一人では上手に食事もできなかったわけです。また, いつ病気や事故等に遭遇するかもわかりませんし, 老化を避けることは誰にもできません。この意味で障害や加齢は身近な問題であり, 障害や加齢の状態にある人にも住みよい社会を創っていくことは, すべての人にとって大切な課題だと言えるでしょう。

このセミナーでは, すべての人が快適に生活できる「バリアフリー(バリアのない)社会」を実現するために必要な事項について実践を行いながら, ディスカッションを行います。様々な障害のある状態を擬似的に体験するワークショップ, ノートテイク等の支援の実習, キャンパスや街のバリアチェック等の実践を通して, バリアフリー・ユニバーサルデザインについて学びます。実習は, 講義時間以外にも実施することがありますので, 意欲のある学生の参加を期待します。

なお, 新学期にもとづく「演習a」と「演習b」とはセット科目(セット履修科目)とします。

本演習で一定以上の知識・技術を修めた学生には, 学部長から修了証を授与いたします。なお, 本演習は, 「自由研究セミナー: 実践を通して学ぶバリアフリー・ユニバーサルデザイン」とのセットでの履修を推奨します。セットで履修し, 一定の知識・技術を修めた学生には, 1ランク上の修了証を授与いたします。

テキスト：

講義内容のポイントをまとめた資料は, webサイト「<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/>」よりダウンロードできます。ただし, webサイトは, パスワードによるアクセス制限をかけています。パスワードは, 講義の際にお伝えします。

参考書：

- ・中島隆信『障害者の経済学』東洋経済新報社
- ・吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓『大学ノートテイク入門』人間社

・白澤麻弓・徳田克己『聴覚障害学生サポートガイドブック』日本医療企画

授業の計画：

本演習では、以下に列挙するテーマに関する実習を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する知識・技術の修得を目指します。

テーマ1. 障害の理解と支援

障害とは何かについて疑似体験を通して学びます。また、障害のある人への支援のあり方について、聴覚障害がある人への情報提供学習（ノートテイク）を通して学びたいと思います。

テーマ2. 病気、障害、健康の概念

病気、障害、健康、高齢等のバリアフリーに関連する概念がどのように定義され、社会の中でどのように使われているかについて検討します。また、これらの概念が歴史的にどのように変遷してきたかについても調べていきたいと思います。

テーマ3. バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉がどのように定義され、使われてきたかについて検討します。

テーマ4. 教育のバリアフリー（特別支援教育）

障害のある子供達への教育は今、大きな転換期を迎えています。特殊教育から特別支援教育への変革です。教育を受ける権利と義務にも言及しながら、教育のバリアフリーについて検討します。

テーマ5. リハビリテーションと福祉サービス

高齢者や障害者の介護や自立支援の問題は、経済の観点から見ても重要な問題になりつつあります。ここでは、リハビリテーションや福祉サービスの現状について調査し、最低限の生活の保障と財政問題をどのように解決すればよいかについて検討します。

テーマ6. 科学技術の活用

今や科学技術は生活の様々な場面で有効利用されています。障害者や高齢者の生活にも深く関係しています。ここでは、障害者や高齢者の生活を支える様々な支援技術を紹介しながら、支援技術の適切な活用方法について事例や実習を交えながら検討します。

テーマ7. 障害者や高齢者の就労支援

組織の成員として、障害者・障害者をどのように理解すべきでしょうか？ 職業を通じた社会参加の機会はすべての人に平等なのでしょうか？ 従来、障害者の就学や雇用の問題は、障害のある個人の問題として考えられてきました。しかし、WHOが2001年に障害の概念を環境との関係として捉え直したのを機に、障害者の問題ではなく、障害を作り出している環境（人的環境を含む）の問題として捉えられるようになりました。ここでは、障害のある人達の就学・就労における支援、ジョブコーチ、ワークシェアリング等について検討します。

履修者へのコメント：

本講義は、ゼミナール形式で実施します。基礎的な知識・技術についての解説だけでなく、理解を深めるために実習や討議を重視します。また、それぞれがテーマを選び、プレゼンテーションを行っていただきます。したがって、積極的に講義に参加できる学生を歓迎します。

成績評価方法：

平常点（出席と毎回提出を求めるショートレポート）、プレゼンテーション、レポートの得点で評価します。なお、配点は、平常点（出席とショートレポート）3割、プレゼンテーション3割、実習レポート4割です。

質問・相談：

講義に関する質問等は、講義時間の前後もしくは電子メールで受け付けます。なお、電子メールのアドレスについては、講義の際に紹介します。

金融資産市場論a [05学則]

セット履修

（野村ホールディングス株式会社寄附講座）（春学期）

金融資産市場論b [05学則]

（野村ホールディングス株式会社寄附講座）（秋学期）

金融資産市場論 [99学則]

（野村ホールディングス株式会社寄附講座）（通年）

教授 吉野直行

准教授 藤田康範

金融資産市場論 a [05] / 金融資産市場論 (春) [99]

授業科目の内容：

この講義は、野村証券からの寄附講座であり、毎回、学部の金融の専門の講師をおよびして、講義を行う。現場の金融行政、金融政策、貸出、資産運用などの経験から、さまざまな金融を取り巻く実情をお話いただく。前期と後期の2単位となっているが、通年で聞くことが望ましい。

講師は、金融庁、日本銀行、財務省、地方の財務局などの公的な機関、IMF（国際通貨基金）、World Bank（世界銀行）、ADB（アジア開発銀行）などの世界の公的機関、銀行、証券、信託、保険など民間金融機関の方々による講義である。2・3回、外国人の講師による英語での講義も含まれることもある。

一年間を通じて、金融資産市場でのプレーヤー、政策当局、金融活動を営む企業・個人の動きを、大きく理解できるように、講義を構成する。よって、前期と後期の両方を聴講することが望ましい。

講義には、2/3以上の出席が必要で、毎回の講義の最後15分間で、講義の要点をまとめて提出すること。最終の成績は、(i) 毎回の要旨、(ii) 学期末試験、の合計で判断する。

テキスト：

なし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年（編）『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行・藤田康範（編）『中小企業金融と金融環境の変化』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- ・日本の金融活動の流れ
- ・家計の貯蓄行動
- ・預金保険制度と金融機関の破綻
- ・金融庁の金融行政
- ・日本銀行の金融政策
- ・証券行政（証券取引市場監視委員会）などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

春学期・秋学期を通年で取ることが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

毎回の講義の最後に質問時間を設ける。

金融資産市場論 b [05] / 金融資産市場論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・世界の公的機関の活動（IMF、世界銀行、アジア開発銀行など）
- ・銀行行動
- ・証券会社の行動
- ・信託の活動
- ・保険の行動
- ・年金運用
- ・資産運用
- などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

企業金融論a [05学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座) (春学期)

企業金融論b [05学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座) (秋学期)

企業金融論 [99学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座) (通年)

教授 池尾和人

准教授 土居丈朗

企業金融論a [05] (寄附講座) /

企業金融論 (春) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

ファイナンスは、①企業金融論と②投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門a, b」は、後者を中心に講述される予定である。

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要である。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2~3回の講義を担当してもらうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求めたい。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストである Brealey & Myers, *Principles of Corporate Finance* の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

・リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ『コーポレート・ファイナンス (第8版)』日経BP社、上巻 (近刊予定)

参考書：

・大村敬一・他『経済学とファイナンス』東洋経済新報社、2004年
・池尾和人(編著)『エコノミックス・入門金融論』ダイヤモンド社、2004年

授業の計画：

春学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて、ガイダンス (1回) のあと、

第1部 価値 (2回)

第2部 リスク (2回)

第3部 資本支出予算における実際的な問題 (2回)

第4部 資金調達決定と市場の効率性 (3回)

第5部 配当政策と資本構成 (3回)

という順序で講義を行う。

講義は、外部講師を招いて実施することを基本とするが、当初は、基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので、前半6回のうち、4回についてはコーディネータのうち一人(池尾)が講述する。その間に、企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家とコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する見識の高い経営者をゲスト講師として招へいし、それぞれ1回ずつ担当してもらう。

後半の第4部は証券会社、第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて、それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論(ファイナンス)の基礎知識は、財務や経理の分野で職を得ようとする者のみにとどまらず、現代の社会に生きるすべての者にとって、いまや必要不可欠なものとなっている。その意味では、企業金融論は、就職を控えた経済学部4年生は全員履修してもおかしくない科目である。

しかし同時に、企業金融論の内容を十全に修得するためには、かなりの学習量を必要とする。それゆえ、既述のように、受講生にはしっかりとテキストの自習を行い、ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することが求められる。この点では、真に学習意欲の高い学生でなければ、本講義から十分な成果を得ることは難

しいといえる。

成績評価方法：

成績の評価は、春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。試験の出題範囲は、講義中に述べられたもののみならず、指定テキストの内容も含むものとする。

企業金融論b [05] (寄附講座) /

企業金融論 (秋) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて、春学期の復習(1回)のあと、

第6部 オプション (3回)

第7部 負債による資金調達 (2回)

第8部 リスク管理 (2回)

第9部 財務計画と短期の財務管理 (2回)

第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス (3回)

という順序で講義を行う。

第6部については、デリバティブ全般について、実務家と大学研究者の組み合わせで3回の講義を行う。第10部についても、同様の構成を考える。第7, 8, 9部については、それぞれ証券会社、銀行、事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし、2回ずつの講義を担当してもらう。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

金融投資サービス論a [05学則]

セット履修

(株式会社東京金融先物取引所寄附講座) (春学期)

金融投資サービス論b [05学則]

(株式会社東京金融先物取引所寄附講座) (秋学期)

金融投資サービス論 [99学則]

(株式会社東京金融先物取引所寄附講座) (通年)

教授 吉野直行

准教授 藤田康範

金融投資サービス論a [05] (寄附講座) /

金融投資サービス論 (春) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

複雑化する金融商品の種類、取引手法、それが取引される金融市場に関する知識は必須のものとなりつつある。「金融商品取引法(投資サービス法)」も制定され、金融サービス業や企業の財務分野で活躍することを目指す学生にとっては、金融商品・取引・金融市場を学ぶことは、必要不可欠となってきている。「金融投資サービス論」を学ぶことにより、幅広く金融に関するより専門的な知識が身に付くことを目指すものである。なお、寄附講座「金融資産市場論」と同様に、専門的な実務経験を有する外部講師による講義を行う予定である。

授業の計画：

講義の概要は以下の予定である。

(1) ガイダンス (1回)

(2) 金融商品の種類・その取引 (2回)

(3) 金融機関と金融市場 (2回)

(4) 金融政策の金融商品市場への影響 (2回)

(5) 金融行政と金融商品市場 (2回)

(6) 為替市場の変動と為替先物 (2回)

(7) 国際金融市場における金融商品取引 (1回)

(8) 金融行政と金融機関の行動 (1回)

履修者へのコメント：

春学期・秋学期ともに履修することが望ましい。

成績評価方法：

学期末試験を実施するとともに、学生の理解を調べる小テストを毎

回、実施する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価：毎回まとめ用紙を提出すること。

金融投資サービス論b [05]（寄附講座）／
金融投資サービス論（秋）[99]（寄附講座）

授業科目の内容：

春学期参照

授業の計画：

講義の概要は以下の予定である。

- (1) 金融行政と金融市場（1回）
- (2) 預金保険制度と銀行行動（1回）
- (3) 金融商品取引法（1回）
- (4) 金融経済教育（1回）
- (5) 家計の金融資産の選択行動（1回）
- (6) 企業の金融資産選択行動（1回）
- (7) 証券取引監視委員会の機能と役割（1回）
- (8) 生保・損保の金融商品とその役割（2回）
- (9) 中小企業金融機関と金融取引（2回）
- (10) 地域金融と金融取引（2回）

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読a [05学則]（英）（春学期）	セット履修
専門外国書講読b [05学則]（英）（秋学期）	
専門外国書講読 [99学則]（英）（通年）	

教授 高 梨 和 紘

授業科目の内容：

国際経済学に関する文献を選び、精読することによって専門的知識を吸収する。

2006年度は、H. ミント教授と J. サックスの文献を選んで開発理論におけるユニークな考え方を学んだ。

テキスト：

特にナシ。

参考書：

特にナシ。

授業の計画：

13回に渡って、受講者の積極的参加を促しながら進める。

履修者へのコメント：

専門的知識を吸収することに積極的であってほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業終了直後。

専門外国書講読a [05学則]（英）（春学期）	セット履修
専門外国書講読b [05学則]（英）（秋学期）	
専門外国書講読 [99学則]（英）（通年）	

専任講師 蔦 木 能 雄

専門外国書講読a [05]（英）／専門外国書講読（英）[99]（春）

授業科目の内容：

Thomas E. Willey, Back to Kant, 1978 を用いて1860年から1914年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。

「Back to Kant」の表題から判るように、この時代はカント主義が復活した時期であるが、一方では資本主義の全盛期を迎え、他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。

本講義では、そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら、では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか、

その思想的・哲学的基礎を考察してみる。

本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。

1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manquès: Kuno Fischer and Eduard Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism

テキスト：

履修者数に応じて当方で用意する。

参考書：

- ・関嘉彦『社会主義の歴史』1, 2, 力富書房, 1987年
- ・水田洋『新稿社会思想史』ミネルヴァ書房, 2006年

授業の計画：

春学期では近代ドイツ史をめぐる問題を含めて13回。

履修者へのコメント：

社会主義思想, 社会思想（史）に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- 出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

専門外国書講読b [05]（英）／専門外国書講読（英）[99]（秋）

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期では、春学期での成果を踏まえて「ドイツ社会主義思想」の各論について13回を予定している。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読a [05学則]（独）（春学期）	セット履修
専門外国書講読b [05学則]（独）（秋学期）	
専門外国書講読 [99学則]（独）（通年）	

講師 森 涼 子

授業科目の内容：

ドイツの社会・歴史および、ドイツ人の視点からみた日本文化などに関する文献を講読する。ドイツ語文献を文法的に正確に理解し、自力で的確に読みこなせるようになるよう訓練する。ただ単に一文一文を翻訳するにとどまらず、全体の論旨を理解することを目標とし、時間の許す限りテキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

テキスト：

初回にプリントを配布する。

参考書：

授業中に挙げる。

授業の計画：

初回に授業の進め方とテーマについてのガイダンスを行う。その後、文献を講読する。文法事項を復習し、文章構造を確認しながら、テキストを読み進める。各回の発表および分担に関しては、出席者の自発性を重視する。必要に応じて、内容に関するまとめを行う。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲のある学生を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点

質問・相談：

授業後に受け付ける。

専門外国書講読a [05学則] (仏) (春学期) セット履修
専門外国書講読b [05学則] (仏) (秋学期)
専門外国書講読 [99学則] (仏) (通年)

講師 篠原 洋治

授業科目の内容：

本講義では思想史の新たな方法論を模索するために、アナル派に端を発する社会史、あるいは精神分析学的手法を用いた歴史など、歴史学における近年の意欲的な試みを扱った論文や著作の抜粋を読みたい。

授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をする。

テキスト：

コピーを配布する。

履修者へのコメント：

履修者には、毎回の出席と予習を要求する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- ・授業時のテキストの音読と読解により評価する。

専門外国書講読a [05学則] (中) (春学期) セット履修
専門外国書講読b [05学則] (中) (秋学期)
専門外国書講読 [99学則] (中) (通年)

講師 馬 挺

授業科目の内容：

この授業では、中国経済の現状に関するトピックを新聞、雑誌、ウェブから選択して読む。できるだけ経済学的背景をもって読み進めるが、中国経済を中国語で読む場合、言葉としての中国語だけでなく、中国の文化、社会の現状、そして中国人のものの考え方などがある程度理解することも不可欠になってくる。

したがって、本授業は上記の内容を目標としつつ、中国語文章の解説・文法・朗読などを練習・解釈することも重視する。同時に、学生の要望に応じて、映像などの資料を用いて、中国事情について説明や討論も行う予定である。

テキスト：

メイン：プリントを配る。

サブ（必備）：三瀧正道・陳祖蓓『2007年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

参考書：

授業時指示。

授業の計画：

最初の2回程度は受講者のレベルを把握しつつ試行授業を行う。

春学期は上記テキスト（三瀧正道・陳祖蓓著）を用い、発音の練習をはじめとして、中国語の文法の基本や解説の要領に重点をおく。

後期は、3. 内容に記したように、最近の中国経済に関する文章を読み、訳および見解の発表と討論など、実践的に授業を進めていく。

履修者へのコメント：

指示に従って辞書などを準備すること。

<http://www.aoni.waseda.jp/tingma/index.html>

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

アドレスにメールで連絡。メールの「件名」に必ず「慶応一三田」と名前を記入すること。

専門外国書講読a [05学則] (西) (春学期) セット履修
専門外国書講読b [05学則] (西) (秋学期)
専門外国書講読 [99学則] (西) (通年)

教授 清水 透

専門外国書講読a [05] (西) / 専門外国書講読 (西) [99] (春)

授業科目の内容：

- ・すでにスペイン語文法を習得した方々を対象とします。
- ・ラテンアメリカ地域研究へ向けて、基礎的学術論文を読み取る能力の向上をはかります。
- ・ただし、入門スペイン語を終え、さらに語学力を高めたい方々も

歓迎します。

- ・使用テキストの内容は、ラテンアメリカ文化論・社会史が中心となります。

テキスト：

適宜配布します。

参考書：

なし。

授業の計画：

夏季休暇前までは、テキストの緻密な読みに徹します。

履修者へのコメント：

昨年度は受講生4名で、本当に充実した授業になりました。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- ・毎回の報告内容により評価する。

専門外国書講読b [05] (西) / 専門外国書講読 (西) [99] (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期からは、テキストの内容の把握に重点をおき、速読を原則として授業を進めます。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

〔研究会〕

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 赤林 英夫

授業科目の内容：

この研究会では、教育の経済学、家族の経済学、政策評価方法論を中心に扱います。

教育の経済学と家族の経済学は、労働経済学から派生し、今では各々、独立した分野として確立されています。そこで扱うテーマとしては、教育や出生などの問題だけでなく、犯罪や宗教など、従来経済学があまり取り上げてこなかったような、社会と個人が複雑に絡み合う問題も含まれます。アプローチとしては、個人の最適化行動と均衡概念などの経済学的視点から現在を理解する、「応用ミクロ的」手法を重視します。具体的なテーマのイメージとしては、秋学期開講の「家族と教育の経済学」の履修案内をご覧ください。研究会では、同時に、労働経済学の基礎知識についても学習します。

政策評価方法論は、私たちが直面する社会問題に対して行われる政策の有効性を、ミクロ的かつ実証的に検証する手法を考える分野です。教育、労働、家族に関する理論を学ぶと、自然に、税制、社会保障制度、保育政策、教育政策、雇用政策などの意義と有効性を考えることとなります。しかし、どの政策にもプラスマイナスがあり、政策がどのような効果を与えるか、理論的には予想できないことがほとんどです。そのときに必要となるのが統計的な手法を用いた厳密な政策評価です。特区を利用して様々な政策が試みられている現在、政策評価は、最も必要とされている研究分野の一つであるだけでなく、実務でも、シンクタンクや国際機関などを目指す人にとって、必須の技術となるでしょう。それらの手法について、本研究会では、理論的学習に引き続き、可能な限り使っていきたいと思っています。

授業の計画：

3年生は、輪読による基礎的な学習に続き、三田祭での発表を目標としてグループ研究を行います。

履修者へのコメント：

現在の、教育や少子化などの世間での論争に、自分なりの疑問を

持っている人、思いつきではなく、論理とデータで、これらの問題に迫ってみたい人、「経済分析」があまり行われていない領域を積極的に発掘したい人、を歓迎します。ゼミでの活動には、ミクロ経済学と統計学の基礎の理解が必要です。また、私のホームページ <http://www.econ.mita.keio.ac.jp/staff/hakab/index.html>には、より詳細な情報がかかれていますので、志望する際には必ず目を通しておいてください。

成績評価方法：

- ・レポート（卒論）
- ・平常点（ゼミへの貢献度）

研究会a・b（3年）[05学則]
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 秋山 裕

授業科目の内容：

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学の手法を活用した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、①本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、②サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、③オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっていきます。また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭での研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

- ・基礎トレーニング（プレゼンテーション、文献輪読、コンピュータ）
- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の企画書の作成、テーマの決定、分担作業）

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の論文執筆、パネル作成、スライド作成、プレゼンテーション）
- ・卒業論文（経済発展に関するテーマならばテーマは自由）の企画書の作成、テーマの決定

〈研究会（4年）[99]〉

[春学期] 卒業論文の論文執筆、プレゼンテーション

- ・基礎トレーニング（文献輪読）
- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の企画書の作成、テーマの決定、分担作業）

[秋学期] 卒業論文の論文執筆、プレゼンテーション

- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の論文執筆、パネル作成、スライド作成、プレゼンテーション）

テキスト：

〈研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]〉

第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書：

〈研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]〉

個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画：

授業の構成は以下のとおりです。（それぞれの授業回数は進度に従って調整します。）

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

1. プレゼンテーションの練習（2回）
2. 基本文献の輪読（6回）
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論（5回）

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

1. 共同論文の発表、討論（8回）
2. 卒業論文の企画立案のための発表・討論（5回）

〈研究会（4年）[99]〉

[春学期]

1. 基本文献の輪読（6回）
2. 卒業論文の発表、討論（2回）
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論（5回）

[秋学期]

4. 共同論文の発表、討論（5回）
5. 卒業論文の発表、討論（8回）

履修者へのコメント：

「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはいえませんが、この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして、研究会活動を通じて、社会で通用するエコノミストになれるように、互いに切磋琢磨していただきたいと思います。そのため、研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

研究会活動については学生が管理している秋山裕研究会 Web サイト (<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークでの貢献

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークおよび共同論文での貢献

〈研究会（4年）[99]〉

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークおよび共同論文での貢献
- ・卒業論文

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の授業にて指示します。

研究会a・b（3年）[05学則]
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 新井 拓 児

授業科目の内容：

ファイナンス理論に関するゼミを行う。特に、金融派生商品の価格付け理論を中心に、その基本的考え方を理解することを目的とする。

3年生は日本語で書かれた確率論のテキストを輪読する。

また、4年生は信用リスクや天候デリバティブといった様々なファイナンスのトピックの中から卒業論文のテーマを選び、論文作成に専念してもらう。

テキスト：

第1回の授業の時に紹介する。

参考書：

授業中に紹介する。

履修者へのコメント：

研究会参加者は「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修すること。その他、数学関連の講義を多く履修していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・レポートと平常点（出席と授業態度）

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

研究会a・b（3年）[05学則]
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 飯田 恭

授業科目の内容：

本研究会では、ヨーロッパを中心とした比較社会経済史の研究を行う。具体的には、この共通テーマに関する基礎文献をメンバー全員で輪読すると同時に、各メンバーが個別の研究テーマを設定し、それについて三田祭論文及び卒業論文を完成させることとなる。

研究会（4年）[99学則] 通年

教授 池尾和人

授業科目の内容：

本研究会は、「日本経済の応用ミクロ分析」を基本テーマとして研究している。なお、本年度は4年生のみで運営される。

授業の計画：

例年通り、春学期は、文献の輪読を中心に進める。秋学期には、全員に卒論の中間報告をしてもらう。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業への参加態度）と卒業論文（必須）による。

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年**研究会（4年）[99学則] 通年**

准教授 石橋孝次

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用理論である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とした上で、企業組織・企業行動や経営戦略について学習することを目的とする。

テキスト：

Png, I. 'Managerial Economics,' second edition, Blackwell, 2001 その他

授業の計画：

通常の授業は、参加者によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。春学期は、ゲーム理論や産業組織のテキストを用いた基礎的学習にウェイトをおく。秋学期は、研究書や専門的な論文を題材とした授業の他に、3年生はパート別の共同論文、4年生は卒業論文の中間報告を行う。

成績評価方法：

<研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]>

・平常点

<研究会（4年）[99]>

・平常点・卒業論文

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年**研究会（4年）[99学則] 通年**

准教授 伊藤幹夫

授業科目の内容：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

この研究会では金融に関連するマクロ経済学のトピックに関して、理論と実証の両面から学習・研究を行う。前期は、金融に関するミクロ経済学を学ぶために必要な数学、金融制度、歴史を学ぶ。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

後期においては、実証分析に必要な計量経済学の基礎ならびに、計量作業に必要な統計言語Rの習得と、金融に関する論文の輪読と、実証作業を行う。

<研究会（4年）[99]>

4年生は、3年生時に研究会で行った題材の中から、自らが興味をもった題材について、卒業論文を作成する。

テキスト：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

・池田昌幸『金融経済学の基礎』朝倉書店

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

・乾孝治・室町幸雄『金融モデルにおける推定と最適化』朝倉書店

参考書：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

・舟尾暢男・高浪洋平『データ解析環境「R」』工学社

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

・『The R Tips』九天社

授業の計画：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

1. ゼミ学習に必要なITスキルの習得（3週）

2. 金融制度の学習（3週）

3. 金融理論と経済理論の基礎の学習（3週）

4. 数学と統計学の学習（4週）

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

5. 統計言語Rの習得（3週）

6. 計量経済学の基礎（3週）

7. 選択された論文の輪読と実証作業（7週）

<研究会（4年）[99]>

卒論指導（適宜）

履修者へのコメント：

学部生にとってややレベルが高いことを課すことがあるので、真面目にやった学生諸君は、非常な達成感が得られるでしょう。

成績評価方法：

<研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]>

・平常点

<研究会（4年）[99]>

・卒論

質問・相談：

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトを用意する予定。

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年**研究会（4年）[99学則] 通年**

教授 植田浩史

授業科目の内容：

<研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]>

研究会では、日本や海外の製造業を中心とした産業や企業の動きを通じて、現代経済の動きについて学び、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察できる力を養っていくことを目的とする。ゼミは輪読を中心とするが、夏季休暇中などには大企業、中小企業などの企業訪問、工場見学なども実施し、現実の姿からも学んでいきたい。

<研究会（4年）[99]>

大学生活最後の年として、卒論の執筆に向けた指導を行っていく。

テキスト：

参加者と相談の上、決定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

現実の産業や企業を、歴史的、現状分析的、現場的な視点をバランスよく使いながら、見ていくことを勉強していきたいと思っています。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年**研究会（4年）[99学則] 通年**

教授 太田聡一

授業科目の内容：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

労働経済についての基礎的な文献を読み、それ以降の本格的な研究の導入とする。やさしい教科書から始まり、様々なトピックスについての雑誌論文などに進んでいきたい。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

分析的な手法を身につけることを主眼とする。計量経済学の知識を使って、実際のデータで労働市場の分析を行ってみる。

<研究会（4年）[99]>

「経済格差」についての最近の研究を輪読する。

参考書：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

・太田聡一・橋本俊詔『労働経済学入門』有斐閣

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

・大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社

履修者へのコメント：

この研究会は少人数を旨として運営してゆく。また、英語文献も

含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

適宜受け付ける。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

この研究会では、環境経済学のディシプリンを身に付けながら、現実の環境問題に適用することにより、その有効性と可能性を考察していきます。代表的なテキストの一冊を輪読・議論していきますが、並行して、環境経済学のカバーする諸領域から特に各自関心のある問題・テーマを選択し、理論・実証の両側からの学習を進展させてもらいます。

また、毎回、一定の時間、内外の最新の環境問題のニュースを簡潔に報告してもらい、それぞれの問題について議論する予定です。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

准教授 大平 哲

授業科目の内容：

地域開発に関する理論を学習する。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 大村 達 弥

授業科目の内容：

構造改革政策の名で日本はこれまで経済構造調整、規制緩和、金融構造改革、税財政構造改革等を進めて来た結果、改革の先にあるものが少し見える段階に至ったとはいえ、未だ多くの課題が残されている。戦後わが国は日本型経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、20世紀末において経済のグローバル化や情報化等環境変化が進む中、成功体験に溺れ、世界の潮流の大きな変化への対応に問題が生じた。構造改革はこうした状況を打開するために必要な政策である。そこで構造改革政策の内容、手段の整合性を検証するとともに、格差の拡大など副次的に現れてきた現象にも目を向ける必要がある。これら構造政策に関する先行研究等の文献に当たり、研究発表形式で授業を進めてゆく。

テキスト：

授業の最初に指示する。

参考書：

必要に応じ随時指示する。

授業の計画：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

プログラム①毎回4限では、指示したテキストの1章分を材料に、関連したテーマについて発表を行う。5限では発表内容について討論を行う。プログラム②4年生の卒論中間報告内容について討論、プログラム③夏期休暇前に共同論文の構想を発表し、夏期休暇を利用して論文を作成し、夏合宿で発表する。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

プログラム①（a）①に準じたプログラム、プログラム②討論会・コンファレンス発表準備、プログラム③4年生の卒論中間報告内容について討論

<研究会（4年）[99]>

春学期：（a）のプログラム①～③に対応したプログラムにより発表と討論を行う（卒論中間報告を含む）。

秋学期：（b）のプログラム①～③に対応したプログラムにより発表と討論を行う（卒論の中間報告を含む）

成績評価方法：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

平常点による評価

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

平常点（合宿や諸行事を含む）および進級レポートの結果による評価

<研究会（4年）[99]>

平常点（合宿や諸行事を含む）および卒論（中間報告・最終版）の結果による評価

質問・相談：

授業中以外は、メールまたはアポにより行う。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 尾崎 裕之

授業科目の内容：

「ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の応用」を研究テーマとし、最終的には卒業論文の完成を目標とする。卒業論文のテーマとしては、それが、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のいずれか（あるいは、その全て）の応用であれば何でもかまわない（公共経済学、国際経済学、環境経済学、労働経済学、都市経済学、医療経済学、産業組織論、などなど）。研究テーマそのものよりも、経済学的直感を養い、理論を正しく応用できるようになることに主眼を置く。ミクロ、マクロ、ゲーム自体については、ゼミで直接取り上げない。日吉や三田での講義、あるいはサブゼミによる自主的な勉強を望む。

研究会（4年）[99学則] 通年

教授 長名 寛明

授業科目の内容：

ゲーム理論を主要な分析用具として用いる最近のミクロ経済学の一つの応用分野としての競売の理論を巡り討論する。

テキスト：

1. Vijay Krishna, *Auction Theory*, Academic Press, 2002
2. Martin Osborne and Ariel Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994

授業の計画：

上記の二つの教科書を交互に取り上げて、モデルの構成、結果の叙述と証明、経済的解釈について討論する。

成績評価方法：

平常点（出席状況と研究報告の質）および卒業論文の内容で評価する。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 嘉治 佐保子

授業科目の内容：

本研究会の目的は、(1) 国際マクロ経済学を中心とした経済理論の理解を深めること、(2) 自分で考える力を身につけること、(3) 英語による情報収集と意思疎通の能力を高めることである。これらの目的の達成に適した文献を輪読する。卒業論文のテーマは、各学生が自らの興味にしたがって選択する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）
・卒業論文

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 金子 勝

授業科目の内容：

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福

社、地域経済、産業と企業のあり方…等々、取り上げるべきテーマが広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する。

授業の計画：

前期はテキスト輪読から入り、テーマを絞って自分たちで問題を設定し、自分たちで調べて報告討論する。夏合宿より三田祭論文に合わせて、討議と報告書を作る。4年生は定期的に卒論報告会を行い、年末に発表会を行う。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・論文と卒論を評価として重視する。

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年

研究会（4年）[99学則] 通年

准教授 河井 啓 希

授業科目の内容：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

産業組織論の理論とその実証分析についての研究を行う。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

パート別に分かれて三田祭論文作成に向けて専門論文を読んだり、データを収集して実証研究を行うことを通して、論文作成の方法を学ぶ。

〈研究会（4年）[99]〉

Reading List でとりあげられる重要な貢献をした専門論文（*Rand Journal of Economics* や *Journal of Political Economy* などから引用する）を読み、基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。さらに卒業論文作成に向けて各自の興味に応じて分析を進める。

テキスト：

〈研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春、秋）[99]〉

最初の時間に指示する

参考書：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

・ベサンコ・ドラノブ・シャンリー『戦略の経済学』ダイヤモンド社

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

・Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization* 4th ed, Addison-Wesley, 2004

授業の計画：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

1. ミクロ経済学の基礎（需要と供給，企業，ゲームと戦略）
2. 完全競争と独占
3. 寡占（寡占，カルテル，市場支配力）

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

4. 価格戦略と非価格戦略（価格差別，垂直統合，製品差別化）
5. 情報の経済学（情報の経済学，広告）
6. 参入と退出（参入退出，戦略的行動）
7. 技術戦略（研究開発，ネットワークと標準化）

〈研究会（4年）[99]〉

春学期は Reading List の輪読を行う。秋学期は卒業論文の中間報告を行う。

履修者へのコメント：

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

報告内容，議論への貢献で評価する。

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

三田祭報告論文で評価する。

〈研究会（4年）[99]〉

報告ならびに卒業論文で評価する

質問・相談：

クラスページを通じて，質問や相談に応じる。

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年

研究会（4年）[99学則] 通年

教授 北村 洋 基

授業科目の内容：

本研究会は，現代日本経済論が主たる対象範囲であるが，特に日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際，今日の日本経済ならびに産業構造を，一方では世界経済との関わりにおいて，他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて，位置づけ解明することに留意したい。

テキスト：

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研究会（4年）[99学則] 通年

教授 木村 福 成

授業科目の内容：

当研究会では，広く国際経済問題・開発経済問題を取り上げ，経済理論と実証研究の両面から学んでいく。

特に国際経済学や開発経済学の分野では，国際競争力，貿易・經常収支，幼稚産業保護，経済開発における政府の役割，途上国の経済主体の経済合理的行動などをめぐり，理論とアドホックな実証・政策論議との間の不整合が大きい。また，近年の企業活動の国際化に伴い，国際的な通商政策ルールと既存の国内経済政策体系との関係を抜本的に見直す必要性も生じてきている。現実経済の分析に役立つ理論はどれか，あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて，議論を深めていきたい。

本ゼミでは，春学期は国際経済学（特に国際貿易論）と開発経済学の基礎固め，秋学期はより進んだ文献講読と卒業論文の中間発表を行う。本ゼミで使用する教科書・専門論文のほとんどは，英語で書かれたものを使用する。卒業論文の多くは，何らかの統計データの分析を含む実証研究となっている。

知力・気力・体力に加え，企画力のある諸君の参加を期待する。

テキスト：

後日指定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

後日伝える。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年

研究会（4年）[99学則] 通年

准教授 神代 光 朗

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は，経済学（思想）史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は，19～20世紀のポーランドの社会経済思想，とりわけ，ポーランドの今日の社会経済的諸問題の原型が形成されてくる19～20世紀転換期の市場問題，農業問題，民族問題等と，ポーランドのポジティヴィズム，ナショナリズム，社会主義等の社会経済思想史的関連が中心であるが，研究会としては，ポーランドのみに限らず，ポーランドを含む中・東欧の近・現代史や今日の体制転換，中東欧のEU加盟にかかわるテーマについても，広い意味で経済学史的な関心を持ち，歴史的な方法による研究を志す者の入会を認めている。また，より広く，経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めているが，担当者の専門領域が「経済学史Ⅰ」，「経済思想の歴史Ⅰ」であることから，私の指導範囲と入会者の希望を考慮して個別的に適否を検討する。当研究会の会員は是非，私の担当する「経済学史Ⅰ a, b」と「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b」を合わせて履修してほしい。今年から05学則対象者（3年）は a, b と

なるので、第3学年末には充分内容のある研究レポートを卒論の前段階として書くことを、単位取得の条件とする。

テキスト：

毎年、輪読用のテキストと、夏季合宿用のテキストを別々に、2～3の文献を討論・輪読のために準備するが、通常のテキストは4月の開講時に決める予定である。英文テキストを用いることもある。

参考書：

- ・A・スミス『国富論』（邦訳）
- ・K・マルクス『資本論』（邦訳）
- ・高島善哉『社会科学入門』岩波新書
- ・木戸・伊東（編）『東欧現代史』
- ・ベレント、ラーンキ『東欧経済史』中大出版
- ・キェニューヴィッチ『ポーランド史』恒文社
- ・阪東宏（編著）『ポーランド史論集』三省堂
- ・伊東・井内・中井（編）『ポーランド・ウクライナ・バルト史』
- ・南塚（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』
- ・小倉欣一（編）『近世ヨーロッパの東と西』山川出版
- ・白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』彩流社
- ・羽場・小森田・田中（編）『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店

授業の計画：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

春学期 a は、最初の1～2回を研究会の専門分野のイントロダクションにあて、3年生は6月一ぱいまで、共通テーマによる文献の輪読を行う。7月の2回は、3年生の卒業論文研究計画の提出と、それについての発表、討論・指導を行う。研究計画提出は義務である。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

秋学期 b は、3年生はほぼ10月中か11月の第一週までを、文献の輪読・討論にあて、11月から1月までを、a においてたてた研究計画にもとづく、中間発表期間とする。発表の際にレポートを出すことはいうまでもなく、1月最後の研究会で、第3学年単位取得の条件となるレポート（卒論の前段階）提出を義務とする。

<研究会（4年）[99]>

4年生は春学期に、3年生とともに輪読・討論に参加することは当然のことであるが、主として6月より7月までは卒業論文の中間発表を行い、また、夏季休暇中の研究計画をたてる。秋学期は、10月下旬より卒業論文の最終報告を行い、1月に最終チェック、提出となる。全体として、輪読と卒業論文発表を、ほぼ半分づつのスケジュールで行う。

履修者へのコメント：

通年半期制への移行に伴い、05学則の新3年生は、卒論合格で12単位となる。そのため、3年生の終了時に厳格にレポート審査を行う。研究会の時間は、とにかく、学問に集中してほしい。無断欠席や報告担当の責任のなげは認められない。こうした場合は、事情により退会勧告もありうる。

成績評価方法：

<研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]>

3年生は、05学則者が多いと考えられるが、99学則者も05学則者も、卒業論文の計画提出や、日常の輪読・討論への参加状況、出席状況等をみて判定する。特に3年生の秋学期は、日常の研究会活動への参加状況の他に、中間発表と卒論の前段階としてのレポート提出を重視し、その内容により、学位取得の可否を決める。

<研究会（4年）[99]>

2007年度の4年生は99学則適用者であるが、日常の報告、卒論については年2回、特に、秋の最終報告は重要である。又、研究会は、本来、3, 4学年一緒に行うものである。輪読・討論への参加状況・出席状況も単位取得の条件として重要である。卒論さえ出せばいいということにはならないし又、発表なしの卒論提出は認めない。卒論はいうまでもなく、単位取得条件である。

質問・相談：

研究会の中での質疑において、質問の相談に応じる。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 倉 沢 愛 子

授業科目の内容：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

開発とその結果生じた社会変容、さらに民主化の波に揺れる東

南アジア社会を総合的に研究する。開発論や、政策論ではなく、そこにすむ人々の生活に焦点をあて、生産活動、商業活動、浪費形態、居住環境、宗教、教育、保健衛生、移動などの問題を考える。3年生の夏にインドネシアへ10日ないし二週間程度の研修旅行を行い、ジャカルタの低所得者居住区と、バリ島の、まだ観光化されていない伝統的な村にホームステイする。

3年生の研修旅行前の前期の授業は、研修旅行に際して必要な基本的知識の習得とインドネシア理解に力点を置く。その間に自分の関心テーマを見つけ、研修の際にはその関心に沿って見学先や訪問先を決める。

この年度の研修テーマを何にするかは、前期の研究会の授業の中で全員でディスカッションしながら決定する。単なる旅行ではなくそのテーマに沿って研修計画を立案する。

なお、研究会に参加を希望する学生は、平行して火曜日二限（予定）の「アジア社会史」の受講と、日吉並びに三田で開講されている「インドネシア語」の受講を義務付ける。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

研修旅行の成果を全員で話し合うとともに分担を決めて報告書の内容を作成し、三田祭のころをメドに100ページ程度の冊子を完成させる。それと平行して4年生で執筆する卒論のテーマの選定を開始する。研修旅行で見聞したインドネシア社会の諸問題に題材をとることとし、できうる限り現地でフィールド調査（調査票とインタビュー）を行って書く。ゼミ生全員での合同論文の執筆を原則としている。そのためにもどのようなトピックをとりあげたいかをこの時期に検討する。トピックの選定のために必要な文献探しや先行研究状況の把握をし、各自が発表する。トピックが決まった段階でそれに関する基礎的な文献を幅広く読む作業を開始する。

<研究会（4年）[99]>

フィールド調査を行い、ゼミ生全員が合同でひとつの卒論を制作するが、その目的はフィールド調査の方法を学ぶとともに、共同で1つのもを制作することを通じてチームワークを身につけることを学ぶことである。しかしながら論文は基本的にフィールド調査のみならず、文献からの知識や知見をも基礎にして書くことをめざすため、先ず十分な文献調査を行う。ただし文献の探索とその読破作業は3年生まででできるだけ終了させ、4年生前期は、就職活動と平行させながら、調査票の作成にとりかかる。調査は対面形式で、口頭で質問することを原則とするが、インドネシア語能力の限界などを考慮し、また各ゼミ生による質問内容を画一化させるために、調査票を使用する。そして前期はこの調査票の作成に時間をかける。その際にどのような属性の人を何名選んで話を聞くかをまず定める。そして、解明しようと思っている問題について、限られた原語能力でできるだけ正確な、本音に近い回答を短い表現で聞きだすためにもっとも有効な質問表現を探し出す。

夏休みに再びインドネシアへ赴き、この質問票を使ったフィールド調査を10日程度行う。（調査には倉沢も同行する）やむをえない理由でフィールド調査に行けない場合には、少なくとも調査票作成に参加したり、日本在住のインドネシア人とのインタビューなどに参加する。調査許可取得の制約や、応援体勢の充実などを考え、原則として調査地は、例年同じジャカルタの1つの町内会を対象としている。（前年度のホームステイ地域）

秋学期には調査の成果を全員で集計して共有し、論文執筆にとりかかる。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年

教授 グレーヴァ 香子

授業科目の内容：

<研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]>

ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、理解するのみならず、他の人に説明できるようにする。

<研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]>

引き続き、ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、自分でも簡単な研究を始められるようにする。

<研究会（4年）[99]>

ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、卒

業論文をまとめる。

テキスト：

〈研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]〉

最初の授業の日までに指定する。

参考書：

〈研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]〉

サブゼミで必要に応じた書籍を指定する。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストを輪読する。前期は特にレジュメの作り方, 理論的発表のしかたについても学ぶ。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

引き続き, ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。1月に担当者と個人的に面談し, 卒論のテーマを決め, 研究計画を立てる。

〈研究会 (4年) [99]〉

ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。また, 夏合宿にて卒業論文の中間報告, 12月に卒業論文の3/4報告を行い, 完成へと持って行く。

成績評価方法：

・平常点

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 駒形哲哉

授業科目の内容：

中国の動向は周知のとおり, 世界の経済と安全保障に大きなインパクトを及ぼすようになっており, 中国はもはや単なる好き嫌いで済まされる対象ではない。ただし, 中国が国際社会でとる行動を理解するには, その政治経済体制や国土の大きさ, 多様性がもたらす様々な背景を, 歴史的過程も踏まえて理解する必要がある, 相応の訓練を要する。

当研究会の目標は「中国通」の養成ではない。現代中国経済を題材に, 現実を理解し, その理論を論理的に把握したうえで, 次にその論理を的確に表現する訓練を行うという, 大学でなければできない能力形成を目指している。

テキスト：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

牧野文夫, 南亮進 (編) 『中国経済入門』 (日本評論社) をまず精読する。

参考書：

研究テーマごとに必要に応じて適宜紹介する。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

基本文献の輪読とビデオ学習により現代中国経済と周辺状況の基礎的理解をかため, 考え方を学ぶ。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

夏合宿までに選択した研究テーマにもとづき, 個人研究報告を行い, 期末に卒論の前段階となる「プレ卒論」を提出する。

〈研究会 (4年) [99]〉

春学期は3年生の文献輪読・報告を指導するのと並行して, 卒論の準備を進め, 夏合宿から卒論報告を繰り返し, 卒論を仕上げる。

成績評価方法：

セット履修科目であるため通年で評価する。評価は研究会活動への参加の度合い, プレ卒論・卒論の出来具合によって決定する。

質問・相談：

個別に随時応じる。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 駒村康平

授業科目の内容：

本研究会は, 社会政策, 社会保障制度に関する研究を行う。日本社会は, すでに人口減少・高齢化社会に突入し, 年金, 医療, 介護, 生活保護, 福祉 (児童福祉, 障害者福祉および関連制度), 労働保険といった分野での改革が集中的に行われている。

本研究会では, 上記の課題について, 受講者の関心に応じて, 1) 社会保障制度研究チーム, 2) 社会・経済システム研究チーム (人口, 労働, 地域福祉, NPO など社会保障制度と密接に関わる分野に関する研究), 3) 公民連携研究 (企業年金, 医療・保健ビジネスなど公と民の新しい連携分野に関する研究) チームに分けて, 研究を進める。また, 夏期合宿や他大学との討論会・共同研究会などを行いたい。

テキスト：

開講時に指定する。

参考書：

- ・駒村康平 (最新改訂版) 『福祉の総合政策』 創成社
- ・国立社会保障・人口問題研究所 (編) 『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』 東大出版会, 2005年
- ・城戸喜子, 駒村康平 (編) 『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』 慶應義塾大学出版会, 2005年

授業の計画：

春学期：各自の関心テーマにそった予備研究, 夏期報告会

秋学期：報告会, 討論会など

履修者へのコメント：

受講者が自ら問題意識を持ち, 主体的・積極的に研究会に参加することを求めます。

成績評価方法：

平常点・出席, レポート・論文による。

質問・相談：

オフィスアワーを中心に随時。事前にメールにて調整

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 小室正紀

授業科目の内容：

日本の経済思想の歴史を中心として, それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は, 各自の論文作成の過程を通じて, 社会科学における歴史的な考え方と, その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では, 春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し, また秋学期には専門研究書を取り上げ, これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に, 指定した基本的文献の読書報告を求める。論文作成については, 研究の技術的な方法については講義をし, また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し, 文献探索・研究史の整理を行い, 関連史料を捜し, 秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお, 私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが, 経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり, 履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由なく欠席をしたり, 発表やレポートの提出を怠った場合には, その後の履修を認めない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (出席状況による評価)
- ・その他 (卒業論文)

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが, それ以外でも, 随時, 質問・相談に応じる。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 櫻川 昌哉

授業科目の内容：

〈研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]〉

春は、教科書を指定して、ゼミ生が順番に発表する。秋は三田祭・インターカレッジの発表会に向けて論文を作成する。

〈研究会 (4年) [99]〉

春は就職活動のため自由参加。秋は卒業論文の作成と発表

テキスト：

・D. ローマー『上級マクロ経済学』日本評論社

参考書：

・W. バンスタイン『豊かさの誕生』日本経済新聞社
他、良書に親しんでもらう。

授業の計画：

未定

履修者へのコメント：

本を多く読んでもらいたい。

成績評価方法：

〈研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]〉

・ゼミでの態度、発表の上手さ

〈研究会 (4年) [99]〉

・卒論の内容

質問・相談：

ゼミ中

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 塩澤 修平

授業科目の内容：

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

テキスト：

授業中に配布する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

授業の計画：

- 1～4. 指定テキスト購読
- 5～11. パート別論文報告
12. 13. 個別研究報告

履修者へのコメント：

積極的な参加意欲をもつ学生を対象とする。無断欠席は厳禁である。

成績評価方法：

・提出レポート、報告、授業態度ならびに卒業論文

研究会 (4年) [99学則] 通年

名誉教授 島田 晴雄

授業科目の内容：

私の研究会では日本の経済や経営の直面している問題をひろく国際経済社会の脈絡の中でとらえ、その課題を実証的に分析し、政策的合意を検討する事に主眼をおいて研究活動を行う。

多様で複雑に関連しあった問題群の分析を効果的に進めるため以下のような方式で研究を進める。まず分析の視点に即して、以下の5つのパートを組織し、各々専門研究を深めるとともにその過程で研

究成果を逐次報告し、相互に切磋琢磨をはかり、かつ相互の協力と情報の共有を進めることで研究活動全体の集積・相乗効果を生かす。

1. 労働経済
2. マクロ経済の理論と政策
3. 国際経営
4. 国際政治経済システム
5. 環境政策

各パートは一定の理論枠組にもとづいて恒常的に観察事実を収集・整理し、そして体系的に集積するとともに、毎年、各々特定のプロジェクトを編成して研究を行う。

また、本年度より2ないし3年間の期間、日本経済の構造改革と人々の生活の質の向上をめざし、新しい生活産業創出のための活動を、日本の主要企業グループと多くの地域企業が連鎖するコンソーシアムをつうじて展開する。興味ある学生諸君にはそうした現実の新規事業創出の努力に参加して多くを学ぶ機会も提供される。

一方、夏には、韓国、台湾など隣国の学生諸君との学術討論会をソウルで行う予定であり、そのために、eメールをつうじての相互に準備と学習を行う。

さらに、毎年特定の共通な政策問題を選定して、ディベートイングコンテストを行う。

以上のようなさまざまな研究活動をつうじて、問題の発見、仮説の設定から分析、発表、そして討論を含む一連の実証研究の力を磨く事に努める。

テキスト：

適宜選定し、多数の文献を読む。

参考書：

適宜選定し、多数の文献を読む。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 清水 透

授業科目の内容：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

- ① ラテンアメリカ研究を素材として、わが国における社会史研究の現状と問題点を学ぶ。
- ② 論文の読解と報告をつうじて、論文の読み取り方、レジュメ作成の技法等について学ぶ。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

卒業論文の作成へ向けて、各自が個別研究を行う。したがって、研究会は、個別報告と集団討論が中心となる。

〈研究会 (4年) [99]〉

- ① 論文作成の個別指導
- ② 成果の中間報告と集団討論

テキスト：

適宜指示する。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

- 1) 歴史学における社会史 (講義)
- 2) フィールドワークとオーラル・ヒストリーの可能性 (講義)
- 3) 卒論テーマについての報告
- 4) 文献の輪読
- 5) レポート提出 (6月30日)
- 6) 夏合宿 (提出レポートを基礎とする報告)

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

- 1) 文献の輪読
- 2) 卒論テーマについての報告・集団討論
- 3) レポート提出 (締切3月31日, 8000字)

〈研究会 (4年) [99]〉

- 1) 前年度末提出レポートを基礎とする報告と集団討論
- 2) レポート提出 (6月30日)
- 3) 夏合宿 (提出レポートを基礎とする報告)
- 4) 論文執筆
- 5) 卒論仮提出 (11月1日)
- 6) 個別指導
- 7) 卒論締切 (12月31日)

履修者へのコメント：

定期的な報告、レポート、合宿参加等、研究会の義務を果たせな

いは、自動的に参加資格を失う点、十分認識しておくこと。各自のテーマは、社会史の枠内である限り、時代・地域を問わない。これまでのゼミ生の卒論テーマについては、研究会ホームページ参照。新4年からの入ゼミも可。

成績評価方法：

<研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

・レポートおよび平常点

<研究会 (4年) [99]>

・レポートおよび卒論の評価

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 清水 雅彦

授業科目の内容：

本年度は履修者として4年生のみを対象とし、主に卒業論文の研究指導を行う。研究会における4年生の課題は、これまで学習してきた経済学と現実経済に対する認識に基づいて、卒業論文で取り上げる分析テーマを選択することである。分析テーマが決まった段階で、分析に必要な専門的知識に関する文献リストを作成し、各自で文献を精読する。なお、春学期前半(5月半ばまで)は、現実の日本経済に関わる制度・政策について講義する。春学期後半から夏合宿までには、各自が選択した卒業論文の分析テーマについて発表し、全員で討議する。秋学期からは、分析結果に関する中間発表を行い、12月19日(水)までに卒業論文をまとめる。

テキスト：

春学期前半の講義については、講義時に参考文献を紹介する。本年度は4年生の卒業論文研究が中心となるので、共通のテキストは指定しない。

参考書：

適宜、授業時間中に参照すべき参考書あるいは参考文献を指示する。

授業の計画：

上記「授業科目の内容」の通りであるが、本研究会では必要に応じて討論のテーマに即した講義を行う。

履修者へのコメント：

4年生の研究会は、上述のように卒業論文の研究に取り組むことが中心となる。したがって、経済分析に関心がなく自発的な学習意欲に欠ける者は、最初から履修(参加)すべきではない。

成績評価方法：

4年生のみの研究会であることから、成績は卒業論文における分析結果の内容によって評価する。

質問・相談：

研究会(授業)時間の終了後に、適宜受け付ける。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 白井 義昌

授業科目の内容：

<研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

3年次に学術論文の読解・発表そして共同研究を行っていくことにより卒業論文作成に必要なリサーチスキルを身につける。国際経済学の研究トピックスを扱う。

<研究会 (4年) [99]>

3年次の準備の下に卒論作成を行う。

授業の計画：

<研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]>

研究論文輪読(発表, レポート) (4回)

共同研究 プレリサーチ (1回)

研究論文輪読(発表, レポート) (4回)

共同研究テーマと研究計画立案 (4回)

<研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]>

共同研究 研究計画修正 (2回)

研究論文輪読(発表, レポート) (4回)

共同研究 中間報告 (4回)

共同研究 最終報告 (1回)

卒論プレリサーチ (3回)

<研究会 (4年) [99]>

4~5月 研究計画実行報告書提出(毎週)

6~7月 卒論中間発表

研究計画建てなおしと夏休み研究計画書提出

9月 合宿での中間報告

研究計画建てなおしと秋学期研究計画書提出

10~11月 研究計画実行

12月 卒論発表

1月 卒論提出

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 杉浦 章介

授業科目の内容：

杉浦担当の基本科目「経済地理」の履修を前提に、経済地理学の基礎と応用を学習する。ゼミにおいては現代経済の現実を空間的(地理的)視点から分析する能力を涵養するために、下記の教材を用いながら、それぞれのテーマを見出し、それについて分析調査を行い、さらにその結果について報告し、討議を行うこととしたい。

テキスト：

未定

参考書：

適宜紹介する。

授業の計画：

前期は、経済地理学の基本的文献を輪読するとともに、空間的データ処理の演習ならびにフィールドワークを行う。

後期は、三田祭発表にむけた共同研究(3年)、卒論研究(4年)を行う。

履修者へのコメント：

学生時代で最も勉強した、と後から言えるようにしてほしい。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

ゼミの時間中、適宜行う。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 杉山 伸也

授業科目の内容：

この研究会のおもな焦点は、第2次世界大戦までの、日本とアジアの経済史・経営史であるが、日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史、日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の最終目的は、大学生活の集大成として、卒論を完成させることにある。卒論では、原則として自分で課題を設定し、資料や研究文献をさがし、自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で、適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが、課題を十分にクリアできない場合は、退会してもらうこともある。3年生の段階では、経済史の基礎的な研究文献の講読と発表が中心となる。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 瀬古 美喜

授業科目の内容：

本研究会では、理論経済学、計量経済学、都市経済学、公共経済学について、ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には、理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め、併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には、より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は、1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

・瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

- 主な文献として、以下のようなものを挙げておく。
- ・ブランチャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社
- ・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, *Microeconomics*, Prentice Hall
- ・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社, 1998年
- ・藤田昌久, ポール・クルーグマン他 (小出訳)『空間経済学』東洋経済新報社, 2000年
- ・山田浩之(編)『交通混雑の経済分析』剋草書房, 2001年
- ・Robert W. Wassmer ed., *Readings in Urban Economics Issues and Public Policy*, Blackwell
- ・Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

授業の計画：

テキストの輪読、実際のデータを用いた実証分析、三田祭論文のグループでの作成、卒論執筆を、総合的に行います。

履修者へのコメント：

経済理論、現実の問題など、幅広い興味を持って、総合的な観点で学ぶことを、希望します。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度)

研究会a・b (3年) [05学則] 春・秋セット履修
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 高草木 光 一

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は 19世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。研究会の活動は、基礎的文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度)
- ・卒業論文

研究会a・b (3年) [05学則] 春・秋セット履修
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 高 梨 和 紘

授業科目の内容：

<研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]>

貿易、資本移動、技術移転など、国境を越えて生ずる経済現象を研究の対象にする。そのうち、先進工業諸国と発展途上諸国の間で生じている問題、たとえば発展途上国産の軽工業製品に対する先進工業諸国の市場開放問題、多国籍企業のもたらす問題、技術の選択や移転問題、債務累積問題、さらには援助の規模と質の検討などを取り上げる。しかしこれら国際面的問題は、発展途上諸国の経済構造やその変容のメカニズムの理解なしには解明されえない。そこで、発展途上諸国の国内経済分析と対外経済を並行して研究を進めていく。

<研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]>

春学期に学んだ知識を念頭に置き、複数の発展途上諸国の開発の実態を観察する。そこに理論と現実の違いを見出し、MDGs 達成のためのより効率よき開発援助政策のあり方を模索する。

<研究会 (4年) [99]>

授業内容は基本的には3年と同じであるが、秋学期に向けて、卒業論文制作の指導に重点を移してゆく。

テキスト：

- ・山形辰史・黒田卓『開発経済学』日本評論社, 2003年
- ・高梨和紘(編著)『開発経済学』慶應義塾大学出版会, 2005年

参考書：

- ・速水次次郎『開発経済学』創文社, 2000年

- ・高梨和紘(編著)『アフリカとアジア』慶應義塾大学出版会, 2006年

授業の計画：

<研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]>

テキスト、国際機関の報告書を中心にデスクワークを13回に分けて行う。

<研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]>

複数ケーススタディーを材料として開発政策の具体的検討を13回にわたって進める。

<研究会 (4年) [99]>

春学期は3年と同じ。秋学期は卒業論文に関係する論文、文献、各種資料を用いて作業を進める。

履修者へのコメント：

理論と実践の両面に積極的な関心を抱いてほしい。

成績評価方法：

<研究会a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

- ・平常点
- <研究会 (4年) [99]>
- ・平常点
- ・卒業論文

研究会a・b (3年) [05学則] 春・秋セット履修
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 竹 森 俊 平

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行う。本年用いるテキスト等は第1回研究会の際に指定する。

研究会a・b (3年) [05学則] 春・秋セット履修
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 武 山 政 直

授業科目の内容：

<研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]>

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を学びます。特に、都市のフィールドワークや社会調査に基づく消費行動の分析と、問題発見のための発想法や概念構築メソッドを実践的に学習します。

<研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]>

都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、商業施設や文化・アメニティー施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略を立案します。

<研究会 (4年) [99]>

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を用いて研究を行います。特に、都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、人々を都市に引き寄せる施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略へ応用を行います。

研究のスタイルとして、文献の読解をはじめ、現実の施設や都市のフィールドワークを実施することで概念的な知識と感覚的・体験的な知識との相互補完的な理解を促進します。

授業の計画：

<研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]>

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク

<研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]>

場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案。

<研究会 (4年) [99]>

本年度は下記のテーマを中心に研究活動を進めます。

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析

- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク手法の開発
- 4) 場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案
- 5) 施設や都市空間に関連するイメージや意識の調査
- 6) 映像地誌の編集

成績評価方法：

・平常点

研究会 a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 田 中 辰 雄

授業科目の内容：

情報通信産業を主として実証的に分析する。情報通信産業とは、狭い意味では、情報（技術、知識、映画音楽などコンテンツ）と、それを処理し通信する機器（コンピュータ、インターネット、携帯電話など）からなり、広い意味では情報通信技術を利用する経済活動（企業の情報投資、電子取引など）からなっている。この分野はインターネットの急成長、企業取引の電子化、ブロードバンドの普及、情報家電など急激な変化が続いている分野である。ここ 10 年の日本経済衰退の一因は IT 産業にあったが、次第に日本経済でも IT 化が進み、携帯電話・ブロードバンド・情報家電などでは世界のトップランナーになりつつある。

経済理論の面から見ると、IT 産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用通減が起りやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象がここ数年であるためデータが取りにくく、まだ十分にされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットや携帯電話、パソコン、映画・音楽・ゲーム・アニメなどのコンテンツ等に関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出かけたり、web 上の資料から自分で集めるなどの作業が必要となる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は三田で計量経済学 I の講義を受講することが望ましい。

研究会 a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 玉 田 康 成

授業科目の内容：

本研究会では理論経済学、特にミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学（人的資源管理）などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしていきたい。

テキスト：

授業にて指示する。

参考書：

授業にて指示する。

授業の計画：

<研究会 a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

本ゼミでは、教科書もちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3年生はサブゼミとパートゼミに参加する。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設け

る予定である。

<研究会 (4年) [99]>

本ゼミでは、教科書もちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、4年生は1年を通じて卒論を作成する。卒論は、研究会に参加したことから得た経済学の知識と自らの具体的な関心を1つの構築物として作成するものであり、研究会活動の目標と位置づけられる。テーマ選びの自由度は高いが、研究会を通じて獲得した経済理論の知識の発揮が求められる。

履修者へのコメント：

<研究会 a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

日吉のミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の内容は踏襲する。また、適宜、必要な授業の履修を要求する。

<研究会 (4年) [99]>

適宜、必要な授業の履修を要求する。

成績評価方法：

<研究会 a, b (3年) [05] / 研究会 (3年) (春, 秋) [99]>

本ゼミでのプレゼンテーションと宿題、三田祭論文などを通じて総合的に判断する。

<研究会 (4年) [99]>

本ゼミでのプレゼンテーションと卒業論文などを通じて総合的に判断する。

質問・相談：

特に制限を設けず、自由に質問を受け付ける。

研究会 a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀初頭のロシアの社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史の研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族」、「共同体」、「土地」、「人口」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「人口」、「エネルギー源」、「植民と移民」、「宗教」、「農民運動」、「社会主義」、「労働運動と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（三田祭論文と卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

適宜紹介する。

履修者へのコメント：

経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有することと、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

成績評価方法：

・三田祭論文

- ・卒業論文
- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
教授 辻村和佑

授業科目の内容：

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものであれば上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
准教授 津曲正俊

授業科目の内容：

経済分析の道具である「経済理論」をじっくり学び習得することが、当研究会の一番の目標である。特に本年度は、ゲーム理論、契約理論、情報の経済学などマイクロ経済学の比較的新しい内容についてしっかり学ぶことに重点をおきたい。これら分野は、現実の経済問題の分析に幅広く応用されているが、特に経済が機能する基盤である「制度」の分析に大きな威力を発揮している。それは金融制度・税制度といった経済制度のみならず、政治制度、法制度など社会のあらゆる制度の意義を分析するためにも活用されている。現実の問題が、しばしば「制度」の問題として認識されている状況で、これらの分析手法の基礎をしっかりと身につけることは、社会の多くの問題の本質を見抜くためにきわめて有用である。研究会では、これらの分野を解説するテキストを読み議論することで理論的なベースを確実にすることをまず目指したい。また理論の現実の経済問題分析への応用の場としてパートごとの共同研究を推進する予定である。同時に、卒業論文執筆のための準備をしてもらう。

テキスト：

最初の授業で指示する。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年
教授 津谷典子

授業科目の内容：

本研究会は、人口学の主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使っての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。3年生時の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。3年生時の秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行い、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。4年生時は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行い、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内およびゼミ合宿にて行う。

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年
教授 寺出道雄

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくても、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかまわない。

①文献の輪読、②幾つかのグループに分かれての共同研究、③何回かのディベート等を行う。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会a・b（3年）[05学則] 春・秋セット履修
研究会（3年）[99学則] 通年
研究会（4年）[99学則] 通年
准教授 土居丈朗

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学 (political economy)」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なマイクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因（目的や選好）よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的（関数）を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度（予算配分の権限や決め方など）が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、数人のゼミ員に事前に与えられた課題について発表してもらい、それに基づいて皆で議論をしながら進めます。また、経済分析に不慣れな3年生のために、分析方法などを必要に応じて指導します。分析手法は、マイクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

サブゼミ、パートゼミなどの進め方については、ゼミ員と相談して決める予定です。

テキスト：

研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

- ・土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社
- ・井堀利宏・土居丈朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社
- ・土居丈朗『経済政策Ⅱ 財政金融政策』日本放送出版協会
- その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年

研究会（4年）[99学則] 通年

教授 中澤敏明

授業科目の内容：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

産業組織論の基礎を学習します。コーポレート・ガバナンス・競争政策の分析・個別市場についての分析などから、学生の興味も斟酌しながらテーマをきめ、参考書を選んで輪読します。

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

共同研究を2グループ程度に分かれて行います。春学期終盤から、グループ研究のテーマを履修生に自発的に決めてもらい、そのための基礎となる準備的学習・中間発表を通ずる改善・最終的発表のプロセスを追いつつ完成します。

〈研究会（4年）[99]〉

秋学期から本格化する卒論作成を視野におきながら、輪読や個別発表を行います。春学期は、昨年度からの延長として、電力市場についての研究を行いますが、競争政策についての理論や実証分析についての英語文献などに挑戦してもらいたいと考えています。秋学期は、中間発表が2回くらいおわた段階で、輪読にもどる予定です。

テキスト：

年度はじめに、下記のもの他オプションを提示し決めます。

参考書：

・S. Martin *Advanced Industrial Organization*, Blackwell

・M. Motta *Competition Policy*, Cambridge

・金子晃他（編）『企業とフェアネス』信山社

授業の計画：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

学生に自主性を活かした運営となり、講義形式ではありません。輪読では、1回の発表で1章程度進むのが普通のペースになります。学生に現実の新しい経済事象に興味をもってもらうために、〈今日の話題〉と称して、学生が興味をもったものについて調べ発表する場を設けています。これを卒論につなげる例もあります。

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

共同研究の進行に応じて発表をしてもらい、適宜指導します。

〈研究会（4年）[99]〉

研究会は時間割と関係なく、3年・4年が毎週2時限をシェアする形で行い、別個の分かれたものではありません。形式は、3年生に異なりません。卒論作成は、テーマ発表が1回、中間発表が2～3回になります。

履修者へのコメント：

産業組織論の履修を義務付けています。この単位をとれていることが、卒論提出の条件です。計量経済学の履修を勧めます。

成績評価方法：

〈研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]〉

研究会への貢献（本ゼミ・サブゼミ・夏季合宿・共同研究）を見て平常点でつけます。

〈研究会（4年）[99]〉

半分は、3年と同じく、研究会への貢献を平常点でつけます。残りの半分を、卒論の質でつけます。

質問・相談：

口頭であれメールであれ、質問は歓迎することはいうまでもないことです。

研究会a・b（3年）[05学則]

春・秋セット履修

研究会（3年）[99学則] 通年

研究会（4年）[99学則] 通年

准教授 中妻照雄

授業科目の内容：

ファイナンスは金融市場における資金の調達と運用に関する様々な問題を解決するための手法を学ぶ学問です。例として金融市場で資金を調達する側である企業と資金を運用する側である投資家の直面する問題を考えましょう。企業にとって投資する事業（工場・店

舗の建設、企業の買収・合併など）の決定とそのため資金調達手段（増資、起債など）の選択は極めて重要な問題です。事業の収益とリスクは投資を正当化できるものであるか、資金調達のために如何なる手段を用いるべきかなどの様々な問題に対処する方法が研究者や実務家の間で考えられてきました。これを体系的に研究する学問分野をコーポレート・ファイナンスと呼びます。一方、投資家が資金の運用を行う際には、どの企業の株式や債券をいくら購入すべきか、資産の購入価格は妥当であるか、資産保有に伴うリスクは許容範囲にあるかなどの問題に対処しなければなりません。つまり投資家は収益とリスクのバランスを考慮しつつ保有する資産の構成を決定するという問題に直面していることとなります。この資産構成の決定方法の研究もファイナンスの主要な分野となっています。さらに近年ファイナンス理論の応用範囲は保険、年金、不動産などへと拡大しており、その重要性は益々高まっています。中妻研究会はファイナンスの理論とその応用を学ぶことを目的にしています。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

参考書のリストは研究会の中で随時配布します。

授業の計画：

〈研究会a（3年）[05] / 研究会（3年）（春）[99]〉

本ゼミ

(1) 経済金融関連の時事問題を討論する。

(2) MATLABを使ったファイナンスにおける数値計算法を学ぶ。

サブゼミ

ファイナンスに関する演習を行い、ファイナンス理論の理解を深める。

パートゼミ

三田祭発表に向けて各パートの専門分野の学習を進める。そして、三田祭発表の研究テーマを決める。

夏合宿

三田祭発表の中間報告を行い、今後の方向性を決める。

〈研究会b（3年）[05] / 研究会（3年）（秋）[99]〉

本ゼミ

(1) 経済金融関連の時事問題を討論する。

(2) MATLABを使ったファイナンスにおける数値計算法を学ぶ。

サブゼミ

ファイナンスに関する演習を行い、ファイナンス理論の理解を深める。

パートゼミ

三田祭発表の研究を進め、報告の準備、論文の執筆、最終報告を行う。

〈研究会（4年）[99]〉

本ゼミ、サブゼミ、パートゼミで3年生を指導しながら、卒業研究を行い論文にまとめる。

履修者へのコメント：

中妻研究会は初めてファイナンスを学ぶことを前提に進めていきますので安心してください。また、研究会の中だけでファイナンスに関する必要な知識を全て学ぶことは不可能です。可能な限り金融関連科目—金融論、国際金融論、企業金融論、ファイナンス入門

計量経済学関連科目—計量経済学Ⅰ、計量経済学Ⅱ、時系列分析、ベイズ統計学

確率論関連科目—確率・統計、数理経済学特論Ⅱ [確率論]

などを平行して履修するようにしましょう。

成績評価方法：

〈研究会a, b（3年）[05] / 研究会（3年）（春, 秋）[99]〉

・レポートによる評価

三田祭発表論文の完成度で学習の成果を評価します。

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。

〈研究会（4年）[99]〉

・レポートによる評価

卒業研究論文の完成度で学習の成果を評価します。

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 中村 慎助

授業科目の内容：

本研究会においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 中山 幹夫

授業科目の内容：

ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公刊によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、特にマイクロ分析のための強力な道具となっている。

また、特に近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチューリング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。

ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩づつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもってすることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。

報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：

テキストとしては、中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年を使用する

参考書：

- 参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。
- Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
- Gibbons (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年
- 岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年
- 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣、1997年
- 梶井厚志・松井彰彦『マイクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社、2000年
- 中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣、2000年
- 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001年

履修者へのコメント：

報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。

成績評価方法：

- 平常点（出席状況および授業態度）
- 授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：

随時。メールも可。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 延 近 充

授業科目の内容：

1980年代末以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るといった世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。

本研究会の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を基軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題を含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。

テキスト：

- 井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 長谷川 淳一

授業科目の内容：

イギリス現代史（特に戦後史）と日本の戦後史（特に都市史）を中心に学んでいく。4年次での卒論の作成が最終的な課題となるが、3年次には、その準備作業として、春（6月）、夏（9月）、三田祭の3回の論文（各々12,000字以上）が必須の課題として課せられる。

テキスト：

最初の授業で指定する。

参考書：

適宜、紹介する。

成績評価方法：

- 平常点（出席状況および授業態度）
- レポート（3年次は、上記授業科目の内容に示した、春、夏、三田祭の3回の論文）

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

准教授 藤 田 康 範

授業科目の内容：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

本研究会は、経済政策・応用経済理論を研究分野としています。春学期は、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うことを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

私を含めて様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

秋学期は、経済理論の活用方法を身につけることを主な目標とします。論文執筆に取り組むことを通じ、知的生産の楽しさを実感していただこうと思っています。学生一人ひとりが新たな才能を発掘して自覚すると同時に、相互に良い刺激を与えて「自他共栄」関係を構築していただけたらと考えています。

〈研究会 (4年) [99]〉

4年生は、これまでの研究を踏まえ、ビジネスや政策の「設計

図」を描けるようになることを主な目標とします。大学生活の最後の1年間を充実させ、経済学的な考えを血肉化し、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと思います。

テキスト：

- ・小宮山宏・松島克守『動け！日本』日経BP
- ・松島克守『MOTの経営学』日経BP 等

参考書：

- ・Besanko D., D. Dranove and M. Shanley, *Economics of Strategy*, 2nd Edition Wiley, 1999 等

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する (5回)
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を身につける (6回)
4. まとめ

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む (5回)
3. 三田祭論文の中間報告および最終報告 (6回)
4. まとめ

〈研究会 (4年) [99]〉

春学期

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する (5回)
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を確認する (6回)
4. まとめ

秋学期

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む (5回)
3. 卒業論文の中間報告および最終報告 (6回)
4. まとめ

履修者へのコメント：

学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思います。

成績評価方法：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

平常点に基づいて成績評価を行います。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

平常点および三田祭論文に基づいて成績評価を行います。

〈研究会 (4年) [99]〉

平常点および卒業論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

随時受け付けます。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

教授 古田 和子

授業科目の内容：

アジアは近年、急速な変化を遂げつつある。そうした現在のアジアを理解するためにも、アジア諸地域の経済的な変容過程を長いタイム・スパンのなかで歴史的に解明する必要性はさらに高まっているといえよう。本研究会では、19世紀後半から20世紀前半の時期を中心とした近代におけるアジア経済史の研究を行う。

取り上げるテーマは、1) 近代東アジア・東南アジアにおける社会経済の変容過程、2) アジア域内における国際経済関係や国際分業体制、国境を超えたヒト、モノ、カネ、情報の移動、3) アジア史研究の方法論などである。

テキスト：

古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会、2000年

杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年

参考書：

授業のなかで詳しく紹介します。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

アジア経済史に関する基本文献を読みながら、そのディスカッ

ションを通して、アジア経済史研究の基本的な枠組みおよび学会における研究動向をゼミのメンバー全員が共有することを目的とした。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

秋学期には、春学期に議論したアジア経済史に関する基本文献を踏まえて、特定のテーマに関してより専門的な検討を行う。秋学期の課題は以下の二つである。

- 1) 共同研究報告書の作成
- 2) 個人研究テーマの設定

1) は、秋の三田祭における共同研究発表に向けて各パートが夏季休暇中に進めて来た研究を相互に報告し、議論を重ねて、共同研究報告書にまとめる作業を行う。論文作成の基本的な作法と同時に口頭による研究報告の手法も習得してもらいたい。

2) は、4年次にまとめる卒業論文に向けて、各自が研究テーマを設定する作業である。卒論はテーマ設定が命である。自分は何ぞこのテーマを研究したいのか、このテーマに関して従来どのような研究成果があげられているのかを明確にして、各自の卒論研究に入ってもらいたい。

成績評価方法：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

平常点

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

レポートによる評価、平常点による評価

質問・相談：

随時

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 細田 衛士

授業科目の内容：

本研究会では、環境経済学、経済成長理論、所得分配理論などを中心とした研究を行う。主に、理論経済学的手法をもってこのような問題にとり組む。ここ数年、環境経済学に重点をおいているが、本年度もこの方針は変わらない。フィールド・ワークやプレゼンテーションも研究会の重要な要素となる。春学期では、主に環境経済学の基礎を修得し、秋学期ではマクロ経済学の基礎、ならびに現実経済への応用について学ぶ予定である。

テキスト：

・細田・横山『環境経済学』有斐閣

参考書：

ゼミの時間に逐次提示する。

授業の計画：

1. 今週のトピック (プレゼンテーション)
2. 卒業論文の中間発表
3. メインテキストの輪読

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 前多 康男

授業科目の内容：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

この研究会では、マクロ経済学、および、金融経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えていくことを目的とする。春学期は、テキストの輪読を行い、経済学の基礎を学習する。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

秋学期は、日経ストックリーグへの参加のための準備を行う。3年生をグループに分け、グループ毎に投資戦略についての討議を行う。

〈研究会 (4年) [99]〉

経済の諸問題に、既存の経済理論に捕われない自由な発想をもって、政策的な提言を行う卒業論文の作成を行う。作成過程についての報告を順次行い、討論を行う。

テキスト：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

最初の授業で指定する。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

使用しない。

参考書：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

最初の授業で指定する。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

使用しない。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

テキストの輪読を順次行う。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

グループ毎の発表を順次行う。

〈研究会 (4年) [99]〉

卒業論文の中間報告を順次行う。

履修者へのコメント：

自分で自ら学習する姿勢が大切である。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談：

Eメールで受け付ける。必要に応じて面談も行う。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 マッケンジー, コリン R.

授業科目の内容：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。今までのゼミでは規制緩和や構造改革について勉強してきた。2006年度春学期に取り上げるトピックは少子化と高齢化と社会保障制度であった。2007年度の春学期には今までと違って、まず、ミクロ経済学の復習 (特に、消費者の効用最大化問題、企業の費用最小化問題・利潤最大化問題と独占企業)、EViews 5.0の使い方と論文の書き方について輪読したり、コンピューター実習したりする。論文の書き方の材料として、4年生の提出した個人論文や数本の学術論文とする。春学期の後半はマッケンジーが紹介する英文文献を輪読する。このゼミの“輪読”とはただ文献 (または文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献・制度を紹介することになる。4年生と3年生を区別せずにゼミを行う。

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

秋学期には、三田祭論文 (3年生が中心)、個人論文 (3年生) と卒業論文 (4年生) について報告したり、議論したりする。計量の実習をゼミの一環としてやる。

テキスト：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

ミクロ経済学について

・Hirshleifer, J., A. Glazer and D. Hirshleifer [2005], *Price Theory and Applications; Decisions, Markets and Information*, Cambridge University Press, Cambridge

EViews について

・松浦克己・マッケンジー・コリン『EViewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005年

・滝川好夫・前田洋樹『EViewsで計量経済学入門』日本評論社, 2004年

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

特になし。

参考書：

特になし。

授業の計画：

〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉

第1回 マッケンジーゼミで何をやるか

第2回—第7回

ミクロ経済学の復習, 計量経済学の紹介, EViewsの使い方につ

いての紹介, 論文の書き方についての指導 (3・4年生)

第8回—第13回

英文文献の輪読 (3・4年生), 三田祭論文 (3年生) の概要説明

〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉

第1回—第6回

パワーポイントによるプレゼンテーション練習 (3・4年生) や

三田祭論文 (3年生) についての報告

第7回—第13回

個人論文 (3年生) についての報告, 卒業論文 (4年生) についての報告

履修者へのコメント：

ゼミ中, 携帯の使用と私語は禁止。実際の世界を分析することに興味がある方, マッケンジーゼミを是非検討してください。

成績評価方法：

[99学則の学生] 3・4年生

ゼミの成績は2年間のゼミ活動 (個人論文, 卒業論文, ゼミでの出席率・報告・議論の参加, ゼミへの熱意など) を総合的に判断・評価することによって決定する。個人論文・卒業論文の提出が遅れたり, 報告の日を無断欠席したり, 欠席が目立ったりする場合, 成績のペナルティーが必ず発生することに注意すべき。報告の日を無断欠席すると, 不合格の可能性が極めて高い。

[05学則の学生] 3年生

ゼミの成績は2007年度のゼミ活動 (個人論文, ゼミでの出席率・報告・議論の参加, ゼミへの熱意など) を総合的に判断・評価することによって決定する。個人論文の提出が遅れたり, 報告の日を無断欠席したり, 欠席が目立ったりする場合, 成績のペナルティーが必ず発生することに注意すべき。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 丸山 徹

授業科目の内容：

経済理論の基礎的学習。

研究会a・b (3年) [05学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年) [99学則] 通年

研究会 (4年) [99学則] 通年

准教授 宮内 環

授業科目の内容：

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在, その分析のために要請される理論構成, そして適切な分析方法の選択, さらにこうした「市場の数量分析」の意義について, 議論を集中して行う。今年度は市場の数量分析, および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に, 数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び, その研究報告も併せて行う。

テキスト：

研究会参加の学生諸君と相談の上決める。

参考書：

計量経済学的方法の基礎；

・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社, 1972年

・小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義；

・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社, 1998年

・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房, 1977年

・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書

計量経済学的方法論；

初級；

・Kennedy, P., *A Guide to Econometrics*, MIT Press, 1988

中級；

・Greene, W. H., *Econometric Analysis*, 3rd. ed., Prentice Hall, 1997

- ・ Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 3rd. ed., McGraw Hill, 1998 上級；
- ・ Griliches Z. and M.D. Intriligator eds, *Handbook of Econometrics*, vol.1-3, Essevier, 1994-96
- ・ Engle R. F. and D.L. McFadden eds, *Handbook of Econometrics*, vol. 4, 5, Essevier, 1994-98
- ・ Juud, K., *Numerical Methods in Economics*, MIT Press, 1998
- ・ White, H., *Estimation, Inference and Specification Analysis*, Cambridge University Press, 1996

履修者へのコメント：

履修者諸君は、当研究会活動を通じて、検証可能な仮説の設定と、当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という、科学の基本的な研究作法について学んでほしい。

成績評価方法：

成績の評価は研究会における報告と卒業論文とを勘案して行う。

質問・相談：

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 柳 沢 遊

授業科目の内容：

本研究会では、今年も20世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行う。今年度は、「20世紀の日本経済・日本社会」を年間テーマとし、1930～50年代の都市商店街の形成、戦争経験、戦後改革、都市型生活様式の普及、失業者の生活、中小商工業金融、高度経済成長の開始、受験体制のなかのこどもたちなどについて、1980～90年代の研究の到達点を把握し、論点を整理していきたい。使用する文献は、石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版、吉川洋『高度成長』読売新聞社。

卒業論文のテーマについては、20世紀の日本とアジア諸地域に関する内容である限り自由に設定しうるが、4年の学年末には400字で60～80枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト：

- ・ 石井寛治 (編) 『近代日本流通史』東京堂出版
- ・ 吉川洋 『高度成長』読売新聞社
- ・ 中村政則 『戦後史』岩波新書

参考書：

- ・ 大日方純夫・山田朗 (編) 『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店、2004年1月刊
- ・ 天野正子ほか (編) 『戦後経験を生きる』吉川弘文館、2003年12月刊
- ・ 大石嘉一郎 『日本資本主義百年の歩み』東京大学出版会、2005年10月刊

授業の計画：

- ・ 4～6月期はテキストの輪読を中心に、参加者のディスカッション能力を向上させる。
- ・ 7～10月期は、三田祭企画への取り組みを学生主導で行い、調査・研究手法を向上させる。
- ・ 10～1月期は、三田祭での研究発表をふまえて、各自卒業論文に取り組む。

履修者へのコメント：

毎回出席し、1つでいいから、疑問点を提出してください。他大学ゼミ (法政大学・埼玉大学など) との交流に意欲的に取り組んでください。1週間に1回は、図書館に入って、卒論にかかわる文献・資料を探索し、読みましょう。

成績評価方法：

- ・ 平常点 (出席状況および授業態度)
- ・ 卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか、柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を、同期生や先輩のはげましのなかで、書きあげて卒業しましょう。

質問・相談：

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は、できるだけ、質問や相談に応じるつもりです。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 矢 野 久

授業科目の内容：

- 〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉
春学期は社会史の基礎的文献を読む。日本語と英語文献を同時並行的に輪読形式で読む。研究会のメンバーの興味関心に応じて、総合テーマを決定し、それに関する文献に順次移行する。
- 〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉
秋学期は総合テーマに即した報告を中心に研究会を運営し、三田祭に際して発表するための論文作成を行う。
- 〈研究会 (4年) [99]〉
卒論の中間報告を中心にテュートリアル形式で行う。

研究会 (4年) [99学則] 通年

教授 矢 野 誠

授業科目の内容：

本ゼミナールは、公共経済学の理論の観点から政府の役割についての検討を行う。経済学では、どのような経済活動についても、そこから生み出される便益とそれを生み出すための費用との両面から考えるものである。これは政府の役割の経済学的分析についても同様で、政府が社会にもたらす便益と政府の活動から生み出される費用とを考えることができる。便益と費用の相対的サイズをどう評価するかで、それぞれの経済学者が望ましいと考える政府のサイズも異なってくる。こうした異なる考えかたの背後にある経済理論をばば広く検討しつつ、現代社会における政府の役割を議論していきたい。

経済学が分析対象とするのは、現実の経済におけるいろいろの現象である。これらの現象は複雑に絡み合い、ひとつの分野に完全に納まってしまうことは非常に少ない。したがって、本ゼミナールでは、公共経済学的トピックに中心課題をおきながら、その他いろいろの経済現象に対する理論的分析手法をさぐることも目的とされ、そのための数学的手法の学習にも重点がおかれる。

研究会a・b (3年) [05学則]
研究会 (3年) [99学則] 通年
研究会 (4年) [99学則] 通年

春・秋セット履修

教授 吉 野 直 行

授業科目の内容：

- 〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉
経済のさまざまな指標を見て、現実の経済の動きと経済理論の関係を勉強する。
- 〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉
データを集めた計量分析を金融・財政政策に応用し、具体的な計量手法を勉強する。
- 〈研究会 (4年) [99]〉
春学期は経済指標の分析力を高めること、いくつかのパートに分かれた実証分析を行う。
秋学期は各自が選んだテーマの卒業論文に向けた勉強を進める。

授業の計画：

- 〈研究会a (3年) [05] / 研究会 (3年) (春) [99]〉
毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期の輪読では、
(i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance)
(ii) 計量経済 (Econometrics, Stock and Watson)
(iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)
などを用いた基礎的な学習を行う。
- 〈研究会b (3年) [05] / 研究会 (3年) (秋) [99]〉
秋学期には、各パートに分かれて、計量分析手法を用いながら、三田祭論文を作成する。テーマとしては、(i) 日本の為替変動の現状とその要因分析、(ii) アジア各国の資金フローの変化とその要因分析、(iii) 資産価格の変動 (株価・地価の変動)、(iv) 財政赤

字の現状とマクロ経済効果、(v)日本の地域経済の動向と地域間格差などである。

〈研究会(4年)[99]〉

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期輪読では、

- (i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance)
- (ii) 計量経済 (Introduction to Econometrics, Stock and Watson)
- (iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに、各自の卒業論文のテーマに沿って、演習を行う。テーマとしては、(i)財務諸表による日米の銀行行動の比較、(ii)資金の地域配分と政治力、(iii)不動産証券化、(iv)金融政策の波及経路、(v)日米の株価の変動要因分析、(vi)銀行行動の計量分析などであり、卒業論文の進捗に応じて発表を行い、コメントを受けながら、論文を書き進める。

成績評価方法：

平常点と論文

質問・相談：

ゼミの中で質問を受け付ける。

研究会a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会(3年)[99学則] 通年
研究会(4年)[99学則] 通年

教授 山田 太門

授業科目の内容：

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う予定。予定人員は20名程度で応募者が多い場合には選考を行う。4年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研究会a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会(3年)[99学則] 通年
研究会(4年)[99学則] 通年

教授 若杉 隆平

授業科目の内容：

本研究会は国際貿易とイノベーションをテーマとする。イノベーションが生み出す国際貿易パターンの変化やグローバルな企業活動ネットワークの展開を理論面・実証面から分析すること、企業のイノベーションと知的財産権制度、競争政策、産業政策を理論的・実証的に分析することなど、国際貿易、投資、研究開発、イノベーション、法制度と政策にかかわる課題の中から、現実の経済現象に目を向けつつテーマを選び、経済分析を重ねてゆく。

春学期には国際貿易・技術革新の分野における基本的な文献に取り組み、基礎力を養う。秋学期には、3年生は、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を講読し、研究成果を中間報告する。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

研究会で用いるテキスト・文献は第1回研究会の時に紹介する。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度による評価)

研究会a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会(3年)[99学則] 通年
研究会(4年)[99学則] 通年

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の3者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できうる限り同時並行的に行いたい。

そのためにも、夏休みを中心とした3年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

研究プロジェクト

(誘導展開型)

三田開講

研究プロジェクトa(誘導展開型)[05学則](春学期) セット履修
研究プロジェクトb(誘導展開型)[05学則](秋学期)
研究プロジェクト(誘導展開型)[99学則](通年)

専任講師(有期) 河田 幸視

授業科目の内容：

「自然の利用について考える」

現在、手付かずの自然はほとんど存在せず、地球上のあらゆる場所に人間活動による何らかの影響が及んでいると言ってよいでしょう。本プロジェクトは、「自然の利用」という言葉を、こうした自然に影響を与える人間活動という広い意味で用いつつ、自然の利用のあり方について考察することを目的とします。

取り上げるテーマは、「自然の利用」に係わるものであるかぎり、各受講者の希望を尊重します。研究の実行可能性、予想される成果などに配慮しつつ、各参加者の研究テーマを決定したいと思います。想定されるテーマとしては、現在の私の関心から、観光と環境(エコ・ツーリズムなど)、野生動物と人間との係わり(野生動物との共存など)、自然資源利用の問題(乱獲問題など)を一応挙げておきますが、これら以外のものも歓迎いたします。例えば、グリーン・コンシューマー、企業の環境活動、その他諸々です。

研究方法は、実証的研究とします。その理由は、第1に、今回は初めての研究論文を短期間で執筆することになりますが、「自然の利用」というテーマでオリジナリティを有し、社会にとって意義がある論文を作成するには、実証的研究の方が確実であると考えられます。第2に、具体的な現場を深く研究してみることが、受講される方の今後のよい財産になると思うからです。実証的研究であるため、現場に赴いて、自分の足でデータや知見を集めたいという方が望ましいです。

受講にあたっては、通年に亘り、ある程度の時間を確保できるように留意してください。また、受講の決定に先立ち事前にお問い合わせをさせていただきたい場合は、電子メールなどで遠慮なくお知らせください。

授業の計画：

春学期

前半：テーマの決定と先行研究のレビュー

後半：研究方法の決定と実地調査の準備

夏休み：実地調査など

※夏休みに補講などを行うかについては、進捗及び受講者の希望に基づき決定します

秋学期

前半：実地調査にもとづく研究

中頃～：論文の執筆

研究プロジェクトa(誘導展開型)[05学則](春学期) セット履修
研究プロジェクトb(誘導展開型)[05学則](秋学期)
研究プロジェクト(誘導展開型)[99学則](通年)

教授 鈴木 晃仁

研究プロジェクトa[05] / 研究プロジェクト(春)[99]

授業科目の内容：

「医療と病気の近現代史」に関するテーマの中から、各人が興味がある主題を選び、研究する。

テキスト：

なし

参考書：

受講者の関心にあわせて選択し指示する。

授業の計画：

基本的な考え方を紹介したあと、受講者の関心にあわせた主題についての文献やデータを輪読・分析し、プロジェクト論文の主題を決定する。

成績評価方法：

研究プロジェクトの方法にしたがう。

質問・相談：

メール

研究プロジェクトb [05] / 研究プロジェクト (秋) [99]

授業科目の内容：

研究プロジェクトaをふまえて、受講者の研究報告を中心に授業を行う。

テキスト：

春学期参照

参考書：

なし

授業の計画：

受講者による研究報告と論文指導

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

研究プロジェクトa (誘導展開型) [05学則] (春学期) セット履修

研究プロジェクトb (誘導展開型) [05学則] (秋学期)

研究プロジェクト (誘導展開型) [99学則] (通年)

教授 バティエー, ロジャー M.

授業科目の内容：

This year I shall offer study courses based on my classes at Hiyoshi. Thus applicants can apply for either A) International Relations (Environment and Development) or B) Art & Fashion.

In A), we shall consider, depending upon student interest, various global problems, either from an international, regional, or national perspective. The object is to gain a thorough understanding of the way in which E&D issues, arise, are discussed, and are managed. Considerable research is required, plus some theoretical background.

In B) we shall consider either an artistic subject, or a fashion period/trend, or both jointly.

Research might have less role to play, but we shall attempt as rigorous a theoretical framework as possible.

テキスト：

TO BE ANNOUNCED IN CLASS

授業の計画：

Lessons will take the form of tutorials/guidance sessions, which will be conducted according to student demand. Very hard workers might expect to see me each week.

More likely, we shall meet every other week. I shall try to maximize individual tuition.

履修者へのコメント：

CONSIDERABLE SELF-MOTIVATION IS A REQUIREMENT.

成績評価方法：

・レポートによる評価

・I PREFER STUDENTS WHO WORK CONSISTENTLY, AND ARE ABLE TO PRODUCE WORK WEEK-BY-WEEK.

質問・相談：

I SHOULD BE AVAILABLE FOR E-MAIL/DISCUSSION, EVEN OUTSIDE THE CLASS.

日吉開講

研究プロジェクトa (誘導展開型) [05学則] (春学期) セット履修

研究プロジェクトb (誘導展開型) [05学則] (秋学期)

研究プロジェクト (誘導展開型) [99学則] (通年)

「これまでの都市」と「これからの都市」

准教授 長田 進

研究プロジェクト

授業科目の内容：

現代社会の特徴のひとつに都市化に関係した話題がある。都市化とは、産業革命による生産力の急速な増加に伴い、人口及び産業の集中がおこることで都市の成長が進展することである。都市化の度合いを示す指標として、総人口のうち都市部に居住する人口の占める割合を示した数値が広く用いられており、現代の先進国では7割から8割を占めている。

さて、現代の日本は国レベルで都市社会の時代を迎えているといえるが、都市に対する人口・産業の過度な集中は都市環境の悪化を招き、都市社会には取り組むべき各種問題がある。近年、新聞やTVで取り上げられる「中心市街地活性化」の問題はこの好例である。

この研究プロジェクトでは、過去に発生した都市問題についてその問題の発生メカニズムについて詳細な考察を行おうとする学生や、これからの都市に求められる方向性について提案したいとする学生に対して、その研究の場を提供する場として開講することとする。

テキスト・参考書：

最初のセミナーの時間に指定する。推薦する図書は以下の二点からそれぞれ選ぶ予定である。それは(1)論文で取り上げる内容に直結した書籍、及び(2)研究技法を習得するための書籍、である。

授業の計画：

春学期は、(1)研究技法についてトレーニングを行うとともに、(2)各自の学問的興味を考慮に入れた専門書を購読する。(現時点では輪読形式を考えている。)その中で論文執筆にあたっての詳細な計画を立案し、文献レビューを実行する。夏休み以降は、履修者のプレゼンテーションを何度か行いながら、論文の内容を発展させるべく指導を行うことにする。

履修者へのコメント：

この研究プロジェクトは一年で論文を執筆することを求めている。このスケジュールで論文を完成させるためには、履修者に都市に関する明確な問題意識を持つことが必要とされる。そのような意識を持つ積極的な学生の参加を期待している。

研究プロジェクトa (誘導展開型) [05学則] (春学期) セット履修

研究プロジェクトb (誘導展開型) [05学則] (秋学期)

研究プロジェクト (誘導展開型) [99学則] (通年)

教授 羽田 功

研究プロジェクトa [05] / 研究プロジェクト (春) [99]

授業科目の内容：

「ユダヤ人問題」は時間的には2千年近くにおよぶ歴史を持ち、空間的には全世界にまたがる問題としてきわめて特異な性格を有しています。しかし、それだけではなく、「民族」や「民族問題」を考える上でもさまざまな示唆を与えてくれる問題でもあります。さらには宗教、政治、経済、思想、芸術など、人間の多様な営為の場においてつねにユダヤ人は大きな足跡を残してきました。しかし、他方ではユダヤ人に対しては古くから誹謗や中傷が加えられ、また現実には迫害の標的とされてきています。

ところで、わたしたちは「ユダヤ人問題」についてどこまで正確にその特徴や事実関係を知っているのでしょうか。あるいは上述したようなユダヤ人のあり方から私たちは何を学び取ることができるのでしょうか—こうした問題関心から始まって、この巨大な問題を全体として理解し、同時に全体的なパースペクティブのもとでユダヤ人問題やユダヤ人あるいはユダヤの歴史・文化などへの各人の個人的な関心を深めていくことがこのプロジェクトの目的です。

テキスト：

プリント配布。

参考書：

第一回目の授業時に指示する。

授業の計画:

問題理解のための基本文献を読みながら、基礎的な知識の習得と共に文献の読み方を身に付けつつ論文作成につながる個別研究テーマの発見をめざします。また、これと並行して文献・資料検索やレポート作成や口頭発表の方法についても教示します。

- ① ガイダンス — 1回
- ② ユダヤ人問題の歴史 (古代から近現代まで) — 5回
- ③ ユダヤ人問題の特徴的問題について (地域別・テーマ別) — 3回
- ④ ユダヤ教について — 3回
- ⑤ レポートの書き方とテーマについて — 1回

履修者へのコメント:

積極的な関心のある学生の参加を期待しています。

成績評価方法:

- ・ レポートによる評価
- ・ 平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

第一回目の授業において指示します。

研究プロジェクトb [05] / 研究プロジェクト (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト・参考書:

春学期参照

授業の計画:

個別テーマにもとづく論文などの作成準備に入ります。テーマに即した文献・資料の読み方、資料の整理方法、論文へのまとめ方なども併せて勉強します。なお、秋学期の個別研究のための準備として夏休みの課題が課されます。

- ① テーマ別文献・資料の検討 — 2回
- ② 論文の中間報告と議論 — 4回
- ③ 個別論文指導 — 4回
- ④ その他 (テーマ関連の講義など) — 2回
- ⑤ 論文の最終報告と議論 — 1回

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

研究プロジェクトc (秋学期)

教授 中野 泰志
准教授 エインジ, マイケル
准教授 大平 哲
准教授 永井 容子

授業科目の内容:

研究プロジェクトcは、誘導展開型および自発展展開型研究プロジェクトに参加する学生が履修する科目です。研究プロジェクトcのみで履修することはできません (研究プロジェクトcを履修しないで誘導展開型および自発展展開型研究プロジェクトに参加することもできません)。研究プロジェクトと研究プロジェクトcは、概念的には2つで1つの科目であると理解してください。研究プロジェクトcは、研究プロジェクトのコーディネーターが共同で担当します。成果発表の準備や成果報告会など、成果に関わることを扱います。時間割上では週1回 (秋学期) 開かれることになっていますが、授業時間の多くは数回にわたる研究成果報告会やその準備にあてられるため、融通性を持ったスケジュールとなります。詳細なスケジュールは研究プロジェクト開始後に研究プロジェクトのHP上 (<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>) で発表します。秋学期開始前である春学期末に、秋学期分の授業時間を用いて中間報告会を行うことも視野に入れています。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)

MICRO ECONOMICS (PCP) [05学則] [99学則] (春学期)
教授 グレーヴァ 香子

Aim and Content of this Course:

This course aims to (a) provide students with junior/senior level of microeconomics, and (b) enable students to follow it in English. Since the course has two purposes and the time is limited to half-year, the students are strongly encouraged to take other microeconomics courses in addition, if they want to specialize in microeconomics in their theses and/or their future studies. The outline of the lecture is as follows.

1. Consumer theory
2. Producer theory
3. Market equilibrium
4. Monopoly
5. Oligopoly
6. Externalities
7. Public goods
8. Moral hazard
9. Adverse selection

To supplement the lecture, problem sets are given. The answers must be written in English.

Students are encouraged to take notes in English and read only materials written in English.

Textbook:

・ David Kreps, *Microeconomics for Managers*, Norton.

References:

・ Hal Varian, *Intermediate Microeconomics*, Norton

Grade:

The grade is based on the problem sets (20%) and the final written exam (80%). Grammatical mistakes do not count in the grades, but please use technical terms correctly. For the problem sets, you can study in groups but you must write answers individually. Copying will be detected and punished.

Course Pre-requisites:

Introductory microeconomics, introductory game theory, and some mathematics (mathematical logic, optimization, and probability). If you are in doubt whether you are prepared or not, please feel free to contact the lecturer.

質問・相談:

オフィスアワーおよび電子メールで受け付ける。

MACRO ECONOMICS (PCP) [05学則] [99学則] (春学期)
教授 尾崎 裕之

Course Outline:

This course deals with a basic macroeconomic theory. By designing a macroeconomic model, we study how the economy determines the various quantities and prices and how government policies affect these variables. Since the main test of the model will be its ability to explain the behavior of macroeconomic variables in the real world, we also devote considerable time to comparisons of the theory with the real world. Since a model will be constructed based on microeconomic foundations, a basic knowledge of microeconomics is required.

PUBLIC POLICY AND LAW (PCP)

[05学則] [99学則] (春学期) 教授 塩澤 修平
講師 佐藤 正弘

本コースは、組織の社会的責任 (Social Responsibility (SR)) と持続可能な発展を巡る諸問題を取り扱う。

講義においては、まず、20世紀における社会的責任概念の歴史の変遷をたどりながら、その社会経済的及び理論的背景を概観する。その後、持続可能な発展に対するリスクと脅威の増大に応じて生じた、我が国及び国際社会における社会的責任を巡る最新の動向につ

いて触れ、国際標準化機構（ISO）等による社会的責任の規格化の動向、自主行動基準・社会的責任報告書・ラベリング・社会的責任投資（SRI）等の実践的なツールの発展、民間のインセンティブを諸々の社会目的達成に活用する政策枠組み等について議論する。この中で特に、様々な国際的マルチステークホルダー・イニシアティブに焦点を当て、組織の透明性と説明責任に基礎をおく新しい公共統治モデルについて検討する。なお、議論の過程では、適宜、様々な組織による社会的責任の実際的な取組事例を取り上げ、検討する。

また、政府やシンクタンク、NGOなど様々な立場から社会的責任や現実の政策過程に携わる実務家を招き、議論を行う。これを通じて、講義で取り扱ったトピックについての彼らの視点を学ぶとともに、学生によるプレゼンテーションの参考とする。

登録者は、授業参画の一環として、社会的責任を巡る問題の一つを取り上げ、分析を行い、授業で独自の政策提案を行うことが求められる。プレゼンテーションは、参加人数に応じてグループ作業にて行う。

本コースでは、ゲストスピーカーの講演を除き、原則として英語を使用する。授業では、毎回、数分間の練習時間を取り、与えられた素材について英語で発表する練習をする。

成績は、授業参画（50%）及び期末レポート（50%）に基づく。

This course will focus on the issues of Social Responsibility (SR) and sustainable development.

We start with reviewing the historical transitions of the SR concept in the 20th century and its socio-economical and theoretical backgrounds, and then move to the latest developments both in Japan and in the global community that have been required as the risks and threats to sustainable development grew. Those include the standardization of SR by ISO or other institutions, the innovations of practical SR tools such as code of conduct, reporting, labeling, or SRI (Social Responsible Investment), and the policy frameworks designed to utilize private incentives to achieve social goals. Especially, we will focus on various international multi-stakeholder initiatives on SR and their views on new public governance models based on transparency and accountability of organizations. We will also pick up and discuss some concrete examples of socially responsible activities of various organizations as we go along.

Some guest speakers who are engaged in SR or actual policy process from different standpoints such as the government, think-tanks, and NGOs will be invited in our class. Through the discussions with them, we can get a sense of their views on the topics that we discuss in the lecture part, which will also give us some hints or ideas that may be useful in preparing for student presentations.

As an important part of class participation, students will be required to pick up an issue on SR and make their own proposals in class. The presentation will be based on group works depending on the number of the students who actually participate in the course.

The course is taught in English except the presentations from guest speakers. We will also have a very short exercise in each class, where students make a brief presentation about given material.

Assessment will be on the basis of class participation (50%) and a term paper (50%).

ECONOMICS AND ENVIRONMENTAL LAW (PCP)

[05学則] [99学則] (特定期間集中)

開講日時：7月27日(金), 30日(月), 31日(火) 各日1~5限

講師 高村 ゆかり

環境破壊を未然に防ぎ、環境の質を向上させるためには、法的な枠組みが必要である。しかしながら、経済原理を無視した法制度は経済を混乱させ、更に環境保全という目的を果たせなくなる可能性すらあり得る。一方、法制度を無視した経済行為はあり得ない。本講義では、環境法と経済のかかわりを国内外の事象を取り上げ、環境保全がどのような形で行われているか吟味・検討する。本講義は次の5本の柱よりなる。

1. 環境法：その登場と発展

環境法は、経済活動の拡大と発展により生じる環境汚染、環境への悪影響に対する公的規制の枠組みである。経済活動の歴史的展開をふまえながら、環境法の発展の歴史について講じる。

2. 環境法の基本原則

各国の環境法は、国際的な政策調整や国際環境法と相互に影響を与えながら、法体系の柱となる、一定の、共通する基本原則に基づいて発展してきた（発展している）。こうした代表的な原則の例として、汚染者負担原則（PPP）と予防原則などをとりあげて講義を行う。

3. 環境規制の手法

環境保全の目的を達成するために環境法は様々な手法を採用している。伝統的な Command and Control に加えて、近年注目されている経済的手法（排出量取引、税、補助金など）について検討する。

4. 環境損害と賠償・責任

企業活動の結果環境損害が生じた場合の環境損害に対する賠償と責任に関する法規則を概観する。

5. 国際的企業活動と環境法

海外市場での事業展開や海外への投資をめぐる、環境保全に関連する国際的な法規制について講義を行い、これらの法規制の抱えている問題について検討する。

参考書：

講義中に提示する。

成績評価方法：

・試験

INTRODUCTION TO FINANCE (PCP)

[05学則] [99学則] (秋学期)

教授 前多 康男

准教授 新井 拓児

授業科目の内容：

The course provides a modern portfolio theory and a basic option pricing theory. First, we prepare mathematical preliminaries. In particular, we deal with a basic concept of a probability theory. Second, we study a modern portfolio theory. Topics covered in this section include the mean-variance portfolio analysis, the CAPM. Finally, a basic theory of option pricing models is discussed by dealing with one-period binomial option pricing models. Especially, we study meanings of important terms, for example “arbitrage”, “hedging”, “martingale probability” and so on. The course also covers the presentation of Mathematica implementation of the model used in Finance.

テキスト：

To be announced in class.

参考書：

To be announced in class.

授業の計画：

The following topics are covered:

1. Randomness and random variable
2. Expectation and variance
3. Return and risk
4. Mean-variance portfolio analysis
5. CAPM
6. Introduction to option pricing
7. Hedging and arbitrage (one-period binomial model)
8. Martingale probability
9. Introduction to Mathematica
10. Implementing mean-variance model by Mathematica
11. Implementing numerical option pricing models by Mathematica

成績評価方法：

・Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

質問・相談：

By E-mail.

APPLIED FINANCE (PCP) [05学則] [99学則] (春学期)

教授 前多 康男

講師 酒井 良清

授業科目の内容：

The first section of the course covers macro-aspect of finance, i.e., decisions of the government about how much money to supply to the economy, the channels of monetary policy transmission, the role of central banking, and the role of deposit insurance system.

The second section covers micro-aspect of finance. By using the computer software such as Mathematica, we study how apply finance theory to the actual financial data. Topics covered in this section include option pricing models, and swap pricing models.

テキスト :

To be announced in class.

参考書 :

To be announced in class.

授業の計画 :

Topics to be covered:

1. The channels of the monetary policy.
2. The role of central banking.
3. The role of deposit insurance system.
4. Financial system: the interaction between market and regulation.
5. Introduction to Mathematica (Review).
6. Implementing one-period and multi-period binomial option models.
7. Implementing Black-Scholes model by Mathematica.
8. Valuation and capital budgeting.

成績評価方法 :

・ Midterm Exam 50%, Final Exam 50%.

質問・相談 :

By E-mail.

ADVANCED FINANCE (PCP) [05学則] [99学則] (春学期)

講師 山田 雄二

Course Outline:

The course, which is the sequel to Introduction to finance, deals with an option pricing theory and its exercises. First of all, two-period binomial models are discussed. Moreover, we extend them to multi-period binomial models. Next, in order to learn the Black-Scholes model, we prepare several topics of a probability theory, which include normal distribution, random walk, the central limit theorem, Brownian motion and a basic guide of stochastic differential equations (SDE). Finally, the Black-Scholes model and formula are introduced.

Topics to be covered:

1. Review of one-period binomial models
2. Two period binomial models
3. Multiperiod binomial models
4. Exercise (1)
5. Normal distribution
6. Random walk
7. The central limit theorem
8. Construction and definition of Brownian motion
9. Basic guide of SDE
10. Girsanov theorem
11. Introduction to Black-Scholes model
12. Black-Scholes formula
13. Exercise (2)

References:

Reading materials will be suggested in the first lecture.

Grade:

・ Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS (PCP) [05学則] [99学則] (秋学期)

教授 吉野 直行

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

References:

・ Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, 'The Tax System and the

Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press, 1988

- ・ Yoshino, Naoyuki et. al. *Eigo de Yomu Nihon no Kinyu (Economic Issues of Contemporary Japan)*, Yuhikaku publishing, 2000
 - ・ Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara, 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
 - ・ Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003
 - ・ Takatoshi Ito, *The Japanese Economy*, MIT press, 1992
 - ・ Yoshino Naoyuki and Mark Scher, *Small Savings Mobilization and Asian Economic Development*, M. E. Sharpe, 2005
- More references will be given during the lecture.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

成績評価方法 :

- ・ 試験の結果による評価
- ・ 平常点 (出席状況および授業態度) による評価

INTERNATIONAL TRADE (PCP) [05学則] [99学則]

教授 竹森 俊平

The course will focus on the post WWII development of Japanese Economy and will examine the role of international trade in enabling the economic development. The analysis will be Micro as well as Macro because there is a strong reason to believe that the balance of payment consideration was the prime factor behind the Japanese fiscal-monetary policy in the post WWII era.

The course will have a strong emphasis on the historical account. I particular I have in mind the participation of foreign audiences who have keen interest in Japanese historical experiences.

The participants must have a sound knowledge on the theories of International Trade and International Finance.

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a セット履修 (PCP) [05学則] (春学期)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS b (PCP) [05学則] (春学期)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS [99学則] (春集) 教授 嘉治 佐保子

Course Outline:

This course is offered to fourth-year undergraduate students participating in the PCP programme.

The purpose of this course is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this course are assumed to have sufficient knowledge of entry-level macroeconomics and microeconomics.

Topics to be covered:

- I. A Review of Closed Economy Macroeconomics

IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand

- II. Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- III. Theories of Exchange Rate Determination
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- IV. The Mundell-Fleming Results
The M-F Result and the Structure of the Model — a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rates, Alternative Assumption: Two-Country
- V. The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- VI. Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

Text:

<http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/02A004macro/list.html>

References:

- Canzoneri, M. and D. Henderson, *Is Sovereign Policymaking Bad? Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy* No.28, pp.93-140, 1988
- Dornbusch, Rudiger, *Open Economy Macroeconomics*, Basic Books, Chapter 10, 1980
- Reference: Dornbusch Chapter 11, 1980
- Kaji, Sahoko, *Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku (The Economics of Exchange Rate Systems)*, Nihon Keizai Shimbun Publishing, 2004

Grade:

- Final: 70%, Class participation 30%

DEVELOPMENT ECONOMICS (PCP)

[05学則] [99学則] (特定期間集中)

開講日時：7月27日(金), 30日(月), 31日(火) 各日1~5限

特別招聘教授 深 作 喜一郎

Course Outline:

This course discusses various issues and problems in the economic development of less developed countries. After reviewing a new wave of development economics from both theoretical and empirical viewpoints, the practice of international economic/technical cooperation and the role of development-related international organizations are critically discussed.

The course covers the following topics:

1. A new wave of development economics from the viewpoint of policy coherence (4 classes)
2. International economic/technical cooperation: the policy and the reality (4 classes)
3. The future of international organizations: what is now called for? (4 classes)

In addition, in-class presentation by students, based on pre-assigned short papers (see below), is conducted (3 classes).

Reading assignments and a short paper

An extensive reading list is distributed by the beginning of May. Students are supposed to read the assigned materials and individually write up a short report (the suggested length is 10 pages in A4) before starting the lecture.

Grading policy:

To be announced in the first class.

ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY (PCP)

[05学則] [99学則] (秋学期)

教授 細 田 衛 士

This course provides a basic theory of environmental economics. The analytical framework is elementary microeconomics, and partial equilibrium analysis is utilized in almost all the topics. Although the main purpose of this course is to give a comprehensive view of envi-

ronmental economic theory to students, applicability of the theory to environmental policy is also considered. Topics are chosen from the following:

1. Introduction
 - Explanation of environmental problems.
 - Environmental economics as a tool to solve actual environmental problems.
 - Externalities and transaction.
 - Interface of economics and law
2. Environmental resources as public goods
 - Definition of public goods.
 - Pareto optimality of an economy where public goods exist.
 - Optimal supply of public goods.
 - Difference between normal public goods and environmental resources.
3. Externalities and environmental problems
 - What are externalities?
 - Inefficient allocation of resources due to externalities.
 - Internalization of externalities: some examples.
 - Polluter Pays Principle: Who is a polluter?
4. How to solve environmental problems (1): Command and control
 - What is command and control?
 - Effectiveness of command and control.
 - Shadow value of environmental cost.
 - Some examples.
5. How to solve environmental problems (2): Taxation
 - Pigouvian Tax.
 - Efficiency of Pigouvian tax.
 - Why isn't Pigouvian tax adopted in real environmental policies?
 - Environmental tax in a real economy.
6. How to solve environmental problems (3): Tradable emission permits
 - What are tradable emission permits?
 - Efficiency of tradable emission permits.
 - Merits and demerits of emission permits.
 - Comparison between environmental tax and tradable permits.
7. How to solve environmental problems (4): Bargaining and the Coase Theorem
 - What is the Coase Theorem?
 - Property rights and environment.
 - Polluter Pays Principle vs. Victim Pays Principle.
 - Some examples.
8. Reproducible natural resources
 - Problems due to open access.
 - Explanation of open access equilibrium.
 - Why does extinction happen?
 - Dynamic aspects of reproducible natural resources.
9. Non-reproducible natural resources
 - The Hotelling rule.
 - Backstop technology.
 - Efficiency of a market economy.
 - Why aren't non-reproducible natural resources exhausted?
10. Waste treatment and recycling
 - Circumstances of waste and recycling.
 - Efficient treatment and recycling of waste.
 - Exhaustion of landfill.
 - A new waste treatment policy: Extended Producer Responsibility.
11. Deposit-refund system
 - What is a deposit-refund system?
 - How does it work?
 - Merits and demerits of a deposit-refund system?
 - Some examples.
12. Evaluation of environment
 - Why is evaluation of environment required?
 - Travel cost approach.
 - Contingency Valuation Method.
 - Limits of evaluation of environment.
13. Economic growth and environment
 - Income distribution and environmental degradation.

- Environmental Kuznets Curve.
- The limits of economic growth.
- Technical progress and environmental conservation.

Evaluation:

Final exam	40%
Mid-term exam	20%
Homework	20%
Class participation	20%

References:

- [1] Hanley, N. J.F. Shogren and B. White, *Environmental Economics in Theory and Practice*, Macmillan Press Ltd, 1997
- [2] Hodge, Ian, *Environmental Economics*, Macmillan Press Ltd, 1995

ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY (PCP)

[05学則] [99学則] (秋学期)

教授 細田 衛 士
講師 馬奈木 俊 介

授業科目の内容：

This course provides a comprehensive account of the application of economic analysis to environmental issues. The course covers both methodological topics and recent applications. Using microeconomic principles, we will examine such topics as the sustainability problems, ethics and the environment, climate change, irreversibility and uncertainty, trade and the environment, public policies, and business practices.

テキスト：

- Charles Kolstad, *Environmental Economics*, Oxford University Press, 1999
- Robert N. Stavins, ed. *Economics of the Environment: Selected Readings*, Fourth Edition. New York, New York: W. W. Norton & Company, 2000
- Forest L. Reinhardt, *Down to earth: Applying Business Principles to environmental Management*, Harvard Business School Pr., 1999

参考書：

なし

授業の計画：

Following is a tentative outline.
 Part One: Economics and environment
 Primer: Economic concepts for environment
 Market failure and public policy
 Concepts of sustainability
 Ethics and the environment
 Part Two: Global environmental problems
 International externalities
 Trade and the environment
 Global climate change
 Acidification, ozone layer, and biodiversity
 Linkages
 Part Three: Practice in environmental policies
 Pollution control: Targets and instruments
 Sustainable development and politics
 Water and air pollution
 Recycling and waste
 Emission trading
 Part Four: Environmental management and strategy
 Approaches to business and the environment
 Differentiating products
 Managing your competitors
 Saving costs
 Managing environmental risk
 Redefining markets

成績評価方法：

- 試験の結果による評価
- レポートによる評価
- 平常点：出席状況および授業態度による評価

INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS (PCP)
 [05学則] [99学則] (春学期)

教授 バティアー, ロジャー M.

This course aims to give students a comprehensive overview of the international regimes currently in place to deal with the main environmental problems we now face. We will look not only at the evolution of the issues themselves, but also the institutions which have been created to deal with them, and the legal measures which have been enacted to address them. The course is not theory-based, but aims to give students a variety of perspectives on the problems. Students are expected to familiarize themselves with a wide range of current data, and to be able to see the uses and abuses to which these data may be put.

1. Global Environmental Problems - An Overview
Which problems are global environmental problems? Why? Inter-generational equity. A short history of environmental awareness.
2. What is Sustainable Development?
The link between environment and development. Defining sustainable growth.
3. North and South
Key Backgrounds to the E&D debate: population; urbanization; land-use; political systems: common agendas in the North; different agenda of the South.
4. International Institutions and the Environment
The UN system and the Environment. Stockholm 1972, Rio 1992. Other multi-lateral institutions. The role of NGOs.
5. International Law and the Environment/Pesticides
An overview of the evolution of legal regimes dealing with international environmental issues. Pesticides as a test case.
6. Trade in Endangered Species/CITES
Environment and Trade. Efforts to Control Species Trade. The CITES mechanism. Successes and Failures.
7. Biodiversity/The Biodiversity Convention
The wider biodiversity issue. What is biodiversity? Where is it? Whose is it? Conservation - is it possible? Necessary? By whom? For Whom?
8. The Ozone Problem/The Montreal Protocol
A success story? Defining a problem. Finding an international solution and building on it. The limits to the deal.
9. Global Warming/Kyoto Protocol and Beyond
The politics of climate change. Why is global warming such a contentious issue? Can we do much to stop it? If so, what? If not, what then?
10. Desertification/The Limits to International Action
When is a global problem not a global problem? Effects and the affected. Land use, farming, and the North-South divide.
11. Fishing
Subsidizing destruction. The rush to deplete stocks. Difficulties in finding an institutional framework.
12. Technology, Markets, Laws and Social Change
Policies to combat environmental problems. Getting the right mix. Actors and Agents. Incentives for change.
13. The Future?
The nature of our problems. Obstacles to change. The nation state and the global environment.

Evaluation:

- 30% Final Exam
- 30% Presentation in Class
- 20% Attendance
- 20% Mid-Term Exam

References:

- UNDP, *Human Development Report(s), 2000-2004* OUP.
- World Resources Institute, *World Resources, 2000-2004* OUP
- Scott Barrett, *Environment and Statecraft* OUP, 2003
- P. Birnie and A. Boyle, *International Law & Environment* [2], 2002
- B. Lomberg, *The Skeptical Environmentalist*, 2001

APPLIED ECONOMETRICS (PCP)

[05学期] [99学期] (春学期)

教授 マッケンジー, コリン R.

Course Status:

This course has been established as part of the Faculty of Economics' PCP Program, and will be taught in English.

Aim and Content of Course

This course aims to: (a) provide students with an introductory knowledge of applied econometrics; and (b) enable students to estimate and evaluate linear regression models using the econometrics software package called EViews 5. In the econometric analysis of any socio-economic phenomena, the creation of some sort of "model" is the usual starting point of any analysis. Econometric model building involves the following seven steps: (i) the specification of a theoretical model, (ii) data collection; (iii) the specification of a model for estimation; (iv) the estimation of unknown parameters; (v) hypothesis testing; (vi) model evaluation; and (vii) simulation and forecasting. This course focuses on estimation using ordinary least squares (step (iv)) and hypothesis testing using the t and F tests (step (v)). Where possible, estimation and hypothesis testing techniques will be illustrated by empirical examples that use either cross-section or time series data. The emphasis in this course is not in proving propositions, but rather on the strong connection between the assumptions made about the components of the regression model and the results that can be obtained, and the various difficulties that arise when analyzing real data.

Text:

· Asteriou, D., *Applied Econometrics: A Modern Approach Using EViews and Microfit*, Palgrave Macmillan, New York, 2006

Japanese Language References:

- ・浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣, 2000年
- ・松浦克己・マッケンジー・コリン『EViews による計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005年
- ・滝川好夫・前田洋樹『EViews で計量経済学入門』日本評論社, 2004年

English Language References:

- ・Carter Hill, R., W.E. Griffiths and G.G. Judge, *Undergraduate Econometrics*, John Wiley & Sons, New York., 2001
- ・Kennedy, P., *A Guide to Econometrics* 5th Edition, Blackwell Publishing, Malden, MA., 2003
- ・Quantitative Micro Software, *EViews 5 User's Guide*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- ・Quantitative Micro Software, *EViews 5 Command and Programming Reference*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- ・Wooldridge, J.M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, South-Western College Publishing, USA., 2000

Lecture Outline:

1. What is Econometrics? What Does Econometric Model Building Involve?
2. Review of Important Economic and Statistical Concepts (Marginal Effects, Elasticity, Expectations, Variance, etc)
3. Ordinary Least Squares (OLS) for the Simple Linear Regression Model
4. The Statistical Properties of OLS for the Simple Linear Regression Model (including the Gauss-Markov Theorem)
5. Simple Hypothesis Testing Using the Student t-test
6. Using EViews 5 to Produce Descriptive Statistics, Graphs and Simple Regression Results
7. OLS for the Multiple Linear Regression Model
8. The Statistical Properties of OLS for the Multiple Linear Regression Model
9. Testing Hypotheses Relating to Several Parameters Using an F-test
10. Dummy Variables and Testing for Structural Change
11. Using EViews5 to Produce Multiple Linear Regression Results and to Conduct Hypothesis Testing
12. The Impact of Model Misspecification and Multicollinearity

13. Model Evaluation**General comments about the course and prerequisites:**

In order to understand the material in this course, it is extremely desirable that students have some previous knowledge of linear algebra, differentiation (including partial differentiation), and probability. Instruction in the use of the econometrics software package, EViews 5, will be given as part of this course. This course will strictly avoid the use of matrix algebra.

One of the purposes of econometrics is to test hypothesis suggested by other areas of economics, for example, microeconomics and macroeconomics. As a result, econometrics should not be considered in isolation, but as a complement to other subjects taught in the Faculty of Economics and the PCP program.

Grading:

Grades in this course will be awarded on the basis of a student's performance in an end-of-semester written exam, and two pieces of homework to be handed in during the semester. Some of the problems on each piece of homework will involve the using EViews 5 for estimating some econometric models and interpreting the results. In determining a student's final grade, the results for the written exam and homework will be combined using the weights 80:20 or 100:0, whichever gives the more favorable result for the student concerned.

To contact the Lecturer:

Please send a mail message to Colin McKenzie (mckenzie@econ.keio.ac.jp)

READING AND COMPOSITION (PCP)

[05学期] [99学期] (秋学期)

講師 ファロン, ルース C.

The goal of this course is to improve the reading and writing skills of students in the PCP program. All sessions will be conducted in English.

Text:

・Oshima and Hogue, *Writing Academic English*: Third Edition, Longman

Syllabus:

- Session 1: Orientation - The Process of Academic Writing
- Session 2: Overview of the Paragraph; Types of Sentences I
- Session 3: Paragraph Unity I; Types of Sentences II
- Session 4: Outlining; Adverb Clauses I
- Session 5: Unity II; Adverb Clauses II
- Session 6: Coherence; Noun Clauses I
- Session 7: Coherence in 2-Paragraph Essays; Noun Clauses II
- Session 8: Concrete Support I; Paraphrasing
- Session 9: Concrete Support II; Summarizing
- Session 10: The Essay; Relative Clauses I
- Session 11: Patterns of Organization; Relative Clauses II
- Session 12: More Patterns of Organization
- Session 13: Evaluation of Essays; Checklists

Evaluation:

- ・Reading assignments; homework preparation 20%
- ・Written assignments 40%
- ・Classroom participation; attendance 40%

Consultation:

Student questions and concerns will be handled in the class and by individual appointments.

PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS (PCP)

[05学期] [99学期] (春学期)

講師 ファロン, ルース C.

Course description:

The goals this course are to upgrade students' oral presentation skills and to develop students' ability to conduct and participate actively in substantive discussions of contemporary issues. Students will practice evaluating arguments, forming and asking relevant questions, and responding actively to other's comments in discussions. Essential expressions for professional presentations and for dis-

cussing the pros and cons of controversial issues will be introduced and practiced. Students will be expected to do all assigned reading as preparation for class discussions and other class activities. Students will also prepare presentations as homework and will be responsible for leading discussions in class. All class activities will be conducted in English.

Text:

Browne, M. Neil/Keeley, Stuart M., *Asking the Right Questions: A Guide to Critical Thinking 8th Edition*, Prentice Hall, 2007

Syllabus:

- Week 1: Orientation; Forming and asking simple questions; Review of basic presentation skills; The Benefit of Asking the Right Questions (ARQ Ch.1)
- Week 2: What are the Issue and the Conclusion? (ARQ Ch.2)
- Week 3: What are the Reasons? (ARQ Ch.3)
- Week 4: What Words or Phrases are Ambiguous? (ARQ Ch.4)
- Week 5: What Are the Value Conflicts and Assumptions? (ARQ Ch.5)
- Week 6: What Are the Descriptive Assumptions? (ARQ Ch.6)
- Week 7: Are There Any Fallacies in the Reasoning? (ARQ Ch.7)
- Week 8: How Good Is the Evidence? (ARQ Ch.8-9)
- Week 9: Are There Rival Causes? (ARQ Ch.10)
- Week 10: Are the Statistics Deceptive? (ARQ Ch.11)
- Week 11: What Significant Information is Omitted? (ARQ Ch.12)
- Week 12: What Reasonable Conclusions Are Possible? (ARQ Ch.13)
- Week 13: Final Exam/Report

Expectations:

Students are expected to have a professional attitude in the class and to participate actively in all discussions and presentations. More than two unexcused absences will lower a student's grade. Grades will be calculated on the following scale:

· Assignments	30%
· Classroom participation / attendance	40%
· Final exam / presentation	30%

ACADEMIC WRITING (PCP) [05学則] [99学則] (春学期) 講師 ファロン, ルース C.

Course description:

This course will provide students with skills to produce academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. Each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages during the Term. Other short writing assignments will be included in the course. There will be strict deadlines for each step in the planning, drafting and revising the final report. Models of organization and formal writing will be provided so that students can learn appropriate forms and writing styles of academic reports. Students will share drafts of their writing with others in the class and will also give constructive evaluations of others' writing and research. All class activities will be conducted in English.

Text:

Laurie G. Kirsznner, Stephen R. Mandell, *The Wadsworth Handbook, Seventh Edition*. Thomson, 2005

Syllabus:

- Week 1: Overview: the process of writing research reports
- Week 2: Organizational patterns of longer essays, reports
- Week 3: Focusing research; fine-tuning a thesis
- Week 4: Internet research; evaluating web sites
- Week 5: Summarizing, paraphrasing, quoting, synthesizing sources
- Week 6: Plagiarism; writing a first draft
- Week 7: Writing style; appropriate levels of formality for academic research
- Week 8: Documentation
- Week 9: Individual consultation
- Week 10: Revising awkward writing; precise word choice
- Week 11: Writing précis, abstracts
- Week 12: Polishing, editing reports; fine tuning writing style

Week 13: Final paper due

Expectations

Students who take this course must be able to organize essays in English with relative fluency. Homework assignments for the planning and drafting of the research paper must be submitted by the due dates. Students will be expected to participate actively in class activities and offer constructive criticism of other students' drafts which they will review in the class. A student's grade in the class will be based on:

· Homework	30%
· Attendance/participation	30%
· Final research paper	40%

FIELD WORK (PCP) [05学則] [99学則] (秋学期)

教授 嘉治 佐保子

In this course, students form groups according to their own interests and conduct fieldwork. The fieldwork could take the form of visits to factories, interviews, internships and participation in NGO activities. Students are expected to apply their skills in English and economic analysis in the choice and conduct of the group activity. Needless to say, such skills are necessary in writing up their experiences and findings in the form of a joint paper.

Through this process, students are to learn the importance of teamwork. They will also train themselves to connect knowledge acquired in the classroom to real-world policy issues.

Evaluation is by class participation, progress reports and final papers.

INDEPENDENT STUDY (PCP) [05学則] [99学則] (秋学期)

教授 嘉治 佐保子
講師 ファロン, ルース C.

In this course, we advise each student in writing the final paper for the Professional Career Programme.

Students individually examine real world issues in depth, applying the economic theory and economic analysis which they have acquired in the programme. Since the report will be prepared / written in English, students will also make use of language skills they have gained in PCP courses.

Students themselves will choose the topic and analytical method, gather the necessary information, conduct the analysis and complete the research. In this process, students will each make a short progress report to the class in order to receive comments and advice from fellow students and the professors.

As a conclusion to the term, there will be an Independent Study convocation in which students present their final papers in English. Evaluation is by class participation, progress reports and final papers.

(3) 関連科目

民法 I a [05学則] (春学期)

民法 I b [05学則] (秋学期)

民法 I [99学則] (通年)

講師 小西 飛鳥

民法 I a [05] / 民法 I (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、民法総則について扱います。民法総則は、私法の基本となる基礎的概念を定めている分野であり、抽象的な規定が多いのですが、できるだけ具体例を挙げて説明したいと思います。

テキスト:

- ・2007年版六法 必携
- ・斎藤和夫『レーアブーフ民法 I・民法総則』中央経済社 必携

参考書:

講義中に指示します。

授業の計画：

1. 私法とは 私法の原則と修正
2. 私権の行使についての原則
3. 権利能力・行為能力
4. 成年後見制度
5. 法人
6. 物
7. 意思表示
8. 法律行為・法律行為の有効要件
9. 代理制度 (1)
10. 代理制度 (2)
11. 無効と取消・条件と期限・期間の計算
12. 時効制度 (1)
13. 時効制度 (2)

履修者へのコメント：

民法は、日常生活全般を規律する法律です。民法を手始めに、法律に対して関心を持ってもらえたらと思います。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価 (定期試験)
- ・平常点による評価 (出席状況および授業態度)

民法Ⅰb [05] / 民法Ⅰ (秋) [99]

授業科目の内容：

この講義では、物権法 (担保物件を含む) について扱います。物権法は、人が物を排他的に支配することを認める権利について定めている分野です。この講義では、所有権の移転や担保権に関連する問題を中心に進めていきたいと思っています。受講者の前提知識を共通にしておくために、すでに民法Ⅰaを履修していることが望ましい。

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 物権法とは
2. 所有権・共有
3. 物権変動 (1)
4. 物権変動 (2)
5. 物権変動 (3)
6. 用益物権
7. 占有権
8. 担保物権とは
9. 抵当権 (1)
10. 抵当権 (2)
11. 質権
12. 非典型担保
13. 留置権・先取特権

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

民法Ⅱa [05学則] (春学期)

民法Ⅱb [05学則] (秋学期)

民法Ⅱ [99学則] (通年)

法学部 専任講師 水津 太郎

民法Ⅱa [05] / 民法Ⅱ (春) [99]

授業科目の内容：

民法Ⅱでは、債権法、民法典でいうと第3編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第1章「総則」、第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」、第5章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第1章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第2章～第5章)に体系化されています。

民法Ⅱaでは、そのうち、「債権総論」を対象とします。

テキスト：

・野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田眞三郎『民法Ⅲ債権総論

(有斐閣Sシリーズ) [第3版]』有斐閣、2005年

参考書：

- ・星野英一・平井宜雄・能見善久(編)『民法判例百選2債権 [第5版 新法対応補正版]』有斐閣、2005年
- ・奥田昌道・安永正昭・池田真朗(編)『判例講義民法2債権 [補訂版]』悠々社、2005年

授業の計画：

1. 債権の意義・目的
2. 債権の効力①：効力一般・強制履行
3. 債権の効力②：債務不履行
4. 債権の効力③：損害賠償・受領遅滞
5. 責任財産の保全①：債権者代位権
6. 責任財産の保全②：詐害行為取消権
7. 多数当事者の債権関係①：分割債権債務・不可分債権債務・連帯債務
8. 多数当事者の債権関係②：保証債務
9. 債権債務の移転①：債権譲渡
10. 債権債務の移転②：債務引受・契約上の地位の移転
11. 債権の消滅①：弁済・供託
12. 債権の消滅②：相殺
13. 債権の消滅③：更改・免除・混同

履修者へのコメント：

- ・最新版の六法 (小型のものでよい) をかならず持参してください。
- ・民法Ⅱbとともに受講することにより、債権法全体をカバーすることができます。

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験) の結果

民法Ⅱb [05] / 民法Ⅱ (秋) [99]

授業科目の内容：

民法Ⅱでは、債権法、民法典でいうと第3編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第1章「総則」、第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」、第5章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第1章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第2章～第5章)に体系化されています。

民法Ⅱbでは、そのうち、「債権各論」を対象とします。

テキスト：

- ・藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄『民法Ⅳ債権各論 (有斐閣Sシリーズ) [第3版]』有斐閣、2005年

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 契約総論①：契約の意義・分類・原則
2. 契約総論②：契約の成立・効力
3. 契約総論③：契約の解除
4. 契約各論①：贈与・交換
5. 契約各論②：売買
6. 契約各論③：消費貸借・使用貸借
7. 契約各論④：賃貸借
8. 契約各論⑤：雇用・請負・委任・寄託
9. 契約各論⑥：組合・終身定期金・和解
10. 法定債権①：事務管理・不当利得
11. 法定債権②：一般の不法行為
12. 法定債権③：特殊の不法行為
13. 法定債権④：不法行為の効果

履修者へのコメント：

- ・最新版の六法 (小型のものでよい) をかならず持参してください。
- ・民法Ⅱaとともに受講することにより、債権法全体をカバーすることができます。

成績評価方法：

春学期参照

商法 I a (会社法) [05学則] (春学期) セット履修
商法 I b (会社法) [05学則] (秋学期)
商法 I (会社法) [99学則] (通年)

講師 久留島 隆

授業科目の内容：

『商法』は、第1編「総則」、第2編「商行為」および第3編「海商」の3つの編によって構成されている。平成17年の商法改正により、第2編「会社」の部分が削除され、従来の第3編「商行為」および第4編「海商」が繰り上げられたが、条文の数字に変更はない。他方、この第2編の「会社」を中心にし、会社に関する他の多くの法律をまとめた「会社法」という単独の法律が成立した。

この授業科目「会社法」のもとでは、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の組織に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業組織法』ということになる。種々様々な企業のうち、特に、株式会社を中心とした講述を考えている。株式会社は、他の企業に比較して、我々の生活にとって、より一層深い関わりがあるからである。

テキスト：

・宮島 司『会社法エッセンス』弘文堂

参考書：

・山本為三郎『会社法の考え方』八千代出版
・大賀祥充『会社法のエッセンス』法律文化社
・久留島 隆『企業のトラブルと判例法』協同出版
その他、必要に応じて指示する。

授業の計画：

1. 会社の概念
2. 会社の商号・使用人と代理商
3. 株式会社の設立
4. 株式
5. 新株の発行
6. 株式会社の資金調達
7. 募集株式の発行
8. 新株予約権
9. 株式会社の機関
10. 株主総会
11. 取締役・取締役会・代表取締役
12. 会計参与
13. 監査役・監査役会
14. 会計監査人
15. 委員会設置会社
16. 役員等の損害賠償責任
17. 株主代表訴訟
18. 株式会社の計算
19. 計算書類
20. 資本金と準備金
21. 剰余金の分配
22. 持分会社
23. 合同会社と有限責任事業組合
24. 社債
25. 組織再編
26. 企業結合

履修者へのコメント：

最新（平成18年度版）の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法：

原則として、学年末の筆記試験の結果と出席状況等の平常点を総合的に勘案して、評価する。

質問・相談：

講義終了後に対応する。

商法 II a (商法) [05学則] (春学期) セット履修
商法 II b (商法) [05学則] (秋学期)
商法 II (商法) [99学則] (通年)

講師 久留島 隆

授業科目の内容：

『商法』は、第1編「総則」、第2編「商行為」および第3編「海

商」の3つの編によって構成されている。平成17年の商法改正により、第2編「会社」の部分が削除され、従来の第3編「商行為」および第4編「海商」が繰り上げられたが、条文の数字に変更はない。

この授業科目「商法」のもとでは、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の商取引に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業取引法』ということになる。一般には、「商法総則・商行為」と称されている分野に相当する。この2つの編は、相互に密接な関係があり、「六法」の1つである『民法』との関連も深い。したがって、『企業取引法』に関係のある『民法』の諸制度についても言及せざるを得ない。また、「企業の商取引」の分野では、手形、小切手、株券等を始めとする有価証券が重要な役割を演じているということも見逃がすことはできないので、いわゆる「有価証券」の領域にも、晩秋の頃から、踏み込んで講述するつもりである。

テキスト：

指定しない。

参考書：

・倉沢康一郎『商法の基礎 [改訂版]』税務経理協会
・倉沢康一郎『手形判例の基礎』日本評論社
・久留島 隆『企業のトラブルと判例法』協同出版
その他、必要に応じて指示する。

授業の計画：

1. 商法の意義・民法との関係
2. 商人制度の意義と定義
3. 商業登記制度の意義
4. 商号・名板貸人の責任
5. 営業の譲渡
6. 商業帳簿の意義
7. 商業使用人の意義
8. 代理商
9. 商行為の概念と種類
10. 商事売買匿名組合の意義と機能
11. 交互計算の意義と機能
12. 陸上運送営業の意義
13. 仲立営業・問屋（といや）営業の意義
14. 場屋営業の意義
15. 倉庫営業の意義
16. 有価証券の特色と種類
17. 株券の特異性
18. 為替手形・約束手形・小切手の相違と経済的機能
19. 法律行為としての手形行為・小切手行為
20. 手形要件
21. 手形の原因関係・手形関係
22. 白地手形の意義と機能
23. 裏書制度の意義と効力
24. 手形抗弁の特色
25. 手形の抹消・毀損・喪失
26. 利得償還請求権

履修者へのコメント：

最新（平成18年度版）の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法：

原則として、学年末の筆記試験の結果と出席状況等の平常点を総合的に勘案して、評価する。

質問・相談：

講義終了後に対応する。

労働法 a [05学則] (春学期) セット履修
労働法 b [05学則] (秋学期)
労働法 [99学則] (通年)

雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
法学部 准教授 内藤 恵

労働法 a [05] / 労働法 (春) [99]

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域）、

個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集団的労使関係法〔憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、Ⅱで講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『労働法（仮題）』（法律文化社、2007・6 月出版予定）を使用する予定です。

但し出版時期が少し遅れますので、当初は Web に講義レジュメをアップロードして進めます。法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣 2002）

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史（編）『働く人の法律入門 一労働法・社会保障法・税法の基礎知識一』有斐閣、2006 年
- ・西村健一郎・安枝英誦『労働法（第 9 版）』有斐閣プリマシリーズ、2006 年
- 大部の概説書に、
- ・菅野和夫『労働法（第 7 版・補正版）』弘文堂

授業の計画：

- 第一章 総論 一労働法の意義・体系、等一
- 第二章 労働者概念、使用者概念（雇用形態の多様化、含む）
- 第三章 労働契約の生成 一採用内定・試用期間、等一
- 第四章 労働契約の展開 一配置転換、出向、派遣、等一
- 第五章 労働基準法上の労働条件
- 第六章 労働条件決定の枠組み
- 第七章 就業規則 一労働条件変更のルール
- 第八章 企業秩序と懲戒
- 第九章 労働契約の終了

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、上記授業計画に加えて後期は授業時間中にレポートを書いて載きます。講義が順調に進む場合には、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法（総則・債権各論）の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みか、あるいは同等の知識のある方のみ履修して下さい。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義では、必要があれば基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として進めます。

毎年、一度も講義に出席しないまま「取り捨て」する学生が多く、問題です。よく講義内容を考え、ご自分の法的知識を勘案した上で履修して戴きたいと思ひます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

現段階では、春学期は就職活動をする学生数を確認の上、期末試験もしくは期末試験代わりのレポートを課することを考えております。後期は、実質上の履修人数を勘案して、講義中のレポートにかえる事もあります。概ね出席し続けている学生数が 50～60 名であれば、レポートの成績及びその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。なおそれを超える数の学生が出席した場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担

当者のところまでお越し下さい。

労働法 b [05] / 労働法 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 第十章 労働安全衛生と労働災害補償
- 第十一章 労働市場法（憲法 27 条、失業等にかかる雇用政策、等）
- 第十二章 労働基本権と労働組合
- 第十三章 公務員の労働基本権制限
- 第十四章 団体交渉
- 第十五章 組合活動・争議行為
- 第十六章 労働協約
- 第十七章 不当労働行為
- 第十八章 労働争訟法

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

租税法 a [05 学則] (春学期)

租税法 b [05 学則] (秋学期)

租税法 [99 学則] (通年)

租税実体法の体系化

法学部 教授 吉村典久

租税法 a [05] / 租税法 (春) [99]

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まるがあっても、減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

- ・岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい
- 又は 金子宏『租税法』弘文堂

参考書：

- ・清水敬次『税法』ミネルバ書房
- ・『小六法』有斐閣
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

授業の計画：

オリエンテーション

1. 租税法の基本原則
租税法総論の諸問題を解説する。
租税法主義の概念と機能、租税公平主義の概念と機能、租税回避行為
2. 法人税法
法人税の課税要件、改革の方向性を解説する。
法人税の性質、益金、損金、所得の年度帰属、多様な事業形態に対する課税、法人組織変更税制、連結納税制度

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。条文集は必携

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
 - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- 基本的には学年末試験の成績を重視するが、授業中の出席、レポート等による評点も加味し、できるだけ不合格とならないよう配慮する。

質問・相談：
授業後、随時。

租税法 b [05] / 租税法 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 所得税法
総説・納税義務者・課税単位・所得概念・帰属・所得の種類・
税額計算
2. 租税手続・争訟法
租税確定・租税徴収・租税争訟を解説する。
申告、税務調査、更正の請求、更正、推計課税、滞納処分、租
税不服申立、租税訴訟

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

会計学a [05学則] (春学期)

セット履修

会計学b [05学則] (秋学期)

会計学 [99学則] (通年)

名誉教授 笠井昭次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行う。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

・笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- I 会計(学)の基礎
 - (1) 会計(学)の性格と領域
 - (2) 会計の機能
 - (3) 会計の構造
 - (4) 測定規約の考え方
- II 価値生産活動の会計
 - (1) 入帳規約および損益計算規約の全体像
 - (2) 実現主義の本質
 - (3) 原価配分の諸相と特殊な支出の期間配分
- III 資本貸与活動の会計
 - (1) 派遣分資産に関する会計の全体像
 - (2) 定利の獲得を企図する資本貸与活動の会計
 - (3) 投機的利得の獲得を企図する資本貸与活動の会計
- IV 資本の算段活動の会計
 - (1) 負債処理の基本的原則
- V 現行会計の全体的性格

履修者へのコメント：

自分の頭で考えようとする積極的な学生諸君を希望する。

成績評価方法：

- ・試験の結果
- ・平常点：出席状況および授業態度

経営学a [05学則] (春学期)

セット履修

経営学b [05学則] (秋学期)

経営学 [99学則] (通年)

商学部 教授 榊原研互(春)

商学部 教授 渡部直樹(秋)

経営学 a [05] / 経営学 (春) [99]

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大

きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之/加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003年
- ・A.ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
その他講義で随時指示する。

授業の計画：

1. 経営学の学問的性格
2. 経営学成立と発展
3. 企業概念と会社形態
4. 企業統治とトップマネジメント
5. 現代企業における所有と経営
6. ガバナンスシステムの国際比較
7. 企業の社会的責任と企業倫理
8. 企業戦略と事業戦略(競争戦略)
9. 経営多角化と国際化の戦略
10. M&Aと戦略的提携

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

経営学 b [05] / 経営学 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・A.ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
その他講義で随時指示する。

授業の計画：

1. 市場と組織
2. 経営組織のデザイン
3. 「カネ」のマネジメント(財務管理)
4. 「モノ」のマネジメント(生産管理)
5. 「モノ」のマネジメント(販売管理)
6. 「ヒト」のマネジメント(人事管理)
7. 情報のマネジメント
8. 組織文化のマネジメント
9. 日本的経営の変遷
10. 現代企業の経営課題

成績評価方法：

春学期参照

〔Ⅱ. 外国語科目〕

(1) 外国語 I

英語リーディングa [99学則] (春学期) セット履修
英語リーディングb [99学則] (秋学期)
英語リーディング [05学則] (通年)
金1, 金2共通

講師 金澤洋子

授業科目の内容:

This course aims to provide opportunities to think and share opinions by reading and discussing current issues mainly on health and the environment. In each session, the instructor will provide one reading material (from current news papers and magazines such as Time, the International Herald Tribune, Scientific Americans, Washington Post, and a number of Japanese newspapers in English), and the participants will also provide a topic, making a presentation to lead a discussion in English in turn. Summary writing on one of the articles of the week will be required. English will be used most of the time. Evaluation will be based on participation (30%), oral presentations (30%) and a final exam (30%). Summaries and reports submitted in class will also be included (10%).

テキスト:

Materials will be provided by the instructor and the presenter of the day.

英語リーディングa [05学則] (春学期) セット履修
英語リーディングb [05学則] (秋学期)
英語リーディング [99学則] (通年)
火2, 火3共通

教授 河地和子

授業科目の内容:

昨年度と授業内容が同じです。昨年単位を取得した人は今年履修できません。

最近、「金儲け」という目的より、社会や地球環境をよくする目的で企業 (Social Venture) や NPO (Nonprofit Organization) を立ち上げる人々が増えている。この授業では① Social Venture や NPO がなぜ社会から要請されるようになったのか、② そうした組織を立ち上げてどのような社会貢献をしているかを、ウェブ情報、新聞・雑誌記事から学ぶ。

アメリカ、イギリス、オーストラリアの社会企業、NPO の実例について学んだ後、③ 自分の関心のある問題 (たとえば貧困な地域での job creation, あるいは中小企業支援、地球規模の環境問題) をリサーチして、自分で支援組織を立ち上げるという想定でプレゼンを行う。

テキスト:

特定のテキストはなく、教材、ハンドアウトは主に keio.jp を通じて配布する。また授業のお知らせなども同様である。時々 keio.jp を見るようにしてください。

参考書:

必要に応じて紹介する。

授業の計画:

前期: 社会起業の実例についてウェブ情報や雑誌記事などを読んでゆく。具体例として、ニューヨーク市における中小企業の発掘と支援をする Endeavor; 同じくニューヨーク市、ホームレスの住宅再生デベロッパーである Common Ground Community など、約 10 の実例について学ぶ。同時になぜそうした社会企業や NPO が増えているのか、起業の経緯、理念、ビジネスの内容などを学ぶ。

各自が実例を一つ選び、その社会企業 (NPO) の fund raising をするという想定でプレゼンを行う。誰がもっとも効果的な fund raising をするかを競う。

後期: 自分が関心ある社会企業をネット上で立ち上げ、それをクラスの人々に「宣伝」し、市民や行政に支援を呼びかけるという想定で最終プレゼンを行う。後期がはじまってすぐに、各自がどの

ような社会企業 (NPO) を立ち上げるのかを決め、それによって読む articles などを河地が用意する。各自は自分の organization をどんな目的で、どんな活動をするかを決めて、mission statement, activities などを書いた leaflet を用意する。(keio.jp 上に載せる。) それぞれの立ち上げたプロジェクトをプレゼンで宣伝するという想定。

履修者へのコメント:

前期は自分が関心のある社会起業を見つけ、fund raising のために準備をし、後期は自分で組織を立ち上げる想定になるので、積極的な授業参加が求められる。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価 (評点の 30%)
- ・レポートによる評価 (評点の 20%)
- ・平常点: 授業態度による評価 (発言などの積極的参加) 評点の 20% (単位取得ができるのは年間欠席 6 回まで。遅刻 2 回で一回分の欠席扱い。)
- ・その他、プレゼンテーションによる評価 (評価の 30%)

質問・相談:

面接やメールによって。河地のメアドは kawachi@econ.keio.ac.jp

英語リーディングa [05学則] (春学期) セット履修
英語リーディングb [05学則] (秋学期)
英語リーディング [99学則] (通年)
火3, 火4共通

講師 ラインボールド, ロレイン J

Course description:

The objectives of this course are: to build confidence in reading in English by using an English NPO management textbook, to improve reading skills by practicing strategies needed for reading different types and genres, and to develop analytical and critical thinking skills.

Students will study what constitutes effective NPO and volunteer management. Even though NPO means not-for-profit organization, for NPOs to be successful in attaining their charitable goals, they must be managed in a similar way as for-profit organizations. In addition, some topics to be covered include NPOs that work with problems such as the aids epidemic, street children, physically and mentally challenged people, endangered species, deforestation, and victims of wars. A guest speaker from a local NPO is scheduled to talk about his/her experiences of creating or working in an NPO.

Class work will mainly consist of reading, discussions, and presentations. Evaluation will be based upon regular attendance, active participation, homework (to be completed on time), final presentation, and final exam.

Textbook:

- ・Hutton, S., & Phillips, F. *Nonprofit Kit for Dummies: Second Edition*. Hoboken: Wiley Publishing, Inc., 2006

References:

- ・McCurley, S., & Lynch, R. *Volunteer Management: Mobilizing all the Resources of the Community*. Illinois: Heritage Arts Publishing, 1996

Course Schedule:

Lesson Plan (first semester)

This is only a tentative plan and the schedule will change because many of you may not have textbooks on the first week.

Week 1-3

- Discussion: Volunteering and NPOs
- Film: I am Sam
- Discussion: Working Pro Bono
- Assignment: Reaction paper to film
Report on a person who does charitable work

Week 4

- Part 1: Getting Started with NPOs
- Pre-reading discussion: Previewing and predicting Chapter 1
- Lecture: Description of the Nonprofit Organization
- Scanning: Table of Contents
- Discussion: Difference between NPOs and For-Profit Organizations
- Assignment: Read and summarize Chapter 1: Tuning In to the World of Nonprofits

Week 5

Group/or Individual Presentation: Chapter 1
Discussion
Vocabulary and Comprehension Questions

Week 6
Scanning: Index
Timed reading: Chapter 2: Deciding to Start a Nonprofit
Assignment: Read and summarize Chapter 2

Week 7
Presentation: Chapter 2
Reading in class: *Sociologists could teach economists a trick or two*
The Financial Times. March 22/23 2003
Guessing meaning from context
Finding the topic sentence
Vocabulary comprehension
Assignment: Summary and reaction paper of newspaper article

Week 8
Reading in class and outlining Chapter 3: Writing Your Mission Statement
Lecture given by instructor: Note taking
Assignment: Read Chapter 3

Week 9
Presentation: Chapter 3
Finding the topic and main idea of Chapter 4:
Incorporating and Applying for Tax Exemption
Discussion
Assignment: Read Chapter 4

Week 10
Presentation: Chapter 4 Studying signal words in Chapter 5 - Safeguarding Your Nonprofit Status
Assignment: Read and summarize Chapter 5

Week 11
Presentation: Chapter 5
Reading in class: *We need salvation from an army of inefficient charities*
The Financial Times. January 23, 2004
Making inferences
Skimming for the author's point of view and pattern of organization

Week 12
Group presentations on NPOs

Summer Break

Week 13
Part II: Managing a NPO
Chapter 6: Building Your Board of Directors
Comprehension questions and finding the pattern of organization
Assignment: Finish reading chapter 6

Week 14
Presentation: Chapter 6
Timed reading: 2 groups: Chapter 7 - Getting the Work Done with Volunteers
Chapter 8 - Getting the Work Done with Paid Staff
Discussion in small groups: Paid Staff or Volunteers? What are incentives for them to stay?
Assignment: Reaction paper to group discussion

Week 15
Presentations: Chapter 7 and 8
Group work: Read and write the pattern of organization for Chapter 9: Planning: Why and How Nonprofits Makes Plans.
Discussion
Assignment: Read Chapter 10: Showing the Money: Budgets and Financial Reports.

Week 16
Presentations: Chapters 9 and 10
Review of chapters 1 - 10

Week 17
In class open book quiz: Chapters 1 - 10
Assignment: Short group presentations on an NPO that students would like to create because they think it would be useful for society.

Week 18
Group work
Lecture: Chapter 11: Marketing: Spreading the Word about Your Good Work
Chapter 12: Creating a Home for Your Nonprofit and Insuring It

Week 19
Presentations: Chapters 11 and 12
Guest Speaker

Week 20
Presentations: Submit note cards and typed reports.

Week 21
Presentation: Chapter 13: Crafting a Fundraising Plan
Chapter 14: Raising Money from Individuals
Chapter 15: Making the Most of Special Events
Chapter 16: Finding the Grant Givers
Chapter 17: Capital Campaigns: Finding Lasting Resources
Chapter 21: Ten Tips for Raising Money
Group work: Planning a fundraising event for the NPO that students created and presented on Week 19

Week 22
Lecture: Writing a Grant Proposal
Group work: Writing Grant Proposals in class for the NPO that students created and presented on Week 19

Week 23
Lecture: History of the Nonprofit Sector
Diagrams: Draw a diagram, chart, or illustrations for chapter 20: Ten Myths about NPOs

Week 24
Open book quiz for chapters 1 to 21
Vocabulary Notebooks will be collected

What to bring to class:

- Textbook
- English-English dictionary
- Notebook for vocabulary words
- Paper
- Pen

Attendance:
Students must attend two-thirds of all classes to pass. Students who come to class late will be marked late. Three times late is the same as one time absent.

Grading:

- Attendance and active participation 30%
- Weekly homework/assignment 30%
- Mid-term and final project/test 40%

• Students must complete the two final projects in order to pass.
• Please note. If a student plagiarizes, copies papers or passages written by other people, s/he will fail this course.
• Homework: No late homework will be accepted unless there is a valid reason. If you are absent, ask your friend, or write to me before the weekend of the week that the assignment is due.

Message to students:
Remember, this is your class. The more that you put into this course, the more that you will get out. Take charge of your learning!
I am open to suggestions from you, so be active and let me know your thoughts. I am here as a facilitator and to assist you in learning.

(2) 外国語Ⅱ (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語)

ドイツ語Ⅳa [05学則] (中級) (春学期) セット履修
ドイツ語Ⅳb [05学則] (中級) (秋学期)
ドイツ語Ⅳ [99学則] (中級) (通年)

教授 境 一 三

ドイツ語Ⅳa [05] (中級) / ドイツ語Ⅳ [99] (中級) (春)

授業科目の内容:

Web などから題材を拾って、現代ドイツ社会のアクチュアルな問題をテーマにしたテキストを読む訓練をします。

ドイツ語に自信のない参加者にも、テキストの読み方を丁寧に指導しますので、読解の上達を希望する者であれば誰でも歓迎します。またドイツ語として通じる朗読法の指導も行います。

テキスト:

適宜配布もしくは指示をします。

授業の計画:

1. 導入 (参加者の関心によってテーマを選択する。)
- 2.~12. テキストを読む (意味を取り、朗読する。)
適宜ディクテーションを行う。
13. 春学期のまとめ

履修者へのコメント:

積極的な参加を求めます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
ディクテーションを行います。
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価
出席を重視します。

質問・相談:

常時 Web 上で行います。

ドイツ語Ⅳb [05] (中級) / ドイツ語Ⅳ [99] (中級) (秋)

授業科目の内容:

春学期に続いて現代ドイツのアクチュアルなテキストを読むと共に、参加者が各自テーマを決めて調べ学習を行います。

テキスト:

春学期参照

授業の計画:

1. 導入 (参加者各自の調査テーマを決める。)
- 2.~5. テキストを読みながら、調査方法を身につける。
- 6.~12. 発表と討論を行う。
13. 秋学期のまとめ

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
口頭発表とそれを文章化した報告を評価対象とします。
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価
出席を重視します。

質問・相談:

春学期参照

ドイツ語Ⅳa [05学則] (セミナー) (春学期) セット履修
ドイツ語Ⅳb [05学則] (セミナー) (秋学期)
ドイツ語Ⅳ [99学則] (セミナー) (通年)

教授 七 字 眞 明

授業科目の内容:

テーマ《現代ドイツを読む》

2006年にはサッカー・ワールドカップの開催地として注目を集めたドイツ。拡大するEUの中で政治的にも経済的にも重要な位置を占めるこの国で、今何が問題となり、どのようなことが議論されているのでしょうか。

この授業では、政治、経済、社会、文化等、幅広い分野から選んだテキスト (主としてインターネット掲載のニュース記事) を読み

ながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

授業では一つのテーマを2週間にわたり取り上げます。第1週目には、あらかじめ配布したテキストを輪読します。ある程度のスピードをもってテキストを読み進めていきますが、ドイツ語の基本的文法事項に関しても必要に応じて復習を行います。翌週にはテキストの続きを読み、さらにそのまとめとして、テキストのテーマに関して調べてきたことを履修者全員に、一人10~15分程度で発表していただきます。その作業を通じて、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況をも念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題について議論する場を持ちたいと考えています。

テキスト:

コピーを配布します。

参考書:

特に使用しません。

授業の計画:

春学期には以下のテーマに関するテキストを扱う予定です。

1. ドイツの環境政策とエネルギー問題
2. 格差社会へ移行するドイツ
3. 異文化が共存する社会
4. EU憲法をめぐる問題
5. サッカー・ワールドカップの経済効果

これらの他に、履修者の皆さんが興味を抱いているテーマに関連したテキストを随時とりあげていきます。

履修者へのコメント:

予習にたいへん時間と労力がかかることが予想される授業ですが、ドイツ語検定試験2級に合格するドイツ語読解力を身につけると同時に、現代のドイツ、およびこれを取りまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている皆さんの参加を希望します。

成績評価方法:

平常点による評価とし、試験は行いません。〈授業科目の内容〉にもあるとおり、毎週相当量のドイツ語テキストの翻訳を担当し、さらにはテーマに関する口頭発表を一週おきに行うことが成績評価の前提として要求されます。特に出席を重視し、欠席・遅刻が合計3回を超えた者に関しては単位が認定されませんので、履修にあたり十分に注意してください。

質問・相談:

授業中に受けます。必要に応じて、連絡方法を伝えます。

ドイツ語Ⅳa [05学則] (セミナー) (春学期) セット履修
ドイツ語Ⅳb [05学則] (セミナー) (秋学期)
ドイツ語Ⅳ [99学則] (セミナー) (通年)

教授 八 木 輝 明

授業科目の内容:

1990年統一後の現代ドイツに注目し、EUや発足したユーロ通貨の動向を見ながら、その国内の動きを最新の記事を読みながら探っていく。時事ドイツ語を読解するためには、ふだんから新聞やインターネットで海外の記事に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけてほしい。

さらにこのクラスでは初級文法の知識を確認し、深化しつつ中級レベルの文構造を正確に把握する練習を行っていく。時事ドイツ語の場合、特にIT関連の新語がふくまれているので他のヨーロッパ語を意識して、想像力をはたらかせて文章を読み取っていく作業が必要。しかしこのテキストの文章は大変に平易で、詳しい語注がついている。読みやすく書かれた時事ドイツ語を、まずは正確に読み取る練習を積み重ねていきたい。

最新のドイツのニュースもインターネットから適宜選び出しテキストとして取り上げていきたい。授業のなかで、最近のドイツ映画やインタビューなどを、DVDを使って紹介していく予定。また20世紀前半からのドイツの歴史も映像を利用しながら学習していく。

必ず予習をしておいてほしい。

テキスト:

『時事ドイツ語〈'06年トピックス〉』朝日出版社

履修者へのコメント:

平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法:

・平常点 (出席状況、授業態度および筆記試験)

フランス語Ⅳa [05学則] (セミナー上級) (春学期) セット履修
フランス語Ⅳb [05学則] (セミナー上級) (秋学期)
フランス語第Ⅳ [99学則] (セミナー上級) (通年)

教授 ガボリオ マリ

授業科目の内容：

このセミナーは、フランス語の「読む、書く、聴く、話す」という4つの運用能力を伸ばすことを目的とし、特に、フランス語による論理的・自発的な会話能力、判断力の向上、更にはフランスを総合的に理解して行くことを目指します。そのために「現代フランス社会を考える」をテーマに、フランス語によるグループでの議論、資料の解説、レジュメの作成、発表等を行います。教材として、フランスの新聞・雑誌記事、及び F2 のニュース等を可能な限り多様な領域にわたって用いて、そこで使用される語彙、表現を学び、その内容を理解するようにします。時事フランス語を十分に身に付ける為に、語彙に関する特別な訓練をして行きたいと考えています。また同時にフランス文化や歴史、現代社会の諸相について様々な角度から触れ、豊かな感性と的確な判断力を育てて行きたいと思えます。

テキスト：

プリントを配布します。

履修者へのコメント：

授業は原則としてフランス語で行いますので、十分な読解、会話能力を必要とします。

成績評価方法：

評価方法は授業への積極的な参加の有無、及び春学期・秋学期各一回ずつの試験を総合して判断します。

フランス語Ⅳa [05学則] (セミナー中級) (春学期) セット履修
フランス語Ⅳb [05学則] (セミナー中級) (秋学期)
フランス語第Ⅳ [99学則] (セミナー中級) (通年)

教授 西尾 修

授業科目の内容：

フランス語の総合的運用能力の養成とフランス語テキストの文化的背景の理解を目的とします。さまざまな分野のテキストを用いながら、とにかく声を出してフランス語に親しみ、これを理解し、さらには表現能力へと発展させることを目指します。簡単な詩、小説などのプリントから始めるつもりですが、何よりも受講生諸君の積極的な参加意識を期待しています。

成績評価方法：

まずは定期試験の成績、そして何よりも普段の授業中での諸君の参加ぶり、そういったものを総合して評価するという、ごく当たり前のやり方です。

フランス語Ⅳa [05学則] (セミナー中級) (春学期) セット履修
フランス語Ⅳb [05学則] (セミナー中級) (秋学期)
フランス語第Ⅳ [99学則] (セミナー中級) (通年)

専任講師 林 田 愛

フランス語Ⅳa (セミナー中級) [05] /
フランス語第Ⅳ (セミナー中級) (春) [99]

授業科目の内容：

授業は翻訳を中心にしてフランス語能力の上達を目指します。テキストとして経済や歴史、または文学などの研究書から読みやすい箇所を逐次紹介し、翻訳作業の過程で表現力の向上だけでなく、論理的思考の強化も図るつもりです。

テキスト：

プリントを配布します

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度による評価)

フランス語Ⅳb (セミナー中級) [05] /
フランス語第Ⅳ (セミナー中級) (秋) [99]

授業科目の内容：

前期は翻訳が中心となりますが、後期の授業では自由作文やレジ

ュメ作成によって、書く力を養います。その際には、前期の授業で蓄えた語彙力をフルに活用してもらつつもりです。

テキスト：

春学期参照

成績評価方法：

- ・平常点
- ・レポート

中国語Ⅳa [05学則] (中級) (春学期) セット履修
中国語Ⅳb [05学則] (中級) (秋学期)
中国語第Ⅳ [99学則] (中級) (通年)

講師 陳 愛 玲

授業科目の内容：

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう繰り返し練習を行い、さらに応用能力を身につける。授業は次のことを目標に進めていく。

- 1) 聞いて直ちに理解できること
- 2) 正確な発音および自然なリズムで言えること
- 3) 日常生活における一般的な応答および発話がスムーズに話せること

テキスト：

プリント+視聴覚補充教材

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) 自分のことを言う
- 3) 家族のことを言う
- 4) 友人・知人のことを言う
- 5) 趣味に関して
- 6) 時間に関して
- 7) 勉強に関して
- 8) 職業に関して
- 9) 買い物に関して
- 10) 予備日
- 11) まとめ
- 12) 前期スピーキング試験
- 13) 前期スピーキング試験
- 14) 復習・導入
- 15) 誘い・約束
- 16) 依頼・断り
- 17) 感想・意見を述べる
- 18) 応用 (1)
- 19) 応用 (2)
- 20) 応用 (3)
- 21) 応用 (4)
- 22) 応用 (5)
- 23) 予備日
- 24) まとめ
- 25) 後期スピーキング試験
- 26) 後期スピーキング試験

履修者へのコメント：

授業中のペアワーク、グループワークに積極的に参加できる受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・前期・後期の試験成績 (スピーキング試験とリスニング試験を実施する予定)
- ・平常点 (出席状況および授業態度による評価)

中国語Ⅳa [05学則] (セミナーⅡ) (春学期) セット履修
中国語Ⅳb [05学則] (セミナーⅡ) (秋学期)
中国語第Ⅳ [99学則] (セミナーⅡ) (通年)

教授 長 堀 祐 造

中国語Ⅳa [05] (セミナーⅡ) /
中国語第Ⅳ [99] (セミナーⅡ) (春)

授業科目の内容：

中級程度の中国語読解力の向上を目指します。また、初級・中級文法事項の復習、聞き取り練習にも一定の時間を取るつもりです。同時に、この授業では中国の文化についての認識も深められるよう配慮します。

まず、中国中央電視台が放映したビデオ映像と音声でテキスト本文を確認し、その後、読解、日本語訳文の作成、さらに、音声による聞き取りという手順で授業を進めます。

新出単語の予習と訳文の事前の作成を最低限の予習としてもとめます。

テキスト：

・名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂、2007年

授業の計画：

春学期

- 第1～2回 吉祥紅
- 第3～4回 淮揚菜
- 第5～6回 新中国第一批全国統一教材
- 第7～8回 紹興与酒
- 第9～10回 第一家電視台
- 第11～12回 八達嶺

履修者へのコメント：

予習・復習を心がけてください。家でも中国関係のニュースを見てください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業時に申し出てください。

中国語Ⅳb [05] (セミナーⅡ) /
中国語第Ⅳ [99] (セミナーⅡ) (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

春学期

- 第1～2回 高密剪紙
- 第3～4回 潮州工夫茶
- 第5～6回 第一批全国重点文物保护单位
- 第7～8回 漢字簡化方案
- 第9～10回 希望工程
- 第11～13回 天壇説九

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

中国語Ⅳa [05学則] (セミナーⅠ) (春学期) セット履修
中国語Ⅳb [05学則] (セミナーⅠ) (秋学期)
中国語第Ⅳ [99学則] (セミナーⅠ) (通年)

講師 道 上 知 弘

中国語Ⅳa [05] (セミナーⅠ) /
中国語第Ⅳ [99] (セミナーⅠ) (春)

授業科目の内容：

改革開放後に制作された代表的な中国映画を教材として、実践的な中国語を学んでゆきます。台詞などの会話表現にとどまらず、その映画に関する教科書の解説や、他の文献を精読してゆくことによって、映画の社会的、文化的な背景や、中国映画の世界そのものにも理解を深めてもらうことを目的としています。

テキスト：

・王曉凌編『看电影 学漢語』陝西師範大学出版社、2005年

参考書：

- ・相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』東方書店
- ・相原茂編集『中国語学習ハンドブック (改訂版)』大修館書店
- ・呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典—「現代漢語八百詞増訂本」日本語版』東方書店 …等
- * 中国映画についての参考文献などは開講時に指示します。

授業の計画：

教科書で取り上げられている 20 本の中国映画、台湾映画の中から受講者の関心に応じて数本を選び、それをもとに授業を行います。映画は指定後に必ず各自で観ておくようにしてください。

初回授業でガイダンスを行い、授業の進め方などについての説明をします。必ず出席するようにしてください。

履修者へのコメント：

中国語中級レベル以上の人を対象とします。受講者は基本的な語彙力、文法知識を持っていることを前提として授業を進めますので注意してください。映画に関心を持って、授業で扱う映画以外にも自分で積極的に観てゆくことを希望します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

中国語Ⅳb [05] (セミナーⅠ) /
中国語第Ⅳ [99] (セミナーⅠ) (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期に引き続き、教科書で取り上げられている 20 本の中国映画、台湾映画の中から受講者の関心に応じて数本を選び、それをもとに授業を行います。映画は指定後に必ず各自で観ておくようにしてください。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

スペイン語Ⅳa [05学則] (中級) (春学期) セット履修
スペイン語Ⅳb [05学則] (中級) (秋学期)
スペイン語第Ⅳ [99学則] (中級) (通年)

講師 阿 部 三 男

スペイン語Ⅳa [05] (中級) / スペイン語第Ⅳ [99] (中級) (春)

授業科目の内容：

フランスの作家アレクサンドル・デュマはイベリア半島について「ピレネーを越えると、そこはアフリカだ」と言っているが、イベリア半島は独特な風土を有し、古くから多くの民族が行き交い西洋と東洋が交わり、「ヨーロッパであってヨーロッパでない」独自の文化を形成し世界中の人々を魅了してやまない。特にキリスト教文化とイスラム文化の融合はこの半島の特徴である。この授業ではスペイ

人やラテンアメリカ人のアイデンティティを垣間見ることができ
る雑誌・新聞記事・専門書から抜粋したものを読み、随時ビデオ教
材・映画・カセットテープも使ってスペイン語の基本的なコミュニ
ケーション能力を養成したい。

テキスト：

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従っ
てください。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

この授業では、スペイン語で使用頻度の高い不規則動詞・再帰動
詞・無人称・現在完了・過去形・未来形を使った表現やスペイン語
の基本的文法構造をマスターしながら、スペイン語圏の文化の理解
に努めたい。この授業で扱うテーマは、フラメンコの起源（第1～3
回）・闘牛（第4回）・ガウディ（第5回）・ピカソ（第6～7回）・ダリ
（第8回）・カザルス（第9回）・ラテン音楽（第10回）・マヤ文明（第
11回）・アステカ文明（第12回）・インカ文明（第13回）である。

履修者へのコメント：

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文
法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用して
ほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

3回の小テスト（7割）に出席状況・学習態度・学習意欲などの平
常点（3割）を加味し、総合的に評価します。

質問・相談：

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも
質問を受け付けます。

スペイン語Ⅲb [05] (中級) / スペイン語第Ⅳ [99] (中級) (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

簡単な読み物・ビデオ教材・カセットテープ・映画を使い、使用
頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認するこ
とで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛け
る。この授業で扱うテーマは、趣味（第1回）・料理（第2回）・日
常生活（第3回）・学業（第4～5回）・価値観（第6回）・信仰（第7
～8回）・老後生活（第9～10回）・ドンキホーテ（第11～13回）で
ある。文法的には、主に直説法過去未来形・接続法のマスターを目
標にする。

履修者へのコメント：

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の習得に
努めるので、会話力を養成したい学生には積極的に参加してほしい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

スペイン語Ⅳa [05学則] (セミナー) (春学期)	セット履修
スペイン語Ⅳb [05学則] (セミナー) (秋学期)	
スペイン語第Ⅳ [99学則] (セミナー) (通年)	
講師 阿部 三男	

スペイン語Ⅳa [05] (セミナー) / スペイン語第Ⅳ [99] (セミナー) (春)

授業科目の内容：

文法を単なる知識として持っているのではなく、実際の言語運用
場面において使いこなせるように目だけでなく耳も口も十分に活用
し、刺激的で楽しい授業にしたい。随時ビデオ教材・映画・カセッ
トテープを使い、スペインおよびラテンアメリカの文化・社会に触
れながら、使える基本表現の習得に努めたい。

テキスト：

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従っ
てください。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

簡単な読み物・ビデオ教材・映画・カセットテープを使い、使用
頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認するこ
とで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛け
る。この授業で扱うテーマとしては、スペイン国旗（第1～3回）・
衣食住（第4～5回）・買い物（第6回）・旅行（第7～8回）・スポー
ツ（第9回）・絵画（第10回）・建築（第11回）・舞踊（第12～13
回）。文法的には、主に直説法現在形・現在完了形・過去形・未来形
のマスターを目標にする。

履修者へのコメント：

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文
法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用して
ほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- 3回の小テスト（7割）に出席状況・学習態度・学習意欲などの平
常点（3割）を加味し、総合的に評価します。

質問・相談：

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも
質問を受け付けます。

スペイン語Ⅲb [05] (セミナー) / スペイン語第Ⅳ [99] (セミナー) (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

この授業では、文法的には未来形・過去形・現在完了・過去完了・
未来完了・過去未来完了・接続法を使った表現をマスターしながら、
スペイン語圏の文化理解に努めたい。秋学期は、スペイン人の職業
意識（第1～2回）・収入（第3～4回）・学生生活（第5回）・バスク
民族（第6回）・カタロニア文化（第7回）・中南米事情（第8～10
回）・アメリカ合衆国の中のスペイン語（第11～13回）を題材にし
たビデオ教材・簡単な読み物を使う。

履修者へのコメント：

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の復習
から始めますので、会話力を養成したい学生には積極的に参加して
ほしい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

スペイン語Ⅳa [05学則] (中級) (春学期)	セット履修
スペイン語Ⅳb [05学則] (中級) (秋学期)	
スペイン語第Ⅳ [99学則] (中級) (通年)	
講師 四宮 瑞枝	

スペイン語Ⅳa [05] (中級) / スペイン語第Ⅳ [99] (中級) (春)

授業科目の内容：

スペイン語圏の国々の社会文化的テーマに関連する簡単な読み物
や新聞記事などを講読し、スペイン語圏社会についての理解を深め
るとともに異文化理解の方法論も学ぶ。

授業の手順としては、毎回配布する講読教材の内容確認をチェッ
クシートを用いて行った後、テーマに関連したビデオ、ニュース、映
画などを視聴したり、資料を見て意見を交換し合う。各自の意見・
感想をチェックシートに記入して提出する。意見交換や感想の記述
はスペイン語で行える部分を次第に増やしていくことを目指してお

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

中国語Va [05学則] (選択A) (春学期)	セット履修
中国語Vb [05学則] (選択A) (秋学期)	
中国語第V [99学則] (選択A) (通年)	

講師 陳 愛 玲

授業科目の内容：

中国語を二年間学習すれば、大体の人は入門→初級→中級と、目に見えてレベルアップすることができるでしょう。しかし、そこからが問題。その先はどのように勉強したらいいのか分からない。あるいは、いくらやっても目立った勉強効果が得られない。つまり、いつまで経っても「中級」から抜けられないもどかしさを感じる人は少なくないと思います。

当講義は、このような「さまよえる中級人」の要望に応え、そこからの脱出手助けするものです。中級者は、中国語の基本語彙および文法規則についてすでに理解し把握しています。これから必要なのは、中国語という言語の「しくみ」を理解することだと思います。たとえば、単語・フレーズ・慣用表現・センテンスといったものは、これまでは教科書の提示順にしたがって必死に覚え、その関連性について考える余裕はあまりなかったのではありませんか。当然、他の言語と同じように、これらのものは中国語という宇宙の中で何らかの形でつながっています。中国語の「しくみ」が分かるようになると、いろいろな表現をみずから能動的に関連づけることができるようになり、中国語の学習がより楽しくなることでしょう。また、言語はそれを有する民族の文化を反映するものです。中国語のしくみを探究することは、その根底にある中国人の「こころ」をさぐり理解するプロセスともなるでしょう。

授業は「中国語検定問題の実践」をベースに、幅広い中国語の知識に触れ理解してもらうことを中心に進めていくが、要望があれば、会話を取り入れることも当然可能です。目標としては、検定試験 2 級程度のレベルに届くことを目指したい。

テキスト：

プリントを配布する

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) プレテスト
- 3) テストの解答と解説
- 4) ヒアリング強化
- 5) ヒアリング強化
- 6) ヒアリング強化
- 7) ヒアリング強化
- 8) 筆記語彙問題
- 9) 筆記語彙問題
- 10) 筆記文法問題
- 11) 筆記文法問題
- 12) 予備日
- 13) 前期まとめ
- 14) 筆記文章問題
- 15) 筆記文章問題
- 16) 中国語検定試験過去問題 (1)
- 17) 解答と解説
- 18) 中国語検定試験過去問題 (2)
- 19) 解答と解説
- 20) 中国語検定試験過去問題 (3)
- 21) 解答と解説
- 22) 応用 (1)
- 23) 応用 (2)
- 24) 応用 (3)
- 25) 予備日
- 26) 後期まとめ

履修者へのコメント：

・授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。

・積極的に授業に参加し、積極的に発言し質問する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度による評価)
- ・宿題やレポートの完成状況

ロシア語Va [05学則] (選択A) (春学期)	セット履修
ロシア語Vb [05学則] (選択A) (秋学期)	
ロシア語第V [99学則] (選択A) (通年)	

講師 佐野 洋子

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト：

教材は、初回の授業で配布します。

参考書：

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

授業の計画：

春学期は、発音、文法にあて、秋頃から読みものに入ります。会話用のテキストも併用する予定です。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度による評価)

〔Ⅲ. 総合教育科目〕

人類学a [05学則] [I系] (春学期)	セット履修
人類学b [05学則] [I系] (秋学期)	
人類学 [99学則] [I系] (通年)	
人類の過去・現在・未来	講師 吉田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

・片山一道、五百部裕他『人間史をたどる—自然人類学入門—』朝倉書店

参考書：

・中原 泉『歯の人類学』医歯薬出版
・片山一道『古人骨は生きている』角川書店
・竹原直道編、坂下・藤田・松下・下山『むし歯の歴史』砂書房

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配布します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価（平常点は出席状況についてのみの評価です。）

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受け付けます。

情報処理 [05学則] [99学則] [I系] (春学期)	
経済学・社会学のためのデータ分析	講師 相場 裕 子

授業科目の内容：

この科目では、経済学・社会学分野のデータ分析の事例を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成します。

講義では、表計算ソフトウェア（Excel）、統計パッケージ（SAS）等を使ってデータ分析を行い、データ分析の手法やデータの読み取り方について解説します。データ分析は、データ分析の基礎を身につけるには、受講者が自らパソコンを操作して、データを入力・分析するプロセスが重要ですが、講義中に十分な実習時間がとれないため、毎回、小課題を課します。授業時間以外にも、積極的に実習を行ってください。

なお、数学・統計学に関する知識は、高校レベルの数学と学部の統計学の知識を前提とし、実際のデータを見ながら、統計手法の直感的な理解が得られるような内容とします。

テキスト：

特に指定しませんが、講義資料（レジュメ）を配布します。

参考書：

適宜、参考文献を紹介します。

授業の計画：

1. データ分析入門

- データの整理とグラフ表示
 - データの特徴の把握
 - 推定と仮説検定
2. 統計調査の利用
—主な経済統計の種類、使い方
 3. 回帰分析
—線形回帰モデル
—マクロ経済モデル
 4. 多変量解析
—数量化理論
—主成分分析

履修者へのコメント：

受講者は、パソコンの基本的な操作、E-mail を使えることを前提とします。また、講義資料取得には、インフォメーション・テクノロジー・センターのWindows PC のアカウントが必要になります。

成績評価方法：

平常点および期末レポートにより評価します。

質問・相談：

授業時間中に受け付けます。また、メールでも対応します。

歴史a [05学則] [II系] (春学期)	
歴史b [05学則] [II系] (秋学期)	
歴史 [99学則] [II系] (通年)	
日本中世社会の諸相	講師 池和田 有 紀

授業科目の内容：

中世の人々はどのような社会に生き、どのような思考を持っていたのでしょうか。

それを探るために、まずは中世史研究の方法について学びます。

講義では、研究の根幹をなす史料の種類や読解方法を解説し、いくつかの史料について読解を実践します。

それらをもとに、最近の研究成果をふまえて、日本の中世社会の実像に迫ってみたいと思います。特に、政治と文化の関係を深く探ることになるでしょう。

前近代社会の諸相を学ぶことで、多様な文化への理解が求められる現代社会に対応しうる、柔軟な歴史的思考を目指します。

歴史Ⅰの授業を前提に歴史Ⅱの授業を行うので、できれば両方共履修することが望ましいです。

テキスト：

随時プリントを配布します。

参考書：

授業内で紹介します。

授業の計画：

初回の授業で提示します。

法学a (憲法を含む) [05学則] [II系] (春学期)	セット履修
法学b (憲法を含む) [05学則] [II系] (秋学期)	
法学 (憲法を含む) [99学則] [II系] (通年)	
現代社会と法	講師 松浦 聖 子

授業科目の内容：

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」は、現代社会の諸問題を理解する上でも、重要なシステムである。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

・伊藤正巳・加藤一郎(編)『現代法学入門』有斐閣双書
・コンパクトタイプの六法 (2007年度版)

参考書：

・碧海純一『法と社会』中公新書
・田中成明『法的空間』東京大学出版会

授業の計画：

【前期】

1. 法とは何か
2. 法の適用 (1) 裁判の諸原則 (2) 民事訴訟 (3) 刑事訴訟 (4)

法源

3. 法の体系 (1) 法の分類 (2) 公法と私法 (3) 実定法の体系
4. 国家と法 (1) 国家と憲法 (2) 日本国憲法の基本原理
5. 犯罪と法 (1) 犯罪と刑法 (2) 刑法の機能 (3) 犯罪の成立要件
6. 家族生活と法 (1) 家族法 (2) 夫婦 (3) 親子 (4) 相続

【後期】

7. 財産関係と法 (1) 財産法 (2) 取引の主体 (3) 取引の客体
8. 契約 (1) 契約の機能 (2) 契約の成立とその効力 (3) 債務不履行 (4) 損害賠償
9. 労働と法 (1) 労働法の理念と体系 (2) 労働保護法 (3) 労働団体法
10. 国際社会と法 (1) 国際法 (2) 国家の不正行為 (3) 秩序回復
11. 民事訴訟手続 (1) 民事訴訟の基本原則 (2) 民事訴訟の流れ (3) 少額訴訟 (4) 民事執行
12. 刑事訴訟手続 (1) 刑事訴訟の基本原則 (2) 刑事訴訟の流れ (3) 刑事訴訟法と刑法

履修者へのコメント：

① 法律学は暗記の学問ではなく、論理的体系を持った理解の学問なので、講義には必ず出席すること。

② ニュース報道などで取り上げられている事件や社会問題の法的な意味にできるだけ関心を持つこと。

成績評価方法：

試験・レポート・出席状況等を総合して評価します。

近代思想史a [05学則] [Ⅱ系] (春学期)

セット履修

近代思想史b [05学則] [Ⅱ系] (秋学期)

近代思想史 [99学則] [Ⅱ系] (通年)

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテクストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

質問・相談：

随時

美術a [05学則] [Ⅱ系] (春学期)

セット履修

美術b [05学則] [Ⅱ系] (秋学期)

美術 [99学則] [Ⅱ系] (通年)

西洋建築様式史

講師 金山 弘昌

授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

参考書：

- ・熊倉洋介・末永航他『カラー版 西洋建築様式史』美術出版社、1995年
- ・西田雅嗣(編)『ヨーロッパ建築史』昭和堂、1998年
- ・日本建築学会(編)『西洋建築史図集』彰国社

授業の計画：

1. 西洋建築史の基礎知識。もっとも基本的な概念や用語についての解説。(2回)
2. 古代ギリシアとヘレニズムの建築 (3回)
3. 古代ローマ建築 (3回)
4. 初期キリスト建築・ビザンチン建築・初期中世(プレ・ロマネスク)建築 (2回)
5. ロマネスク建築 (3回)
6. ゴシック建築 (3回)
7. ルネサンスとマニエリスムの建築 (4回)
8. バロックとロココの建築 (3回)
9. 18世紀後半から19世紀の建築 (3回)

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

人の尊厳(社会と人権) [05学則] [99学則] [Ⅲ系] (春学期)

名誉教授 関場 武

文学部 教授 安藤 寿康

文学部 教授 渡辺 秀樹

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業の計画：

生命倫理、難民問題、犯罪被害者・加害者の人権、同和問題カウンセリングなどのテーマが予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に関する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況(8割以上の提出=出席をもって単位が認可される)とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤(コーディネータとして毎回参加する)に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

地域研究—中国事情V [05学則] [99学則] [Ⅱ系] (春学期)

講師 清水 美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長によって、アメリカをしのぐ日本の最大の貿易相手となりビジネスでも関係が深まってきた。学校や職場、街

頭で中国人と接する機会も増えた。これに伴い、個人レベルだけでなく政治や社会のさまざまな局面で中国との摩擦も増えてきた。中国及び中国人とどのように付き合っていくかは、これからの日本と日本人にとって大きな課題になっている。授業では政治や社会、それに経済のあらゆる側面から中国の現状を解き明かし、中国の国情や中国人の思考方法の理解を深める。マスコミをにぎわすトピックにとどまらず、その背景から現代中国史の抱える問題を探っていく。春学期は、政治、外交、秋学期は社会、経済に重点を置く。

テキスト：

- ・清水美和『中国はなぜ「反日」になったか』文春新書
- ・清水美和『中国が「反日」を捨てる日』講談社+α新書

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：授業への参加状況および授業態度による評価（不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する）

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

地域研究—中国事情VI [05学則] [99学則] [Ⅱ系] (秋学期)

講師 清水美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長によって、アメリカをしのぐ日本の最大の貿易相手となりビジネスでも関係が深まってきた。学校や職場、街頭で中国人と接する機会も増えた。これに伴い、個人レベルだけでなく政治や社会のさまざまな局面で中国との摩擦も増えてきた。中国及び中国人とどのように付き合っていくかは、これからの日本と日本人にとって大きな課題になっている。授業では政治や社会、それに経済のあらゆる側面から中国の現状を解き明かし、中国の国情や中国人の思考方法の理解を深める。マスコミをにぎわすトピックにとどまらず、その背景から現代中国史の抱える問題を探っていく。春学期は、政治、外交、秋学期は社会、経済に重点を置く。

テキスト：

- ・清水美和『中国農民の反乱』『「人民中国」の終焉』（いずれも講談社+α新書）

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：授業への参加状況および授業態度による評価（不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する）

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

自由研究セミナーa [05学則] [Ⅲ系] (春学期) セット履修

自由研究セミナーb [05学則] [Ⅲ系] (秋学期)

自由研究セミナー [99学則] [Ⅲ系] (通年)

実践を通して学ぶバリアフリー・ユニバーサルデザイン

教授 中野泰志

授業科目の内容：

現在、我が国の少子化・高齢化は加速し、高齢化率は世界でも最高に近い水準に達しています。法的に認定された障害者だけでも600万人を超えており、65歳以上の高齢者も2500万人以上に達しています。このように、単純に人口比から考えただけでも、障害者・高齢者は、すでに全国民中の一部のマイノリティーグループとは呼べない規模に増大しています。さらに、疾病や事故・災害等での一時的

な障害も含め、短期的に心身のコンディションにハンディを持つ人は多く、何よりも「すべての人が加齢とともにやがて確実に高齢者になる」という現実を考慮すれば、バリアフリー問題は、すなわち国民全体のテーマであるといえます。

若くて、健康な人にとって、特別な理由がない限り「高齢」や「障害」ということを意識することは少ないと思います。しかし、一生を考えてみると、不自由なく、移動したり、考えたり、覚えたりできる状態に身体を保つことができるのは、一時的なことです。例えば、誰も乳幼児のときには一人では上手に食事もできなかったわけです。また、いつ病気や事故等に遭遇するかもわかりませんし、老化を避けることは誰にもできません。この意味で障害や加齢は身近な問題であり、障害や加齢の状態にある人にも住みよい社会を創っていくことは、すべての人にとって大切な課題だと言えるでしょう。

このセミナーでは、すべての人が快適に生活できる「バリアフリー（バリアのない）社会」を実現するために必要な事項について実践を行いながら、ディスカッションを行います。様々な障害のある状態を擬似的に体験するワークショップ、ノートテイク等の支援の実習、キャンパスや街のバリアチェック等の実践を通して、バリアフリー・ユニバーサルデザインについて学びます。実習は、講義時間以外にも実施することがありますので、意欲のある学生の参加を期待します。

本セミナーで一定以上の知識・技術を修めた学生には、学部長から修了証を授与いたします。なお、本セミナーは、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン演習」とのセットでの履修を推奨します。セットで履修し、一定の知識・技術を修めた学生には、1ランク上の修了証を授与いたします。

テキスト：

講義内容のポイントをまとめた資料は、Webサイト「<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/>」よりダウンロードできます。ただし、Webサイトは、パスワードによるアクセス制限をかけています。パスワードは、講義の際にお伝えします。

参考書：

- ・中島隆信『障害者の経済学』東洋経済新報社
- ・吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓『大学ノートテイク入門』人間社
- ・白澤麻弓・徳田克己『聴覚障害学生サポートガイドブック』日本医療企画

授業の計画：

セミナーでは、以下に列挙するテーマに関する実習を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する知識・技術の修得を目指します。

テーマ1 障害の理解と支援

障害とは何かについて疑似体験を通して学びます。また、障害のある人への支援のあり方について、聴覚障害がある人への情報提供実習（ノートテイク）を通して学びたいと思います。

テーマ2 病気、障害、健康の概念

病気、障害、健康、高齢等のバリアフリーに関連する概念がどのように定義され、社会の中でどのように使われているかについて検討します。また、これらの概念が歴史的にどのように変遷してきたかについても調べていきたいと思っています。

テーマ3 バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉がどのように定義され、使われてきたかについて検討します。

テーマ4 教育のバリアフリー（特別支援教育）

障害のある子供達への教育は今、大きな転換期を迎えています。特殊教育から特別支援教育への変革です。教育を受ける権利と義務にも言及しながら、教育のバリアフリーについて検討します。

テーマ5 リハビリテーションと福祉サービス

高齢者や障害者の介護や自立支援の問題は、経済の観点から見ても重要な問題になりつつあります。ここでは、リハビリテーションや福祉サービスの現状について調査し、最低限の生活の保障と財政問題をどのように解決すればよいかについて検討します。

テーマ6 科学技術の活用

今や科学技術は生活の様々な場面で有効利用されています。障害者や高齢者の生活にも深く関係しています。ここでは、障害者や高齢者の生活を支える様々な支援技術を紹介します。また、支援技術の適切な活用方法について事例や実習を交えなが

ら検討します。

テーマ7 障害者や高齢者の就労支援

組織の成員として、障害者・障害者をどのように理解すべきでしょうか？ 職業を通じた社会参加の機会はすべての人に平等なのでしょうか？ 従来、障害者の就学や雇用の問題は、障害のある個人の問題として考えられてきました。しかし、WHOが2001年に障害の概念を環境との関係として捉え直したのを機に、障害者の問題ではなく、障害を作り出している環境（人的環境を含む）の問題として捉えられるようになりました。ここでは、障害のある人達の就学・就労における支援、ジョブコーチ、ワークシェアリング等について検討します。

履修者へのコメント：

本講義は、ゼミナール形式で実施します。基礎的な知識・技術についての解説だけでなく、理解を深めるために実習や討議を重視します。また、それぞれがテーマを選び、プレゼンテーションを行っていただきます。したがって、積極的に講義に参加できる学生を歓迎します。

成績評価方法：

平常点（出席と毎回提出を求めるショートレポート）、プレゼンテーション、レポートの得点で評価します。なお、配点は、平常点（出席とショートレポート）3割、プレゼンテーション3割、実習レポート4割です。

質問・相談：

講義に関する質問等は、講義時間の前後もしくは電子メールで受け付けます。なお、電子メールのアドレスについては、講義の際に紹介します。

自由研究セミナーa [05学則] [Ⅲ系] (春学期) セット履修

自由研究セミナーb [05学則] [Ⅲ系] (秋学期)

自由研究セミナー [99学則] [Ⅲ系] (通年)

教授 長 堀 祐 造

自由研究セミナーa [Ⅲ系] [05] /

自由研究セミナー [Ⅲ系] (春) [99]

授業科目の内容：

近現代中国の軌跡 中国語中級テキストで読む中国近現代史

中国語を履修したが、中国の歴史については学習する機会がなかった、あるいは、より詳しく中国の近現代史を学びたいという学生諸君は多いと思います。この授業では中国語の中級レベルの教科書で中国語読解力の向上をはかりながら、中華民国以降の中国の歴史を概観します。テキスト本文は歴史的文献です。中国の専門家を目指す、アマチュアでも中国通になりたい、中国についての常識を知っておきたい、などと考えている学生諸君の受講を歓迎します。時に報告を求めることもあります。

テキスト：

・三瀧正道・松田徹『現代中国の軌跡—史料と演習—』金星堂、2007年

参考書：

・鄭超麟『初期中国共産党群像』平凡社東洋文庫 711/712, 2003年

授業の計画：

春学期

第1～2回 中華民国の成立 (1911～1925)

第3～4回 抗日戦争 (1926～1945)

第5～6回 新中国の成立 (1945～1957)

第7～8回 大躍進運動期 (1958～1965)

第9～10回 文化大革命 (1966～1971)

第11～12回 文革期の終焉 (1972～1978)

履修者へのコメント：

積極的な授業参加を期待します。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業時に申し出てください。

自由研究セミナーb [Ⅲ系] [05] /

自由研究セミナー [Ⅲ系] (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト・参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期

第1～2回 改革開放のスタート (1978～1986)

第3～4回 天安門事件と南巡講話 (1987～1996)

第5～6回 朱鎔基と三大改革 (1997～2000)

第7～8回 WTO加盟と胡温体制 (2001～)

第9～10回 現代中国ウォッチング (その1)

第11～12回 同上 (その2)

第13回 同上 (その3)

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

諸 研 究 所

教 職 課 程 セ ン タ ー
言 語 文 化 研 究 所
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 研 究 所
体 育 研 究 所
福 澤 研 究 セ ン タ ー
外 国 語 教 育 研 究 セ ン タ ー
国 際 セ ン タ ー
保 健 管 理 セ ン タ ー
情 報 処 理 教 育 室
ア ー ト ・ セ ン タ ー

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 19 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級Ⅰ(春)	土田龍太郎	半期 1単位
サンスクリット初級Ⅱ(秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅰ(春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅱ(秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎Ⅰ(春)	榮谷温子	
アラビア語基礎Ⅱ(秋)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅰ(春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅱ(秋)	榮谷温子	
アラビア語古典Ⅰ(春)	岩見 隆	
アラビア語古典Ⅱ(秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読Ⅰ(春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読Ⅱ(秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級Ⅰ(春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級Ⅱ(秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級Ⅰ(春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級Ⅱ(秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅰ(春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅱ(秋)	嶋尾 稔	
ベルシア語初級Ⅰ(春)	関 喜房	
ベルシア語初級Ⅱ(秋)	関 喜房	
ベルシア語中級Ⅰ(春)	岩見 隆	
ベルシア語中級Ⅱ(秋)	岩見 隆	
タイ語初級Ⅰ(春)	三上直光	
タイ語初級Ⅱ(秋)	三上直光	
タイ語中級Ⅰ(春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級Ⅱ(秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級Ⅰ(春)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語初級Ⅱ(秋)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語中級Ⅰ(春)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語中級Ⅱ(秋)	ヤマンラール, アイドウン	
朝鮮語文献講読Ⅰ(春)	野村伸一	
朝鮮語文献講読Ⅱ(秋)	李 美江	
カンボジア語初級Ⅰ(春)	三上直光	
カンボジア語初級Ⅱ(秋)	三上直光	
ヘブライ語初級Ⅰ(春)	笈川博一	
ヘブライ語初級Ⅱ(秋)	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅰ(春)	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅱ(秋)	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅰ(春)	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅱ(秋)	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅰ(春)	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅱ(秋)	笈川博一	
アッカド語初級Ⅰ(春)	高井啓介	
アッカド語初級Ⅱ(秋)	高井啓介	
アッカド語中級Ⅰ(春)	高井啓介	
アッカド語中級Ⅱ(秋)	高井啓介	

サンスクリット初級Ⅰ（春）
サンスクリット初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト：

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法（春秋社）」
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」（岩波書店）

授業の計画：

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動変化

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級Ⅰ（春）
サンスクリット中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト：

参加者の希望で決める。

授業の計画：

サンスクリットⅡでは、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎Ⅰ（春）
アラビア語基礎Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容：

正則アラビア語（フスハー）のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト：

佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書：

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

- (春)第1回—第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回—第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- (秋)第1回—第7回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第8回—第13回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント：

アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読Ⅰ（春）
アラビア語現代文講読Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容：

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト：

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書：

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春)第1回—第6回 母音記号がついた平易な短い文章（名詞文・動詞文）の講読。

第7回—第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋)第1回—第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント：

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典Ⅰ（春）
アラビア語古典Ⅱ（秋）

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト：

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書：

井筒俊彦：アラビア語入門、慶應出版社 1950.

授業の計画：

最初の日、参考書や辞書の紹介などガイダンスをします。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしたいと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくとつりです。

履修者へのコメント：

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。）

アラビア語文献講読Ⅰ（春）**アラビア語文献講読Ⅱ（秋）**アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れていることが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ベトナム語初級Ⅰ（春）**ベトナム語初級Ⅱ（秋）**言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語の基礎知識（発音、綴り字、初級文法、簡単な会話表現）の修得を目指します。

テキスト：

『ベトナム語入門Ⅰ』（慶應外国語学校）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語中級Ⅰ（春）**ベトナム語中級Ⅱ（秋）**言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語の基礎知識を身につけた人を対象に、ベトナム語の読解力の修得を目指します。ごく簡単な文章から始めますが、受講者のレベルや要望に応じて時事的な文章（雑誌・新聞の抜粋）に進みます。

テキスト：

初回に受講者と相談して決めます。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店、2005年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読Ⅰ（春）**ベトナム語文献講読Ⅱ（秋）**言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を読みます。或いは、ベトナム漢文に興味のある受講者があれば、漢文と現代ベトナム語の対訳テキストを読みます（この場合、ベトナム

ム語未修者でもかまいません）。

テキスト：

初回に受講者と相談して決めます。

参考書：

富田健次『ヴェトナム語の世界：ヴェトナム語基本文典』（大学書林、2000年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級Ⅰ（春）**ペルシア語初級Ⅱ（秋）**ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

1- ガイダンス

2- 文字の習得

3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）

4- 易しい現代文を読む練習（計7回）

5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級Ⅰ（春）**ペルシア語中級Ⅱ（秋）**ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語初級Ⅰ（春）**タイ語初級Ⅱ（秋）**言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級Ⅰ（春）

タイ語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 ボンシー、ライト

授業科目の内容：

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト：

プリント使用。

授業の計画：

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント：

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級Ⅰ（春）

トルコ語初級Ⅱ（秋）

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンラール、アイドゥン

授業科目の内容：

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト：

プリント使用

授業の計画：

- (春)第1－2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3－7回 “～は～です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8－13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- (秋)第1－4回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第5－8回 分詞
- 第9－11回 動名詞
- 第12－13回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安とと考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級Ⅰ（春）

トルコ語中級Ⅱ（秋）

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンラール、アイドゥン

授業科目の内容：

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト：

プリント使用

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読Ⅰ（春）

朝鮮語文献講読Ⅱ（秋）

文学部 教授 野村 伸一
言語文化研究所 講師 李 美江

授業科目の内容：

大韓民国という国家、社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く、皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし、それにまつわる言説だけを見ていても、けっして内在的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて、ものごとには、来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって、それはどういうものであったのか。それを知らない限り、日本と朝鮮半島は時流の往來をくり返すほかはないでしょう。

テキスト：

韓洪九『大韓民国史 03』、ハンギョレ新聞社、2005年。各自、韓国書籍を扱う書店（例、三中堂、高麗書林）もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書：

- ・韓洪九著、高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』、平凡社、2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005年
- * 上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』、『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画：

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント：

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することがらは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

前期と後期で担当者は代わりますが、教材は同じです。

成績評価方法：

出席すること、翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級Ⅰ（春）

カンボジア語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の習得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級Ⅰ（春）
ヘブライ語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者者を想定している。

テキスト：

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

英語ないしドイツ語による辞書（¥2500～¥10000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっていくのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級Ⅰ（春）
ヘブライ語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト：

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書：

英語ないしドイツ語による辞書（¥2500～¥10000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級Ⅰ（春）
古代エジプト語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者者を想定している。

テキスト：

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

5月ごろから辞書（約¥9000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっていくのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級Ⅰ（春）
古代エジプト語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

中期エジプト語の初歩。

テキスト：

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

辞書は Raymond O. Faulkner “A Concise Dictionary of Middle Egyptian” Oxford (Amazon JP で¥3542)、あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画：

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級Ⅰ（春）
アッカド語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト：

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回）— コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回、語根の判別、変化、叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典、イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化、歴史、宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

アッカド語中級Ⅰ（春）**アッカド語中級Ⅱ（秋）**

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：**講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文、書簡、法律文書、契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩、祈り文学、占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

メディア・コミュニケーション研究所とは

メディア・コミュニケーション研究所 (Institute for Media and Communications Research) は、研究所の専任の先生を中心に新聞・ラジオ・テレビ・雑誌などの在来のメディアと新しいインターネットなどのメディア、それらによるメディア・コミュニケーションの社会的相互作用とジャーナリズムの研究を行うと同時に、研究生と呼ばれる学部生諸君を教育し、各種メディア業界に有為な人材を送り込むための研究・教育機関です。1946 (昭和 21) 年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。後に新聞研究所に名称を改め、1996 (平成 8) 年に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。

新聞研究所は、第 2 次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合軍占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マスメディア研究を行いうる研究機関の設置をいくつかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾大学であり、後に法学部長になった米山桂三教授に運営が任された、というのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究室は新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました (当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので参照可能です)。しかし、後に研究機能の重視を目的に名称を研究所に改めました。今日では実習的な側面よりは研究生 (研究所に入所した学生はこう呼ばれます) にはマスメディアおよびマスコミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心に基礎的な研究に力を入れるようになりました。メディア業界からはすぐに陳腐になりやすい皮相でテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められています。そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりました。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、戦後直後の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行していきました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的に展開する時代となりました。そして、アナログ時代からデジタル時代へと移行し、インターネットを中核としたマルチ・メディアの展開が叫ばれるようになりました。新聞・ラジオ・テレビとインターネットの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心だったものが、双方向的なものになりました。その情報通信範囲もパーソナル・ローカル・ナショナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化がもたらされました。多チャンネル時代を迎え放送内容も多様になり、アイデアや創造力がメディア業界で働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになり、1996 (平成 8) 年には、研究所 50 年の記念式典を行い翌年より名称を現行のものに変更しました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による多様なメディア・コミュニケーションの時代に合致した名称に変更したのです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正で時には批判的な報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。

しかし、研究生には報道ジャーナリズムやマスコミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア (とくにコンピュータ・メディア) を十分理解した上に自由に使いこなせるだけの能力を身に付けて欲しいと思っています。そのために、1998 (平成 10) 年より、メディア・リテラシー向上のため「メディア・ワークショップルーム (MWR)」を開設しています。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオン・ライン新聞を盛んにしたいと思います。それは、研究生が送り手と受け手の双方を融合させることなので、メディア倫理教育の充実が必要です。

1997 年 4 月より、新しい名称でスタートを切った研究所は、2006 (平成 18) 年に改称後 10 年目の記念の年を迎え、研究所 60 年記念の年となりました。あっという間の 10 年でした。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社を買収しようとする騒動が日本でも発生しました。今後もそうした激動の 10 年がくり返されると思います。

現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名 (2~4 年生) の教育を行っています。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たなる歴史を刻む当事者です。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってもらいたいと思います。そして、綱町三田会 (修了生の同窓会) という OB・OG 組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目 10単位以上

・研究会 8単位以上※

・特殊研究 4単位以上

・基礎演習 2単位以上

合計 28単位以上

※2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。

すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 19 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	奥野 昌宏
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ（法学部併設）	秋2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制Ⅰ	春2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制Ⅱ	秋2	大石 泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ	秋2	竹下 俊郎
三田設置科目	情報行動論Ⅰ	春2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーションⅠ	春2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	小川 葉子
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅱ	秋2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	大石・荒田・伊藤高
三田設置科目	コミュニケーション調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	石丸・菅谷・豊嶋

*研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	藤田 結子

*特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ	春2	鈴木 祐司
三田設置科目	放送特殊講義Ⅱ	秋2	村尾 尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究Ⅰ・Ⅱ（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	秋2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	堀主知ロバート
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ（市民とメディア）	秋2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷・小川・豊嶋・藤田

*基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	河内 孝
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ	春2	金山 智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅱ	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	大久保 成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	田辺 浩介

★印は朝日新聞寄附講座

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春）

マス・コミュニケーションと政治

大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会
参考書：

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画：

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル：弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋）

ジャーナリズムとメディア言説

大石 裕

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・鶴木真編『客観報道』成文堂
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社

授業の計画：

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春）

日本の近代化とジャーナリズム

鈴木 雄雅

授業科目の内容：

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html>

テキスト：

春原昭彦『日本新聞通史 [四訂]』（新泉社、2003）

参考書：

宮地正人『国際政治下の近代日本』（山川出版社）ほか。講義時に紹介する

授業の計画：

1. 幕末期から明治初期：瓦版、新聞紙、近代化とメディア、開港場に新聞、英字紙の発達、幕末新聞の特色
2. 慶応4年（明治元年）の新聞紙、日刊紙の登場：明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界：奨励策と新聞弾圧、小新聞の登場、自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化：民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人：日清戦争、日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立（新聞の企業化）
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立：ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程、軍の干渉と新聞人の抵抗、製紙会社、通信社の統合
9. 情報局の成立、統制法規の制定、新聞社の統合、戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞、独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き（言論性、販売、広告界の変化、技術革新とその対応）
12. テレビ、週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント：

日本の近代史についてある程度の知識が必要（高校程度の日本史、世界史）

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合

質問・相談：

授業中ならびに授業後、Eメール

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋）

イギリスのジャーナリズム

鈴木 雄雅

授業科目の内容：

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html>

テキスト：

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, *The Media in Europe: The Euromedia Handbook* London: Sage, 2004.

授業の計画：

以下の項目について、2回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20世紀のメディア・バロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
1980年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、Eメール

国際コミュニケーション論Ⅰ（春）

メディアと国際関係

奥野昌宏

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹き起せており、時として国際的な紛争をも生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわち講義の国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション、メディア、そして国際コミュニケーション
2. メディアの発達と国際的進展
3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
4. メディアのグローバル化と国際的再編成
5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相
それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

国際コミュニケーション論Ⅱ（秋）

東アジアのメディア・情報・文化

奥野昌宏

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思います。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
2. 韓国のメディア状況と社会・文化
3. 中国のメディア状況と社会・文化
4. 東アジアにおける日本の大衆文化
5. 「韓流」文化の生産と受容
6. 東アジアの国際関係とメディアの役割
それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

メディア社会論Ⅰ（秋）

メディア・コンテンツへの物語論的接近

藤田真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約3分の2は、『ギフト』（1997年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約3分の1は、ニュースやCMなど他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房（2006年）

補助的に毎回授業中にプリントを配布します（原則として再配布はしません）。

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 — 統辞構造 [←構造主義・物語論・記号論]
2. テレビ・テキストの時間 — ストーリーとプロット [←物語論・文学理論]
3. テレビ・テキストの人物関係 — 範列構造 [←構造主義・物語論・記号論]

4. テレビ・テキストの映像表現 [←映像論・映像記号論]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [←映像論・文学理論]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [←メディア論・構造主義]
7. テレビ・テキストと社会的コード—ジェンダー／階級[←フェミニズム論・社会学・記号論]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [←精神分析・身体論・映像論・演劇論]
9. テレビ・テキストと視聴者読解—意味をめぐる相互作用・闘争 [←読者論・カルチュラル・スタディズ]
10. テキストの責任／視聴者の責任—『ギフト事件』をめぐる [←作家論／読者論・メディア倫理]
11. 他のテキストへの応用①—物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用②—物語としてのCM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的なじみのある分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の50%）

メディア法制Ⅰ（春）

インターネットと情報法

宿南達志郎

授業科目の内容：

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- 宇賀克也，長谷部恭男編著『法システムⅢ：情報法』放送大学教育振興会（放送大学教材），2006年
- 舟田正之，長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣，2001年
- 宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』，2007年3月

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 情報倫理
- (3) 放送法制（2回）
- (4)
- (5) 通信法制（2回）
- (6)
- (7) 個人情報保護
- (8) 電子商取引（2回）
- (9)
- (10) 知的財産法（2回）
- (11)
- (12) 迷惑メール対策法
- (13) まとめ

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア法制Ⅱ（秋）

「取材・報道の自由」の現状と課題

大石泰彦

授業科目の内容：

本講義は、「取材・報道の自由」をキーワードに、マス・メディア（新聞社・放送局など）やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度を取り扱う。受講者が、マス・メディア（ジャーナリスト）がひきおこすさまざまな事件について、単に印象批評や感

情論ではなく理論的・学問的に分析・批判ができるようになること、それがこの講義の目標である。

テキスト：

大石泰彦著『メディアの法と倫理』（嵯峨野書院，2004年，2500円）

参考書：

特に指示しない。ただ、堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』（別冊ジュリスト，有斐閣）は、授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画：

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 行政取材の自由と国家秘密
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 放送法制

ひとつのテーマに、約2回の講義をあてる。

履修者へのコメント：

継続的に新聞を読み、テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や、「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論Ⅰ（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」

伊藤高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を、「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて、一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し、「表現の自由」は今日、どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

授業の計画：

次の講義計画で講義を行います。

- ① ガイダンス
- ② 「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義、存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3回）
- ③ ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害、差別表現など）（3回）
- ④ ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ、メディアの経営問題など）（3回）
- ⑤ 「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます。

ジャーナリズム論Ⅱ（秋）

ジャーナリズム研究と社会理論

伊藤高史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論Ⅰの内容を踏まえて、ジャーナリズムを社会理論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし、そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを、実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

メディア文化論Ⅰ(春)

映画コンテンツとクロス・メディア研究 小川 葉子

授業科目の内容:

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート(数回)をおこなう。最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、プレゼンテーションを予定している。

テキスト:

授業中に指示する。

参考書:

授業中に指示する。

授業の計画:

- (1) ガイダンスおよび導入
- (2) エンタテインメントの歴史(2~14は適宜選択)
- (3) ニュース
- (4) 新聞とジャーナリズム
- (5) 人種とエスニシティの表象
- (6) ドキュメンタリー
- (7) フィルム・ノアール
- (8) ミュージカル
- (9) スリラーとサスペンス
- (10) 古典的物語
- (11)
- (12) ポストモダニズム
- (13) 北欧映画
- (14) アジアその他の地域の映画
- (15) 映画上映と履修者によるプレゼンテーション(3回)

履修者へのコメント:

そのちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点(出席、授業態度、およびプレゼンテーション)
- ・数回の小レポート

質問・相談:

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか事前の appointments により受付ます。

メディア文化論Ⅱ(秋)

岩 淵 功 一

授業科目の内容:

グローバル化が進展するなかでのメディアと文化の諸問題について考察します。理論と具体例をつなぎ合わせて、世界規模での不均衡と排他的な国境の再生産と、それを乗り越える越境対話の可能性について議論したいと思います。

テキスト:

- ・「トランスナショナル・ジャパン」(岩淵功一著、岩波書店)
- ・「文化の対話力」(岩淵功一著、日本経済新聞社)

参考書:

授業中に配布・指示します。

授業の計画:

1. ガイダンス、序(1回)
2. 文化のグローバル化、脱中心化と東アジア(4回)
3. 日本における「ソフトパワー」の批判的考察(3回)
4. 国境の管理とトランスナショナリズム(3回)
5. ファイナルプロジェクト・プレゼンテーション、統括(2回)

履修者へのコメント:

プレゼンテーション・討論を中心に授業を進めるので、学生諸君の積極的な参加を期待します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

メディア産業と政策Ⅰ(春)

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅 谷 実

授業科目の内容:

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト:

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』(丸善、2002年)

授業の計画:

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

I 基礎理論(5)

1. メディア政策
2. 政府規制
3. メディア市場

II 映像コンテンツ産業(6)

4. 映像コンテンツと映画
5. 映画産業の発展
6. 映像振興政策(欧州、米国、日本)

III まとめ(1)

7. メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント:

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談:

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

メディア産業と政策Ⅱ(秋)

宿 南 達 志 郎

授業科目の内容:

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・田原茂行『視聴者が動いた巨大NHKがなくなる』草思社、2005年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社、2004年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版、2005年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送政策(5回)
 - マスメディア集中排除原則
 - NHKのあり方
 - 放送のデジタル化
 - CATV、衛星放送の高度化
- (3) 通信政策(3回)
 - ネットワークの中立性
 - 周波数政策
 - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策(3回)
 - 著作権保護政策
 - 作り手の育成とローケーション誘致
 - 海外のコンテンツ政策
- (5) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅰ（春）

メディア産業概論

宿南達志郎

授業科目の内容：

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣、2006年
- ・電通総研編『情報メディア白書2007』ダイヤモンド社、2006年
- ・総務省編『情報通信白書 平成18年版』ぎょうせい、2006年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史（2回）
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界（2回）
 - 通信業界（2回）
 - 放送業界（2回）
 - 新聞業界（1回）
 - 出版業界（1回）
 - 音楽業界（1回）

(4) まとめ

履修者へのコメント：

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅱ（秋）

インターネット・ビジネス論

宿南達志郎

授業科目の内容：

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的なビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・(財)インターネット協会『インターネット白書2006』インプレス社、2006年
- ・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房、2006年
- ・梅田望夫『ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書、2006年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景（2回）
- (3) インターネットによる業界の変革（5回）
 - エンターテインメント産業
 - 広告業
 - 金融業
 - 流通業
 - 製造業
- (4) インターネットビジネスの事例研究（4回）
 - Google
 - アマゾン
 - ミクシイ
 - DeNA
- (5) まとめ

履修者へのコメント：

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅰ（春）

朝日新聞社寄附講座

大石 裕

荒田 茂夫

伊藤 高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて、最低2度のレポートを課す。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅱ（秋）

朝日新聞社寄附講座

大石 裕

荒田 茂夫

伊藤 高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイト参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて、最低2度のレポートを課す。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

コミュニケーション調査法Ⅰ（春）

新聞の内容分析によって、世論、新聞論調、政府の政策の変化を数量的に把握する
伊藤陽一

授業科目の内容：

本授業では新聞の内容分析を目的としてデータベースの検索、標本抽出、内容分析、表とグラフの作成、調査レポートの書き方等について実地に学ぶ。第2回以降、表計算ソフト「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・伊藤陽一「住専問題に見る政府・マスコミ・世論の三極関係」
- ・SFC フォーラム事務局（編）『SFC フォーラム・ファイルⅠ：コラボリレーション』慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 1998年

授業の計画：

- 第1回：オリエンテーション：達成目標の提示
- 第2回：資料検索・標本抽出（1）：必要とする記事を検索するための「キーワード」を選定する
- 第3回：資料検索・標本抽出（2）：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし、必要な記事をダウンロードする。
- 第4回：資料検索・標本抽出（3）：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。
- 第5～6回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら、コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。
- 第7～8回：データ入力
- 第9～10回：図表の作成
- 第11～12回：レポートの作成（1）
- 第13回：まとめと一部学生の間接報告

履修者へのコメント：

社会調査や研究活動に関心がある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされます。）

質問・相談：

授業終了後に受付ます。

コミュニケーション調査法Ⅱ（秋）

新聞の内容分析による企業・商品・政党・外国イメージの研究
伊藤陽一

授業科目の内容：

春学期においては、内容分析の学術研究への適応を紹介したが、秋学期においては内容分析の実用的・商業的調査への応用について学ぶ。しかし、テーマは統一する必要があるため、今期は外国イメージの研究を実施する。第2回以降、表計算ソフト「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・伊藤陽一研究会『自動車会社のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会 2005年
- ・伊藤陽一研究会『政党のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会 2000年

授業の計画：

- 第1回：オリエンテーション：達成目標の提示
- 第2～3回：資料検索・標本抽出：資料検索・標本抽出（2）：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし、必要な記事をダウンロードする。

第4回：資料検索・標本抽出（3）：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。

第5～6回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら、コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。

第7～8回：データ入力

第9～10回：図表の作成

第11～12回：レポートの作成（1）

第13回：まとめと一部学生の間接報告

履修者へのコメント：

社会調査、研究活動に関心がある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされます。）

質問・相談：

授業終了後に受付ます。

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

民間テレビ放送の現状と将来展望

石丸省一郎

菅谷実

豊嶋基暢

授業科目の内容：

半世紀にわたって繁栄を続けてきたわが国の民間テレビ放送は、経済環境の変化、技術革新制度改革などにより、その在り方が大きく変わろうとしている。本講座は、フジテレビの役員が、自らの実務経験に基づいて各専門分野について講義し、民間テレビ放送の現状と将来展望を考察していくものである。

テキスト：

使用しない

参考書：

使用しない

授業の計画：

テレビメディア論Ⅰ（春学期）では、メディア戦略の要となる編成や報道情報スポーツ、ドラマ、バラエティなどの番組制作について講義し、コンテンツ制作やテレビジャーナリズムに対する理解を深めていく。

テレビメディア論Ⅱ（秋学期）では、マーケティング、ライツビジネス、ネットワーク、衛星や通信をはじめとする他のメディアとの関係など経営戦略にかかわるテーマを中心に講義を行う。

履修者へのコメント：

テレビメディアの影響力は一層強まり、その社会的責任も重くなっている。放送業界以外の分野に進む一般学生の受講も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

【研究会】

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任せられることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要がある

が、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

春学期開始時に指定する。

授業の計画：

春学期

ガイダンス（1回）

テキスト講読（6回）

個人研究テーマの設定、発表（6回）

（夏合宿にて継続して各自の発表を行う）

秋学期

三田祭論文に向けて（2, 3年生の個人研究発表, 6回）

修了論文に向けて（4年生の中間報告, 3回）

次年度に向けての研究計画発表（2, 3年生, 4回）

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会（I～VI）

メディア産業論を考える

菅 谷 実

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関する調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。（2006年度の共同研究テーマは、ケータイ電話 Be Mobile 2.0）

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ (<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>) を参照してください。

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会VIは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（I～VI）

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金 山 智 子

授業科目の内容：

本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。

〈春学期〉

テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定

〈秋学期〉

調査実施、データ分析、報告、発表（三田祭）

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（I～VI）

グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン

小 川 葉 子

授業科目の内容：

本研究会では比較映像分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト：

・M. リー著『メディア・リテラシー』（りべるた出版、2006年）

・『ファッション中毒』（NHK出版、2004年）

その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書：

M. フェザーストーン著、川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』（上・下巻、恒星社厚生閣、2002年）

授業の計画：

春学期

(1) ガイダンスおよび導入（2～3回）

(2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム（2～3回）

(3) デザイン言語とマーケティング戦略（2～3回）

(4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス（2～3回）

(5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割（2～3回）

(6) 個人（あるいは2～3名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表、春学期のまとめ（1～2回）

秋学期

(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング（1～2回）

(2) 個人（あるいは2～3名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表（2回）

(3) フィールドワーク（2回）

(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作（2回）

(5) (4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評（2回）

(6) 三田祭発表とフィードバック

(7) まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは（1～2回）

履修者へのコメント：

フィールドワークは、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかわる作品による評価

質問・相談：

授業終了直後、あるいは履習者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

〔前期〕

1～2回 基本的な文献の講読

3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

11～13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

情報化と近代化

※新規募集なし（2007年度で終了のため）

伊藤 陽一

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年

・その他、講読する論文を授業で配布する。

参考書：

・有吉広介（編）『コミュニケーションと社会』芦書房、1990年

・津田幸男・浜名恵美（共編）『アメリカナイゼーション：静かに進行するアメリカの文化支配』研究社、2004年

授業の計画：

第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え、基礎理論に関する講義等

第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①

第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②

第4回 以降は、指定された論文講読を行う。講読する論文は履習者の関心、専門分野を知った上で決めたい。

履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人、関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法：

・「三田祭参加論文」と期末レポート

・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談：

この研究会は2007年度で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究

金正勲

授業科目の内容：

クリエイティブ産業 (Creative Industries) とは、映画、放送、出版、音楽、広告、ゲーム等、人間の創造性に基盤を置く産業です。デジタル革命やメディア間の融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・文化的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト：

授業中に適宜指定する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

授業の計画：

(1) 春学期

ガイダンス（計1回）

学生による News Clipping, 輪読, レクチャー（計9回）

メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）

ゲストとの対談（計1回）

ゼミ生は独自の研究テーマを設定の上、夏休合宿において研究発表

(2) 秋学期

学生による News Clipping, 輪読, レクチャー（計10回）

メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）

ゲストとの対談（計1回）

履修者へのコメント：

本研究会では、常に自分の視点を持ち、他者とコミュニケーションをすることで相互に高め合う、そういう創発的なコミュニティを目指します。単位取得の目的ではなく、自分を高めるために全力を尽くす決意のある学生を希望します。私も全力を尽くします。

成績評価方法：

平常点：出席点及び授業態度による評価。

質問・相談：

質問等は、kim@dmc.keio.ac.jp まで遠慮なく。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

情報通信メディアの進展に関する研究

豊嶋基暢

授業科目の内容：

情報通信技術の急速な発達により、昨今ではユビキタスネットワーク社会（いつでも、どこでも、誰とでも、何でもネットワークに簡単につながり、利用できる社会）の到来が期待されています。本研究会では、情報通信ネットワークの高度化、多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらしていくのか、また、それに伴い解決すべき諸課題について考察・議論していきます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・総務省編「情報通信白書 平成18年度版」ぎょうせい、2006年

・野村総合研究所著「これから情報・通信市場で何が起ころのか IT市場ナビゲーター2006年版」東洋経済新報社

・情報通信総合研究所編「情報通信アウトック2006 IT大融合の時代」NTT出版

授業の計画：

(春学期)

ガイダンス及び導入（2～3回）

共通テーマと関連する文献の調査、発表等

(秋学期)

各個人又はグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。

履修者へのコメント：

本研究会は積極的に議論することを大事にします。議論を深め合い、創造的な研究会としていきたいと考えています。情報通信につ

いて関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

メディアと文化

藤田 結子

授業科目の内容：

この研究会では、グローバル化時代の「メディアと文化」を共通テーマとします。参加者は、これに関連する自分自身の研究テーマを自由に設定し（例えば、テレビ番組や広告の国際比較、多文化・多民族社会におけるメディアの役割、日本初の若者文化・サブカルチャー、そのほか各人の関心のあること）、個人研究またはグループ研究を行います。そして、データ収集、インタビューやフィールドワーク、調査結果の分析、発表を行い、研究やメディア制作の仕事に役立つリサーチスキルを身につけることをめざします。

テキスト：

とくに指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

授業中に紹介します。

授業の計画：

春学期

- ・ガイダンス
- ・個人研究またはグループ研究テーマの設定と発表
- ・文献のレビュー
- ・調査方法の検討

秋学期

- ・調査・研究結果の発表と討論

そのほか、参加者の研究テーマに関連するフィールドトリップ、メディア制作現場のゲストスピーカーなど

履修者へのコメント：

メディアに対する関心にくわえ、外国文化やエスニック文化、国内での文化ムーブメント、または海外での仕事・留学、英語能力の向上など、多文化社会状況に何らかの関心をもつ学生の参加を期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義Ⅰ（春）

放送・番組はどう作られているのか

鈴木 祐司

授業科目の内容：

放送・番組にはより多くの人に見てもらうための知恵が込められている。提案・取材・ロケ・編集・コメント・音響効果など、実際の番組制作にそって、放送・番組の特性を解説する。

テキスト：

特に指定なし

参考書：

特に指定なし

授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2～3 番組の構成 ……(構成とは時間の芸術！)
- 4～5 オープニングの作り方 ……(オープニングは最強のPR)
- 6～7 番組コメント ……(うまいコメントは寡黙)
- 8～9 音響効果 ……(音響効果が番組を彩る！)
- 10～11 CM ……(CMとは真実のメッセージ！)
- 12～13 デジタル化 ……(テレビはどこへ行くのか？)

履修者へのコメント：

一方的な講義はやりません。指名したら必ず何かを答えられる人は、挑戦してみてください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（授業内で各種レポートを提出して頂きます。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

放送特殊講義Ⅱ（秋）

「テレビニュース」って何だろう？

村尾 尚子

授業科目の内容：

「テレビニュース」の現場では、いまいったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職報道局員、キャスター、コメンテーターがその“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来・テレビジャーナリズムのめざす先を考え、探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

授業の計画：

- 1 「テレビニュース」総論（序）
- 2～11 「テレビニュース」の現場最前線
(毎週週替わりでテレビ朝日現職社員が担当します)
- 12～13 テーマ別のフリー討論、レポート発表
「テレビニュース」「テレビジャーナリズム」の未来
※変更の可能性あり

履修者へのコメント：

テレビ好きですか？好きでも嫌いでも—テレビに興味・関心のある人、テレビ局の仕事って何だろうと思っている人、テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人…歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（レポートを中心に平常点を加味します。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義用ブログなどで受けつけます。

フジテレビ寄附講座 特殊研究Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

テレビ・ジャーナリズム

安倍 宏行

授業科目の内容：

テレビニュース制作実践。テレビの記者はどのような取材活動を行っているのかを学び、ニュースの問題点や今後のあるべき姿を探る。後期は長尺の映像制作に挑む。

テキスト：

指定なし

参考書：

指定なし

授業の計画：

<前期>

- 1 ガイダンス
- 2～5 テレビニュース制作の流れ、記者・アナウンサーの仕事など
- 6～9 記者レポート制作・発表
- 10～13 ミニ企画制作・発表

<後期>

- 1～3 ドキュメンタリー・調査報道とは、より長い企画を作るには
- 4～7 テーマ選定、取材スケジュール作成、リサーチ
- 8～10 撮影・編集
- 11～13 企画発表

履修者へのコメント：

ジャーリスト志望の人。テレビ局の仕事に興味がある人。ドキュメンタリーや映像企画を制作してみた人、歓迎。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（映像制作などの評価による。）

新聞特殊講義 I・II (春) (秋)

新聞ジャーナリズムを考える

木村良一 (産経新聞社 論説委員・編集委員)

授業科目の内容:

新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、新聞ジャーナリズムや伝えることの意味についていっしょに考えていきます。

テキスト:

特に指定しません。資料(社説などの記事)を配布します。

参考書:

木村良一著『移植医療を築いた二人の男—その光と影』(扶桑社、2002年、1400円)

授業の計画:

日々のニュースを新聞各社が社説でどう扱っているのかを比較、検証しながら、①疑うこと ②複眼を持つ ③感動する ④自分の考えを持つ ⑤自分のテーマを捜す—の5点を指導しています。私の専門の医療問題を扱うケースが多くなりますが、その他の分野も取り上げます。関係者をゲストに招いて話を聞くこともあります。

履修者へのコメント:

新聞記者を目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価(レポート提出も検討しています。)

広告特殊講義 I・II (春) (秋)

面白くなければ、講義ではない

升野龍男

授業科目の内容:

「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち、好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も、これと同じだと思えます。

記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で、「受け手の側に立った」繊細な情報作りを心がけているコンテンツもありません。なにしろ、年間300兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。この実態と、広告の環境変化対応を把握することは、激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし、現代文化を肌で感じ取ることにもなります。

「情報化社会」とは、情報が付加価値ではなく、「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」です。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品」となります。広告発想とはどのようなものか、広告表現はどのような工程を経て作られるのか、情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化、グローバル化は、広告会社の業態=ビジネス状態に、どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。

テキスト:

特にありませんが、私の作品、ACC(全日本CM放送連盟)フェスティバル入賞作品、最新の広告作品等を使用します。

参考書:

その都度、紹介いたします。

授業の計画:

<春の講義>

(1) ガイダンス

(2) 広告作品を見る

① 昨年のACC受賞作品(CM・ラジオ)、朝日広告賞、日経広告賞、読売広告賞など

② CM殿堂入り作品

③ あなたも作れる広告作品→学生CMコンクール作品より

(3) 広告、その誕生からデビューまで

(4) 広告会社の機能

① 広告代理店は、誰のための代理店なのか

② 日本と海外の広告代理店の違い

③ 電通、博報堂、アサツーDKの違い

(5) メディアの機能と変遷=タッチポイント化

① 印刷媒体=新聞・雑誌

② 電波媒体=ラジオ・テレビ

③ 屋外媒体=イベント・SP・看板

④ 通信=ネット、携帯、ポッド

(6) 受講者チームからの発表

<秋の講義>

(1) ガイダンス

(2) コンテンツとは何か

(3) コンセプト作りとは、目撃・観察・洞察・発見

(4) 広告表現とは

(5) ブランディングとは

(6) 広告の制作工程

(7) 社会的責任広告の必要性

(8) 広告会社にコンプライアンス・マネジメントが必要な理由

(9) 実例から学ぶ「表現と権利処理の必要性」

(10) 情報狩猟民族の登場と21世紀の広告コミュニケーション

(11) チーム発表×2回

履修者へのコメント:

(1) 広告ビジネスの生々しい実態に触れ、情報化社会の本質を理解する。

(2) 努力の日常化を心がける…「最も身近な義務を果たす=出席と課題提出」

成績評価方法:

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

メディア特殊講義 I (秋)

民放テレビの現状と課題

工藤卓男

授業科目の内容:

テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

特に指定しません。

授業の計画:

1. オリエンテーション

2. 民法の現状

3. 編成論

4. 編成—ジャーナリズムの視点からテレ朝報道局事件

5. 制作—コンテンツ

6. 制作—やらせ

7. スポーツ

8. 報道

9. 営業

10. アニメ・映画

11. テレビ直販

12. 著作権

13. エンディング、民放界の展望

※予定テーマです。変更あり。

履修者へのコメント:

マス・メディアの中でテレビ局に関心ある学生を歓迎します。セミナー形式で活発な意見交換したい。

成績評価方法:

・レポートによる評価

・出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業後受けます。

メディア特殊講義Ⅱ（秋）

インタラクティブメディア

((ケータイ/PC)×(TV/雑誌/ラジオ)=21世紀型メディア)

堀 主知ロバート

授業科目の内容：

みなさんに馴染みの深いケータイ、ネットと雑誌、テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について、様々な企業の活用事例を徹底究明し、その成果を分析し、理想と現実のギャップを認識し、本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や、ネットの有効な利用施策を模索する授業です。

また、究極の価値を持つインタラクティブメディア、プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。

テキスト：

こちらで配布します

授業の計画：

1. 総論。現在の環境についてのコンセンサス
2. 各種インタラクティブメディアの特性と事例
3. テレビ+モバイル/PCの事例検証
4. テレビ+モバイル/PCの事例検証
5. テレビ+モバイル/PCの事例検証
6. 雑誌+モバイル/PCの事例検証
7. 雑誌+モバイル/PCの事例検証
8. 雑誌+モバイル/PCの事例検証
9. ネット広告の事例検証
10. モバイル広告の事例検証
11. あるべきインタラクティブマーケティングについての仮説作り
12. 仮説に基づいたメディア、プラットフォームの企画～ビジネスモデル検証
13. 総括

履修者へのコメント：

今までの常識が、これからの常識と違う！という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う！という感覚を半年で体感して、社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください！

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

いつでもどうぞ。

特殊研究Ⅰ（春）

日本の近代化とマス・メディア

小川浩一

授業科目の内容：

社会の状態を人々に伝え、市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

- ・マクネア著 小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
- ・橋本俊詔著『格差社会』岩波新書

参考書：

- ・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
- ・橋本俊詔著『日本の経済格差』岩波新書

授業の計画：

- 1, 2；ジャーナリズムとマス・コミュニケーション
- 3, 4；ジャーナリズムの機能
- 5, 6；ジャーナリズムの今日の問題
- 7, 8；日本ジャーナリズム略史

9, 10；言論統制と言論自己規制

11, 12；テレビジョンの社会的機能

13；現代日本におけるテレビと新聞の機能

履修者へのコメント：

テレビニュース、新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力、創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅱ（秋）

日本の近代化とマス・メディア

小川浩一

授業科目の内容：

社会の状態を人々に伝え、市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

- ・マクネア著 小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
- ・橋本俊詔著『格差社会』岩波新書

参考書：

- ・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
- ・橋本俊詔著『日本の経済格差』岩波新書

授業の計画：

- 14, 15；ポピュリズムと劇場型政治
- 16, 17；現代日本の民主主義
- 18, 19；日本社会の階層性
- 20, 21；階層間格差とエリート
- 22, 23；ジャーナリストと階層
- 24, 25；日本の近代化におけるジャーナリズムの貢献
- 26；日本のジャーナリストの特徴

履修者へのコメント：

テレビニュース、新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力、創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅲ（秋）

市民とメディア

金山智子

授業科目の内容：

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するために、自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献（CSR）活動が活発になっています。このような活動では、メディアの活用がますます重要になってきています。市民が、フリーペーパーやコミュニティFM、CATV、インターネット新聞、ブログ、ミクシーや地域SNSなど、市民メディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより、ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに、貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンバードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャー・トラッシュ・プロジェクト”にみるように、コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。こういった市民、NPO、NGO、企業、クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について、最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』（金山智子，学文社）

・『広報力が地域を変える!』(電通プロジェクト, 日本地域社会研究所)

授業の計画:

市民とメディアについて, これまでの歴史やメディア・アクセス, パブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに, さまざまな市民のメディアやソーシャル・ムーブメントやソーシャル・コミュニケーションといった最近の動向についてみていきます。

毎回事例を用いながら, ディスカッション形式で進めます。また, NPO や NGO 関係者を招き, 現場の声を聞き, 受講生を交えて考える機会をもちます。

関連イベントや市民メディアの現場に参加し, 実体験をしてもらいます。

履修者へのコメント:

常に問題意識をもって, 積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ(春)(秋) インターンシップ	小川葉子 菅谷実 豊嶋基暢 藤田結子
-------------------------------	-----------------------------

授業科目の内容:

本講義は, 研究所主催のインターンシップである。春学期は, 講義と討論形式により各産業の歴史, 構造, 動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上, 各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には, インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお, 秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度, インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅱを登録し, インターンシップに参加することができる。

授業の計画:

(1)春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞, 放送, 通信, 移动通信, 出版, 広告, インターネット, 通信販売等)

まとめ

(なお, 研修先は, 7月上旬に決定されるが, 研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し, 残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント:

履修希望者(前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む)は, 4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法:

- ・春学期: クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期: 夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語Ⅰ・Ⅱ(春)(秋)

英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文(読売新聞英字新聞部デスク)

授業科目の内容:

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い, 時事英語の読解力を養成します。1年後には, 辞書を使わずに Time や Economist の大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語での interview の仕方や記事の書き方の基礎も学びます。一緒に「生きた英語」を勉強しましょう

テキスト:

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書:

- ① The Daily Yomiuri(読売新聞が発行する日刊英字紙)
- ② 最新ニュース英語辞典(東京堂出版)
- ③ 本格的な英和・和英辞典

授業の計画:

まず, 火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では, 評論や解説など高度な内容の英文記事にも挑戦し, 国際情勢への理解を深めます。また, 座学だけでなく, The Daily Yomiuri 編集部の見学や在日外国人ジャーナリスト, 海外特派員経験者をゲストに招くことなども計画しています。

履修者へのコメント:

堅苦しい講義形式ではなく, 講師自身の海外取材での体験なども織り交ぜながら実践的な授業を行うつもりです。ただ, 必然的に課題も多くなるので, 積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。「仕事」で使える英語を身に付けたい人, 海外特派員を目指す人も参加して下さい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

文章作法Ⅰ・Ⅱ(春)(秋)

マスメディアへのドアを開けるには

河内 孝

授業科目の内容:

文章の怖いところは, 長短にかかわらずそれによって全人格が判断されてしまうところにあります。文章技術をマニュアル化して授業を進め, 「うまい文章かき」を養成することは可能かもしれない。しかし私は, うまい文章というよりも, 「良い文章」がどのように生まれてくるかを研究してみたいと思います。メディアという言葉の語源は, 「あいだ, 仲介者」という意味です。ダイヤモンド原石のような生情報を研磨し, 意味づけて最終消費者にどう伝えればよいのか。情報伝達の流れを知る中で, 文章技術を磨いて見ましょう。

テキスト:

適時, 新聞記事などをプリントして配ります。

参考書:

最初の授業で, 一覧表にして配布します。

授業の計画:

メディア・コミュニケーション研究所の授業として将来, 新聞, テレビ, ラジオ, 出版, IT 系を目指す諸君に役立つ講義の流れを考えています。文章作法は, 毎回, メール経由で提出してもらった短いレポートを次回授業で添削, 評価する形で行うつもりです。

前期では, 日本のメディアの今日的な状況を概観して理解を深めてもらう。戦中, 戦後, 日本のジャーナリズムがどのような試練をくぐってきたかも振り返りたい。

後期では, 様々なニュースを各メディアがどのように伝えたかを検証, 「自分ならどう書く」という situation で原稿作成の実践的な添削, 指導を行います。適宜, 新聞社, テレビ局の現役記者を招きディスカッションも行いたいと考えております。

履修者へのコメント：

業績の良い会社ほど人材募集に手間、暇かけています。なぜか？浮ついた気持ちで受けに来る人による 100 倍の競争率より、真にガッツがあり、「自分」を持っている応募者による2倍3倍という状況を作りたいからです。作文、面接での絞り込みはそのための手段。100分の1でなく3分の1、2分の1を目指す人への授業です。

成績評価方法：

適時、短いレポートの提出を E-メールにて求める。後は平常点、出席状況および授業態度で評価する。

質問・相談：

随時、授業前後、E-メールにて受ける。

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ（春）

映像を通して伝える、理解する

金山 智子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさと面白さを経験してほしいと思っています。

授業の計画：

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく。
一般市民が制作した「良い作品」を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

履修者へのコメント：

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業（撮影・編集）が必要になります。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ（秋）

映像リテラシー

渡辺 真由子

授業科目の内容：

テーマを決めて映像作品を制作します。テクニックの取得に終始するのではなく、“なぜ”その構図で撮影するのか、そのインタビューを使うのか、といったプロの制作者の意図を学ぶことにより、メディアリテラシー能力の育成を目指します。

テキスト：

- ・渡辺真由子著『メディアに隠された意図を読み解く～カナダで学ぶメディアリテラシー（仮題）』（アルク、2007年夏刊行予定）

授業の計画：

- (1) メディアリテラシーとは何か、メディアを批判的に読み解くための基本理論を学びます
- (2) テレビ局の報道制作現場の実態を紹介しながら、ネタの見つけ方、構成の立て方、インタビューの仕方など、映像制作に関わる一連の過程を体験してもらいます
- (3) 完成した作品を、リテラシーの視点から批評し合います

履修者へのコメント：

映像業界志望者に限らず、新聞や広告、インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも、制作過程の裏側にある“意図”を学ぶことに重点を置きます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

映像コンテンツ制作Ⅰ（春）

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

— 映像表現の文法・作法を習得する

大久保

成

授業科目の内容：

デジタルカメラやデジタルビデオは普及し、コンピュータはますます高性能になっています。一方、インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し、ケータイの高機能化などにより「いつでも、どこでも、だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってこようとしています。にもかかわらず（あるいはそれゆえに）、ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる、といった安易な理解が蔓延しているのではないのでしょうか。映像コンテンツ制作Ⅰでは、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り（プリプロダクション）の力を確実に身につけてもらうことを通して、新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思っています。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい、実際に受講者には企画書・画コンテの作成、撮影実習、編集までを個人単位で実践してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。

1. デジタル時代における映像表現の基礎知識
2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
3. 映像制作のための機材とその機能
4. 撮影の基礎技術
5. 映像コンテンツ制作のための基礎能力(1)：コンティニューエイ
6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力(2)：フレーミング
7. 番組企画とは(1)：企画書や画コンテの作り方
8. 番組企画とは(2)：実践
- 9～13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作Ⅰでは受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作ⅠとⅡでは独立していますが、両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）
- ・映像作品を提出（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作Ⅱ（秋）

映像コンテンツ制作実践に向けた応用編

— スタジオプロダクションを実践する

大久保

成

授業科目の内容：

映像コンテンツ制作Ⅰで得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに、さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために、スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタ

ル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては、単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで、受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後、スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作、その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する(1)
2. 映像表現の文法を確認する(2)
3. 番組企画会議
4. 取材VTRプリプロダクション(1)
5. 取材VTRプリプロダクション(2)
6. 取材VTR制作(1)：撮影・編集
7. 取材VTR制作(2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション(1)
10. スタジオ収録プリプロダクション(2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録(本番)
13. 番組収録を振り返る(討論会)

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作Iを受講済みもしくは同等レベル(企画・撮影・編集を行い、映像作品に仕上げることができる)の映像表現力を持つことを期待しますが、受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作I同様、受講生の自主性を最大限尊重しますが、一方で共同作業も多いため、受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらおうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作IIのみの受講も可能です。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(評価の50%)
- ・スタジオ収録への参加(評価の50%)

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習Ⅰ(春)

インターネット放送の基礎

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

インターネット技術を利用した音声・動画配信の実践を行うことによって、情報発信のための幅広い技法を身につける。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

- ・ガイダンス
- ・ネットワークの基礎
- ・Web制作の基礎
- ・ライブ配信の仕組みと実践
- ・Podcastingの仕組みと実践
- ・インターネット上での番組配信の企画・制作

履修者へのコメント：

IT関連の知識や経験の有無は問いません。「こんなに簡単にできるのか!」という経験をひとつでも多くしてもらえれば幸いです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール、ならびに講義用サイトで受けつける。

メディア・ネットワーク実習Ⅱ(秋)

動画投稿サイトを作る

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

CGM(Consumer Generated Media)において大きな役割を占める動画投稿サイトを自らの手で構築することで、CGMを形成する技術的側面への理解を深める。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

- ・ガイダンス
- ・動画投稿サイトの計画
- ・Webプログラミング(PHP)の基礎
- ・データベース操作(PostgreSQL)の基礎
- ・サイトの公開とレビュー

詳細は前年度の講義用サイト(<http://mwr/mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/media-network/>)も参照のこと。

履修者へのコメント：

プログラム制作の有無は問わないが、HTMLや動画ファイルの扱いに慣れるために、「メディア・ネットワーク実習Ⅰ」と同時に履修することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール、ならびに講義用サイトで受けつける。

体 育 科 目

[三田設置]
(体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、7科目（テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 （2単位）……「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 （1単位）…… 講義＋実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A （1単位）……「身体活動」実技 A～D の4段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち、出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点、遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2/3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

- (4) 体育実技 B （1単位）……「身体活動」実技 P（合）・F（否）(Pass/Fail) の2段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ……週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ……夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4 月 6 日（金）

体育科目ガイダンス（三田）

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1 限および 2 限 522 番教室（いずれの時限も同内容）

4月7日(土)
～19日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所:日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00～12:30	14:00～15:30	受付時間		9:00～12:30	14:00～15:30
4月7日	土	男子 10時開始	男子	4月14日	土	女子	女子
8日	日			15日	日		
9日	月	男子	女子	16日	月	男子	女子
10日	火	女子	男子	17日	火	男子	男子
11日	水	男子	男子	18日	水	女子	男子
12日	木	男子	女子	19日	木	男子 11時終了	
13日	金	男子	男子				

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができませんのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口へ申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日(月)
～13日(金)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月13日(金)
10:00
～17日(火)
14:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月21日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

4月4日(水)～6日(金)

体育科目ガイダンス(日吉)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月4日 9:00 613・614・623 番教室
5日 14:45 613・614・623 番教室
6日 14:45 613・614・623 番教室

4月7日(土)～19日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所：日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日(月)～13日(金)

体育科目ガイダンス週間(日吉)

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。

各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。

シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

4月13日(金) 10:00～17日(火) 14:00



Webによる履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。


各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月21日(土) 	履修者数調整結果発表 9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板 10時30分 三田 西校舎共通掲示板
--	--

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

 ① 4月24日(火) ~5月9日(水)	追加履修について 履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。 追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。
② 5月7日(月) ~9日(水)	追加履修するためには, ①体育研究所許可証の取得と, ②修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。 履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。

①体育研究所許可証の取得手続き
 定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所
4月25日(水) 9:15~11:30, 12:30~16:00	
4月26日(木)~5月9日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45~17:00 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

②修正申告の手続き
 ①で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

①②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, ①を行っても修正申告の手続きはできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(火)~4月27日(金)	8:45~17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技実施要項 [三田設置科目]

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

<球技>

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級)

堀場 雅彦

【授業の目的】

テニスの技術習得と体力の向上。

【実施場所】

綱町グランドテニスコート (屋外)

【服装・携行品・その他】

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

【参考書】

「テニスはこちらから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

【授業の計画】

1 限 (90 分) の計画

- 05 準備体操
- 10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク
- 30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて
- 40 ペアーボレーボレー
- 50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子
- 85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

- 1～3 週: 腕の振り
- 4～6 週: 身体のバランス
- 7～10 週: 足捌き (フットワーク)
- 11～13 週: 総括および戦術

【履修者へのコメント】

テニスはサッカーについて, 全世界 120 개국以上で普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

【成績評価方法】

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 水曜 2 限
(初級)

村松 憲

【授業科目の内容】

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド (屋外コート 1 面, 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度) です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

【授業の計画】

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習
- 3～6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習
- 7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

【履修者へのコメント】

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい

【成績評価方法】

出席点が 60 点, 技術点が 10 点, 態度点が 15 点, 理解点が 15 点です。

【質問・相談】

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 水曜 3 限
(中級)

村松 憲

【授業科目の内容】

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット, ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド (屋外コート 1 面, 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度) です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

【授業の計画】

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等, 基礎技術の確認と練習
- 4～6 回目 回転をかけるサービス, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

【履修者へのコメント】

このクラス (中級) では, 「技術レベルがどこまで到達したか」 (どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールを出してくれた場合) こと」が難しい方にはおすすめてできません。

【成績評価方法】

出席点が 60 点, 技術点が 15 点, 態度点が 15 点, 理解点が 10 点です。

【質問・相談】

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級)

加藤 大雄

【授業の目的】

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

【実施場所】

綱町グランド テニスコート

【服装・携行品・その他】

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

【授業の計画】

2 回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって

内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（テニス） 火曜2限

（中上級）

加藤 大雄

【授業の目的】

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

【実施場所】

綱町グラウンド テニスコート

【服装・携行品・その他】

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

【授業の計画】

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝、掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

野口 和行

【授業科目の内容】

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

【実施場所】

綱町グラウンド バレーボールコート

【服装・携行品・その他】

運動できる服装・屋外シューズ

【授業の計画】

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

【履修者へのコメント】

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

〈武道〉

体育実技A（合気道） 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

【授業の目的】

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんとういつ（心身統一）を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を実習する。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館

【服装・携行品・その他】

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

【授業の計画】

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす（心身統一）
- ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大切な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

【履修者へのコメント】

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A（弓術） 火曜1限・2限

小笠原 清忠

【授業科目の内容】

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者と未経験者に分けて行います。経験者には、射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

【授業の計画】

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

的前で実際に矢を射て、的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

【履修者へのコメント】

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技 A (剣道) 水曜 2 限・3 限

吉田 泰将**【授業の目的】**

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

【実施場所】

綱町グランド 武道館 (剣道場)

【服装・携行品・その他】

剣道着・袴 (運動に相応しい服装も可)・手ぬぐい

※剣道具 (防具)・竹刀は準備しています。

【授業の計画】

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1~2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1~3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1~4 本目 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1~5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1~6 本目 連続技(二・三段打ちの技) 払い技 巻き技
- 9 日本剣道形1~7 本目 応じ技 (すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1~7 本目 応じ技 (抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1~3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

【履修者へのコメント】

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

【成績評価方法】

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技 A (柔道) 月曜 2 限・3 限

(初心者、経験者を問わない~男女共習)

安藤 勝英**【授業の目的】**

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

【実施場所】

綱町グランド 武道館 (柔道場)

【服装・携行品・その他】

柔道衣 (希望者には貸与する)、タオル、Tシャツ (女子のみ)

【授業の計画】

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作 (礼法、受身、体捌き)。
- 3 投げ技と受身の反復練習 (大外刈、大内刈等)。
- 4 投げ技と受身の反復練習 (大腰、背負投等)。
- 5 投げ技と受身の反復練習 (送足払、払釣込足等)と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古

- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技 (抑込技、絞技、関節技)の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古 (立技、寝技)
- 13 試合方法、審判法 (国内、国際ルール)の説明。

【履修者へのコメント】

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。)

〈個人種目〉

体育実技 A (ダンス) 月曜 2 限、金曜 2 限・3 限

ボールルームダンス 入門 初級

篠原 しげ子**【授業科目の内容】**

男女で組んで踊るために、自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い、バランスを保って動けるようにする。又、相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。

【実施場所】

綱町グランド 武道館 (剣道場)

【定員】

男性 10 名 女性 10 名

【服装・携行品・その他】

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

【授業の計画】

月曜 2 時限目

春学期 初級ワルツ

秋学期 初級チャチャチャ

それぞれの種目を半期 (13 回) 通して行う。

1~3 週 種目の特徴 (リズム、姿勢、ホールド) を理解する。

4~8 週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。

9~12 週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。

13~ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門 (ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を 4~5 週間ずつ行う)

秋学期 スタンダード入門 (ブルース タンゴ ワルツの基礎を 4~5 週間ずつ行う)

金曜 3 時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間通して行う。

1~3 週 種目の特徴 (リズム、姿勢、ホールド) を理解する。

4~8 週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。

9~12 週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。

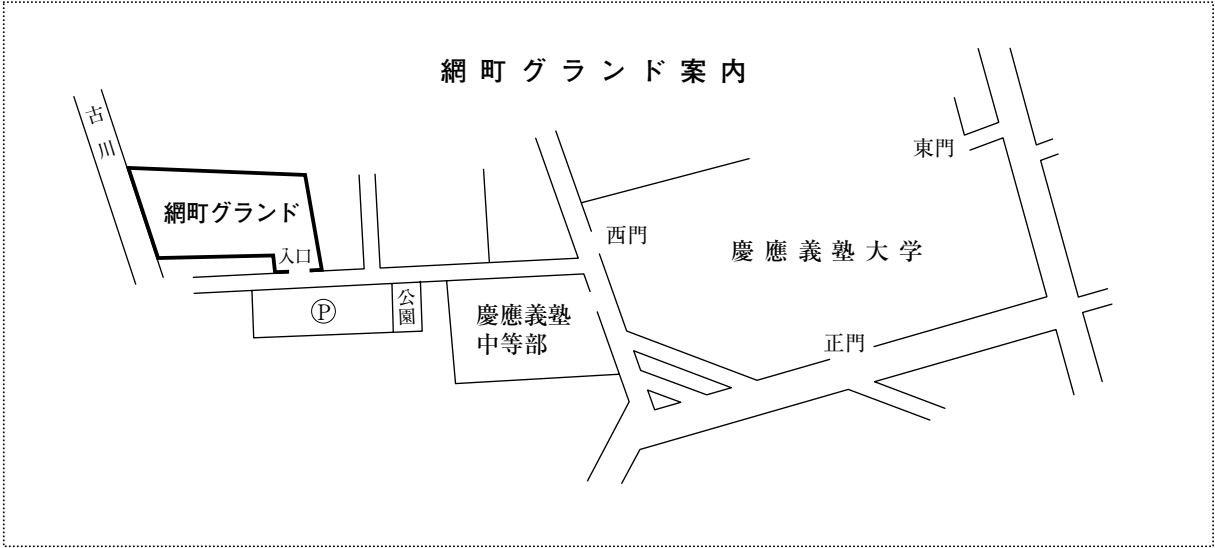
13~ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

【履修者へのコメント】

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価 (各時限に簡単なレポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席情況 60 で採点)



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからです。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることにもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、24名の所員、10名の顧問、29名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究Ⅰ（春学期）（2）

—『学問のすゝめ』とその時代—

法学部教授 岩谷 十郎
経済学部教授 小室 正紀
商学部教授 牛島 利明
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論の概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制公布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』（各種の版がある。どの版でもよい。）

参考書：

福澤諭吉『福翁自伝』（各種の版がある。どの版でもよい。）
慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

授業の計画：

第1回 はじめに
第2～4回 初編～4編（明治5年2月～7年1月）
第5～7回 5編～8編（明治7年1月～7年4月）
第8～10回 9編～12編（明治7年5月～7年12月）
第11～13回 13編～17編（明治7年12月～9年11月）

履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法：

試験の結果による評価（試験方法については、第1回の講義で説明する。）

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究Ⅱ（秋学期）（2）

福澤諭吉の近代化構想

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容：

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。そして、彼は68年の生涯を、34歳で迎えた明治維新によって文字通り二分しているのである。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家として評価されるにとどまり、福澤の本舞台であったといっても過言ではない明治期の活動は、研究者だけのものになっている感が否めない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、受講する塾生に福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらうことを目的とする。

テキスト：

指定しない。

参考書：

適宜講義中に紹介する。

授業の計画：

1. 福澤の原点
2. 明治維新と福澤
3. 『学問のすゝめ』と「実学」

4. 自由民権運動と明治十四年の政変
5. 構内史蹟見学
6. 福澤の国内政治論
7. 福澤の国際政治論・外交論
8. 明治政府と福澤
9. 福澤門下生と実業界
10. 朝鮮問題をめぐって
11. 日清戦争と福澤
12. 慶應義塾と福澤
13. 「独立自尊」とは

履修者へのコメント：

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

近代日本研究演習Ⅰ（春学期）（2）

雑誌・新聞記事からよむ明治

—福澤諭吉が関与した雑誌・新聞を通じて—

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

この演習では福澤諭吉が関与した雑誌や新聞を取り上げ、論説だけではなく社会面や時には広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。

テキスト：

授業時間に配布する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

1. 序論 福澤諭吉と関与した雑誌・新聞について
 2. 『民間雑誌』『家庭叢談』（明治7年～10年）を読む
 3. 『田舎新聞』『田舎新報』（明治9年～18年）を読む
 4. 『時事新報』（明治15年～のち産経新聞に併合）を読む
- いずれも第1回目に創刊の経緯やその雑誌・新聞の歴史や社会的背景を学び、2回目3回目では福澤や福澤門下生が寄せた論説を取り上げ、4回目で論説以外の記事や広告を読む。4回目には、それまでで読んだ記事で知りえたことを報告しあう時間を設ける。

履修者へのコメント：

授業を聞くだけではなく、積極的に自分の意見を述べてもらいたい。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）（2）

福澤書簡の研究

講師 松崎 欣一

授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト：

『福澤諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

- ・『福澤諭吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
- ・『福澤諭吉著作集』全12巻（慶應義塾大学出版会刊）
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上・下（岩波書店刊）

授業の計画：

- 1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。

- 3) 福澤の伝記史料としての検討…新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討…福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々の社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習…『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 I (春学期) (2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、最後に履修者のおのおのが興味をもった論説あるいは人物を取り上げ、意見を発表する場を設ける。Iでは明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
- 3 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
- 5 報告と討論

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 II (秋学期) (2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉 I を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて、意見を発表する時間を設ける。IIでは明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子
 - 2) 潮田千勢子
- 4 儒教主義の女性論
 - 1) 大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
 - 2) 井上哲次郎・三輪田元道ほか『女大学の研究』
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 鎌田栄吉
 - 2) 日原昌造
- 6 報告と討論

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

随時。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9つの外国語について特設科目を設置しています。これは、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行うものです。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています(オープン科目)。

外国語教育研究センターでは、塾生向けの講演会や、春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック・ライティング・コンテストなどを企画していま

す。詳細が決まり次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター特設科目の一覧を掲載します。ガイダンスや、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびにオープン科目一覧については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程

4月6日(金) 12:30～14:00 531 番教室

外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず学事センターにて履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター特設科目一覧 (三田)

経済学部では、以下の①・②のとおり外国語教育研究センター設置科目の履修を認めています。詳細は「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」(別冊)を確認の上申告してください。

【99学則適用者】履修申告は、経済学部時間割に掲載の登録番号を申告してください。

【05学則適用者】履修申告は、外国語教育研究センターの時間割に掲載の登録番号を申告してください。

- *履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。
- *科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- *科目名に(I)(II)と表記されている科目は春(I)と秋(II)どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。
- *2007年2月から3月に実施した海外研修に参加した学部学生のみが履修できる海外研修科目は、日吉のシラバスに掲載しています。

①経済学部外国語科目(選択A)として履修できる科目

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春	水・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋			半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語		春 秋			通年	2
	英語翻訳(a) (Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	春	火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b) (Lost in Translation)		秋			半期	1
	英語翻訳		春 秋			通年	2
	英語テスト対策 TOEFL(I) (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL(II) (TOEFL Strategies (Reading & Writing))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(I)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス, リチャード	春	火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(II)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(I) (TOEICテストの対策と実践演習)	和田 朋子	春	火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(II) (TOEICテストの対策と実践演習)		秋			半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) (Building Listening Skills)	横川 真理子	春	水・3	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)	狩野 みき	春	月・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)		秋			半期	1
	英語経済・金融(Ⅰ) (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融(Ⅱ) (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋			半期	1
	英語法律・法務(Ⅰ) (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務(Ⅱ) (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)		秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅰ) (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	火・1	20	半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅱ) (Writing an Academic Paper in English)		秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法4(b) (中・上級聴解・口頭表現)		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法4		春 秋			通年	2
	ドイツ語表現技法5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法5(b) (中・上級文章表現法)		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5		春 秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法3(Ⅰ) (DELTA (A1, A2) 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法3(Ⅱ) (DELTA (A1, A2) 対応クラス)		秋			半期	1
	フランス語表現技法4(Ⅰ) (DELTA (B1, B2) 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法4(Ⅱ) (DELTA (B1, B2) 対応クラス)		秋			半期	1
	フランス語表現技法5(Ⅰ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春	木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法5(Ⅱ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)		秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法1(Ⅰ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法1(Ⅱ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)		秋			半期	1
	ロシア語表現技法2(Ⅰ) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春	水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法2(Ⅱ) (ロシア語で発信しよう)		秋			半期	1
中国語	中国語聴解2(Ⅰ)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春	水・2	25	半期	1
	中国語聴解2(Ⅱ)(最上級) (時事中国語)		秋			半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
中国語	中国語表現技法2(Ⅰ)(最上級) (読解と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
			秋	半期			1	
スペイン語	スペイン語表現技法3(Ⅰ)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・ 社会的背景に対するより深い理解)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
			秋	半期			1	
インドネシア語	インドネシア語ベーシック1(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・3 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック1(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック1		春	秋			通年	4
	インドネシア語ベーシック2(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・2 金・1	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック2(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック2		春	秋			通年	4

②経済学部自由科目として履修できる科目

①以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

*外国語教育研究センター設置科目(日吉)については、「外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱」,「経済学部外国語科目履修案内」を参照してください。

2007 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	
	9:00~10:30	10:45~12:15	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	
月		インドネシア語 ベーシック2(a) インドネシア語 ベーシック2	野村 英語経済・金融(I) 英語オーラル・ プレゼンテーション(I) (初級) ドイツ語表現技法4(a) ドイツ語表現技法4 フランス語 表現技法3(I) インドネシア語 ベーシック1(a) インドネシア語 ベーシック1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC(I) 英語法律・法務(I) フランス語 表現技法4(I) 狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法2(I) (最上級) 蔣
火	英語アカデミック・ ライティング(I)	和田 英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC(I)	アーマー 和田		ドイツ語表現技法5(a) ドイツ語表現技法5 ドクッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(I)上級 パロウス
水		中国語聴解2(I) (最上級)	山下	英語テスト対策 TOEIC(I) ロシア語 表現技法2(I)	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 横川
木		フランス語 表現技法5(I)	ベリセロ			英語テスト対策 TOEFL(I) パロウス
金	インドネシア語 ベーシック2(a) インドネシア語 ベーシック2	トトク インドネシア語 ベーシック1(a) インドネシア語 ベーシック1	トトク	ロシア語 表現技法1(I)	熊野谷	スペイン語表現技法3 (I)(上級) 安藤
土						

2007 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	
	9:00~10:30	10:45~12:15	13:00~14:30	14:45~16:15	16:30~18:00	
月		インドネシア語 ベーシック2(b) インドネシア語 ベーシック2	野村 英語経済・金融(II) 英語オーラル・ プレゼンテーション(II) (初級) ドイツ語表現技法4(b) ドイツ語表現技法4 フランス語 表現技法3(II) インドネシア語 ベーシック1(b) インドネシア語 ベーシック1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC(II) 英語法律・法務(II) フランス語 表現技法4(II) 狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法2 (II)(最上級) 蔣
火	英語アカデミック・ ライティング(II)	和田 英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC(II)	アーマー 和田		ドイツ語表現技法5(b) ドイツ語表現技法5 ドクッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(II)上級 パロウス
水		中国語聴解2(II) (最上級)	山下	英語テスト対策 TOEIC(II) ロシア語 表現技法2(II)	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 横川
木		フランス語 表現技法5(II)	ベリセロ			英語テスト対策 TOEFL(II) パロウス
金	インドネシア語 ベーシック2(b) インドネシア語 ベーシック2	トトク インドネシア語 ベーシック1(b) インドネシア語 ベーシック1	トトク	ロシア語 表現技法1(II)	熊野谷	スペイン語表現技法3 (II)(上級) 安藤
土						

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

ここに記載のあるもののほか、韓国の名門大学で英語により韓国の政治・経済・社会・文化を学ぶ「延世大学春季講座」も新たに開講しました。形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への上陸前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

夏季講座ガイダンス	4月4日(水) 矢上 11-41 教室	12:00~13:00	4月5日(木) 三田 526 教室	10:45~12:15
	4月4日(水) 藤沢 Ω11 教室	16:10~17:40	4月5日(木) 日吉 J29 教室	17:00~18:30

夏夏季講座オンラインレジストレーション期限: 4月10日(火) 予定

夏季講座募集期間: 4月11日(水), 12日(木) 一次合格発表: 4月19日(木) (予定)

面接審査: 4月21日(土) (予定)

夏季講座選考結果発表: 4月27日(金) (予定)

※経済学部では、「慶應義塾大学—ワシントン大学夏季講座」の履修は自由科目としても認められていません。

① 慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

[現地研修期間] 2007年8月6日(月)~9月5日(水) (予定) 5月~7月に事前研修を2回程度行います。

[研修内容] 講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出(週末)。

[開講予定科目] ※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 60名

② 慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

[現地研修期間] 2007年7月27日(金)~8月14日(火) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(1回)を行います。

[研修内容]

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 40名

③ 慶應義塾大学 — 西安交通大学中国語・中国文化夏季講座（学部生対象）

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで9つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で2006年に創立110周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の1つです。

〔現地研修期間〕2007年8月30日（木）～9月17日（月）（予定）

〔研修内容〕中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

〔単位数〕2単位（予定） ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕15名（学部生対象）

④ 慶應義塾大学 — パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の1つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大するEUの政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU対アジアやEU対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにあるEUの諸機関を実際に訪問し、EUの組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、10月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2006年度参考〕 2007年2月16日～2007年3月17日

〔講義内容 2006年度参考〕 共通ブロックと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about ?”

講義例)

“The History of Europe: Once upon a time...”

“Contemporary history and institutions of Europe”

“The values of the Europeans”

“The European identities”

“The economies performances of European economies”

“European welfare states and the dynamics of generations”

“Democracy at the European level”

“National political parties in Europe: Do they have a European vision ?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

単位取得：4単位（卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。）

定 員：20名

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目2単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
地域研究(アジア・オセアニア) Area Study: Asia, Oceania					
法 F(Law)	春 Spring	月 Mon	3	現代東南アジア論特殊研究 I SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	春 Spring	火 Tue	3	オーストラリアの歴史 STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY	デイ, デイヴィッド Day, David
	春 Spring	水 Wed	3	現代中国社会 CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	ファーラー, グラシア Farrer, Gracia
	春 Spring	木 Thu	4	アジアの音楽 LISTENING TO ASIA	ホッフマン, T・M Hoffman, T.M.
法研 GS(Law)	春 Spring	水 wed	3	日韓関係の政治 (*) THE POLITICS OF KOREA-JAPAN RELATIONS (*)	リ, ジョンフン Lee Jung-Hoon
法研 GS(Law)	秋 Fall	月 Mon	4	国際政治論特殊研究 (*) SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	秋 Fall	月 Mon	5	東南アジア世界の諸相 WORLD OF SOUTHEAST ASIA	野村 亨 Nomura, Toru
	秋 Fall	水 wed	5	開発と社会変容 DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	倉沢愛子 Kurasawa, Aiko
	秋 Fall	木 Thu	3	アジア諸国におけるビジネスマネジメント BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
	秋 Fall	金 Fri	5	現代インド事情 INDIA TODAY	西村 祐子 Nishimura, Yuko
地域研究(北米・南米) Area Study: North America, South America					
	春 Spring	火 Tue	5	世界政治におけるラテンアメリカ LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	アントリネス, マリオ Antolinez, Mario
	春 Spring	金 Fri	4	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策 AMERICAN STUDIES	ウィリアムス, ムケーシュ Williams, Mukesh
法研 GS(Law)	春 Spring	火 Tue	4	アメリカの東アジア政策 (*) UNITED STATES FOREIGN POLICY TOWARD EAST ASIA (*)	ジャヌジ, フランク Jannuzi, Frank
	秋 Fall	火 Tue	5	カナダという国とカナダの国際的な役割 CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	イエローリーズ, ジェームズ Yellowlees, James
	秋 Fall	水 Wed	3	地域文化論(アメリカ) AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	奥田 暁代 Okuda, Akiyo
地域研究(ヨーロッパ・ロシア) Area Study: Europe, Russia					
	春 Spring	金 Fri	3	ウクライナとロシア UKRAINE AND RUSSIA	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
	秋 Fall	木 Thu	5	ドイツ文化と社会 GERMAN CULTURE AND SOCIETY	ワニェク, ヤクリーン Waniek, Jacqueline
法研 GS(Law)	秋 Fall	木 Thu	5	プロジェクト科目II・欧州統合 (*) PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	田中 俊郎 Tanaka, Toshiro 細谷 雄一 Hosoya, yuuichi
経済 F(Economics)	秋 Fall	木 Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅 Hayashi, Hideki
地域研究(アフリカ) Area Study: Africa					
	春 Spring	金 Fri	4	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味 AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	近藤 英俊 Kondo, Hidetoshi
	秋 Fall	火 Tue	4	グローバルヴィレッジ構築に向けて BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	フリードマン, デビッド Freedman, David
国際社会 Global Community					
	春 Spring	火 Tue	4	国際協力の実態 THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	バンバン, ルディアント Bambang, Rudyanto
	春 Spring	水 Wed	5	国際人権法 INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	細谷 明子 Hosotani, Akiko
	春 Spring	木 Thu	3	ヘルスケア組織論 NGOS, NPOS AND CBOS	カストロ ヴァスケス, ヘナロ Castro-Vazquez, Genaro
	春 Spring	金 Fri	3	国際コミュニケーション INTERNATIONAL COMMUNICATION	伊藤 陽一 Ito, Youichi
	秋 Fall	水 Wed	4	国際関係 INTERNATIONAL RELATIONS	セツト, アフターブ Seth, Aftab
	秋 Fall	木 Thu	3	現代の国際問題と国連の役割 CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	マリク, ラビンダー Malik, Rabinder
	秋 Fall	金 Fri	4	国際開発協力論 INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	後藤 一美 Goto, Kazumi

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
国際経済・ビジネス Global Economy, Global Business					
商 F(Business&Commerce)	春	水	1	産業史各論(科学技術政策史)	ルイス, ジョナサン
	Spring	Wed	1	HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	Lewis, Jonathan
	春	木	4	グローバルビジネスにおける革新と戦略	トビン, ロバート I.
	Spring	Thu	4	INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	Tobin, Robert I.
商研 GS(Business&Commerce)	春	木	4	会計学 (*)	伊藤 眞
	Spring	Thu	4	ACCOUNTING (*)	Ito, Makoto
商研 GS(Business&Commerce)	秋	火	2	金融特論 (*)	深尾 光洋
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro
商研 GS(Business&Commerce)	秋	木	5	国際経済 (*)	小島 明
	Fall	Thu	5	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kojima, Akira
文化・異文化理解 Culture/Cross-cultural Understanding					
	春	月	5	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス
	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandora, Elizabeth
	春	水	6	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子
	Spring	Wed	6	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	yokokawa mariko
	秋	月	5	比較映画論	エインジ, マイケル
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.
	秋	水	5	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ
	Fall	wed	5	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.
 (*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

2007年度 日本研究講座 (2007-2008 Japanese Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
文化 Culture					
	春 Spring	月 Mon	4	美術を「よむ」- 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	村井 則子 Murai, Noriko
	春 Spring	月 Mon	6	日本の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	春 Spring	水 Wed	3	夢のあと THE AFTERMATH OF DREAMS	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	春 Spring	水 wed	4	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド, ジェイムス Raeside, James M.
	秋 Fall	水 Wed	3	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	秋 Fall	水 Wed	6	日本語の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	秋 Fall	木 Thu	6	アートワークショップ/日本のアートと文化 ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	菱山 裕子 Hishiyama, Yuko
理工研 GS(Science&Tech)	秋 Fall	金 Fri	2	科学技術文化特論 (*) (矢上開講) SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*) (Yagami Campus)	ドウルフ, チャールズ De Wolf, Charles
思想・宗教 Thought, Religion					
	秋 Fall	火 Tue	3	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハチェット, ヘレン Ballhatchet, Helen
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の宗教: 救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN : IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
歴史 History					
	秋 Fall	月 Mon	4	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田 昭子 Ohta, Akiko
	秋 Fall	火 Tue	5	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	飯倉 章 Iikura, Akira
社会 Society					
	春 Spring	月 Mon	3	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	火 Tue	3	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンズ, アール Kinmonth, Earl H.
	春 Spring	木 Thu	4	日本人の心理学(1) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	木 Thu	5	新市民社会論 IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	ボックマン, デイヴ 西村 祐子 Nishimura, Yuko
	秋 Fall	月 Mon	3	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	月 Mon	5	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター, デビット Notter, David
	秋 Fall	火 Tue	4	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎 千佳子 Kashiwazaki, Chikako
	秋 Fall	木 Thu	4	日本人の心理学(2) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
経済・ビジネス Economy, Business					
	春 Spring	火 Tue	5	日本企業の経営戦略と管理手法 CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	稲葉 エツ Inaba, Etsu
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	火 Tue	4	日本における外資系企業 FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	ハリス, グレアム Harris, Graham
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	5	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira
	春 Spring	木 Thu	6	日本のビジネスマネジメント MANAGEMENT IN JAPAN	ハギリアン, パリッサ Haghirian, Parissa
	春 Spring	金 Fri	5	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤 規子 Ito, Noriko
	秋 Fall	月 Mon	6	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川 博也 Ichikawa, Hiroya
	秋 Fall	木 Thu	4	国際経営比較 INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津 光弘 Umezu, Mitsuhiro
法律 Law					
	秋 Fall	金 Fri	5	日本法の制度と実態 INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	小林 節 Kobayashi, Setsu

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.

(*)この科目は, 学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

現代東南アジア論特殊研究 I

(Spring)

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1

山本 信人

法学部教授

Nobuto Yamamoto

Professor, Faculty of Law

Sub Title:

The Chinese in Modern Southeast Asia

Course Description:

This seminar aims to look at how conventional scholarship on Southeast Asia constructed the Chinese in terms of economic activities, religion, gender and subethnicity, and how new trends of studies address novel aspects of Chinese identities and activities in local, regional, global and transnational contexts. We will concentrate on one book on the Chinese in Southeast Asia.

歴史としての文学

(Spring)

LITERATURE AS HISTORY

チャンドラ, エリザベス

国際センター講師

Elizabeth Chandra

Lecturer, International Center

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of literature as history. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literature provides what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to preserve. More important, it has the capacity to represent the fine curves of a political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most written records from the colonial period were produced by and speak from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the experience. In this course we will read novels and short story written by colonial agents and colonized persons, and attempt to catch glimpses on its "micro sites" as diverse and intimate as domestic order, sexual exchange, gossip, humor, paranoia, and melancholia.

オーストラリアの歴史

(Spring)

STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY

デイ, デイヴィッド

国際センター講師

David Day

Lecturer, International Center (Honorary Associate, History Program, LaTrobe University)

Sub Title:

Claiming a Continent: The history of Australia, 1788–2006

Course Description:

The course will examine how Europeans asserted legal ownership to the continent of Australia before proceeding over the following two centuries to buttress that legal claim with claims of effective and moral ownership. Like many other societies across the world, European Australians struggled to make land that was fruitfully occupied by its original inhabitants, in this case the Aborigines, as their own. That struggle continues even today, with Australia still being shaped by the problematic circumstances of its origins and the ongoing struggle to become secure in its possession of the continent.

国際協力の実態

(Spring)

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

バンバン, ルディアント

国際センター講師 (和光大学准教授)

Bambang Rudyanto

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution (JBIC), the International Organization on Disaster Reduction (ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as

development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

世界政治におけるラテンアメリカ

(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

産業史各論 (科学技術政策史)

(Spring)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部講師

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course provides an overview of science and technology policy, from government, enterprise and broader social perspectives. It introduces some key research and presents a variety of case studies from the field on information technology.

I use both Japanese and English in the lecture.

現代中国社会

(Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

国際人権法

(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of

nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

文化・文化適応とアイデンティティ

(Spring)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響 How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

ヘルスケア組織論

(Spring)

NGOS, NPOS AND CBOS

カストロ ヴァスケス, ヘナロ

国際センター講師

Genaro Castro-Vázquez

Lecturer, International Center

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

However, the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

アジアの音楽

(Spring)

LISTENING TO ASIA

ホッフマン, T・M

国際センター講師

T. M. Hoffman

Lecturer, International Center

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

ウクライナとロシア

(Spring)

UKRAINE AND RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Two Histories

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called “standard” interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be approaches of different people to one and the same historical episode or personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined by so called “historical memory”. Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukrainian and Russian history is required.

国際コミュニケーション

(Spring)

INTERNATIONAL COMMUNICATION

伊藤陽一

国際センター講師

Youichi Ito

Lecturer, International Center

Sub Title:

Studies on information and culture that flow beyond national borders

Course Description:

This course deals with problems, theories and policies regarding information culture and language that flow beyond national borders.

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ

国際センター講師

Mukesh K. Williams

Lecturer, International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock' n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

Illness and Medicine in Modern Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

VISIONS OF THE PAST

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Representing History on Film

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン, デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

Sub Title:

日本とサブーサハラン アフリカ地域

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to

combine in order to offer a fuller world view. This course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa’s Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada’s Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

地域文化論 (アメリカ)

(Fall)

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

奥田暁代

法学部教授

Akiyo Okuda

Professor, Faculty of Law

Sub Title:

Multicultural History of The United States

Course description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country’s anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student’s understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these “minorities” in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

国際関係

(Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of

35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

開発と社会変容

(Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

異文化と自己理解

(Fall)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師

Joseph Shaules

Lecturer, International Center

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代の国際問題と国連の役割

(Fall)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク, ラビンダー

国際センター講師

Rabinder N. Malik

Lecturer, International Center

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course is to enable the students to gain a better understanding of the world around them as well as about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. The course would help enhance the trans-cultural literacy and competence of the students and it should enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English. The course is open to students from all faculties.

ドイツ文化と社会	(Fall)
GERMAN CULTURE AND SOCIETY	
ワニェク, ヤクリーン	国際センター講師
Jacqueline Waniek	Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(Fall)
林 秀毅	経済学部講師
Hideki Hayashi	Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition. For reference, the lecture materials for 2006 can be viewed at

http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009_j/index.html

As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. Students are supposed to submit a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture.

国際開発協力論	(Fall)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	
後藤一美	国際センター講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Sub Title:

Religion, Politics, Gender, and Civic Engagement

Course Description:

This course is aimed at describing India from post-modern perspective. In this course, participants will study how India's 'modernity' was created by British colonization and what are the problems of India Today. We will also study how religion, politics, and gender relations intertwine very closely and affect people's daily lives. In the latter part of this course, we will also study the roles of India's NGOs. We will study caste, class, kinship and gender from the post modern perspective. We will learn the cultural difference between the North, the South, the East and the West. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. Students are encouraged to raise questions in each lectures and actively participate. Participants will also learn the basics of essay writing.

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション1

(Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

美術を「よむ」—日本美術史入門

(Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

日本語の話しことばと言外の意味

(Spring) / (Fall)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Angela A-Jeoung Kim

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Expressing 'something else' beyond information — markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language does not only function as a conveyance of information, but also has other functions such as expressing the language user's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know* and *like*; and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, janai, doose, datte, maa, nan(ka), mono, no, yappari* etc.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the

foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

日本における外資系企業
FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

ハリス, グレアム

商学部講師

Graham Harris

Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

Foreign Companies in Japan — a Success or a Failure ?

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

日本企業の経営戦略と管理手法

(Spring)

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ 国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba Lecturer, International (Center Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Sub title:

Understanding key success factors for developing and implementing corporate strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills in students.

Description:

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student's own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

夢のあと

(Spring)

THE AFTERMATH OF DREAMS

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Sub title:

Medieval Japanese literature

Course Description:

In “The Trail of Genji” last year, I focused on that 11th-century masterpiece of Japanese literature known as *Genji monogatari*. This year we will progress into the Kamakura and Muromachi periods, examining medieval literary developments against the often tumultuous historical background. The rise of the military caste is reflected in the war tales such as *Heike monogatari*, which stand in sharp contrast to the court literature of the previous Heian period and to medieval meditative works such as the *Hôjôki*, and the simple *setsuwa* tales enjoyed by the general populace. We will also trace the major developments in drama and poetry. Many of the works introduced in this course are available in translation.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

James Raeside

Professor, Faculty of Law

Sub title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing — particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

日本人の心理学 (1)

(Spring)

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

新市民社会論

(Spring)

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

ボックマン, デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Dave Bockmann

Lecturer, International Center (Consultant)

西村祐子

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Yuko Nishimura

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

Sub title:

How citizen's grassroots organizations attempt to alter the relationships of power.

Course Description:

“Civic society” refers to the participation of individuals and voluntary (non-governmental) organizations in the political and the public sectors, including governmental decision making. In this sense, civic society is well established in the U.S., less so in Japan where only recently local governments have begun to collaborate with grassroots citizen organizations in the public sphere. The term is also used by critics of “globalization” to refer to grassroots resistance to the flow of human, financial, resource and power capital throughout the global economy.

In this course, we will examine civic society from several angles, globally and locally. We will look at how civic engagement (in the U.S., for example) includes struggles by minorities, women and the poor to alter the relationships of power, as well as non-confrontational community improvement and protection projects. We also examine the growing civic society in Japan. In the spring term, the course will focus on community organizing and civic society building in the U.S. We will examine the role of community organizations in the civil rights movement, the women's movement and the environmental movements of the 1960s and 70s and how a strong tradition of community building has since evolved.

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and tapes etc.

MANAGEMENT IN JAPAN

ハギリアン, パリッサ

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Parissa Haghirian

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部准教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help participants as introductory guidance to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and its problems also some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions or presentations on various themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese business environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*. A specific website address will be announced in the first session.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication

styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

近代日本の対外交流史

(Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

家族の近代

(Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビット

経済学部准教授

David Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on "modern" family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

日本経済の展望

(Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

日本キリスト教史

(Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハチェット, ヘレン

経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-

cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

多民族社会としての日本	(Fall)
MULTIETHNIC JAPAN	
柏崎千佳子	経済学部准教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	(Fall)
JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	
飯倉 章	国際センター講師 (城西国際大学教授)
Akira Iikura	Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

日本の文学	(Fall)
JAPANESE LITERATURE	
アーマー, アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

日本人の心理学 (2)	(Fall)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	
手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

'Amae' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

国際経営比較：日米企業を中心に

(Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師（産業能率大学教授）

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

アートワークショップ／日本のアートと文化

(Fall)

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE

菱山裕子

国際センター講師

Yuko Hishiyama

Lecturer, International Center

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

日本の宗教：救済の探求

(Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー、アンドロイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus. This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

日本の経営

(Fall)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部准教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

INTRODUCTION TO JAPANESE LAW

小林 節

法学部教授

Setsu Kobayashi

Professor, Faculty of Law

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System

- (1) Constitutional Law
- (2) Civil Law
- (3) Commercial Law & Corporation Law
- (4) Security Exchange Law
- (5) Bank Law
- (6) Real Estate Law
- (7) Intellectual Property
- (8) Civil Procedure
- (9) Labor Law
- (10) Criminal Law
- (11) Criminal Procedure

2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters

- (1) Characteristics of Japanese People
- (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - ① Administration
 - ② Judges and Public Prosecutors
 - ③ Attorneys and Law Firms
- (3) Clients
- (4) Taboos
- (5) Languages

保健管理センター設置講座

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の進展と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学Ⅰ」（渡航医学）を春学期（月曜 4 時限）三田キャンパスにおいて、秋学期（月曜 4 時限）日吉キャンパスにおいて開講します。

なお、「現代社会と医学Ⅱ」（現代社会と common disease）を日吉キャンパスにおいて春・秋学期に開講します。これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部で確認の上、履修申告してください。

現代社会と医学Ⅰ（春学期）2 単位

渡航医学

南里清一郎、河邊博史、徳村光昭、横山裕一、広瀬 寛、柴田洋孝、西村由貴

授業科目の内容：

渡航医学とは、海外の移動（旅行、長期滞在）に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005年外務省統計では、1600万人以上の人々が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約96万人です。途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。

先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活（留学など）を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。

以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト：

海外生活における健康管理 一渡航に当たって心身の健康を守るために― 南里清一郎 編・著

参考書：

改訂 保健衛生（保健管理センター編）、各担当者による資料の配布

授業の計画：

第1回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第2回	海外の医療制度		〃
第3回	予防接種・感染症①		〃
第4回	予防接種・感染症②		〃
第5回	高血圧	教授	河邊 博史
第6回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第7回	肥満	講師	柴田 洋孝
第8回	性感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第9回	肝炎		〃
第10回	精神保健	講師	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント：

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法：

試験の結果による評価

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(火) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月9日(月) 9:00~17:00 場 所：三田学事センター

4月10日(火) 9:00~17:00

4月11日(水) 9:00~17:00

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みを提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

科目名の変更について

以下のとおり、今年度から科目名を変更します。

「情報処理概論Ⅱ」 ※平成18年度まで



「情報処理概論Ⅱ (JavaB)」 ※平成19年度から

※昨年度までに「情報処理概論Ⅱ」を履修した学生は、新たに「情報処理概論Ⅱ (JavaB)」を履修することはできません。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成19年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成19年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論Ⅱ (JavaB)※	Java	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅱ (JavaA)※	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月9日(月)から開始されます。

※「情報処理論Ⅱ (JavaB)」および「情報処理論Ⅱ (JavaA)」はほぼ同じ内容です。受講申し込み書を提出して両方の科目を受講することは可能ですが、履修申告できるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考) 平成19年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論Ⅰ	C言語による プログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000円	4	
	11 B	斎藤 博昭		50			
情報処理概論Ⅱ (Java I)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000円	2
情報処理概論Ⅱ (Java II)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000円	2
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月9日(月)から開始されます。

情報処理概論Ⅱ (JavaB) (通年) 4 単位

Java 言語によるプログラミング入門

藤村 光

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計3回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計2回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計2回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計3回)
13. マルチスレッドと描画 (計4回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計2回)
15. 最終演習 (計2回)

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

情報処理概論Ⅱ (JavaA) (秋学期) 2 単位

Java 言語によるプログラミング入門

神林 靖

授業科目の内容：

将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Java プログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関しての予備知識は必要としない。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入、そして四則演算と型変換
5. 1次元配列と多次元配列
6. クラスとメソッド

7. 制御分と演算子 (1)
8. 制御分と演算子 (2)
9. クラスとコンストラクタ
10. Java クラスライブラリ
11. 入出力
12. 行列を計算するプログラム (1)
13. 行列を計算するプログラム (2)

履修者へのコメント：

C 言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

情報処理応用Ⅱ (統計解析) (春学期) 2 単位

SPSS による統計解析および多変量解析の実習

鴻巣 努

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定、ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析、重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘するとともに、産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに、効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2007年度は、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究―音楽コンテンツを中心に―」を開講する。また、寄附者と共催する公開講座を開催予定である。

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究Ⅰ―音楽コンテンツを中心に―
(社団法人日本レコード協会寄附講座) (春学期) 2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- ① クリエイティブ産業とその範囲
- ② コンテンツ・ビジネスとその歴史
- ③ 日本の音楽産業
- ④ イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
- ⑤ 日本の知的財産政策と関連産業
- ⑥ 著作権とクリエイティブ産業 1
- ⑦ 著作権とクリエイティブ産業 2
- ⑧ 東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
- ⑨ クリエイティブ産業と公共性
- ⑩ アーティストの立場から

授業の計画：

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究Ⅱ―音楽コンテンツを中心に―
(社団法人日本レコード協会寄附講座) (秋学期) 2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- ① 出版とプロダクション
- ② アーティストの発掘、契約と宣伝
- ③ 日本の音楽の流通と配信
- ④ 今後の課題
- ⑤ クリエイティブ産業と今後の課題Ⅰ～Ⅳ
- ⑥ 紛争回避
- ⑦ 商用アーカイブの運営ほか

授業の計画：

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。